

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第554集

つぼみち

坪瀨Ⅱ遺跡発掘調査報告書

胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査

2010

国土交通省東北地方整備局
胆沢ダム工事事務所
(財)岩手県文化振興事業団

坪瀨Ⅱ遺跡発掘調査報告書

胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解する上で欠くことの出来ない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれその土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、岩手県奥州市胆沢区の胆沢ダム退設事業に関連して平成19年・20年の2カ年にわたって発掘調査を実施した、奥州市胆沢区坪河Ⅱ遺跡の成果をまとめたものです。今回の調査では、縄文時代後・晩期の遺構や遺物を中心に、近世墓や建物跡も見つかりました。本遺跡は、近世における岩手と秋田を結ぶ主要な仙北街道筋にあたり、当時の人々の往来が盛んだった痕跡を示すことができたほか、これまで未調査であった奥州市胆沢区の最西地域での歴史時代以前の様子が一部ではありますが明らかとなりました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながるると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所、奥州市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成22年1月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 武 出 牧 雄

例 言

- 1 本書は、岩手県奥州市胆沢区若柳字追分34ほかに所在する坪刈Ⅱ遺跡の調査成果を収録したものである。
- 2 岩手県遺跡台帳における本遺跡の登録番号は、NE31-1023、遺跡の調査略号はTFⅡ-07-08である。
- 3 本遺跡の発掘調査は、胆沢ダム建設事業に伴い、岩手県教育委員会の調整を経て、国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所の委託を受けた(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。
- 4 調査期間・調査面積・調査担当者は、以下のとおりである。
平成19年5月1日～6月22日/5,029㎡/木戸口俊子・濱田 宏
平成20年4月11日～5月29日/2,000㎡/濱田 宏・藤原大輔・小林弘卓
- 5 室内整理期間・担当者は、以下のとおりである。
平成19年11月1日～平成20年3月31日/木戸口俊子
平成20年11月16日～平成21年3月31日/濱田 宏
- 6 本書の執筆については、平成19年度調査分は木戸口が、平成20年度調査分は濱田が担当した。また、全体の編集は濱田が担当した。
- 7 図中に使用している地図は、国土地理院5万分の1「焼石岳」である。
- 8 野外調査の土層観察は、下記の土色帖を使用して行った。
「新版 標準土色帖 1993年版」農林水産省農林水産技術会議事務局 監修
財団法人日本彩色研究所 色票監修
- 9 野外調査では、国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所、奥州市教育委員会、奥州市胆沢区・水沢区の作業員の方々、胆沢ダム建設事業に関わる多くの工事業者により多大なご協力をいただいた。
- 10 各種分析・鑑定は、以下の機関に依頼した。
石質鑑定・・・花崗岩研究会
火山灰分析・・・(株)火山灰考古学研究所
- 11 基準点測量は、平成19年度に株式会社ランド技術設計が行った。
- 12 航空写真は、東邦航空株式会社により撮影した。
- 13 平成20年度の遺物の撮影は、福士昭夫氏に外部委託した。
- 14 本遺跡の調査結果は、先に『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第524集 平成19年度発掘調査報告書2008』及び『(同)第546集 平成20年度発掘調査報告書2009』において発表しているが、本書の内容が優先する。
- 15 本遺跡の出土遺物および諸記録は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目 次

I	調査に至る経過	1
II	立地と環境	2
1	遺跡の位置と地理的環境	2
2	歴史的環境	2
3	基本層序	9
III	野外調査と室内整理の方法	11
1	野外調査	11
(1)	グリッドの設定	11
(2)	試掘・表土除去	11
(3)	遺構の検出と精査	11
(4)	調査経過	12
2	室内整理	12
IV	検出された遺構と遺物	16
1	検出遺構の内訳	16
2	平成19年度調査	16
(1)	遺構	16
(2)	遺物	48
3	平成20年度調査	89
(1)	遺構	89
(2)	遺物	123
V	自然科学的分析	153
VI	ま と め	157
1	縄文時代の遺構について	157
2	「寺屋敷」と時期不明掘立柱建物跡について	157
3	近世以降の墓塚群について	158
4	表面採集遺物	161
5	総括	161
	報告書抄録	227

図 版 目 次

第1図 遺跡位置図……………3	第40図 遺構外出土遺物(2)……………71
第2図 地形分類図……………4	第41図 遺構外出土遺物(3)……………72
第3図 周辺の遺跡図……………6	第42図 遺構外出土遺物(4)……………73
第4図 基本層序……………9	第43図 遺構外出土遺物(5)……………74
第5図 遺跡周辺図……………10	第44図 墓石(1)……………75
第6図 北側調査区遺構配置図……………14	第45図 墓石(2)……………76
第7図 南側調査区遺構配置図……………15	第46図 墓石(3)……………77
第8図 101号竪穴住居跡……………17	第47図 101号土器埋設遺構……………89
第9図 102号竪穴住居跡……………19	第48図 122～125号土坑……………91
第10図 101・302号掘立柱建物跡……………20	第49図 223～229・231号土坑……………92
第11図 102号掘立柱建物跡……………22	第50図 230・232～235・246号土坑……………95
第12図 201号掘立柱建物跡……………23	第51図 236～240号土坑……………97
第13図 301号掘立柱建物跡……………25	第52図 241～245・247号土坑……………99
第14図 101～106号土坑……………26	第53図 248～253号土坑……………101
第15図 107～110号土坑……………29	第54図 254・255・257・261号土坑ほか……………103
第16図 111～116号土坑……………31	第55図 256・259・262・265号土坑ほか……………105
第17図 117～121号土坑……………33	第56図 260・267～269・273号土坑……………108
第18図 201～206号土坑……………36	第57図 258・274・275・277号土坑ほか……………111
第19図 207～211・301号土坑……………38	第58図 263・270・271・276号土坑……………112
第20図 212～217号土坑……………41	第59図 271・278～281・294号土坑……………114
第21図 218～222号土坑、201号溝……………44	第60図 282・283・285・286号土坑ほか……………116
第22図 焼土……………45	第61図 302～310号土坑……………119
第23図 遺構内出土遺物(1)……………54	第62図 311～314号土坑……………122
第24図 遺構内出土遺物(2)……………55	第63図 遺構内出土遺物(17)……………125
第25図 遺構内出土遺物(3)……………56	第64図 遺構内出土遺物(18)……………126
第26図 遺構内出土遺物(4)……………57	第65図 遺構内出土遺物(19)……………127
第27図 遺構内出土遺物(5)……………58	第66図 遺構内出土遺物(20)……………128
第28図 遺構内出土遺物(6)……………59	第67図 遺構内出土遺物(21)……………129
第29図 遺構内出土遺物(7)……………60	第68図 遺構内出土遺物(22)……………130
第30図 遺構内出土遺物(8)……………61	第69図 遺構内出土遺物(23)……………131
第31図 遺構内出土遺物(9)……………62	第70図 遺構内出土遺物(24)……………132
第32図 遺構内出土遺物(10)……………63	第71図 遺構内出土遺物(25)……………133
第33図 遺構内出土遺物(11)……………64	第72号 遺構内出土遺物(26)……………134
第34図 遺構内出土遺物(12)……………65	第73図 遺構内出土遺物(27)……………135
第35図 遺構内出土遺物(13)……………66	第74図 遺構内出土遺物(28)……………136
第36図 遺構内出土遺物(14)……………67	第75図 遺構内出土遺物(29)……………137
第37図 遺構内出土遺物(15)……………68	第76図 遺構内出土遺物(30)……………138
第38図 遺構内出土遺物(16)……………69	第77図 遺構内出土遺物(31)・遺構外出土銭貨……………139
第39図 遺構外出土遺物(1)……………70	第78図 掘立柱建物跡と焼土、土坑……………157

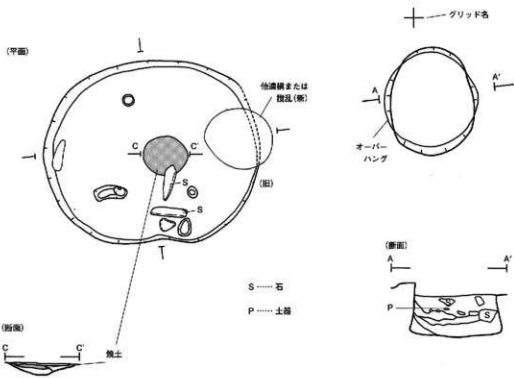
表 目 次

第1表 周辺の遺跡一覧表……………7	第12表 柱穴状小土坑観察表……………123
第2表 柱穴及び柱穴状小土坑観察表……………47	第13～19表 平成20年度出土遺物観察表…140～152
第3～11表 平成19年度出土遺物観察表…78～88	第20表 墓嶺観察表……………159

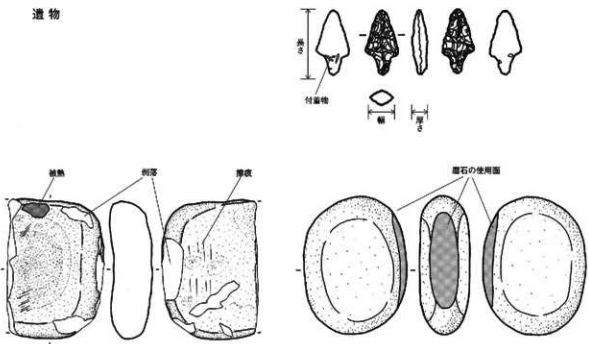
写真図版目次

写真図版1 航空写真……………165	写真図版32 223～226号土坑……………196
写真図版2 調査前風景・基本図序、調査区全景…166	写真図版33 227～230号土坑ほか……………197
写真図版3 101号壑穴住居跡……………167	写真図版34 231～235号土坑……………198
写真図版4 101・102号壑穴住居跡……………168	写真図版35 236～239号土坑……………199
写真図版5 102号壑穴住居跡ほか……………169	写真図版36 240～243号土坑……………200
写真図版6 301・302号掘立柱建物跡ほか……………170	写真図版37 244～247号土坑……………201
写真図版7 103・104・106号土坑……………171	写真図版38 248～251号土坑……………202
写真図版8 105・107～109号土坑……………172	写真図版39 252～255号土坑ほか……………203
写真図版9 110～113号土坑……………173	写真図版40 256・257号土坑ほか……………204
写真図版10 114・116～118号土坑……………174	写真図版41 258～260号土坑ほか……………205
写真図版11 115・119・120号土坑ほか……………175	写真図版42 263～266号土坑ほか……………206
写真図版12 203～208号土坑……………176	写真図版43 267～270号土坑……………207
写真図版13 209・210号土坑ほか……………177	写真図版44 271～274号土坑……………208
写真図版14 211・215～217号土坑ほか……………178	写真図版45 275～278号土坑……………209
写真図版15 101・102・201・301号焼土……………179	写真図版46 279～283号土坑……………210
写真図版16 302・303号焼土・墓石(1)ほか……………180	写真図版47 282～286号土坑……………211
写真図版17 墓石(2)……………181	写真図版48 287～290号土坑……………212
写真図版18 遺構内出土遺物(1)……………182	写真図版49 293・294号土坑ほか……………213
写真図版19 遺構内出土遺物(2)……………183	写真図版50 304～307号土坑……………214
写真図版20 遺構内出土遺物(3)……………184	写真図版51 308～311号土坑……………215
写真図版21 遺構内出土遺物(4)……………185	写真図版52 312～314号土坑ほか……………216
写真図版22 遺構内出土遺物(5)……………186	写真図版53 遺構内出土遺物(10)……………217
写真図版23 遺構内出土遺物(6)……………187	写真図版54 遺構内出土遺物(11)……………218
写真図版24 遺構内出土遺物(7)……………188	写真図版55 遺構内出土遺物(12)……………219
写真図版25 遺構内出土遺物(8)……………189	写真図版56 遺構内出土遺物(13)……………220
写真図版26 遺構内出土遺物(9)……………190	写真図版57 出土銭貨(1)……………221
写真図版27 遺構外出土遺物(1)……………191	写真図版58 出土銭貨(2)……………222
写真図版28 遺構外出土遺物(2)……………192	写真図版59 出土銭貨(3)……………223
写真図版29 遺構外出土遺物(3)……………193	写真図版60 出土銭貨(4)……………224
写真図版30 遺構外出土遺物(4)……………194	写真図版61 出土銭貨(5)……………225
写真図版31 122～125号土坑……………195	写真図版62 出土銭貨(6)……………226

遺構



遺物



I 調査に至る経過

坪測Ⅱ遺跡は、「胆沢ダム建設事業」に伴いその事業区域内に位置することから、発掘調査を実施することになったものである。

胆沢ダムは、北上川右支川胆沢川に建設中の堤体高132m、堤頂長723m、総貯水容量1億4,300万 m^3 の中央コア型ロックフィルダムで、その目的に洪水調節・河川環境保全等のための流水確保・かんがい用水・水道用水・水力発電を有する多目的ダムである。胆沢ダム建設事業は、平成2年5月11日に「胆沢ダムの建設に関する基本計画」が官報告示されて建設着手し、その後平成12年6月14日に基本計画変更が官報告示され、事業費及び工期改定を行い現在に至っている。(当初工期：平成11年度→変更工期：平成25年度)

埋蔵文化財の取り扱いについては、事業に先立ち昭和58年10月に建設省(現国土交通省)新石洞ダム調査事務所(昭和63年4月に胆沢ダム工事事務所に組織改正)から、ダム事業区域内における埋蔵文化財の有無を岩手県教育委員会に照会し、周知地区864,000 m^2 、可能性有の地区490,000 m^2 を確認した。その後は、水没面積4,400,000 m^2 を含む事業区域内における埋蔵文化財の包蔵地について、毎年度各工事の実施に先立って、岩手県教育委員会と協議を行いながら計画的に調査を実施してきているところである。

坪測Ⅱ遺跡については、包蔵地全体で約50,000 m^2 と広大な面積であったため、付替市道敷及び工事用道路敷に係る包蔵地北側区域を先行することとし、平成18年5月15日付け国東整胆調設第10号により、胆沢ダム工事事務所長から岩手県教育委員会に試掘調査の依頼を行った。依頼を受けた岩手県教育委員会が平成18年9月14日～15日、同11月29日、同12月14日の4日間にわたり試掘調査を実施した結果、設定した14本のトレンチのうち、西側高標高部から縄文土器などが検出され、遺構等が存在する可能性が高いことが判明した。これにより、当該区域については平成18年12月19日付け教生第1276号にて「発掘調査が必要」である旨、胆沢ダム工事事務所長に回答があった。

また、包蔵地の本調査区域(常時満水位以下箇所)について、平成19年3月22日付け国東整胆調設第29号により、再度胆沢ダム工事事務所長から岩手県教育委員会に試掘調査の依頼を行った。依頼を受けた岩手県教育委員会は、平成19年7月24日、同8月23日の2日間にわたり試掘調査を実施し、設定した19本のトレンチの遺物出土分布と平成18年度のそれを重ね合わせて総合判定した結果、平成18年度要発掘判定箇所の隣接部のみ遺構等が存在する可能性が高いことが判明し、当該区域については平成19年度8月27日付け教生第884号にて「発掘調査が必要」である旨、胆沢ダム工事事務所長に回答があった。

この回答に基づき岩手県教育委員会と協議し、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに委託して発掘調査を実施することとなったものである。

(国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所)

II 立地と環境

1 遺跡の位置と地理的環境

遺跡が所在する奥州市は、県南部の北上盆地を中心に西は秋田県に接し、東は物見山（種山高原）に連しており、平成18年に水沢市、江刺市、前沢町、胆沢町、衣川村の2市2町1村の合併により誕生した市である。古墳や安倍氏、藤原氏にまつわる旧跡をはじめ、近現代においても偉人を多く輩出するなど、長い歴史の中で受け継がれてきた多くの文化が根付いている。遺跡のある旧胆沢町（現胆沢区）は、西端の県境にそびえる奥羽山系の栗駒山（須川岳1627m）、焼石岳（1548m）から抜がる山々と胆沢川を中心とした大小河川により河岸段丘が形成され、胆沢川中流市野々付近を扇頂部とし東方北上川に向かって大規模な扇状地となっている。この胆沢扇状地は、更新世中期から後期にかけて胆沢川の開析を受けて形成された。近年の犬上・吉田（1984）や渡辺（1991）氏らの研究では、胆沢扇状地は、高位からT1（大歩面）・T2（一首坂面）・T3（西根面）、H1（上野原面）・H2（横造面）、M1（堀切面）・M2（福原面）、L1（水沢高位面）・L2（水沢低位面）の9面に区分される傾斜扇状地で、1辺約20km、面積が約20,000haにも及び、国内最大級の扇状地で県下有数の穀倉地帯となっている。

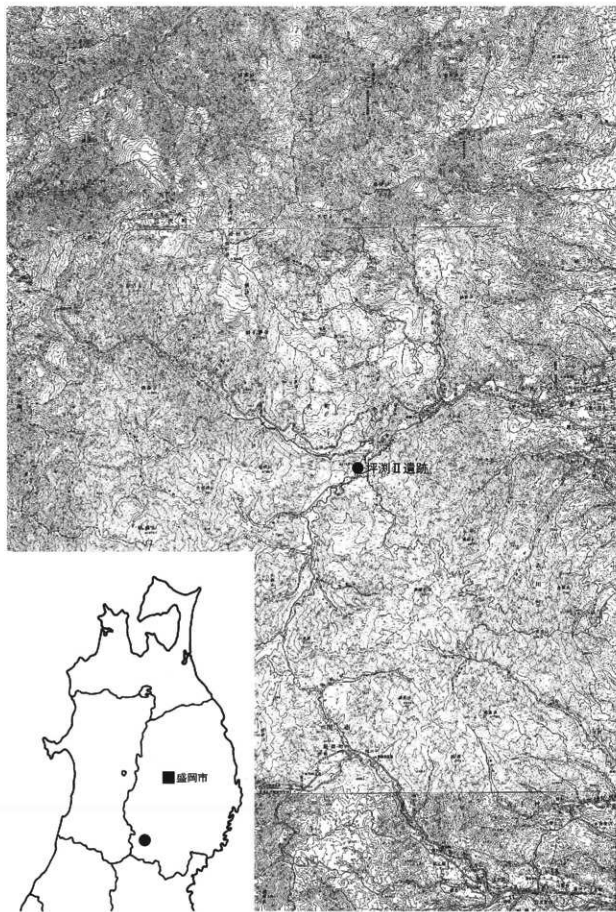
本遺跡はその扇頂部より更に奥にあり、奥州市役所の西南西方向約25.1km、市胆沢支所西方約17km、北緯39度5分57秒、東経140度52分48秒に位置する。北は大森山（739m）、西は大胡桃山（934m）・小胡桃山（783m）、南は大森山（818m）・高檜能山（927m）、東は蟬山（684m）に囲まれた石淵ダム西南に坪測Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡が密接してある。今回調査が行われた坪測Ⅱ遺跡は、石淵ダムに注ぐ胆沢川支流前川左岸の河岸段丘面に立地し、北東に石英安山岩質凝灰岩の一大巨峰である猿岩（549m）を眺める南東向きの緩斜面となっている。地形分類図上では砂礫段丘ではあるが、その後の改変等のためか崖錐性の礫を多く含んでいる。標高は346～353mであり、現在石淵ダムとの標高差は35m前後、扶まれた坪測Ⅰ遺跡や坪測Ⅲ遺跡よりも高位にある。現況は山林で、約40年前までは数件の民家があったが、ダム建設に伴う移転後は無人となっている。前川と胆沢川との合流地点である500m東には下嵐江Ⅰ・Ⅱ遺跡が、本遺跡よりも前川上流1.5km西には大平野Ⅱ遺跡がある。

2 歴史的環境

平成17年度版の岩石系遺跡台帳に登録されている奥州市の遺跡は1,065カ所にのり、このうち胆沢区（旧胆沢町）内の登録数は185遺跡である。これらは縄文時代の遺跡が大半で、該期との複合遺跡を含めると全体の約7割を占めるが、旧石器から中・近世に亘り多くの遺跡が存在する。

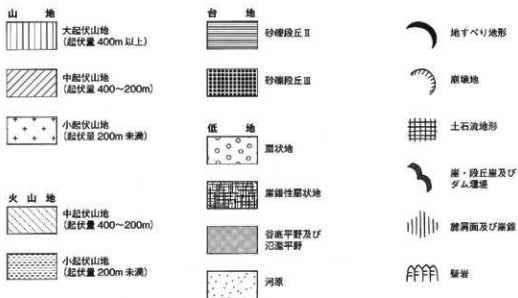
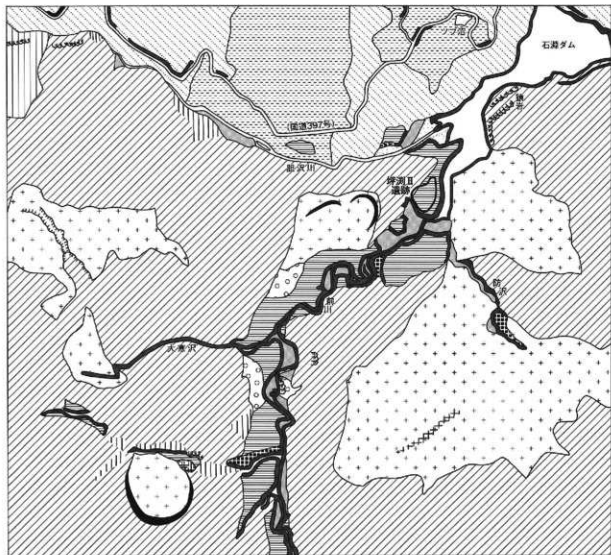
旧石器時代の遺跡としては、昭和50年から3年間胆沢町教育委員会が中心となって調査を行った土蔵森遺跡がある。調査の結果2面の文化層が確認され、ナイフ形石器や彫器、スクレーパー等、数ユニットをなして2,000点以上の遺物が確認された。下部のⅡb文化層は前半期～中葉期に位置づけられている。また、胆沢町史には、山神遺跡や上佐布遺跡からもほ場整備や開田時に石器が発見されたことが紹介されている。近年では、平成16年度に当センターが調査した二の台長根遺跡、平成18・19年度に同じく当センターで調査した岩洞塚遺跡などで旧石器が出土している。

縄文時代では、先述したとおり大半の遺跡がこの時代に属し広く分布する。草創期に位置づけられる遺跡は確認されていないが、下尿前Ⅳ遺跡から「小瀬ヶ沢型」に似た有舌尖頭器が2点、大平野Ⅱ



第1図 遺跡位置図

1 : 125,000 川尻・焼石岳・栗駒山



第2図 地形分類図

遺跡からも有舌尖頭器が出土している。

早期の遺跡としては、尼坂遺跡がある。尼坂遺跡は昭和26年の東北大学の調査をはじめとし、これまで4回の発掘調査が行われ、検出された竪穴住居跡から、貝殻文、条痕文、縄文条痕文、表裏縄文、羽状縄文の土器が出土している。また、漆町遺跡からも撚糸文をはじめ、貝殻文など早期の土器が出土している。

前期の遺跡では、先の尼坂遺跡の第4次調査で前期前半の土器が出土しているほか、前葉期の住居跡を検出している芦の随遺跡や、末葉期の浅野遺跡がある。大規模遺跡としては、近年調査された前期末の大清水上遺跡があげられる。この遺跡は当センターにより平成12年度から5カ年に亘って調査が行われ、竪穴住居跡74棟、土坑203基など、大形住居を主体として構成される縄文時代前期後葉（大木5式期）に相当する環状集落跡であることがわかった。

中期の遺跡には宮沢原遺跡群があり、前葉～末葉（大木7a～10式）にわたる住居跡が多数検出されている。このうち宮沢原A・E・E東遺跡における大木9～10式期の住居跡では、「上原型複式炉」と呼ばれる土器埋設炉と石敷き石組部からなる複式炉を持つものが多く、注目される遺跡のひとつである。

後期になると、扇状地帯ではこれまでより下位の段丘面に分布する傾向が見られるが、遺構を確認している遺跡は少ない。宮沢原D遺跡では、門前式の可能性がある立石を伴う土坑が検出されている。また、尿前IIA遺跡や下尿前II遺跡からは、後期前葉～中葉期に位置づけられる可能性を持つ住居跡と土坑が検出され、また赤剝遺跡や南中沢遺跡からも後期前半の土器が出土している。

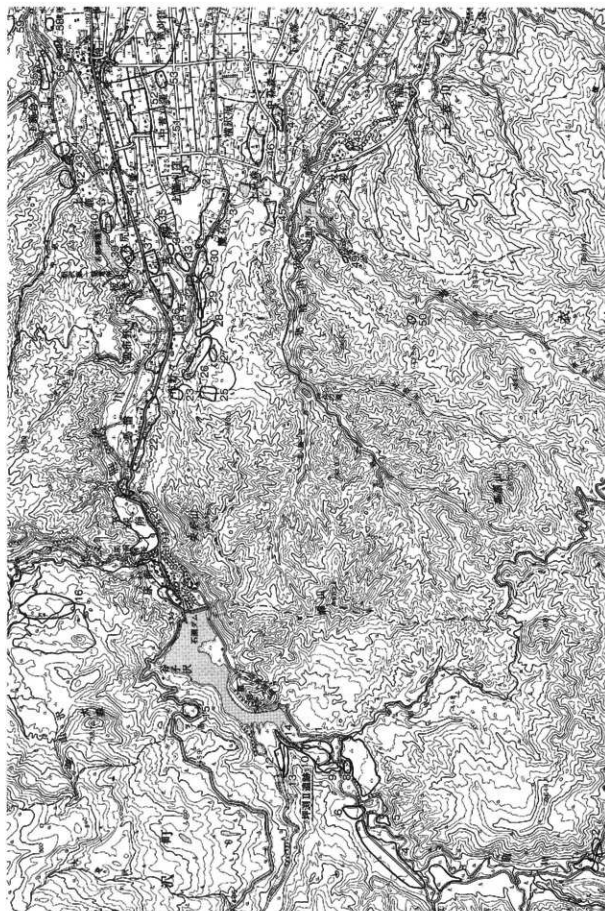
晩期の遺跡も後期と同じような分布傾向を見せる。後葉期の墓塚と炉跡が検出されている南中沢遺跡のほか、赤剝遺跡や合野遺跡などからは該期の土器片が出土している。下嵐江遺跡でも、独鈷石とともに中葉の土器の出土が認められている。

多くの縄文時代の遺跡に比べ、弥生時代の遺構、遺物が確認されている遺跡は大変少ない。台帳から確認できるのは、昭和52年に架橋工事中に県内で初めて石包丁2点が発見された清水下遺跡、また土器が出土している荻袋遺跡や上愛宕原遺跡などである。下尿前IV遺跡からも後期の土器片が出土している。

古墳時代には、本州最北端に位置する県内最古の前方後円墳である角塚古墳がある。同古墳は国の指定史跡となっており、その造営年代は5世紀末～6世紀初頭と考えられている。これより北方2kmには、角塚古墳と同時期と推定される方形区画の濠で囲まれた集落跡や、古式須恵器の甕と坏、大量の黒曜石などが出土した中半入遺跡も存在する。

奈良、平安時代になると更に遺跡登録数は増加する。沢田遺跡調査報告書（1988）の中にも述べられているように、「農耕社会の確立が促した生活領域の拡大」によって、沖積地における集落形成がなされていく。二本木遺跡からは、奈良時代後半～平安時代初頭の遺物とともに8棟の竪穴住居跡が検出されているほか、8世紀第1四半期と見られる畿内系暗文土器と関東系土器が出土している。沢田遺跡からは8世紀中～後半の竪穴住居跡が、また同時期の焼失住居跡が確認されている要害遺跡などがある。9世紀以降の遺跡としては同沢田遺跡（9世紀末～10世紀代）、宇南田遺跡（9世紀中葉頃）などから住居跡が、小十文字遺跡では住居跡とともに同時期と思われる作業場跡が検出されている。また、石行遺跡では10世紀の焼土遺構がまとめて検出されている。

中・近世の城館跡は12カ所登録され、特にも近世の扇状地における水文化の歴史には欠かせない遺構も多く残っている。平成10年から行われた調査（平成10岩埋文、平成13胆沢町教委）により明らかになった旧穴山堰跡は、「馬留取水口」「昭和穴出口」「七左エ門口」などが次々と発見され、当時の



1 : 50,000 巻石台

第3図 周辺の遺跡図

第1表 周辺の遺跡一覧表

NO	遺跡名	時代	類別	遺構・遺物	備考
1	神良沢	縄文・古墳	弥生遺	縄文土器(中) 古墳(山形) 寺院跡	
2	成沢沢Ⅱ	近世	庭山跡	寺院跡 庭山跡等	
3	大畑沢				平成14新規
4	大平野Ⅱ	縄文・弥生・中世	弥生跡	弥生住居跡(中～後) 土坑 中世(中) 縄文土器(早～晩) 弥生土器	平成14範囲変更 平成18調査
5	湖大平野				平成14新規
6	大平野Ⅰ	縄文	弥生遺	縄文土器	平成14範囲変更
7	平根原Ⅰ	縄文	弥生遺	縄文土器	平成14範囲変更
8	平根原Ⅱ	縄文	弥生遺	縄文土器	平成14範囲変更
9	坪内Ⅰ	縄文	弥生遺	縄文土器	平成14範囲変更
10	坪内Ⅱ	縄文・近世	集落跡	弥生住居跡(後・晩) 土坑 紐柱遺物跡 近世墓塚	平成14範囲変更 本報告書
11	坪内Ⅲ	縄文	弥生遺	縄文土器	平成14範囲変更
12	下嵐江Ⅲ	縄文	弥生遺	縄文土器	平成14範囲変更
13	下嵐江Ⅰ	旧石器・縄文・古墳	弥生遺	旧石器 縄文土器 縄立柱遺物跡(近世) 近世墓塚	平成14範囲変更
14	下嵐江Ⅱ	旧石器・縄文・古墳	弥生遺	旧石器 縄文土器 縄立柱遺物跡(近世) 近世墓塚	平成14範囲変更
15	谷子沢	縄文	弥生遺	縄文土器	平成14範囲変更
16	鎌谷	縄文	弥生遺	縄文土器 石器	
17	原野Ⅱ	縄文	集落跡	縄文土器(早・前・後・晩期) 石器 作陶跡	林道区形文報告書第343号 平成14範囲変更
18	原野Ⅰ	縄文	弥生遺	縄文土器 石器	平成14範囲変更
19	ト原Ⅱ	縄文・弥生	弥生遺	縄文土器(早・前期) 有骨尖頭器 弥生土器	県版文報告書第252集 下原Ⅱ 訂正 平成14範囲変更
20	下原Ⅰ	縄文・弥生・中世	集落跡	弥生住居跡(中・後) 土坑(早～晩) 石器 弥生土器 中世	平成5～平成7調査 平成14 範囲変更 下原Ⅱ・Ⅲ統合
21	旧穴白瀬跡	中世～現代	牛産道跡	隧道 石橋 水門 水門止水板 取水口	平成14範囲変更
22	馬登	縄文	弥生遺	縄文土器	
23	なめだけⅢ	縄文	弥生遺	縄文土器	
24	市野々	縄文・古代	弥生遺	縄文土器 弥生遺	
25	郡寺	縄文	弥生遺	縄文土器	
26	なめだけⅡ	縄文	弥生遺	縄文土器	
27	人瀬木Ⅱ	縄文	弥生遺	縄文土器(早・前・後・晩期)	
28	なめだけⅠ	縄文	弥生遺	縄文土器	
29	大清水上	縄文	集落跡	縄文土器(早・前・後・晩期) 石器 橋 ほか	旧沢原縄文報告書第15号 県版 文報告書第473集
30	人瀬木	縄文	弥生遺	縄文土器(早・前・後・晩期) 石器 橋 ほか	
31	上原沢原	縄文	弥生遺	縄文土器(後・晩期) 土偶	
32	横沢原	縄文	弥生遺	縄文土器(後・晩期) 土偶	
33	横沢原Ⅲ	縄文	弥生遺	縄文土器	
34	横沢原Ⅱ	縄文	弥生遺	縄文土器	
35	横沢原Ⅳ	縄文	弥生遺	縄文土器	
36	宮坂	縄文	弥生遺	縄文土器(後期) 石鏡	
37	二本柳	縄文	弥生遺	縄文土器(後・晩期) 土偶	
38	沼の鼻跡(宗の鼻跡)	近世	城跡跡	土塔 空堀 土器	
39	林尻	縄文	弥生遺	縄文土器	
40	飯袋	縄文・弥生・古代	弥生遺	縄文土器(晩期) 土偶 弥生土器 土師器	
41	高山	縄文・古代	弥生遺	縄文土器(後・晩期) 土師器	
42	庭倉(山崎橋)	中世末期	城跡跡	空堀 紐柱遺物跡 小孔 溝跡 石彫 石鏡	一部調査
43	上庭倉	縄文	弥生遺	縄文土器 石器	
44	南中沢	縄文	弥生遺	縄文土器(後・晩期) 石鏡 石斧 石槌	一部調査
45	上庭倉	旧石器・弥生	弥生遺	旧石器 ヌイワ形石器 スクレーパー 石鏡 弥生土器	一部調査
46	飯袋北	縄文・弥生	弥生遺	縄文土器(前・中期) 石斧 石鏡 弥生土器	
47	南庭倉	縄文	弥生遺	縄文土器(前・中期) 石斧 石鏡 飾具	
48	大平	縄文	弥生遺	縄文土器	
49	松山寺	中世	寺院跡	石墓	
50	小谷柳	中世	城跡跡		
51	富沢Ⅱ	縄文	弥生遺	縄文土器	
52	西沢Ⅱ	縄文	弥生遺	縄文土器	
53	西沢Ⅰ	縄文前期	弥生遺	縄文土器(前期) 石鏡 石斧 石鏡 骨刻 ほか	
54	西沢Ⅲ	縄文	弥生遺	縄文土器(前期・中期) 石鏡 石斧	
55	下庭倉東	縄文	弥生遺	縄文土器(晩期)	
56	下庭倉東Ⅱ	縄文	弥生遺	縄文土器(晩期)	平成4新規
57	かじしよ	縄文・古代	弥生遺	縄文土器 土師器	平成4新規
58	門ノ城	中世	城跡跡	土塔	
59	中山	縄文	弥生遺	縄文土器(中・晩期)	

高度な土木技術を我々に見せてくれた。中世から現代まで連続と続いた重要な遺跡である。

これまでは胆沢扇状地内での遺跡調査が多かったが、胆沢ダム建設事業の進展に伴って、本遺跡周辺の遺跡の内容も徐々に明らかになってきている。ここでは、上記の遺跡と重複している遺跡もあるが、ダム建設関連で本調査が行われた遺跡を下記に示す。

調査時期	遺跡名	調査成果	備考
平成5～7年	下原前Ⅱ遺跡	縄文時代中期後半、後期前葉の住居、配石遺構を主体に弥生、古代、中・近世の遺物を出土	岩埋文252集
平成8年	下原前Ⅳ遺跡	縄文時代草創期～前期、弥生時代後期の土坑検出、近・現代の焼土、炭灰検出	岩埋文269集
平成9年	原前ⅡA地区遺跡	縄文時代早期末～前期を含む、後期中葉主体の住居跡、集石を検出	岩埋文288集
平成10年	穴山塚遺跡	平塚跡、穴塚跡、余水吐、石積・水門	岩埋文311集
平成11年	原前ⅡB地区遺跡	縄文時代後期前葉主体とした住居跡を検出 前期、晩期の遺物も出土	岩埋文343集
平成12年	大清水遺跡	縄文時代前期前葉～晩期の遺物出土、縄文時代を主な時代とする貯場跡	岩埋文373集
平成15年	峰谷遺跡	近代の上坑を検出	岩埋文455集
平成12～16年	大清水上遺跡	大形住居を伴う、縄文時代前期後葉を中心とした大規模な環状集落跡	岩埋文475集
平成18～	大平野Ⅱ遺跡	縄文時代中～後期の住居、土坑を検出、有舌尖頭器、弥生土器出土	岩埋文略報第524集
平成19～	下嵐江Ⅰ・Ⅱ遺跡	旧石器出土、近世の建物跡および墓塚を検出	
平成19～	坪淵Ⅱ遺跡	縄文時代後晩期の住居、土坑、近世の墓塚出土	

注) ダム建設区内の遺跡については、県教育委員会生涯学習文化課による範囲確認調査によって範囲や遺跡名が変更になったものも多い。現在、上記の下原前Ⅱ遺跡は、隣接するⅢ遺跡を統合して下原前Ⅰ遺跡に、同様に下原前Ⅳ遺跡は、下原前Ⅱ遺跡として登録されているが、一覧表への掲載はこれに従っている。

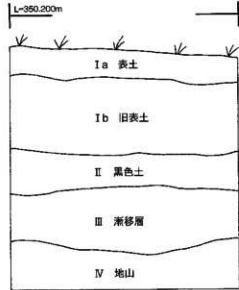
また、当遺跡を含む一帯は旧仙北街道筋にあたり、下嵐江Ⅰ・Ⅱ遺跡から大平野遺跡一帯まで、下嵐江（東下嵐江）として古くから文献にも載っている地区である。この地域の屋敷数は、『安永風土記』には、水沢町を除いて街道筋中18軒と最も多く記されており、また大平野Ⅱ遺跡南方にある洗民沢遺跡には旧鉱山跡があって、金山（カネヤマー下嵐江銀山）として中世から江戸にかけて栄えた。この頃には更に多くの人々が住み、職種も様々だったようである。後には胆沢ダム入り口の市野々に移ったが、一時は番所が置かれたこともある。下嵐江部落の南東にそびえる猿山には「於呂栢志神社」があり、集落の厚い信仰を集めた。その神社の別当は、下嵐江部落のトヤ（高橋家）が代々司り旧仙北街道の人馬糞立・物資の管理などを勤めるなど、政治的にも経済的にも更には宗教の中心的な役割を担っており、この周辺が重要な場所であったことが言えよう。

この地区では、昭和中期までは小学校の分校（愛宕小学校前川分校、同石淵分校、同分校下嵐江校）が造られるほどの人家があったようだが、かつての石淵ダム、現在の胆沢ダム建設という二度にわたる事業により、家屋は取り払われ人けも余くない。

3 基本層序

平成19年度調査では、調査区が現道により分断されていたため、便宜的に北側調査区と南側調査区と名付けて区別した。基本土層は、地形変化が少ない北側調査区道路側で確認したが、その層序は以下のとおりである。

- I a 層：黒褐色土 現表土（現森林高植土）小礫含
層厚10～20cm
- I b 層：黒褐色土 旧耕作土および高植土小礫含
層厚30～40cm
- II 層：黒色土 部分的に礫多い
北側調査区高位部で未発達
崖錐性堆積物含 層厚15～30cm
- III 層：暗褐色土 IV層の漸移層
崖錐性堆積物全体に含
層厚20～30cm 縄文遺物包含層
- IV 層：明黄褐色粘土 遺構検出面
崖錐性の礫（拳大、人頭大）含む
地山 層厚1m以上



第4図 基本層序

北側調査区は地形分類図でもわかるように中起伏地で、南側調査区よりも傾斜を増しており、表土（I層）を剥ぐとすぐにIV層が検出された。それに対して、南側調査区ではI層とII層が発達している。また南側調査区の南側（標高347m以下）では、北側調査区を中心に全体的に拡がっていた崖錐性堆積物が極めて少なくなっている。



第5図 遺跡周辺図

Ⅲ 野外調査と室内整理の方法

1 野 外 調 査

(1) グリッドの設定

調査グリッドは、平面直角座標系X系(世界測地系)の座標軸を基準として、まず50×50mの大グリッドを設定した。大グリッドは、東西方向を西から東にローマ数字のⅠ、Ⅱ・・・、南北方向を北から南にA、B・・・とし、小グリッドは其中を5×5mに分割、東西方向を算用数字1～10、南北方向をa～jの10等分した。そして、グリッドの表記は「ⅠA1a」「ⅡB2b」などのように、大・小グリッドの組み合わせとした。

各基準点の成果値と杭高(標高=H)は次のとおりである。

基1	X=-99940.000, Y=4030.000, H=353.470m
基2	X=-100025.000, Y=4030.000, H=346.927m
補1	X=-99940.000, Y=4055.000, H=351.509m
補2	X=-99940.000, Y=4085.000, H=348.499m
補3	X=-100000.000, Y=4030.000, H=347.879m
補4	X=-100000.000, Y=4050.000, H=347.036m

(2) 試掘・表土除去

便宜的に北側調査区・南側調査区と名付けたことは先述のとおりだが、それぞれの調査区において地形の傾斜に応じて試掘トレンチを設定し、表土の厚さや遺物の有無を確認した。結果、調査区全域で崖錐性の礫が厚く堆積していることが判明、人力による遺構検出は不可能と判断し、表土およびその下の黒色土・漸移層については重機によって除去した。

この周辺に人家がなくなってから40年以上経っていることもあって、調査区内にも大小さまざまな立木があったらしく、伐採終了後であっても広く根を張った木根が多く残されていた。木根の除去については、遺構に影響がありそうなものはそのまま残し人力で根の処理を行った。

(3) 遺構の検出と精査

表土除去後には遺構検出作業を行ったが、その最中に見つかった遺物はグリッドごとに取り上げた。縄文時代の遺構については、竪穴住居跡は十字になるようベルトを設け(4分法)埋土の断面実測を、土坑等は半裁(2分法)して断面実測を行い、その後完掘→平面実測と進めた。近世墓壇は、明らかに改葬されているものは、平面とエレベーションのみ記録した。柱穴は、柱あたりが確認されないものは検出状態で土層を観察した後に掘り上げた。

遺構名については、野外調査では検出順に遺構ごとに連番で登録し、いずれの年度においても室内整理の段階で遺構名を変更した。遺構は種類ごとに三桁の数字で表したが、百の位は時期(1は縄文、2は近現代、3は時期不明)を、それ以下は種類ごとの連番となっている。

野外調査における平面図作製は、平成19年度は概ね光波トランシット測量、平成20年度は遺り方測量で行った。図面の縮尺は、全体図(調査区範囲・等高線図含む)を除いて、住居内の炉を1/10

で記録した以外は1/20を基本とした。

写真撮影は、近世墓壇や柱穴を除いて精査の段階ごとに撮影した。記録保存用として、35mmカメラ(モノクローム・カラーリバーサル)をフィルムごと各1台使用し、主たる遺構については中判カメラ(6×7cm判モノクローム)での撮影も行った。また、調査過程や状況写真なども含めて、補助的な撮影はデジタルカメラも併用した。

遺跡全体および遺跡周辺の空撮は委託撮影とし、調査終盤に小型飛行機により(モノクローム・カラーリバーサル)での撮影を行った。

(4) 調査経過

当該遺跡の調査は、2か年にわたって行った。年度ごとの調査経過は下記のとおりである。

<平成19年度>

- 5月1日(火) 調査開始(資材搬入・環境整備)
- 5月11日(金) 業者による雑木撤去
- 5月30日(月) 基準点設備完了((株)ランド技術設計)
- 6月11日(月) 終了確認
- 6月20日(水) 空撮((株)東邦航空)
- 6月22日(金) 調査終了・資材撤去作業

<平成20年度>

- 4月11日(金) 調査開始(資材搬入・環境整備)
- 5月28日(水) 終了確認
- 5月29日(木) 調査終了

2 室内整理

野外調査時に作製した図面の点検、遺物洗浄、接合・復元、写真整理等は、原則として野外調査と並行して行った。

遺構図面は、点検後に第2原図を作成した。挿図の縮尺は仕上がりが1/40を原則とし、それぞれ図版内にスケールを付した。なお、繰り返しになるが、室内整理時において時代ごとに遺構名を変更・再登録し、掲載にあたっては時代ごとおよび遺構種類ごととした。縄文時代の遺構には101号～、近世遺構には201号～、時期不明遺構には301号～の番号を付した。

遺物は洗浄後に点検し、遺構内外に分けて登録、重量測定後、注記・接合・復元を行った。その後、掲載遺物を選択し、実測・トレース・写真撮影・図版作成と作業を進めた。

報告書に掲載した遺物の選択基準は、土器は、遺構内出土のもので実測可能なもの全て(小破片資料が多い場合は文様の明瞭なもの)、遺構外では接合復元である程度実測可能になったもの(口縁部、文様明瞭のもの優先)である。陶磁器類については、墓壇内出土はもちろん遺構外の出土ではあっても、遺構の年代に関わるものは一部掲載した。石器は、加工痕を有するものは全て掲載した。

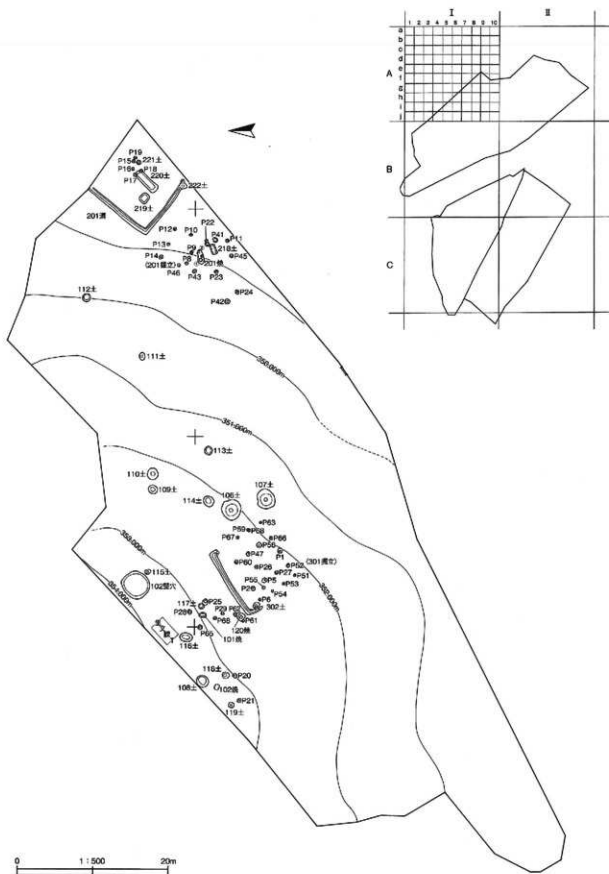
挿図中の縮尺は、土器類は1/3、石器類は1/2原則としているが、一部任意縮尺のものもある。

野外調査中に撮影した写真は、モノクロームはフィルムの規格ごとにネガアルバムに整理した。遺物は、報告書記載のもので立体遺物、陶磁器類、金属製品、石器は、キャノンEOS1D(1670万画素)で、土器破片資料はキャノンEOS5D(1280万画素)等を用いて、当センターの職員及び外注先の

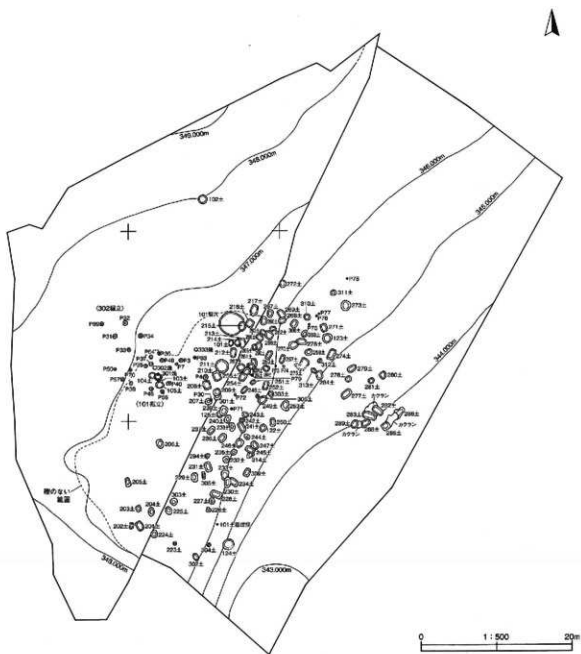
技師が撮影した。その際はRAWモード撮影を行い、当センター所有のハードディスクに遺跡名・遺構名・登録番号をつけ保存した。写真図版中の縮尺については、なるべく実測図版と同じになるようにしたが、小破片および大型製品については、見やすくするため任意の縮尺で掲載した。実測図版を参照していただきたい。なお、図版中の遺物番号と写真図版中の遺物番号は一致している。

参考文献・引用文献

- 岩手県教育委員会 2005 岩手県遺跡台帳 (CD-ROM版)。
- 胆沢町 1981 『胆沢町史Ⅰ 原始・古代編』
- 胆沢町 1982 『胆沢町史Ⅱ・Ⅲ 古代・中世編』
- 胆沢町 2000 『胆沢町史Ⅴ 近世編2』
- 胆沢町 2002 『胆沢町史Ⅵ 近・現代編1』
- 胆沢町 2004・2006 『胆沢町史Ⅶ 近・現代編2 前・中編』
- 岩手県教育委員会 1980 『岩手県「歴史の道」調査報告 仙北街道』 岩手県文化財調査報告書第43集
- 宮城京 1970 『宮城縣史32』 資料編9
- 胆沢町教育委員会 1997 『安永風上記 記載首尾原敷調べ』 胆沢町文化財調査報告書第19集
- 胆沢町教育委員会 1993 『胆沢ダム建設に伴う緊急民族調査報告書』 胆沢町文化財調査報告書第14集
- 胆沢町教育委員会 1983 『胆沢之古碑』
- 胆沢町教育委員会 2005 『胆沢町地名・屋号調査報告書』 胆沢町文化財調査報告書第32集
- 胆沢町教育委員会 1985 『大清水上遺跡調査報告書』 胆沢町文化財調査報告書第15集
- 胆沢町教育委員会 1988 『沢田遺跡調査報告書』 胆沢町文化財調査報告書第18集
- 胆沢町教育委員会 1995 『要害遺跡調査報告書』 胆沢町文化財調査報告書第26集
- 胆沢町教育委員会 1986 『宇南田遺跡調査報告書』 胆沢町文化財調査報告書第16集
- 胆沢町教育委員会 1981 『小十文字遺跡調査報告書』 胆沢町文化財調査報告書第11集
- 胆沢町教育委員会 1996 『石行遺跡調査報告書』 胆沢町文化財調査報告書第27集
- 胆沢町教育委員会 1991 『国分・戸の随道跡調査報告書』 胆沢町文化財調査報告書第21集
- 胆沢町教育委員会 1988 『浅野遺跡調査報告書』 胆沢町文化財調査報告書第17集
- 胆沢町教育委員会 1977 『漆町遺跡調査報告書』
- 胆沢町教育委員会 1984 『二本木遺跡調査報告書』 胆沢町文化財調査報告書第13集
- 胆沢町教育委員会 1992 『尼坂遺跡 - 第二次緊急発掘調査報告書 -』 胆沢町埋蔵文化財報告書第22集
- 胆沢町教育委員会 1993 『尼坂遺跡(東) - 第三次緊急発掘調査報告書 -』 胆沢町埋蔵文化財報告書第23集
- 胆沢町教育委員会 1993 『尼坂遺跡(西) - 第三次緊急発掘調査報告書 -』 胆沢町埋蔵文化財報告書第24集
- 胆沢町教育委員会 1994 『尼坂遺跡 - 第四次緊急発掘調査報告書 -』 胆沢町埋蔵文化財報告書第25集
- 高橋信雄・尾野靖 1996 『日本の古代遺跡 51 岩手』 保育社
- (財)岩塚文 1997 『F1原前Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第252集
- (財)岩塚文 1998 『F1原前Ⅳ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第269集
- (財)岩塚文 1999 『原前Ⅱ遺跡A地区発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第288集
- (財)岩塚文 1999 『岩手県埋蔵文化財発掘調査総報』 「穴山塚遺跡」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第311集
- (財)岩塚文 2000 『原前Ⅱ遺跡B地区発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第343集
- (財)岩塚文 2001 『大清水上遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第373集
- (財)岩塚文 2004 『岩手県埋蔵文化財発掘調査総報』 「峰谷遺跡」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第455集
- (財)岩塚文 2006 『大清水上遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第475集
- (財)岩塚文 2008 『平成19年度発掘調査報告書 2008』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第524集



第6図 平成19年度北側調査区遺構配置図



第7図 平成19年度南側調査区・平成20年度調査区連携配置図

IV 検出された遺構と遺物

1 検出遺構の内訳

平成19年度と平成20年度の2カ年の調査により検出された遺構数は、下表のとおりである。

遺構別	縄文時代					近世以降					時期不明				
	竪穴住居跡	竪立柱建物跡	土坑	焼土	柱穴状小土坑	竪立柱建物跡	土坑	墓	溝	焼土	柱穴状小土坑	竪立柱建物跡	土坑	焼土	柱穴状小土坑
平成19	2	2	21	2	5	1	4	18	1	1	15	2	1	3	11
平成20	0	0	4	0	0	0	0	72	0	0	0	0	13	0	9
合計	2	2	25	2	5	1	4	90	1	1	15	2	14	3	20

以下に年度別の調査結果を報告するが、いずれも遺構・遺物の順で記載する。

2 平成19年度調査

平成19年度の調査では、II-1「遺跡の位置と地理的環境」でも述べたように崖錐性堆積物（礫）が多く含まれており、特に北側調査区では一見遺構は確認できないかと思われたが、検出を重ねた結果、若干礫の少ない区域に遺構が構築されていることが判明した。いくつかの試掘トレンチをあけて土器や石器が出土した地点は、遺構の検出地点と一致している。南側調査区においては、礫の極めて少なくなる区域に並ぶように近世の墓やその他の遺構が造られ、いくつかの縄文時代の遺構を壊す状態で検出された。

前章で既述したが、以下に縄文時代の遺構は101号～、近世遺構は201号～、時期不明遺構は301号～で記述する。

(1) 遺 構

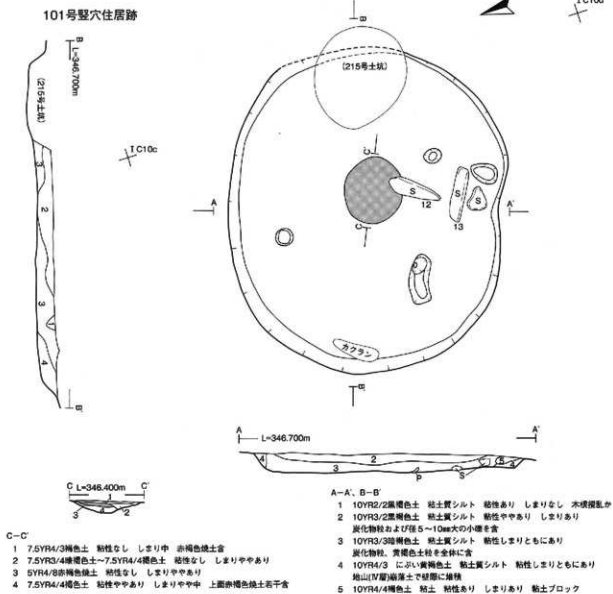
a 竪穴住居跡

調査区中央を横断する現道を挟んで、北側調査区最北と南側調査区最南に各1棟検出されている。

101号竪穴住居跡（第8図、写真図版3・4）

<位置> I C9c グリッド。

<概要> 南側調査区の礫の少ない区域より、暗褐色土の埋土の上面に炭化物や縄文土器片を含んで検出された。東南部において215号土坑（近世墓）と重複しており、攪乱を受ける。北西-東南方向に長軸があるやや楕円形を呈する。壁溝はなく、壁は緩やかに立ち上がる。やや東南寄りに地床炉があるが、焼土はさほど発達していない。床は締まり、凹凸は少ない。北-西-南に計4個の小柱穴があるが、東は土坑との重複部分に当たり確認できなかった。炉の南側の床面直上でやや平坦な自然礫とともに横位状態の石棒2点が出土している。いずれも、60cmほどの長さを持ち、1辺15cm内外の柱状の自然礫である。奥羽山脈を産地とした安山岩で、22.6kg、16.5kgである。周辺にはこのような柱状



第8図 101号竪穴住居跡

の大型の自然礫はなく意図的に持ち込まれたものと判断した。2点のうち1点(12)は焼土の直上にあるものの被熱しておらず、もともとこの場所にあったものではない。立たせるとするならば支えや穴を掘る必要があるが、住居内ではそれらしいものは確認できなかった。縄文土器は小破片ばかりであるが、総出土量は1129.60gである。摩滅も著しく、縄文のみの地文がほとんどである。胎土や文様が辛うじて判断できる土器などから縄文時代後期中葉の可能性がある。

<規模>3.44×2.90m、壁高25cm、炉70×60cm(地床炉)、焼土厚12cm。

<柱穴>4個。 <堆積土>4層 自然堆積。

<出土遺物>縄文土器(1~11)、石棒2点(12・13)。

<時期>出土遺物から、縄文時代後期中葉と思われる。

102号竪穴住居跡(第9図、写真図版4・5)

<位置>北側調査区I B7a・I B8aグリッド。

<概要>北側調査区の最も北端の緩斜面上に位置する。検出作業時は周辺と同様に礫が散在していたが、土器片が周辺よりも若干多く検出されたことにより遺構確認につながった。遺物出土は破片状態で埋土全体に見られたが、特に北西側で多く見られた。ほぼ円形を呈しており、壁の立ち上がりは垂直に近く余周に周溝を巡らせている。ほぼ中央に方形の石囲炉があり、長軸方向が2重となる。30cm前後の直角礫を中心に、10cm前後の小直角礫を配している。使用される回数が少なかったのか、焼土はほとんど見られない。焼土中からは遺物は出土していない。石囲炉の周辺には5個の主柱穴と見られる小土坑があり、南東には、出入口施設跡の柱穴と見られる小土坑が5個検出された。北側のみP P 3、P P 4と柱穴2個を確認しているが、その他の柱穴は単独であり、建て直し等も見られない。全体的に土器片が多く出土したが、当該遺構からの出土土器量は、総出土量の34%を超える割合で出土している。P P 1付近からの出土が最も多く、ほとんどが深鉢である。石器は、床面直上よりやや上層であるが、P P 3・P P 4付近(北側)に多く見られた。同じ縦型の石匙であるが、形状の異なる石匙の他、39・41など石製品と思われるものも出土している。39は、他の場所からも見つかったが、いずれも5cm以内で円柱状に一部調整した痕(擦り)がある。41は、明確な加工(調整)痕は見当たらないが、自然に入るようなものではなく持ち込まれたものと見てよい。

<規模>3.56×3.45m、壁高24cm、炉75×65cm(石囲炉)、周溝幅約10cm・深さ12cm、主柱穴5個、出入口柱穴5個。

<堆積土>4層+1層(周溝)、自然堆積。

<出土遺物>縄文土器(14~34)、石器(35~41)。

<時期>20・26など出土遺物から縄文時代晩期後葉の土器が出土しており、同時代の遺構と考えられる。

b 掘立柱建物跡

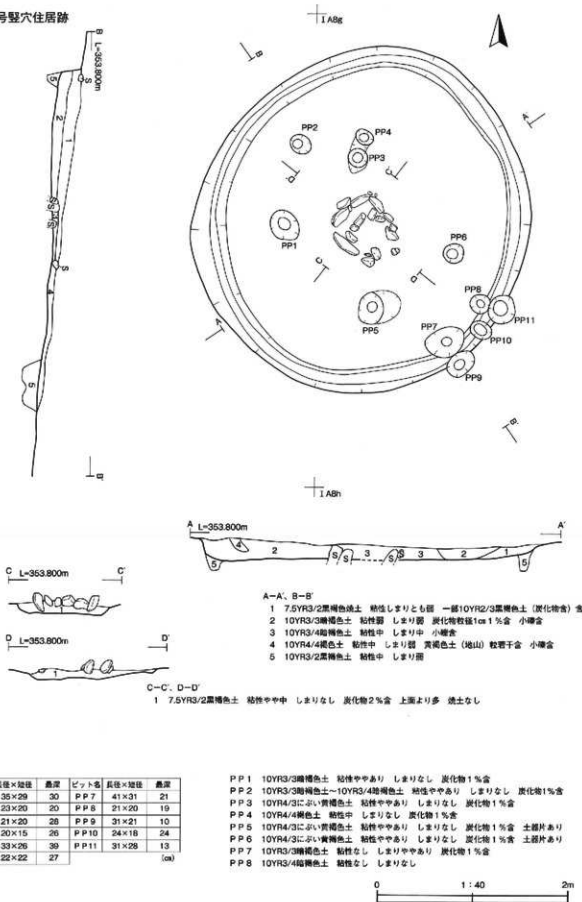
北側調査区に3棟、南側調査区に2棟検出された。時期は縄文時代と思われる2棟、近世と思われるもの1棟、時期不明のもの2棟である。

101号掘立柱建物跡(第10図、写真図版5)

<位置>南側調査区I C7d・I C7eグリッド。

<概要>南側調査区のほぼ中央から検出された。ここは近世墓塚が全く検出されない場所で、周辺に

102号竪穴住居跡



第9図 102号竪穴住居跡

縄文土器片が散在していた。また、P48は検出面に拳大の礫が数個かたまって見つかり、礫を取り去り発見した柱穴である。北北西-南南東に長軸をもち、亀甲形に6本の柱を配する。使用される柱穴はP35・P40・P48・P49・P56・P64である。直径は38～65cmほどで、いずれも60cm以上の深さをもつ。P35では石器が、P48・49・56からは縄文土器片が出土している。P48出土の土器(44・45)は、磨消縄文が施されている。

<規模> 長軸4m90cm、短軸2m30cm、亀甲形6本柱の建物跡。 <軸方向>N-17°-W。

<出土遺物>縄文土器(42～47)。

<時期>遺物から縄文時代後期前葉と思われる。

102号掘立柱建物跡(第11図、写真図版5)

<位置>I B7c グリッド。

<概要>北側調査区の北西端での検出である。北北西-南南東を軸とする。使用される柱穴はP25・P28・P29・P65である。標高の高い位置にある2本の柱の径は50cm強で、2つの底面の標高値もほぼ同じであるが、P68は若干径が小さくなる。P25は径が70cmを越すが、117号土坑の重複が関係していると思われる。P25・P65からは土器片が出土している。

<規模> 長軸2m50cm、短軸2m40cm、4本柱の建物跡。 <軸方向>N-25°-W。

<出土遺物>縄文土器(48～52)。

<時期>出土遺物から縄文時代後期前葉～中葉と思われる。

201号掘立柱建物跡(第12図)

<位置>II B6b・6c・7b・7c グリッド。

<概要>北側調査区の南西、現道寄りにて検出された。使用される柱穴はP10・P12・P13・P14・P22・P43・P44・P46である。西北西-東南東を軸とする。北西側の間尺(北西15.7尺-南東15尺)が若干広がるが、同一建物の柱穴とした。南端の柱穴P22から60cmほど南に離れた所で新寛永通寶が出土した218号土坑が検出された。元の地権者の話によるとこの周辺に建物は一切なかったようで、このことから218号墓墳よりも古い建物跡と判断した。

<規模> 桁行2間×梁間2間。 <軸方向>N-21°-E。 <出土遺物>なし。

<時期>状況から近世以降と考えられる。

301号掘立柱建物跡(第13図、写真図版16)

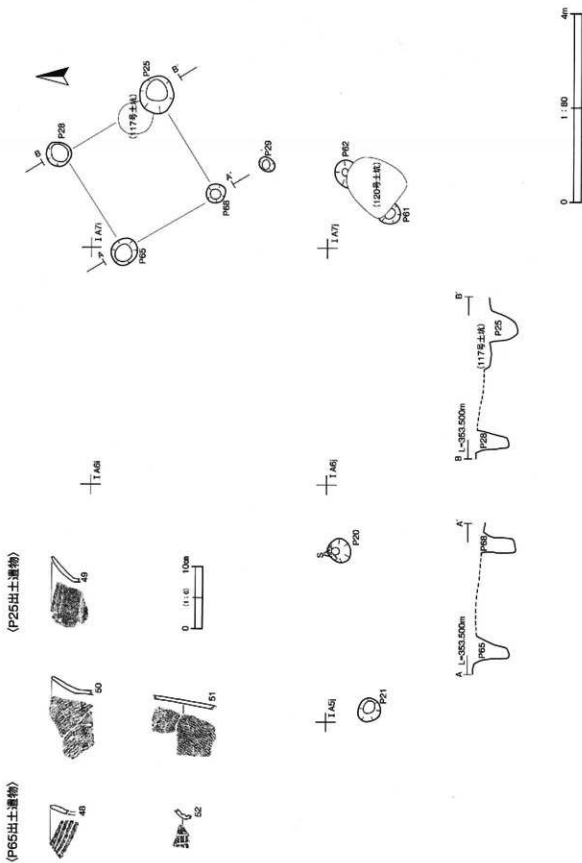
<位置>I B7d・8c・8d・8e・9d・9e グリッド。

<概要>北西-南東を軸とし、西側には庇をもつ。当初検出時には溝のみが見つかったが、後に柱穴群が伴うことが判明した。溝と建物の方向・規模などから、この溝は排水溝と考えた。また、主となる柱穴は大きめであるが、いずれにも柱痕跡は認められなかった。これらには円形のものやや方形のものがある。P60では埋土上～中位に礎石のような平らな礫が確認された。調査時は、柱穴の規模から二面庇の可能性も想定したが、北端の柱穴は見つからなかった。付近には木根もあったため壊された可能性も否めないが、西側との間尺も大分異なることから庇ではないと判断した。

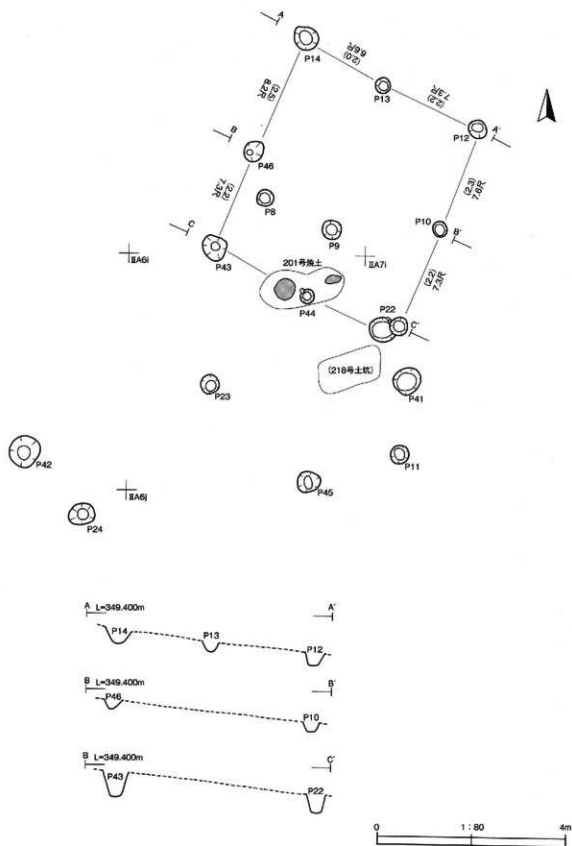
<規模> 桁行3間(間尺1.8m)×梁間4間(2.1m、東部分2.5m)、庇部1.7m。

<軸方向>N-32°-W。 <溝>全長9m80cm、幅7.8cm、深さ30cm。

<柱の堆積土>近世遺構や縄文遺構の柱穴の埋土とは異なる。



第11図 102号据立柱建物跡



第12図 201号獨立柱建物跡

＜出土遺物＞柱穴の北側を巡る溝から縄文土器（53）や石器（54～58）が出土したが、これより傾斜の高い位置に縄文時代の遺構があることから、本遺構の時期を示す遺物ではないと判断した。

＜時期＞特定される遺物が伴わないため、時期は不明である。

302号掘立柱建物跡（第10図、写真図版6）

＜位置＞I C6c・7c・7dグリッド。

＜概要＞101号掘立柱建物跡よりも更に北側に位置する。北西-南東を軸方向とする。使用される柱穴はP31・P32・P33・P34・P69である。建物跡とするには柱穴数が少ないが、他に見つけることができなかった。

＜規模＞桁行2間（？）×梁間1間（？）。＜軸方向＞N-43°-W。

＜柱間＞北西-南東2.4、2.6m、北東-南西2.3m。

＜出土遺物＞P31より縄文土器の小破片が出土している。

＜時期＞縄文土器片が出土した柱穴はあるが、出土状況や埋土状の状況などから、当該時期のものとは言えず時期は不明である。

c 土坑

北側・南側の両調査区で確認された。縄文時代と思われる土坑が21基、近世土坑が4基（うち2基は墓塚の可能性もあり）、近世墓塚が18基、時期不明土坑が1基である。

101号土坑（第14図、写真図版6）

＜位置＞I C9c・9dグリッド内。

＜概要＞南側調査区の101号堅穴住居跡の南側に位置する。平面形は円形で、断面はややフラスコ状である。埋土はほぼ単層だが、中位にわずかに焼土粒を含んだ層を有する。縄文土器片が出土しているが、小破片の上に摩滅しており時期は明確でない。

＜規模＞73×68cm、深さ23cm。＜堆積土＞2層に分層される。人為堆積か？。

＜出土遺物＞縄文土器（59・60）。

＜時期＞出土遺物や周辺の堆積土、形状などから縄文時代後期と思われる。

102号土坑（第14図、写真図版6）

＜位置＞I B8j・9jグリッド内

＜概要＞南側調査区の中で最も北寄りから検出された遺構である。平面形は円形で、断面は鍋底状、底面に2個の小ピットを有する。埋土中位から縄文土器がまとめて出土している。

＜規模＞1.38×1.17m、深さ22cm、(P P 1)41×35cm、深さ8.7cm、(P P 2)32×27cm、深さ17.1cm。

＜堆積土＞2層に分層される。人為堆積か？。＜出土遺物＞縄文土器（61～64）。

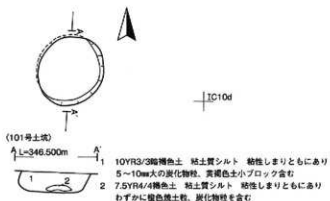
＜時期＞出土遺物から縄文時代後期か。

103号土坑（第14図、写真図版7）

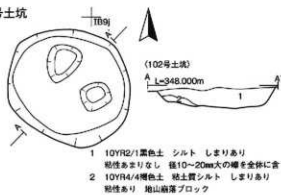
＜位置＞I C7dグリッド。

＜概要＞南側調査区のほぼ中央に位置する。北東壁は104号土坑と重複し、当該遺構のほうが新しいと思われる。南には105号土坑がある。この遺構の検出前には301号焼土が上面を覆っており、その焼

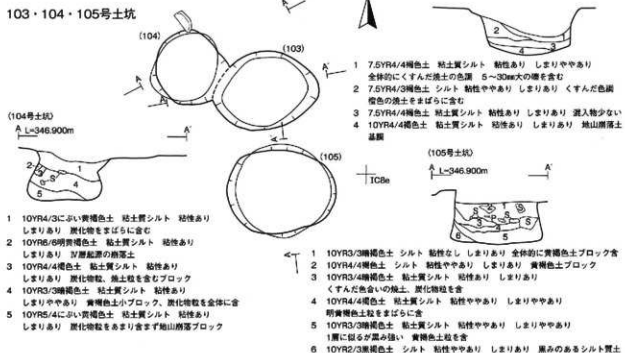
101号土坑



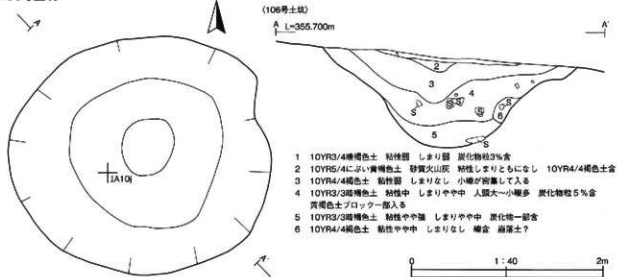
102号土坑



103・104・105号土坑



106号土坑



第14図 101~106号土坑

土を掘り下げたところ見つかった土坑である。焼土との関わりははっきりしない。平面形は楕円形で、ピーカー状の断面である。縄文時代後期前葉の土器が出土している。

<規模>1.12×0.82m、深さ48cm。<堆積土>4層に分層される。

<出土遺物>縄文土器(65～67)、石器(68)。

<時期>検出面、埋土、周辺の出土遺物、遺構等から縄文時代後期と思われる。

104号土坑(第14図、写真図版7)

<位置>I C7dグリッド。

<概要>南側調査区はほぼ中央で103号土坑と重複している。当該遺構が古い。規模は103号土坑よりも小さい。平面形は円形、断面はフラスコ状を呈する。摩滅した縄文土器が出土している。70～72は同一個体の深鉢片である。

<規模>75×70cm、深さ52cm。

<堆積土>5層に分層されるがうち2層は壁の崩落土と見られる。人為堆積の可能性もある。

<出土遺物>縄文土器(69～72)。

<時期>遺構重複関係や遺物から縄文時代後期か。

105号土坑(第14図、写真図版8)

<位置>I C7d・8dグリッド内。

<概要>南側調査区はほぼ中央103号土坑の南側に位置する。平面形は円形、断面はフラスコ状を呈する。埋土から縄文時代中期末の土器(73・76)が出土しているが、流れ込みの可能性も否定できない。周辺の土坑や柱穴のいずれからも同様の時期の土器は見つかっていない。礫を多く含む。

<規模>1.14×0.92m、深さ54cm。<堆積土>6層に分層される。自然堆積か?。

<出土遺物>縄文土器(73～76)。

<時期>縄文時代中期末と断定できないが、周辺の遺構よりも古い可能性が高い。

106号土坑(第14図、写真図版7)

<位置>I B9c・9d・10c・10dグリッド。

<概要>検出時の規模から住居跡の可能性をもちながら精査をした土坑である。平面形は円形、断面形は楕円状である。2層目には火山灰が堆積していたが、分析の結果土和田a降下火山灰の可能性が示された。この火山灰は、当該遺構のほかに107号土坑の埋土、北側調査区南西部で確認されている。4層上面の北西壁際からは、略完形の深鉢形土器(83)が出土している。その他、口縁部に4条の平行沈線を巡らせているもの(80)や、口唇部に刻目をもつもの(77)なども出土している。また、南東壁際および床面で径が40cmほどの垂角礫が出土しているが、その出土状況から床面に据えられたものかどうかは疑問が残る。

<規模>2.76×2.49cm、深さ1.03m。

<堆積土>6層に分層されるが、下位層の4・5層は人為的な可能性もある。

<出土遺物>縄文土器(77～83)、石匙(85)や4面に凹みを有する凹石(84)など礫石器(86～88)も多く出土している。当該遺構の土器出土量は、総出土量の約11.7%を占める。

<時期>縄文時代晩期後葉と思われる。

107号土坑（第15図、写真図版8）

<位置> I B9e グリッド。

<概要>北側調査区、106号土坑の2m南側に位置する。106号土坑とほとんど同規模で、壁は当該遺構のほうがより鋭角に立ち上がる。

<規模>2.74×2.41m、深さ1.20m。

<堆積土>5層に分層したが、3層と4層は礫の入り具合で分けたもので、同一層と考えられる。これには人頭大の角礫を含み、その下からは小礫が組まれたような状態で出土している。106号土坑同様、堆積状況に一部人為的な様子が窺える。

<出土遺物>縄文土器の深鉢底部（90）と別個体の口縁部破片（89）、薄手の有蓋石鉢（91）1点が出土している。

<時期>縄文時代晩期中葉か。

108号土坑（第15図、写真図版8）

<位置> I B5c グリッド。

<概要>北側調査区の北側から検出した。平面形は円形で、断面形はフラスコ状になると思われる。埋土上位には小礫が多く含まれているが、埋土中位から下位にかけては縄文土器片が多く出土した。3層には暗褐色土の焼土細粒が含まれている。

<規模>1.56×1.47m、深さ96cm。

<堆積土>5層に分層される。埋土下位については人為堆積の可能性がある。

<出土遺物>磨消縄文を特徴とする縄文時代後期前葉～中葉の土器片（92～101）や礫石器（102・103）が出土している。

<時期>縄文時代後期前葉～中葉。

109号土坑（第15図、写真図版8）

<位置> I B10a グリッド。

<概要>北側調査区での検出である。平面形はややいびつな楕円形で、底面は鍋底状である。2層上には、10cm前後の礫とともに土器片がまとまって出土した。

<規模>1.34×1.09m、深さ46cm。

<堆積土>2層に分層され、2層目は人為堆積の可能性もある。

<出土遺物>深鉢の胴～底部の縄文土器片（104～106）で、時期が明確にわかるものはない。その他、磨石（107）と被熱した人頭大の礫（108）が出土している。

<時期>縄文時代。

110号土坑（第15図、写真図版9）

<位置> I B10b グリッド内。

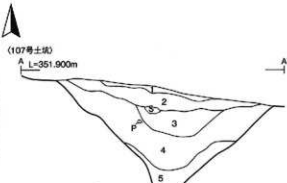
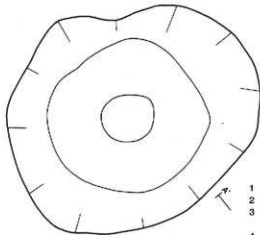
<概要>109号土坑から約40cm東で検出された土坑である。平面形は円形、断面形は楕円状である。

<規模>1.48×1.47m、深さ48cm。

<堆積土>半層である。上位では10cm強の礫が入り込む。人為堆積の可能性もある。

<出土遺物>薄手の壺と見られる無文土器（110）が出土している。109は底部のみだが、胎土が似ていることから110の底部の可能性もある。

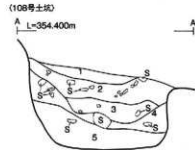
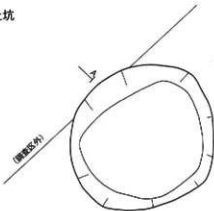
107号土坑



- 1 10YR2/2黒褐色土 粘性あまりなし しまりなし 木炭多い 小礫多
- 2 10YR3/4暗褐色土 粘性中 しまり弱 小礫多
- 3 7.5YR3/2黒褐色土 粘性しまりともに中 小礫多 炭化物1%含
人頭大の破砕骨中央にあり
- 4 10YR3/3暗褐色土 粘性やや中 しまりやや中 炭化物1%以下含 小礫多
- 5 10YR3/4暗褐色土と10YR4/4 褐色土との混合土 粘性中 しまり中
地山との混合土

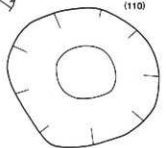
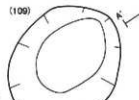
IA10a

108号土坑



- 1 7.5YR3/2黒褐色土 粘性ややあり しまり中 小礫含む 炭化物若干含
- 2 10YR2/3黒褐色土 粘性弱 しまり中 小礫、拳大礫含む 炭化物粒(1%)含
- 3 5YR3/4暗赤褐色土 粘性ややあり しまりややあり 小礫、炭化物含
- 4 7.5YR3/3暗褐色土 粘性ややあり しまりややあり 暗赤褐色土と粘着子含
拳大~人頭大の礫含
- 5 10YR4/4褐色土 粘性やや強 しまり中 拳大礫多

109・110号土坑



(109号土坑)

- 1 10YR2/2黒褐色土 粘性ややあり
しまりなし 2層より厚くない
- 2 10YR2/3黒褐色土 粘性なし しまりなし
層5~10cm大きく入る 中位に土片入る

(110号土坑)

- 1 10YR2/2黒褐色土 粘性なし しまりなし
縁輪様多 上位部人頭大の礫あり 遺物多

IA10hから5E2m

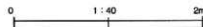
(109号土坑)

A L=352.600m



(110号土坑)

A L=352.400m



第15図 107~110号土坑

<時期>遺物から縄文時代晩期。

111号土坑 (第16図、写真図版9)

<位置>ⅡB4aグリッド内。

<概要>検出時に遺構の中央部付近から土器片が出土している。平面形は楕円形、断面は掘り鉢状である。

<規模>97×69cm、深さ32cm。

<堆積土>単層である。上位には拳大の礫を含む。人為堆積かどうかは不明である。

<出土遺物>口唇部に刻目が施される地文のみの深鉢(111・112)が出土している。

<時期>遺物から縄文時代晩期後葉と思われる。

112号土坑 (第16図、写真図版9)

<位置>ⅡA5jグリッド内。

<概要>北側調査区の最も西寄りで検出された土坑である。近くに南流する沢があり、その沢沿いに他にも遺構がありそうであったが、本遺構以外には確認できなかった。平面形はほぼ円形で、底部は鍋底状である。

<規模>1.05×0.88m、深さ40cm。

<堆積土>単層である。埋土中位からは拳大の礫が多く含まれる。

<出土遺物>摩滅した縄文土器の小片(113)が出土している。

<時期>縄文時代と思われるが詳細は不明である。

113号土坑 (第16図、写真図版9)

<位置>ⅡB1cグリッド。

<概要>北側調査区114号土坑から東に5mほどのところで検出された。北側調査区において、本遺構よりも標高の低い場所では縄文時代の遺構は見つかっていない。平面形は円形で、断面形はピーカー状を呈する。

<規模>1.00×1.00m、深さ38cm。

<堆積土>3層に分層される。自然堆積と思われる。

<出土遺物>工字文が施された小型の土器(114)が出土している。

<時期>縄文時代晩期後葉と考えられる。

114号土坑 (第16図、写真図版10)

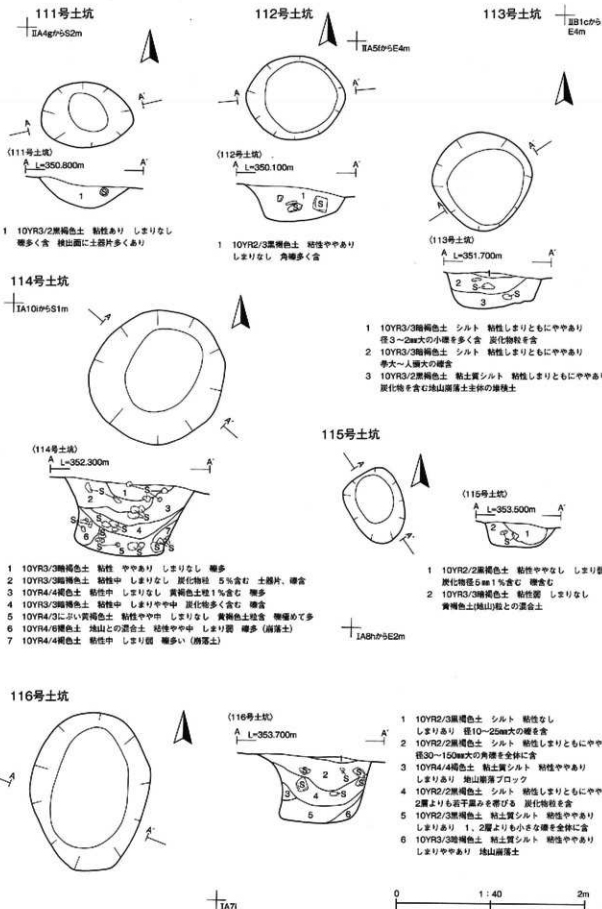
<位置>ⅠB10cグリッド。

<概要>北側調査区の掘鉢状の大型土坑である106号土坑から約1m北東に位置する。平面形は円形、断面形はピーカー状を呈する。埋土上位から下位まで5cm内外の小礫を多く含み、埋土中位からは突起、刻目、段差のない磨消縄文が施された縄文土器(117～120)などが出土した。それらの土器の下層は炭化物を多く含む層が形成されていた。

<規模>1.44×1.37m、深さ84cm。 <堆積土>7層に分層される。自然堆積と思われる。

<出土遺物>縄文土器(117～124)、打製石斧(125)

<時期>出土遺物から縄文時代晩期中葉と考えられる。



第16図 111~116号土坑

115号土坑 (第16図、写真図版11)

<位置> I B 8 a グリッド内。

<概要> 北側調査区の102号懸穴住居跡の南東に接するように検出された。平面形は楕円形、断面は鍋底状を呈している。

<規模> 74×60cm、深さ26cm。

<堆積土> 2層に分層される。全体に小礫が多く入り込む。人為堆積の可能性が高い。

<出土遺物> 縄文時代晩期の土器片 (126) が出土している。

<時期> 出土遺物から縄文時代晩期中葉か。

116号土坑 (第16図、写真図版10)

<位置> I B 6 b グリッド。

<概要> 北側調査区の102号掘立柱建物跡の北西側に位置する。平面形は楕円形で、断面はピーカー状である。埋土上位〜下位まで磨消縄文が施された縄文土器が出土した。

<規模> 1.68×1.24m、深さ73cm。

<堆積土> 6層に分層される。中位の2〜4層までは、拳大の礫や5cm内外の小礫が含まれる。自然堆積と考えられる。

<出土遺物> 128〜131は、平行沈線と磨消縄文が施された波状口縁を持つ土器である。133は縦位の条線が描かれている。137・138は石製品であるが、ともに断面形が円形に近い。石棒に類するものであろうか。

<時期> 縄文時代後期前葉。

117号土坑 (第17図、写真図版10)

<位置> I B 7 c グリッド。

<概要> 北側調査区の101号焼土のわずか50cm東に位置する。102号掘立柱建物跡のP25と重複関係にあり、当該遺構のほうが古い。平面形はほぼ円形、断面形は指鉢状になると思われる。

<規模> 70×(68)cm、深さ28cm。

<堆積土> 単層でしまりもあまりなく、人為堆積の可能性がある。

<出土遺物> なし。

<時期> 縄文時代後期中葉の土器片 (49) が出土したP25 (102号掘立柱建物跡) に壊されているため、それ以前の時期の可能性が高い。

118号土坑 (第17図、写真図版10)

<位置> I B 5 c グリッド。

<概要> 北側調査区108号土坑の2m南に位置する。埋土全体に小礫が含まれるが、上位にやや大きめの角礫が入り込む。5m東には102号掘立柱建物跡が、本遺構の1m北西側には7号焼土がある。

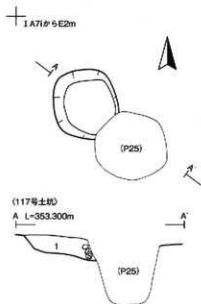
<規模> 1.1×0.9m、深さ80cm。

<堆積土> 2層に分層されるが、このうちの1層は崩落土であり、本来の堆積土は単層である。

<出土遺物> 摩滅している土器片ばかりで、縄文が認められたのは1点 (139) のみである。

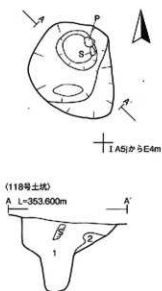
<時期> 縄文時代ではあるが、詳細は不明である。

117号土坑



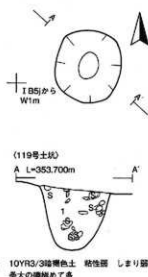
- 1 10YR4/4褐色土 粘性弱 しまりややあり 小礫多く含

118号土坑



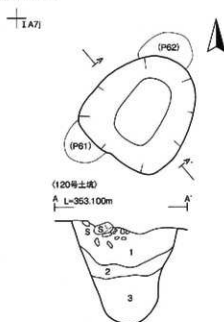
- 1 10YR3/3暗褐色土 粘性やや弱 しまり弱 炭化物1%
礫5~20cm大含
2 10YR5/6黄褐色土 粘性弱 しまりややあり 崩落土?

119号土坑



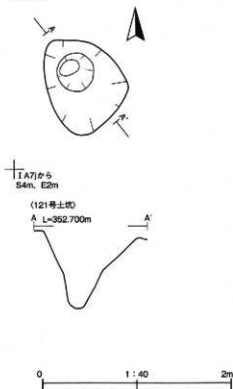
- 1 10YR3/3暗褐色土 粘性弱 しまり弱
多小の礫極めて多

120号土坑



- 1 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性ややあり しまりあり
径5~200cm大の大小礫を含
2 10YR4/6褐色土 シルト 粘性しまりともややあり
径30~50cm前後の礫を含
3 10YR4/4褐色土 シルト 粘性ややあり しまりあまりなし
径30~200cm大の礫を全層に含 崩落土主体

121号土坑



第17図 117~121号土坑

119号土坑 (第17図、写真図版11)

<位置> I B4c・4dグリッド。

<概要>北側調査区の検出遺構の中で最も西側に位置する。平面形は円形、断面形は掘鉢状である。形状から柱穴状土坑の可能性もある。小礫が多く入り込む。

<規模>77×69cm、深さ68cm。

<堆積土>礫を含む暗褐色土の単層である。

<出土遺物>縄文土器と見られる土器片が数点出土したが、いずれも摩滅している。

<時期>118号土坑と同様、縄文時代とは思われるが詳細は不明である。

120号土坑 (第17図、写真図版11)

<位置> I B7dグリッド。

<概要>北側調査区の301号掘立柱建物跡の北西に位置しているが、建物跡よりも一段高いところにある。2個 (P61・P62) の柱穴状小土坑と重複しており、本遺構の方が新しい可能性が高い。平面形は略楕円形で、深さの割に底面は平らではなく掘鉢状を呈する。埋土上位に礫が多く入り込み、摩滅した縄文土器片を含む。

<規模>1.2×1.1m、深さ110cm。

<堆積土>3層に分層される。堆積状況は自然堆積とは言い難い。

<出土遺物>119号土坑と同様、数点出土したが、いずれも摩滅している。

<時期>縄文時代後期以降か。

121号土坑 (第17図)

<位置> I B7dグリッド。

<概要>北側調査区の301号掘立柱建物跡施設内にある土坑である。位置的に、掘立柱建物跡に付属するものとは捉えがたく、埋土状況から縄文時代の遺構と判断した。断面形などから柱穴状小土坑の可能性も否めない。

<規模>1.00×0.82m、深さ81cm。 <堆積土>不明。

<出土遺物>磨消縄文、入組文が施された縄文時代後期前葉の土器が出土している。(142・143)

<時期>遺物から縄文時代後期前葉か。

201号土坑 (第18図、写真図版11)

<位置> I C7hグリッド。

<概要>南側調査区の南寄りでの検出である。周辺には202～205号土坑がある。平面形はやや楕円形に近い長方形で、断面形はビーカー状である。底面の中央あたりから古銭6枚と釘が出土している。形状、埋土、遺物から近世墓と判断した。埋土から改葬済みと思われるが、これらの遺物はその際に残されてしまったものと考えられる。

<規模>1.29×0.98m、深さ44cm。 <長軸方向>N-30°-W。

<堆積土>黄褐色土と褐色土との混合土の単層。

<出土遺物>古寛永3枚、新寛永3枚 (いずれも文銭)、釘。

<時期>文銭が含まれることから、17世紀後半以降か。

202号土坑 (第18図、写真図版11)

<位置> I C 7 h グリッド。

<概要> 201号土坑の西隣にて検出された。底面付近から古銭6枚が出土している。また、凝灰岩製かと思われる模造銭らしきもの(156)が出土している。近世墓である。

<規模> 79×54.3cm、深さ33cm。 <長軸方向> N-20°-E。

<堆積土> 2層に分層され、黒色土が底面より上面近くまで堆積している。埋土状況からこの遺構は未改葬と思われる。

<出土遺物> 古寛永5枚、新寛永1枚(文銭)、模造銭1枚。

<時期> 文銭が含まれることから、17世紀後半以降か。

203号土坑 (第18図、写真図版12)

<位置> I C 7 h グリッド。

<概要> 201号土坑の北側1mに位置する。埋土の上～中位にて古銭が出土している。平面形は正方形である。削平されているため浅い。

<規模> 86×76cm、深さ28cm。 <長軸方向> N-22°-W。

<堆積土> 201号土坑や202号土坑とは異なる単層の埋土で、これらの土坑よりも古く感じられる。

<出土遺物> 古寛永6枚、咸平元寶(北宋銭)1枚。

<時期> 古寛永と渡来銭のみということで、17世紀中頃以降か。

204号土坑 (第18図、写真図版12)

<位置> I C 7 h グリッド。

<概要> 203号土坑の東隣に位置する。楕円形を呈し、長軸は203号土坑と同じくする。出土遺物はないものの形状、検出位置から近世墓と思われる。

<規模> 1.03×0.78m、深さ33cm。 <長軸方向> N-19°-W。

<堆積土> 単層で203号土坑と類似。

<出土遺物> なし。

<時期> 近世以降だが、203号土坑と同時期の可能性が高い。

205号土坑 (第18図、写真図版12)

<位置> I C 6 g・7g グリッド内。

<概要> 南側調査区からの検出。底面より若干上から古銭、木櫛(164)、歯、小人骨片が出土した。平面形は長方形で、幅が狭い近世墓である。

<規模> 1.21×0.56m、深さ38cm。 <長軸方向> N-19°-W。

<堆積土> 2層に分層される。1層中央部は改葬後に入れられたものか。

<出土遺物> 古寛永3枚、新寛永(文銭)2枚、天聖元寶(北宋銭)1枚、木櫛、歯、人骨片。

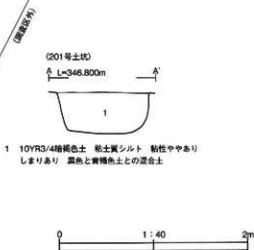
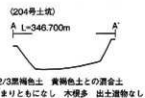
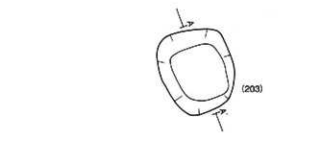
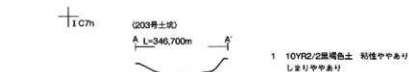
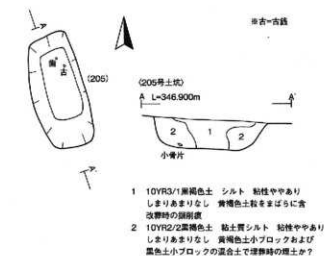
<時期> 文銭が含まれることから17世紀後半以降か。

206号土坑 (第18図、写真図版12)

<位置> I C 7 f グリッド。

<概要> 205号土坑と軸を同じにする。平面形はやや楕円形で、遺構上部が削平されているため浅い。

201号・202号・203号・204号・205号土坑



第18図 201~206号土坑

近世墓である。

<規模>1.28×0.82m、深さ20cm。 <長軸方向>N-17°-W。

<堆積土>黒褐色土の単層。 <出土遺物>なし。

<時期>近世以降。

207号土坑 (第19図、写真図版12)

<位置>I C 9 e グリッド。

<概要>南側調査区で検出された近世墓である。平面形は円形で、P 30に北東壁の一部を壊されている。埋土中位から古銭、煙管、和鉄等が出土している。

<規模>94×90cm、深さ55cm。

<堆積土>3層に分層される。埋土状況から改葬後の人為堆積と思われる。

<出土遺物>古寛永2枚、煙管片、毛抜き、和鉄、骨片、鉄釘。

<時期>改葬された状況が明瞭であることから、詳細な時期は不明とせざるを得ない。

208号土坑 (第19図、写真図版12)

<位置>I C 8 d・9 d・8 e・9 e グリッド内。

<概要>207号土坑の北1mに位置する。平面形は長方形で、これも深さが浅い。中央部に刃部先端がわずかに広がる山刀と思われる鉄製品(176)が出土した。また、古銭や18世紀前半と見られる煙管片なども出土した。

<規模>1.24×0.92m、深さ8cm。 <長軸方向>N-15°-W。

<堆積土>黄褐色土粒を含む黒褐色土の単層。

<出土遺物>鉄製品(山刀)、古寛永2枚、新寛永(文銭)4枚、渡来銭(?)1枚、煙管、鉄釘。

<時期>無背文銭が含まれないため、18世紀まで下らないようにも思われるが、煙管の特徴からと18世紀初め頃か。

209号土坑 (第19図、写真図版13)

<位置>I C 9 e グリッド。

<概要>南側調査区東南境に位置する。301号土坑と重複しているが、当該遺構の方が新しい。平面形は円形で、埋土の状況から改葬済みと思われる。底部から棺の一部と煙管片、古銭が底板に密着した状態で出土している。

<規模>91×90cm、深さ70cm。 <堆積土>黒褐色土・黄褐色土等の混合土である。

<出土遺物>新寛永2枚、古銭(銭種不明)2枚、小刀状?鉄製品、歯、煙管片、棺材。

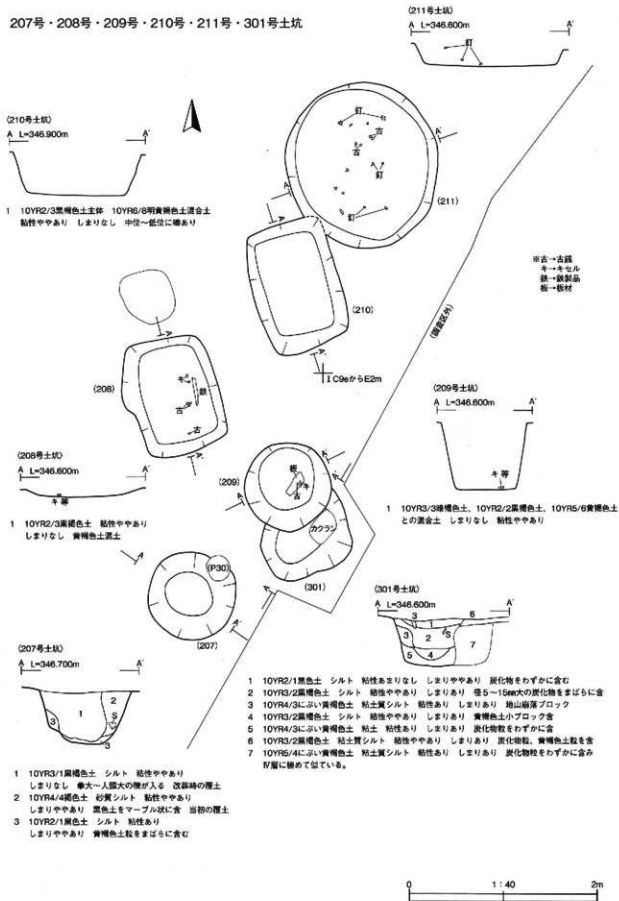
<時期>無背文の新寛永が出土していることから、18世紀前半以降か。

210号土坑 (第20図、写真図版13)

<位置>I C 9 d グリッド。

<概要>208号土坑の北東側40cmに位置し、平面形は長方形で規模・軸方向とも208号土坑と類似する。埋葬時に混入混入したものか不明だが、埋土中位から石皿(191)が出土している。古銭は全部で7枚出土しているが、うち6枚は布に包まれ一括で見つかった。北東隅で211号土坑と重複するが、当該遺構の方が新しい。

207号・208号・209号・210号・211号・301号土坑



第19図 207～211・301号土坑

- <規模>1.36×0.94m、深さ47cm。 <長軸方向>N-17°-W。
 <堆積土>明黄褐色土と黒褐色土の混合土。
 <出土遺物>古寛永2枚、新寛永5枚(文銭3枚、無背文銭2枚)、石皿。
 <時期>出土遺物および遺構の重複関係から18世紀前半より以降のものと思われる。

211号土坑(第19図、写真図版14)

- <位置>I C9d グリッド。
 <概要>210号土坑の北東に重複しており、それよりも当該遺構のほうが古い。平面形は円形であったが、出土した鉄釘の位置から丸く掘りこんだ後に長方形の棺を納めていたことがわかった。棺は小振りである。棺の内側(北側)に集中して古銭8枚が出土した。
 <規模>1.74×1.6m、深さ24cm(棺92×46cm)。 <堆積土>単層か?。
 <出土遺物>古寛永1枚、新寛永2枚(1枚は文銭)、渡来銭(至道元寶)4枚、不明1枚(渡来銭?)、鉄釘。
 <時期>無背文銭が含まれることから18世紀前半以降か。

212号土坑(第20図、写真図版13)

- <位置>I C9d グリッド。
 <概要>南側調査区211号土坑の北東5mに位置する。平面形は長方形で南-北に長軸をもつ。南壁寄りから、鉄製品(刀子)、煙管片、紐で括られた9枚の古銭が出土している。
 <規模>1.14×0.81m、深さ48cm。 <長軸方向>N-4°-E。 <堆積土>不明。
 <出土遺物>刀子、煙管片2点(同一個体の可能性が高い)、古寛永2枚、新寛永6枚、渡来銭(元豊通寶)1枚。
 <時期>無背文銭、煙管の特徴から18世紀前半以降と考えられる。

213号土坑(第20図、写真図版13)

- <位置>I C9c・10c・9d・10d グリッド内。
 <概要>212号土坑の北東70cmに位置する。214号土坑と西壁で重複するが、当該遺構が新しい。南壁は調査区外へ延びている。底面近くで古銭や煙管、鉄製品(和鉄・毛抜き)が出土している。
 <規模>(1.24)×0.8m、深さ46cm。 <長軸方向>N-21°-W。
 <堆積土>黒褐色土と黄褐色土の混合土。
 <出土遺物>古寛永1枚、新寛永5枚、不明古銭1枚、煙管は小破片であるが、火皿部(232)は大きく、212号土坑出土の208と同型と推測される。その他、和鉄、毛抜きが出土している。また、石器(磨石219)1点も出土している。
 <時期>出土遺物から18世紀前半以降と考えられる。

214号土坑(第20図、写真図版13)

- <位置>I C9c グリッド。
 <概要>213号土坑と東側にて重複している。当該遺構のほうが古い。平面形は正方形で、上面は削平され浅い。出土遺物は鉄釘のみであるが、形状等から近世墓と考えた。底面で20cm大の扁平な円盤が1点出土した。南隅には柱穴状の小土坑が見られるが、これに伴うものではない。埋土中から縄文

時代の石器(磨石)2点が出土している。

<規模>(78)×75cm、深さ17cm。 <長軸方向>N-55°-W。

<堆積土>炭化物粒を含む褐色土の単層。 <出土遺物>鉄釘、石器(230・231)。

<時期>重複関係により18世紀より以前か。

215号土坑(第20図、写真図版14)

<位置>I C9e・10eグリッド内。

<概要>101号竪穴住居跡と南東側で重複しており、住居跡を切って造られている。平面形は卵形で削平なため深さがない。古銭5枚が重なった状態で出土している。

<規模>1.34×0.92m、深さ19cm。 <長軸方向>N-8°-E。

<堆積土>黒褐色土が主体で、にぶい黄褐色土と褐色土が混じる。

<出土遺物>古寛永4枚、新寛永(文銭)1枚、煙管片(小片)。

<時期>文銭が含まれるため17世紀後半以降か。

216号土坑(第20図、写真図版14)

<位置>I C10eグリッド。

<概要>215号土坑の東隣に接するように位置する。平面形は正方形に近い。北西-南東に軸をもつ。縄文土器も出土したが、西側隅の底面から古銭等が出土しており、近世の墓場とした。

<規模>1.09×0.99m、深さ37cm。 <長軸方向>N-55°-W。

<堆積土>黒色土とにぶい黄褐色土の混合土で単層か。

<出土遺物>新寛永3枚、鉄銭3枚(241・242・342)、煙管、縄文土器(238)。

<時期>鉄銭を含むことから18世紀中頃以降か。

217号土坑(第20図、写真図版14)

<位置>I C10d・10eグリッド。

<概要>216号土坑より北東40cmに位置し、平面形は片側が丸みをもった舟形である。上面を削平され浅い。埋土の状況から未改葬と思われる。西際中央から古銭等が出土した。

<規模>1.41×0.88m、深さ27cm。 <長軸方向>N-8°-E。

<堆積土>礫を含む黒褐色土の単層である。

<出土遺物>古寛永1枚(258)、新寛永9枚はいずれも無背文銭である。246と247は接着しており断定できないが、字体から無背文銭と思われる。その他、煙管片、鉄製品、鉄釘、布片が出土した。布片は古銭を包んだものの可能性が高い。

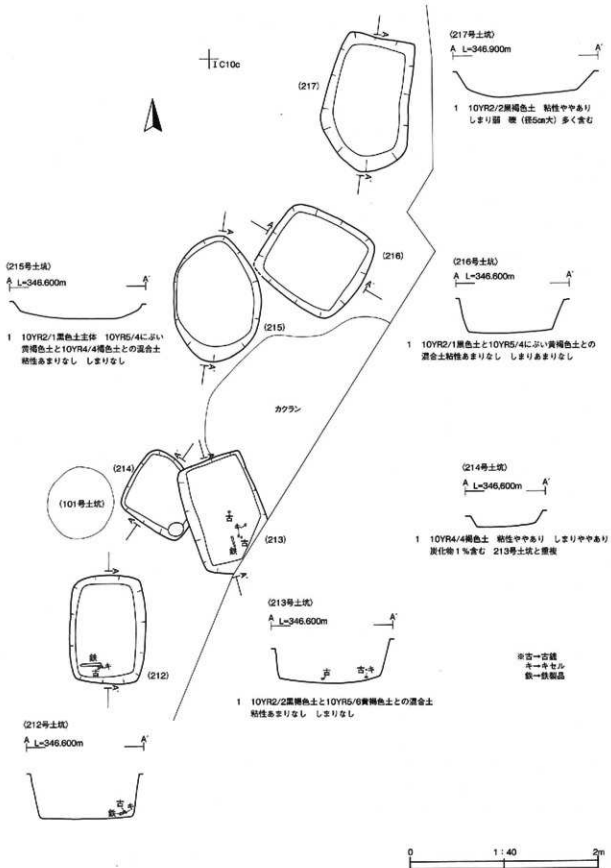
<時期>無背文銭の新寛永を含むことから、18世紀前半以降か。

218号土坑(第21図)

<位置>II B6c・7cグリッド内。

<概要>北側調査区西側道路寄りからの検出である。周辺には近世以降の柱穴が見つかったり、それよりも古い遺構と考えられる。平面形は長方形で削平が著しく、底面のみが残っている程度である。埋土中から古銭、傍から陶器片、東隅から竝(簀)(257)とみられる銅製品が出土している。また、この周辺を検出中に煙管片も見つかったり。

212号・213号・214号・215号・216号・217号土坑



第20図 212~217号土坑

<規模>1.35×0.73m、深さ10cm。 <長軸方向>N-74°-E。
<堆積土>黒褐色土の単層。
<出土遺物>新寛永1枚、近世陶器碗（大堀相馬）破片、銅製品（筭？）破片。
<時期>検出状況などから18世紀前半までさかのぼるか。

219号土坑（第21図、写真図版14）

<位置>ⅡB8aグリッド。
<概要>北側調査区の最東部、201号溝によって囲まれた中に検出された。平面形は長方形でこれも遺構の上面は削平されている。腐食が著しく種類は不明だが、鉄製品が出土している。形状等から墓塚の可能性もある。
<規模>1.40×1.16m、深さ10cm。 <長軸方向>N-47°-W。
<堆積土>黄褐色土粘土粒・炭化物を含む暗褐色土の単層。
<出土遺物>鉄製品（259）。
<時期>近世以降。

220号土坑（第21図、写真図版14）

<位置>ⅡB8aグリッド。
<概要>219号土坑とは90度軸を変え、それを北東-南西方向とする墓塚である。長方形を呈し、東側の両端でP17・18とそれぞれ重複する。新旧は不明であり一連の遺構である可能性もある。ここからは、202号土坑（近世墓塚）出土の模造銭？（156）と同様のもの（262）が出土した。
<規模>3.58×1.28～1.05m、深さ32cm。 <長軸方向>N-43°-E。
<堆積土>焼土粒・炭化物を含む暗褐色土。
<出土遺物>模造銭？、鉄屑、近世陶磁器（灰釉陶器皿、染付？皿）。
<時期>近世以降。

221号土坑（第21図、写真図版14）

<位置>ⅡB9aグリッド。
<概要>北側調査区220号土坑の東隣での検出である。平面形は円形を呈し、ピーカー状の断面をしている。周辺と同様の埋土である。
<規模>62×60cm、深さ41cm。 <堆積土>炭化物を含む暗褐色土の単層である。
<出土遺物>なし。
<時期>近世以降。

222号土坑（第21図、写真図版14）

<位置>ⅡB8bグリッド。
<概要>北側調査区201号溝の最南端部に重複する。新旧関係は明確ではないが、222号土坑の方が古い可能性が高い。201号溝により遺構の半分が攪乱を受けているため全容は不明である。
<規模>（100）×（70）cm、深さ（30）cm。 <堆積土>礫を含む暗褐色土の単層である。
<出土遺物>なし。
<時期>埋土から近世以降と思われる。

301号土坑（第19図、写真図版13）

＜位置＞I C9e グリッド。

＜概要＞209号土坑と重複しており、当該遺構が古い。当該遺構内に柱穴状の攪乱がある。

＜規模＞99×53cm、深さ50cm。＜長軸方向＞N-45°-E。

＜堆積土＞5層に分層される。自然堆積か。

＜出土遺物＞摩滅した縄文土器片が出土している。

＜時期＞重複関係から近世よりは古いと考えられるが、詳細な時期は不明である。

d 溝

溝状遺構自体は2条検出しているが、うち1条は301号掘立柱建物跡に付属する遺構としているため、単独の遺構は1条のみである。

201号溝（第21図、写真図版14）

＜位置＞II A7j・8j・II B7a・7b・8b グリッドに跨る。

＜概要＞北側調査区の最東部にて検出された。周辺に219・220・221・222号土坑、P15～19がある。この周辺は、当該遺構によって全体的に平坦になっており、その後に前述の遺構が造られているようである。この溝は水路や区画溝というよりも、斜面地形を普請したものの可能性が高い。

＜規模＞全長9.60mで途中屈曲する。幅68～50cm、最深42cm。

＜堆積土＞小礫を含む暗褐色土の単層である。

＜出土遺物＞近世陶器（大塚相馬？碗ほか）2点（263・264）。

＜時期＞近世以降。

e 焼土

焼土は6基検出している。検出状況などから、縄文時代に属すると思われるものが2基、近世と思われるものが1基で、南側調査区から検出された3基はいずれも時期が不明である。

101号焼土（第22図、写真図版15）

＜位置＞I B7c グリッド。

＜概要＞北側調査区北寄りに位置し、102号掘立柱建物跡に囲まれるようにある。平面形は略門形。

＜規模＞63×53cm、厚さ20cm。

＜焼土の状態＞大きく二つに分けられ、上位中央部は焼けが良くない。下位は赤褐色の色調である。

＜出土遺物＞石器片が出土した。

＜時期＞縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明である。

102号焼土（第22図、写真図版15）

＜位置＞I B5c グリッド。

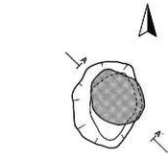
＜概要＞北側調査区の北寄り、108号土坑の南西5mに位置する。

＜規模＞86×57cm、厚さ15cm。

＜焼土の状態＞礫を含むにぶい赤褐色の色調で、焼けはあまり良くない。この焼土下に炭化物を含む黒褐色土が入り土坑状にも見える。

101号焼土

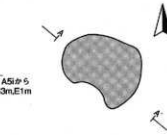
IA7i



- 1 7.5YR4/4褐色焼土 粘性なし しまりあり 赤褐色土粒多く含
- 2 5YR4/8赤褐色焼土 粘性なし しまりなし
- 3 7.5YR4/4褐色土 粘性ややあり しまりややあり 5cm大礫含

102号焼土

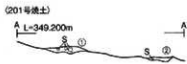
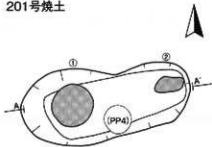
IA5iから
S3m,E1m



- 1 10YR2/2黒褐色土 粘性なし しまりなし 炭化物1%録含
- 2 5YR4/ACにぶい赤褐色土 粘性やや弱 しまりなし 礫多く含
- 3 7.5YR4/4褐色土 粘性中 しまり中 小一拳大礫多く含
- 4 7.5YR4/4褐色土と10YR4/6褐色土との混合土 粘性やや中 しまり中 拳大の礫多く含 (焼土前層土?)

201号焼土

IA7i

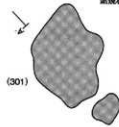


- ① 2.5YR3/4暗赤褐色焼土 粘性なし しまりややあり
- ② 2.5YR3/4暗赤褐色焼土と2.5YR2/2暗褐色焼土との混合土 粘性ややあり しまりなし

301号・302号焼土

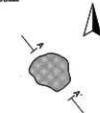


- 1 7.5YR4/4褐色土 粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 炭焼状況不良

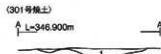


303号焼土

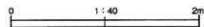
IC9d



- 1 7.5YR3/2黒褐色土 シルト 粘性ややあり しまりややあり 炭焼不良
- 2 10YR3/3暗褐色土 粘土質シルト 粘性あり しまりあり 炭化物録含 20mm一の拳大の礫混入



- 1 7.5YR4/4褐色土 粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 炭焼不良



第22図 焼土

<出土遺物> 地文のみの縄文土器(265・266)と石器片が出土している。

<時期> 出土遺物から縄文時代後期に属するものか。

201号焼土(第22図、写真図版15)

<位置> II B6c グリッド。

<概要> 南側調査区の201号掘立柱建物跡内に2基1対で検出した。一つの平面形は円形、もう一つは不整形円形である。

<規模> ①直径44cm、厚さ8cm。 ②32×13cm、厚さ4cm。

<焼土の状態> いずれも暗赤褐色土をなす。焼けは良くない。

<出土遺物> なし。

<時期> 検出状況などから近世以降の焼土としておく。

301号焼土(第22図、写真図版15)

<位置> I C7d グリッド。

<概要> 南側調査区のほぼ中央、101号掘立柱建物跡の中央付近に検出された。当初は単独の大きく広がる焼土に見えたが、結局は単独の遺構2基の扱いとした。当該焼土の平面形は不整形である。これを精査中にこの真下から103号土坑を検出したが、これらが一連の遺構の可能性も皆無ではない。

<規模> 1.2×0.80m、厚さ12cm。

<焼土の状態> 焼けの悪い褐色土。 <出土遺物> なし。

<時期> 不明。

302号焼土(第22図、写真図版16)

<位置> I C7d グリッド。

<概要> 南側調査区の301号焼土に隣接し、検出状況は上述のとおりである。平面形は略円形である。

<規模> 48×40cm、厚さ4cm。

<焼土の状態> 301号土坑同様、焼けの良くない褐色土である。 <出土遺物> なし。

<時期> 不明。

303号焼土(第22図、写真図版16)

<位置> I C8d グリッド。

<概要> 近世と縄文時代の遺構の間に位置する。平面形は略円形である。

<規模> 42×39cm、厚さ7cm。 <焼土の状態> 焼けが極端に悪い。

<出土遺物> 縄文土器片、石器(磨石)。

<時期> 不明であるが、出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性がある。

f 柱穴状小土坑

縄文時代に属すると思われるものは5個、近世は15個、時期不明は9個である。いずれも掘立柱建物跡などを構成しない。時期は、出土遺物や埋土の状況などから判断した。下表に一覧を掲載したので参照されたい。

第2表 柱穴及び柱穴状小土坑観察表

遺構名	グッド	建物名	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	面積(m ²)	埋土
P 35	I C7d	101号竪立柱建物跡	43	42	66.9	346.119	
P 40	I C8d	101号竪立柱建物跡	65	41	61.0	346.050	10YR4/4 褐色土 粘性やや中 しまり弱 炭化物1%含
P 48	I C7c	101号竪立柱建物跡	55	46	77.2	343.930	10YR3/4 暗褐色土 粘性やや中 しまりなし 四隅に礫あり 横断面に礫多くあり 土器片含
P 49	I C7e	101号竪立柱建物跡	41	40	69.5	346.082	10YR3/3 暗褐色土 粘性やや中 しまりやや中 炭化物粒1%含 土器片含
P 56	I C7e	101号竪立柱建物跡	48	43	56.5	346.129	10YR3/4 暗褐色土 粘性やや中 しまりやや中 炭化物粒若干含 土器あり
P 61	I C7d	101号竪立柱建物跡	38	34	67.4	346.166	10YR3/3 暗褐色土 粘性やや中 しまりやや中 炭化物1%含
P 25	I A7i	102号竪立柱建物跡	75	71	65.4	352.480	10YR2/3 黒褐色土 粘性やや中 しまり極めて弱 上面に礫あり 39号土坑切
P 28	I A7h	102号竪立柱建物跡	52	50	100.0	352.640	10YR3/3 暗褐色土 粘性やや中 しまり中 黄褐色土粒やや中 炭化物粒1%含
P 65	I A6f	102号竪立柱建物跡	58	52	76.0	352.630	10YR3/4 暗褐色土 10YR4/4 褐色土との混合土 粘性やや中 しまりやや中 土器片、炭化物含
P 68	I A7i	102号竪立柱建物跡	43	40	69.0	352.490	
P 10	II A7h	201号竪立柱建物跡	44	29	18.0	348.566	10YR2/3 黒褐色土 粘性やや中あり しまりなし 小礫(1~3cm)含
P 12	II A7h	201号竪立柱建物跡	50	37	27.0	348.395	10YR2/2 黒褐色土 粘性やや中あり しまりなし 礫5cm大含
P 13	II A7h	201号竪立柱建物跡	34	30	21.0	348.610	10YR2/2 黒褐色土 粘性やや中あり しまりあり 小礫含
P 14	II A6h	201号竪立柱建物跡	52	48	36.5	348.770	10YR3/3 暗褐色土 粘性やや中あり しまりなし 礫5cm大含
P 22	II A7i	201号竪立柱建物跡	36	35	39.1	348.444	10YR3/4 暗褐色土 粘性弱 しまり弱 土器小礫多く入
P 43	II A6h	201号竪立柱建物跡	52	49	56.9	348.726	
P 46	II A6h	201号竪立柱建物跡	45	41	22.7	348.980	10YR3/2 黒褐色土 粘性弱 しまり弱 礫が少ない
P 1	II A8a	301号竪立柱建物跡	62(40)	60(37)	103.0	351.000	10YR3/2 黒褐色土 シルト 10YR3/4 暗褐色土との混合土 粘性弱 しまり弱 小礫(5~10cm)多く入
P 2	I A7j	301号竪立柱建物跡	54	52	75.0	351.760	10YR3/4 暗褐色土 粘性弱 しまり弱 礫大一人頭大の礫含
P 26	I A7h	301号竪立柱建物跡	46	40	64.0	351.730	10YR3/4 暗褐色土 粘性中 しまり中 黄褐色土粒1%含 小礫~礫人多い
P 27	II A8a	301号竪立柱建物跡	44	35	66.0	351.640	10YR3/3 暗褐色土 粘性中 しまり弱 礫物很多い
P 47	I A8j	301号竪立柱建物跡	51	41	70.0	351.580	10YR3/4 暗褐色土 粘性やや中あり しまり弱 小礫 上面多い
P 5	I A8j	301号竪立柱建物跡	70	56	77.0	351.670	10YR3/4 暗褐色土 シルト 黄褐色土粒若干含 粘性なし しまり弱 3~5cm大の小礫含
P 51	II A8a	301号竪立柱建物跡	26	25	16.0	351.940	10YR4/4 褐色土 粘性やや中あり しまりなし
P 52	II A8a	301号竪立柱建物跡	52	43	65.0	351.440	10YR3/4 暗褐色土 粘性やや中あり しまりなし
P 53	II A8a	301号竪立柱建物跡	40	36	23.0	352.090	
P 54	II A7a	301号竪立柱建物跡	34	25	35.0	352.130	
P 6	I A7j	301号竪立柱建物跡	31	30	23.5	352.330	
P 60	I A8j	301号竪立柱建物跡	55	50	56.5	351.800	10YH3/4 暗褐色土 粘性やや中あり しまりなし 礫石あり
P 63	I A9j	301号竪立柱建物跡	22	20	10.0	351.810	10YR4/4 褐色土 粘性なし しまりなし
P 66	I A9j	301号竪立柱建物跡	41	35	52.0	351.480	
P 67	I A9j	301号竪立柱建物跡	29	28	18.0	352.050	
P 58	I A9j	301号竪立柱建物跡	62	58	72.0	351.450	10YR3/4 暗褐色土 粘性なし しまりなし 礫物很多い
P 59	I A9j	301号竪立柱建物跡	33	32	28.0	351.730	
P 31	I C6c	302号竪立柱建物跡	53	40	60.4	346.676	10YH3/2 黒褐色土 シルト 粘性なし しまりやや中あり ふかふかやわらかい 礫含ませず
P 32	I C7c	302号竪立柱建物跡	62	42	61.8	346.620	10YH3/2 黒褐色土 シルト 粘性なし しまりやや中あり ふかふかやわらかい 礫含ませず
P 33	I C6d	302号竪立柱建物跡	45	42	53.2	346.525	10YH3/2 黒褐色土 シルト 粘性なし しまりやや中あり ふかふかやわらかい 礫含ませず
P 34	I C7c	302号竪立柱建物跡	56	50	51.7	346.530	10YH3/2 黒褐色土 シルト 粘性なし しまりやや中あり ふかふかやわらかい 礫含ませず
P 69	I C6c	302号竪立柱建物跡	50	35	39.0	347.053	
P 3	I C8d		46	40	16.3	346.529	10YR3/3 暗褐色土 粘性中 しまり中 炭化物2%含 上面に縄文土器あり
P 4	I C8c		57	54	12.1	346.423	10YR2/2 黒褐色土 粘性やや中あり しまり中 灰土黒褐色土含
P 7	I C8d		37	30	7.1	346.644	
P 8	II A6h		35	34	21.5	348.940	10YR3/2 黒褐色土 粘性やや中あり しまりなし 礫5cm大含
P 9	II A6h		38	38	34.0	348.675	10YR2/3 黒褐色土 粘性やや中あり しまりなし 礫5cm大含
P 11	II A7i		37	37	33.5	348.495	10YH2/3 黒褐色土 粘性やや中あり しまりなし 礫(1~5cm)含 横断面より中々み出し
P 15	II A9g		45	37	66.7	347.025	10YR3/3 暗褐色土 10YR3/4 暗褐色土との混合土 粘性やや中あり しまりなし 上面に礫あり 木屑多い

遺構名	グリッド	建物名	長さ(m)	幅(m)	高さ(m)	面積(m ²)	土質
P 16	II A9g		30	25	16.6	347.569	
P 17	II A8g		50	42	64.3	347.166	
P 18	II A8g		43	40	41.6	347.274	
P 19	II A9g		35	32	10.0	347.500	10YR3/3 暗褐色土 粘性弱 しまり弱 植物体多い
P 20	I A5i		51	46	41.5	353.200	10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり弱 炭化物粒若干含
P 21	I A5i		52	47	48.1	353.345	10YR2/2 暗褐色土 粘性やや弱 しまり弱 土層片あり
P 23	II A6i		39	38	48.0	348.795	10YR3/3 暗褐色土 粘性弱 しまり弱 小礫若干含
P 24	II A5i		55	44	47.0	348.935	10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり弱 礫少ない
P 29	I A7i		30	28	30.4	352.770	10YR3/3 暗褐色土 粘性やや弱 しまり中 黄褐色土粒若干入る 炭化物粒若干入る
P 30	I C9c	(25) (24)	54.6	345.927	207	70十坑と重複 上坑よりも新	
P 36	I C7d		42	32	10.0	346.710	
P 37	I C7d		56	39	43.3	346.279	
P 38	I C7d		55	42	39.3	346.713	
P 39	I C8d		31	29	43.6	346.141	10YR3/4 暗褐色土 粘性ややあり しまり中 炭化物1%含
P 41	II A7i		57	53	44.8	348.405	10YR3/2 黒褐色土-10YR3/3 暗褐色土 粘性弱 しまり弱 黄褐色土粒若干入る
P 42	II A5i		65	65	84.0	348.740	10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり弱 小礫多く入る
P 44	II A6i		28	27	113.0	347.890	10YR3/3 暗褐色土 粘性弱 しまり弱 炭化物粒若干入る 201号機土と重複 土より多い
P 45	II A6i		47	43	111.5	347.860	10YR3/2 暗褐色土 粘性弱 しまり弱 礫が少ない
P 50	I C6d		30	29	17.5	346.914	
P 55	I A8i		38	38	29.0	352.190	
P 57	I C6d		52	45	23.5	346.762	10YR3/3 暗褐色土 粘性ややあり しまりややあり 土層・石層あり
P 61	I A 7i	(46) (30)	(70.5)	352.200	10YR3/4 暗褐色土 粘性ややあり しまりなし 120号土坑と重複 上坑よりも多い		
P 62	I A 7i	(45) (30)	(66.7)	352.018	10YR3/4 暗褐色土 粘性ややあり しまりなし 120号土坑と重複 土より多い		
P 70	I C7d		24	20	31.0	346.695	10YR4/4 褐色土層じり 10YR3/4 暗褐色土 粘性ややあり しまり弱

(2) 遺物

a 土器 (第 23～33・37～39 図、写真図版 18～23・25～27)

平成 19 年度の縄文土器の総出土量は、18,76kg である。そのうち、84%強が遺構内出土土器である。時期は縄文時代後期前～中葉、晩期中葉～後葉に属する土器がほとんどである。大まかに時期により I 群～V 群に分類した。最も出土の多かった III 群と IV 群については、文様などから更に以下のように細分した。

I 群 南側調査区から同地点で出土した 289～292 の小破片 4 点は同一個体と見られる。いずれも織維を含んでおり縄文時代前期と思われる土器である。調査区から唯一の出土である。

II 群 縄文時代中期末と思われる土器である。坪瀨 II 遺跡はもともと縄文時代中期の土器が出土する遺跡として知られていたが、本調査区からの出土量は数点のみで、105 号土坑から出土した 73・76 だけである。なお、これらの土器は同一個体の可能性がある。

III 群 縄文時代後期に属する土器である。十腰内 I 式 (最新)～新山権現社 1 式相当、加曾利 B 1 式に相当するものが多く見られる。

1 類は、十腰内 I の範疇に入る土器である。

1 a 類 磨消縄文が施され、縦位に展開される曲線が描かれるものがある (44・45)。

1 b 類 1 a 類に後続するもので、磨消縄文や入組文が施される土器である (142・143)。本調査区からはあまり出土していない。

1 c 類 磨消縄文が横位に展開し、口縁部に沿った平行沈線が描かれる (132・285)。波状口縁のもの (128～131) が多い。平行沈線が多条になるものも含まれる (273・274)。

- 1 d 類 平行沈線の間隔が短くなり、沈線の間には縄文が施されないもの (48・52)。
- 2 類は、後期中葉にあたるものである。
- 2 a 類 波状口縁で平行沈線が更に発展して、多条の平行沈線に交互に縦位の弧線を入れ区画しているもの (3) がある。また朝顔状に大きく外反するもの、頂部突端に刻目が施されるものなどがある (49・96)。新山権現社 1 式にあたるものと思われる。
- 2 b 類 弧状の条線や刺突が施されるものが入る。(294・295)
- 2 c 類 2 a 類の朝顔状に大きく外反した口縁部がやや内湾するようになったもので、2 a 類に後続すると思われる土器である。293 は縁端部のみ施文されている。
- 3 類は、地紋のみのものである。ただし小破片で他の文様が不明のものも含む。
- 4 類は、底部資料である。
- IV 群 縄文時代晩期に属する土器である。北側調査区の晩期遺構内からの出土が多い。
- 1 類 大割 C 2 式に相当するものである。浅鉢は、口縁部が「逆くの字」に屈曲し、屈曲部に刺突が施される。114 号土坑より出土した 117～120 は同一個体でこの類に属する。
- 2 類 大割 A 式に相当するものである。鉢類では工字文が描かれるもの (26) や平行沈線が施され突起を持つもの (77)、小波状口縁になるもの (80) がある。頸部が無文帯となっているものが多い。31 は高台のみであるが、同類に含まれると思われる。
- 3 類 大割 A' 式に相当するものである。113 号土坑より出土した 114 がこの類に属する。
- 4 類 深鉢で中葉から後葉にかけてのものと思われる土器で粗製なものが多い。
- 4 a 類 口唇部に刻目が施され、頸部に平行沈線が描かれる土器である (279)。
- 4 b 類 頸部が無文で、肩部から地文のみのもの (14・15・19 など) や口唇部に刻目を持つもの (111・123・284)、小波状口縁になるもの (20・22) が含まれる。
- 4 c 類 胴部～胴下部の破片資料で地文のみ施されている土器である。破片が多いため、見つからない部位に他の文様が施されている可能性もある。25・29・33 は 15 と同一個体の可能性が高い。
- 5 類 無文の土器である。106 号土坑から出土した 83 は、本調査区で唯一略完形に接合できた土器である。口縁部は一部欠損しているが、8 単位と思われる波状口縁で胴部はヘラ状のもので調整されて縄文はない。胴部にスガが多量に付着しており、また、そのススをこすり取ったような痕も見られる。No110 は壺である。薄手で丁寧に作られたようだが、摩擦がひどい。
- 6 類 晩期と思われる底部資料である。
- V 群 縄文時代後～晩期の土器と思われるが、これまでのいずれの分類にも属さない一群である。
- 1 類は胴部破片資料、2 類は底部破片資料である。

前述したように、出土した土器はほとんどが縄文土器であるが、P 57 の埋土からの出土で縄文土器と胎土を異にする土器 275 がある。P 57 は、南側調査区の 302 号掘立柱建物跡寄りにて検出したものであるが、この柱穴状ピットの他にもいくつか検出されているがいずれも時期ははっきりしない。やや内湾する口縁で蓋付きの壺を想像させる明確な段を持っている。この類の土器はこの 1 点のみで詳細は不明である。

	遺構内出土		遺構外出土		計		種別	点数	率
北側調査区	67点	26.2%	112点	43.8%	179点	69.9%	剥片石器	188点	73.4%
南側調査区	41点	16.0%	36点	14.1%	77点	30.1%	礫石器	58点	22.7%
							石製品	10点	3.9%

石器の総出土数は256点で、内訳は剥片石器（フレイク等含む）が73.4%、礫石器が22.7%、石製品が3.9%である。また、遺構内出土も含めた北側調査区と南側調査区の出土割合は、前者が69.9%後者が30.1%となっている。剥片石器のほとんどが頁岩で、瑪瑙は全体の5%、黒曜石は数点のみである。このうち掲載したものは遺構内出土の石器類および遺構外出土の加工された石器・石製品の70点（27.3%）である。掲載している石器の産地は、立地の地域性がそのまま反映される奥羽山脈産が95.7%と大半を占める。

<石鏃> 頁岩（赤色頁岩含む）3点、瑪瑙3点、黒曜石1点の7点が出土した。有茎の石鏃では、凸基のものと平基のものがある。無茎では全て円基である。有茎の石鏃は、先端部に比べて茎の部分が長いものがある（300・301?・302）。

<石匙> 6点出土している。いずれも縦型の石匙であるが、①細身長で先端部が直線的なもの（306・304）、②長身だがやや幅広く先端部が尖っているもの（305）、③幅広く先端部が丸みを帯びているもの（35・86・306）の3種類に分けられる。

<石鏟> 1点のみで菱形のものである（329）。

<石鐮> 2点出土している。328は、刃部の裏面が使用によるものか光沢がある。

<削・掻器・不定形石器> 整形して縁辺に刃をつけたものを、削・掻器、整形せずに刃をつけたものを不定形石器とした。また不定形石器の中で細かい剥離を持って刃部として加工しているものを2次加工とし、刃部としての加工とは認めがたい剥離のあるものを微細剥離として表に掲載している。303の石器は、自然に摩耗したものか意図的なものか不明だが、一つ一つの剥離後線が摩耗(?)している部分と摩耗していない部分とが混在している。使用当時に再加工された可能性もある。312のように、これらの石器の中には不掲載の石器も含めて、掌人の大きな剥片も含まれている。ほとんどが奥羽山脈系の頁岩であり、もともとは同一体の石器であることが容易にわかるものがあることから、周辺に頁岩の採取地があったのかもしれない。

<楔形石器> 1点のみの出土である。両極に細かい剥離が見られる。

<石斧> 打製石斧が1点出土している。凹石などの礫石器や剥片石器に比べると極めて少ない。

<磨石・凹石・敲石> 磨石だけのもの、凹みと磨部があるもの、磨部と敲部があるもの、全て見られるものの4種がある。凹石は、円形または楕円形で扁平なものは両面に凹み、厚みのある礫の凹みは2面以上に見られる。

<石皿・台石> 石皿と判断できるものは2点出土し、台石としたものの中には、被熱を受けた痕が見られるものがある。

<石製品> 10点掲載した。頁岩製で長さが3～4cm前後、断面が楕円形の円柱状石製品が目立った。いずれも欠損しており内容は不明だが、自然に割れたものとは判断しにくい。縄文時代晩期の代表的遺跡である北上市の九年橋遺跡でも、4次調査・5次調査で類似した円柱状の石製品が報告されている。41は、石剣を作ろうとしたのか、頭部と先端部に整形痕が認められるが未製品である。

<その他> 108は、加工痕が見られず自然礫のようではあるが、被熱しているものである。

c 銭貨 (第33～37、写真図版23～26・29・30)

銭貨は全部で96点出土し、うち92点は墓壙内からの出土である。内訳は、寛永3年(1626年)から寛文8年(1668年)の文銭鑄造が始まる以前の寛永通寶、いわゆる「古寛永」が32点、文銭以降の「新寛永」が43点、寛永通寶ではあるが時期が不明なもの2点、北宋銭などの渡来銭が8点、銅銭ではあるが腐食等により種類不明なもの2点、鉄銭3点、材質不明の模造銭(?)が2点である。

208号土坑出土の179～184は、一緒に穿孔された木片(345)が出土している。209号土坑出土の187・210号土坑出土の一括6枚192～198・212号土坑出土の一括9枚210～218・215号土坑出土の一括5枚233～237などは、複数の銭を束ねたと思われる振られた藁片や、銭を包んでいたと思われる布片が銭に付着した状態で見つっている。

渡来銭は、南側調査区のI層から出土した永楽通寶以外は全て北宋銭である。211号土坑から8枚出土した銭貨のうち、6枚が渡来銭の「至道元寶」であったことは興味深い。

202号土坑と220号土坑からは、凝灰岩製の模造銭と思われるものが1枚ずつ出土した(156・262)。いずれも表面を平らにし、周辺を細かく磨り円形に整形している。一関市川崎町河崎の橋樑定地からは、凝灰岩製の模造銭が1点出土しているが、これは中央に四角の穿孔があるもので、形状から模造銭と判断されたものである。祭祀行為に使用された可能性が高く、時期は中世から近世初頭としている。本遺跡から出土した遺物は、河崎の橋樑定地出土のものとは異なるが、出土状況や形状から模造銭と判断した。

先述したが、208号土坑や211号土坑からは古銭とともに四角に穿孔された木片が出土している(345・346)。綱繩の固定のためのものとも考えられるが、217号土坑では布片が付着し、大きさや重さをほぼ同じくする円形の木片2点も見つっている(347・348)。

平成4年に調査された北九州市の宋玄寺跡では、江戸時代後期以降と推定される肥前産の甕に埋葬された熟年男性の墓が調査されている。この463号墓からは、2振の木製儀刀や漆器椀、蓋付椀、袴の腰抜とともに円板の中央に孔を持つ木製の円板6枚が出土している。うち4枚は孔を四角に整えられ、6枚揃っていることから、調査担当者は一文銭を模した六道銭と判断している。また、金沢市の久昌寺遺跡では、19世紀代と思われる近世墓から5枚の木製模造銭が出土している。いずれも表面に「寛永通寶」、裏面に「文」の墨書があり、文銭を模したもののようである。今回出土した木片は、これらの木製模造銭には及ばない粗悪なもので模造銭とは言えないものだが、今後の参考資料として記載した。

d 煙管 (第34～37図、写真図版24～26・29)

煙管は9点出土した。うち近世墓壙内から出土したものは8点である。遺構外から出土した325もその出土状況から、墓壙と推測される218号土坑に伴う可能性がある。

いずれも煙管の残存状態は極めて悪く、取り上げの際に壊れてしまうものも多くあったが、最も残りの良い煙管は、208号土坑から出土した177である。これは古泉氏の分類(1987「江戸の考古学」)に拠れば、河骨形で補強帯がなく吸口が一枚ものということから、Ⅲ段階もしくはⅣ段階(17世紀後半～18世紀前半)に属するようである。

209号土坑出土の185・186は、煙の漏れを防ぐためかあるいは副葬品とした時に煙管を保護したためか、和紙のようなものが巻かれた痕が見られる。北上市岩脇遺跡や一関市川崎町河崎の橋樑定地など、墓壙から多くの煙管が出土した遺跡にも、本体に布片を巻いてあるものが出土しているようである。

e 鉄製品 (第34・36～38図、写真図版23～26)

鉄製品には、和鉄2点、毛抜き2点、刃物類4点、鉄釘などがあり、いずれも近世墓塚もしくは墓塚の周辺から出土した。和鉄や毛抜きが出土した207号土坑と213号土坑からは刃物は出土しておらず、このことは埋葬された人物(性別)の違いを示しているであろう。

江戸中期に書かれた『和漢三才図説』では、「鑷」と書かれ、和名で「波奈介沼岐」という名のとおり、もともとは白髪と鼻毛を抜くものだったようだ。「近世では顔面に肩以外に毛のあるものを好まない(訳注)らしく、余分な毛を抜くことが当たり前の様で生活必需品であった。小型・薄型化している現代物よりも大振りである。

一般に小型の刃物については、短刀や小刀などと呼び方が様々ある。「短刀」は、一般的に長さ1尺以下の刀の総称で、用途や所持の仕方から様々な呼ばれかたをし、武器類に属するものである。これに対し、「小刀」は、古くは「刀子」と呼ばれた背の反りのない小型の刃物で、いずれにも帰属しない万能工具に分類されるようである。当該遺跡出土の小型刃物の多くは、「小刀」として記載したが、176については、先端がわずかに広がることから「小刀」ではなく、「山刀(ナタ)〈剣鉾〉」として報告した。薪などを割る際に見かける先端が角張ったものを「腰鉾」というのに対し、「山刀」は先端が鋭利なことが特徴のようである。207は柄が残る小刀で、柄の部分は約9cm、刃渡りは11.9cmである。

f 近世陶磁器 (写真図版30)

登録したものは8点で、墓塚出土ものが3点、溝出土が2点、遺構外が4点である。350は型紙摺絵で明治期、それ以外は明治以前と考えられる。大塚相馬産かと思われるもの(255・263)、肥前産陶器らしきもの(260)が出土しているが、いずれも小破片ではっきりしない。

g その他 (写真図版30)

352は、小型のガラス瓶で「みや古染め」と見える。現在でも染色家や愛好家に昔ながらの染料として使用されているようだが、戦前は家庭用染色剤として一般的に利用されたようである。

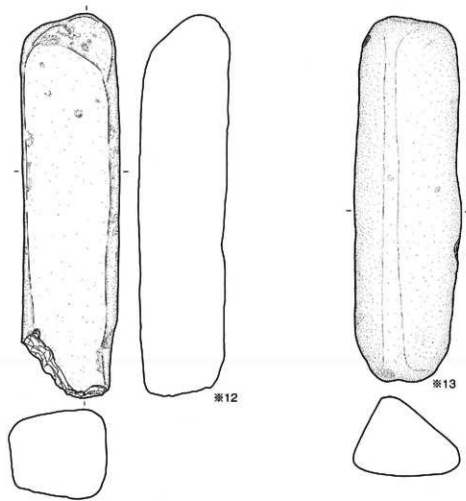
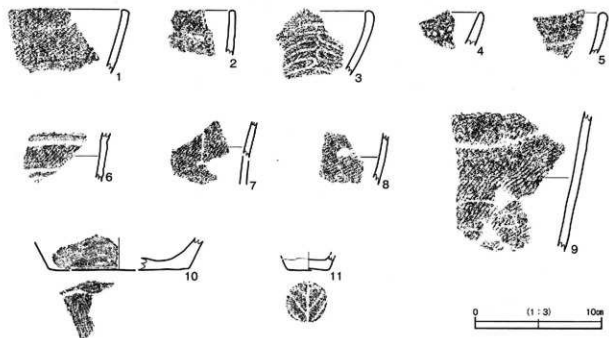
218号土坑から出土した細長い銅製品は、欠損しているため全容は不明だが、形状から推測すると筭もしくは簪ではないかと思われる。筭は「髪をかきあげの用に用いる細長い具。筭に似て根もどが平たく先端は細くふつう銀や象牙で作る」とある。素材は異なるが、後世になるとさまざまなもので作られるようになるようである。前述した『和漢三才図説』では、「櫛枝(こうがい)」という字で書かれ、「櫛枝とは髪を整えるための篦(かんざし)」という説明とともに絵も載っており、出土したものと類似している。

南側調査区外(調査区境)の表採品に、粘板岩製の墓盤(353)と石臼(339)がある。墓盤は8.6×4.3cmの小片ではあるが、表面には2cm前後の区画が格子状に刻まれている。石臼は、粉挽き臼の下臼の部分で上面に目が刻まれており、下面にも摩耗した目がいくつか見られる。我が国では臼の日は6分画と8分画が主流のようだが、残存状況から溝の日は不整の6分画と思われる。

h 墓石 (第44～46図、写真図版16・17)

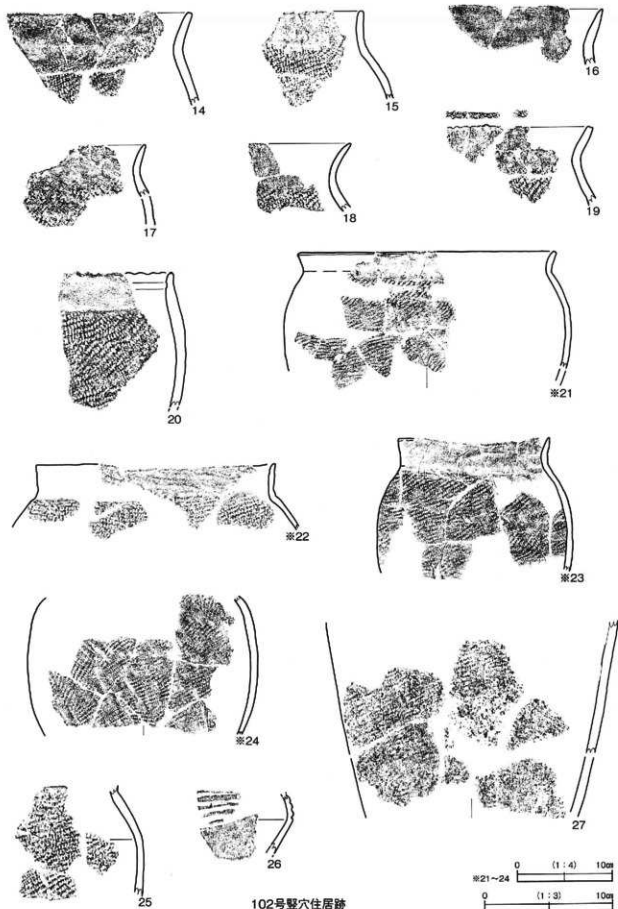
南側調査区近世墓塚群の近くに廃棄されていたもので、全部で13基見つかっている。この墓塚群は、およそ40年前に改葬されたことを元の地権者に聞いているが、その際に捨てられたものであろうか。自然礫を利用し、銘が刻まれているものが多いが、この他に墓石と思われる巨礫もあった。本書では、

現場で採取した拓影図と墓石の写真に掲載した。一番古いもの（墓石-1）で「享保4（1719）年」で、新しいものは「明治34（1901）年」（墓石-11）である。上部に「〇」の頭書があり、下部に蓮弁が刻まれることが多い。表面に女性像が刻まれている2基は他の墓石に比べ小振りの礎を使う。一つは横向きに立ち背中に赤子を背負う。足下には蓮弁が描かれている。もう一つは、正面を向きで同様に蓮が描かれている。文字などは確認できなかったが、水子地藏などと同じような供養碑なのだろう。



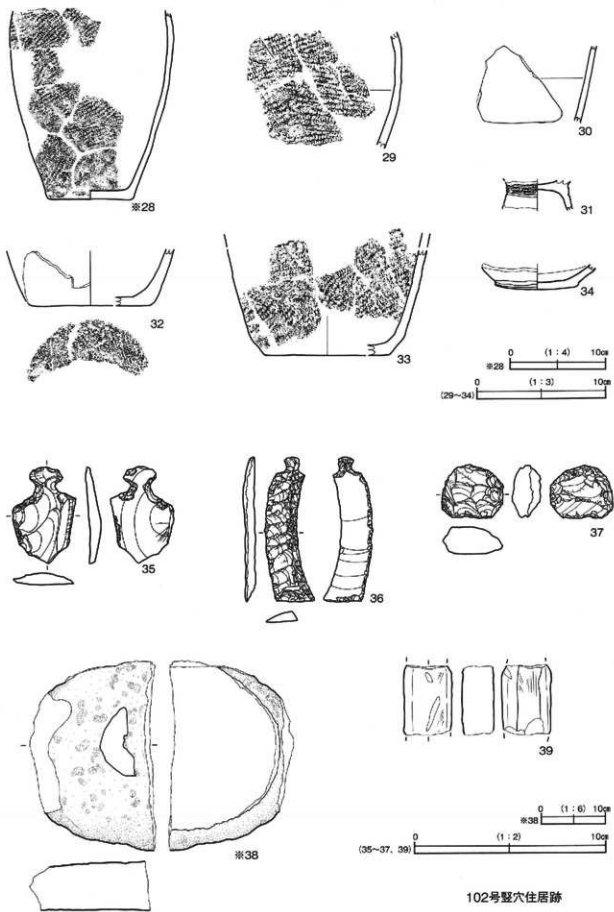
101号竪穴住居跡

第23図 遺構内出土遺物(1)



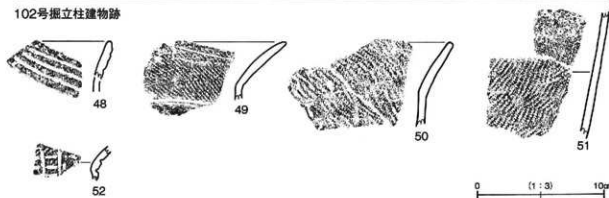
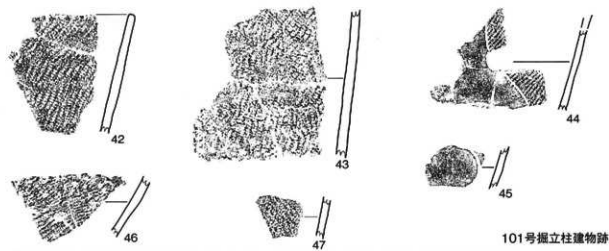
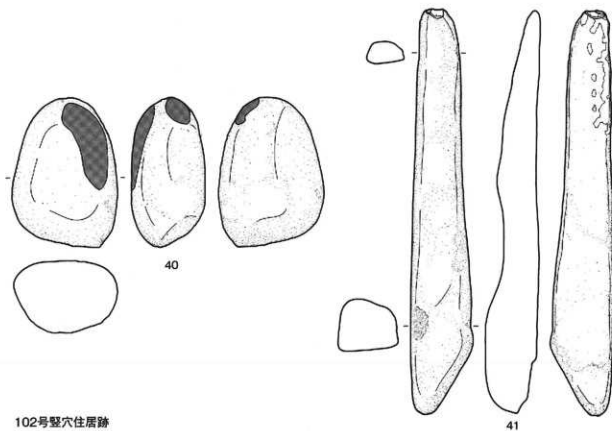
102号竪穴住居跡

第24図 遺構内出土遺物(2)



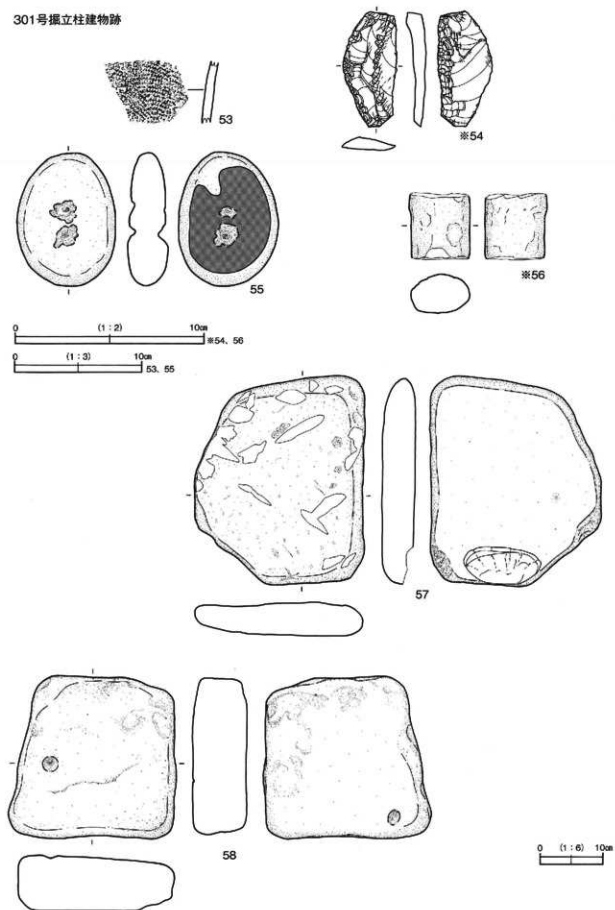
第25図 遺構内出土遺物 (3)

102号竪穴住居跡

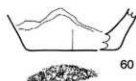


第26図 遺構内出土遺物 (4)

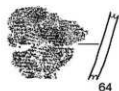
301号掘立柱建物跡



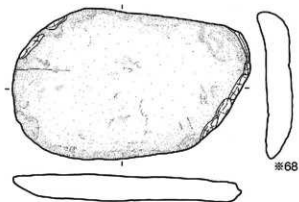
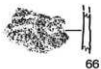
第27図 遺構内出土物(5)



101号土坑



102号土坑

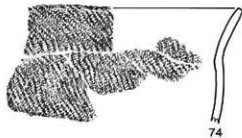


0 (1:6) 10cm
※68

103号土坑



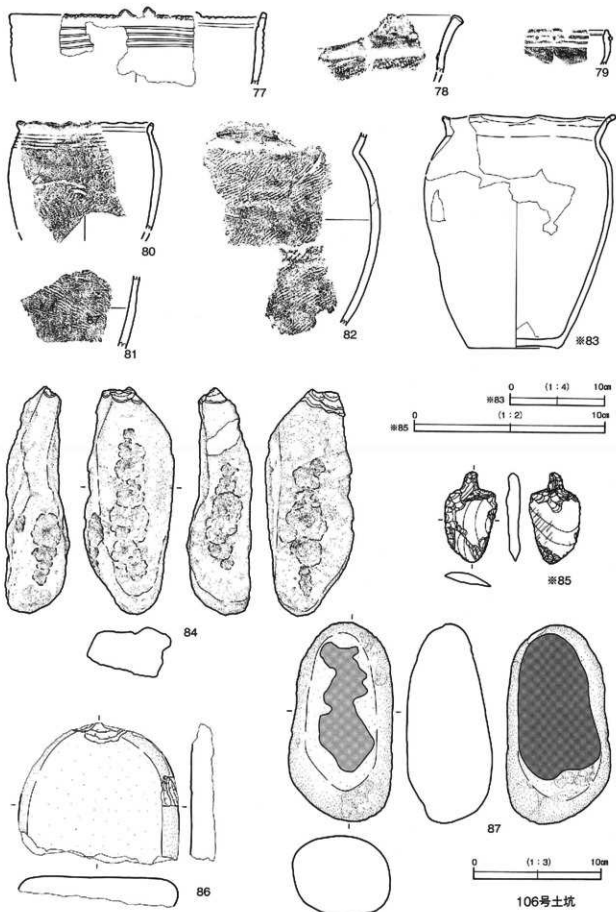
104号土坑



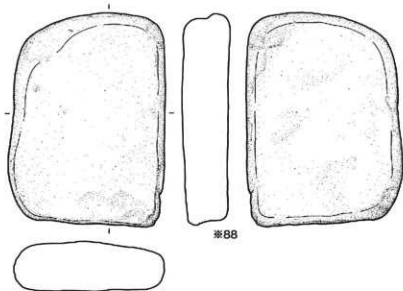
105号土坑

0 (1:3) 10cm

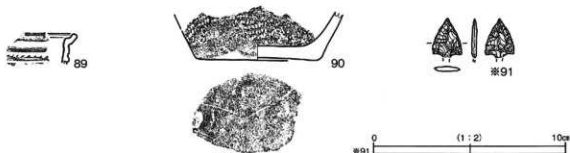
第28図 遺構内出土遺物(6)



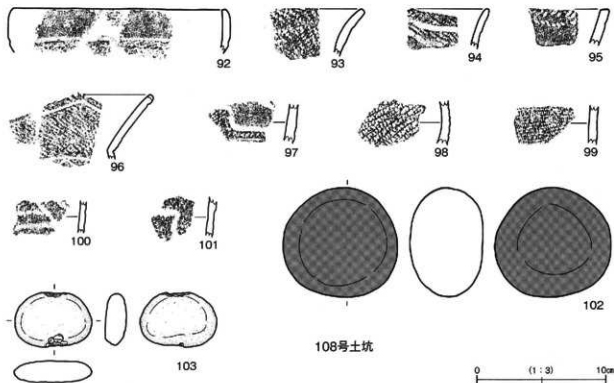
第29図 遺構内出土遺物 (7)



106号土坑

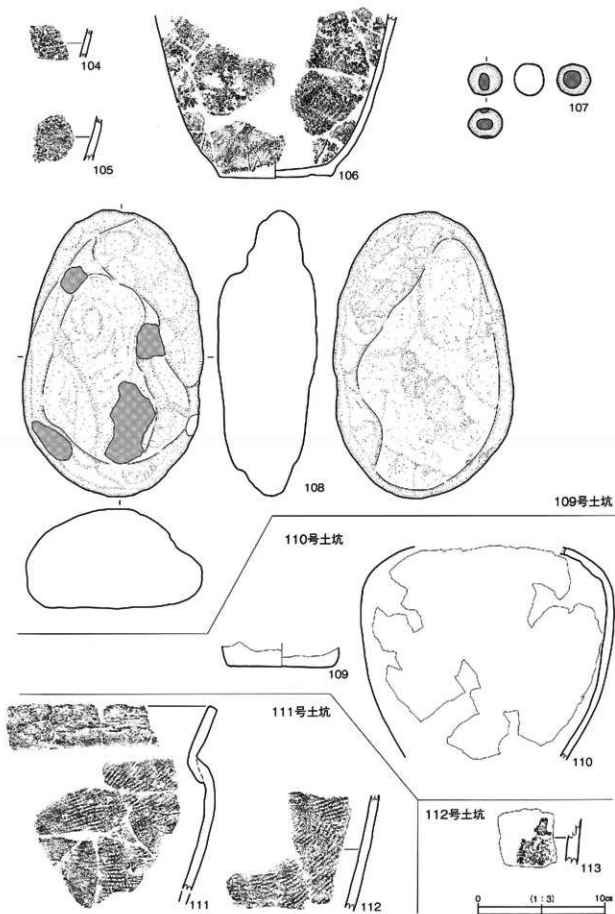


107号土坑



108号土坑

第30図 遺構内出土遺物(8)



第31図 遺構内出土遺物 (9)



114



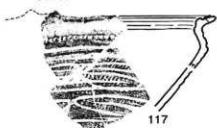
115



116

113号土坑

114号土坑



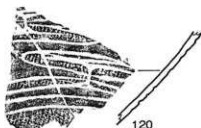
117



118



119



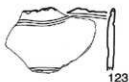
120



121



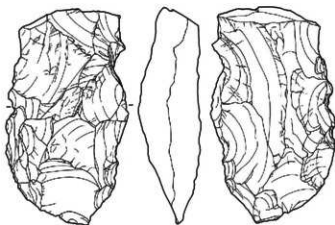
122



123



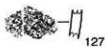
124



※125

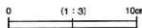


126

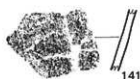
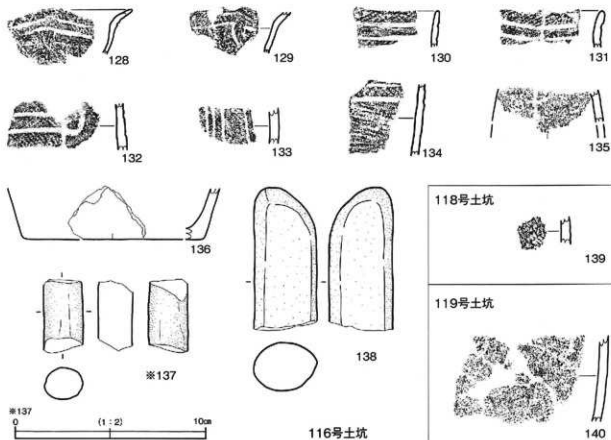


127

115号土坑



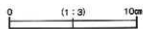
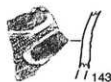
第32図 遺構内出土遺物 (10)



120号土坑



121号土坑



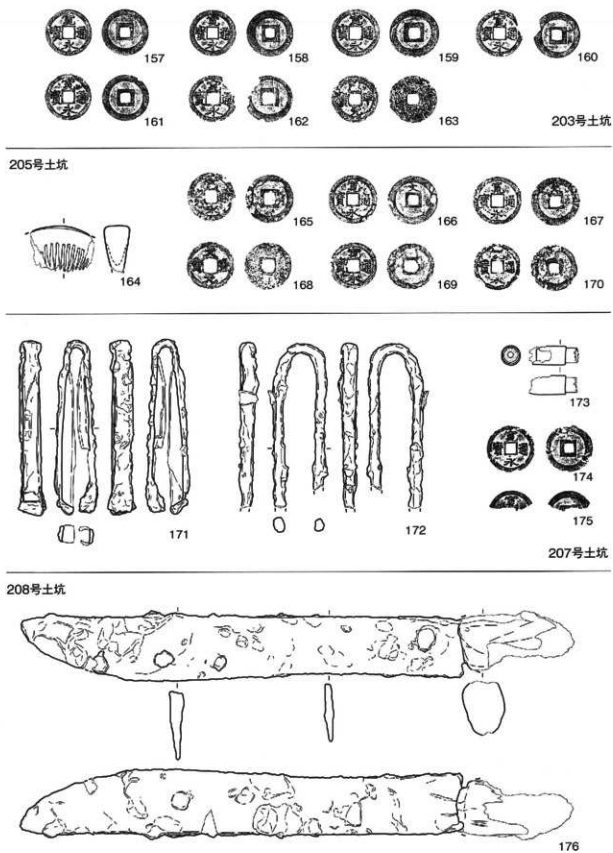
古銭 144~156

201号土坑



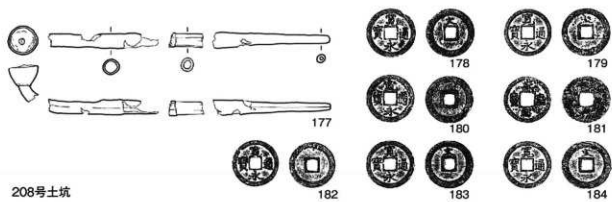
202号土坑

第33圖 遺構内出土遺物 (11)

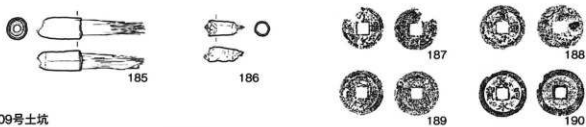


0 (1:2) 10cm

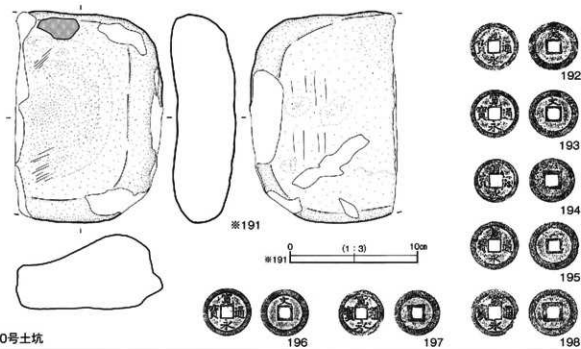
第34図 遺構内出土遺物 (12)



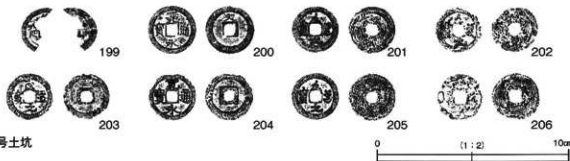
208号土坑



209号土坑

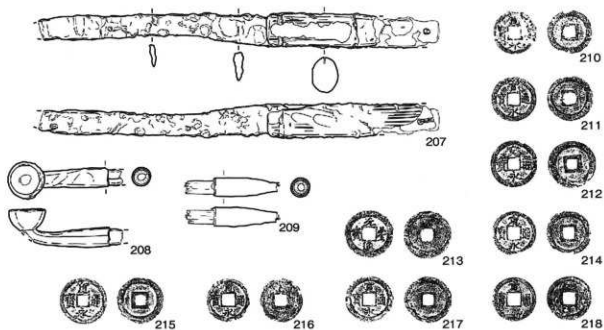


210号土坑

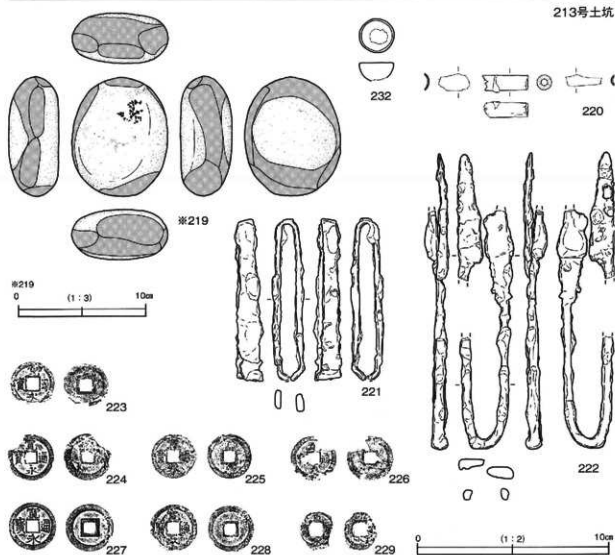


211号土坑

第35図 遺構内出土遺物 (13)

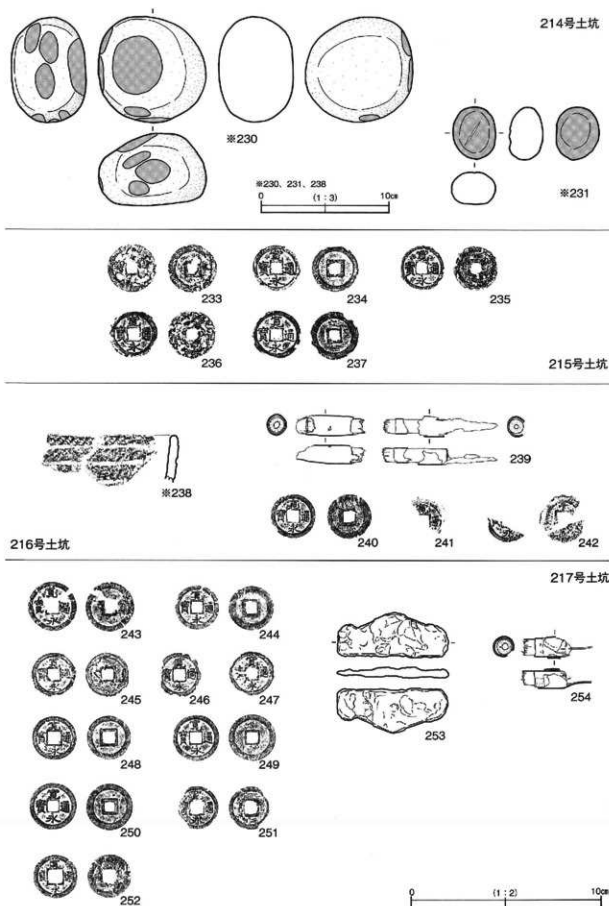


212号土坑



213号土坑

第36図 遺構内出土遺物 (14)

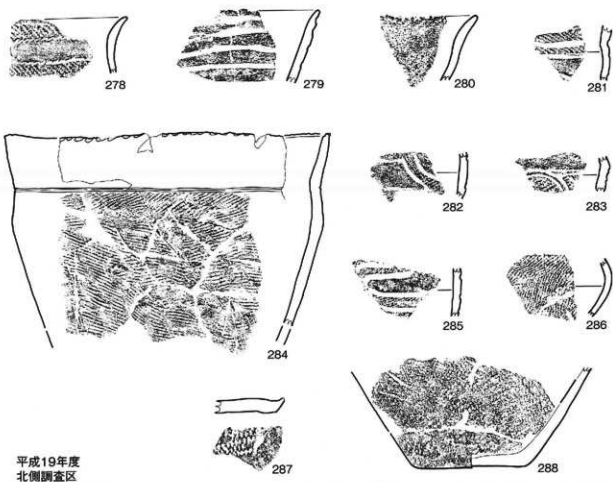


第37図 遺構内出土遺物 (15)

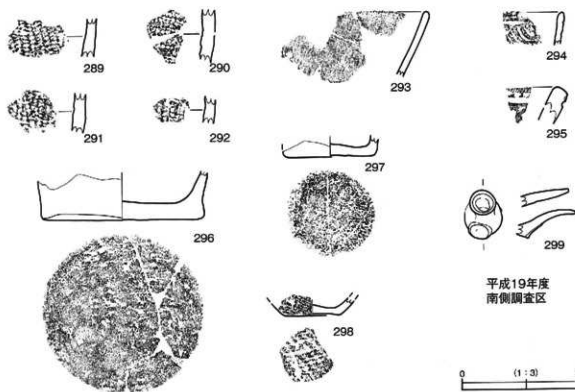


第38図 遺構内出土遺物 (16)

2 平成 19 年度調査



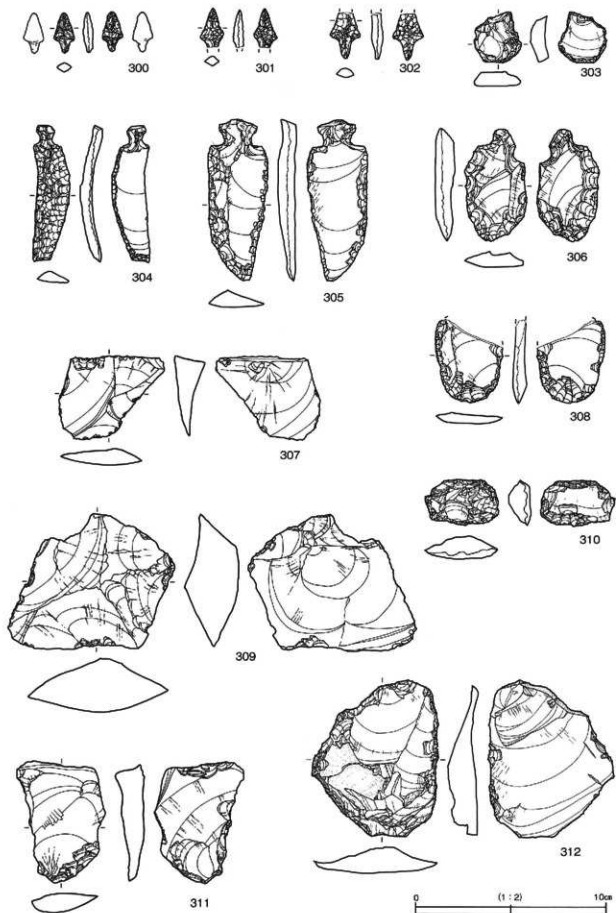
平成19年度
北側調査区



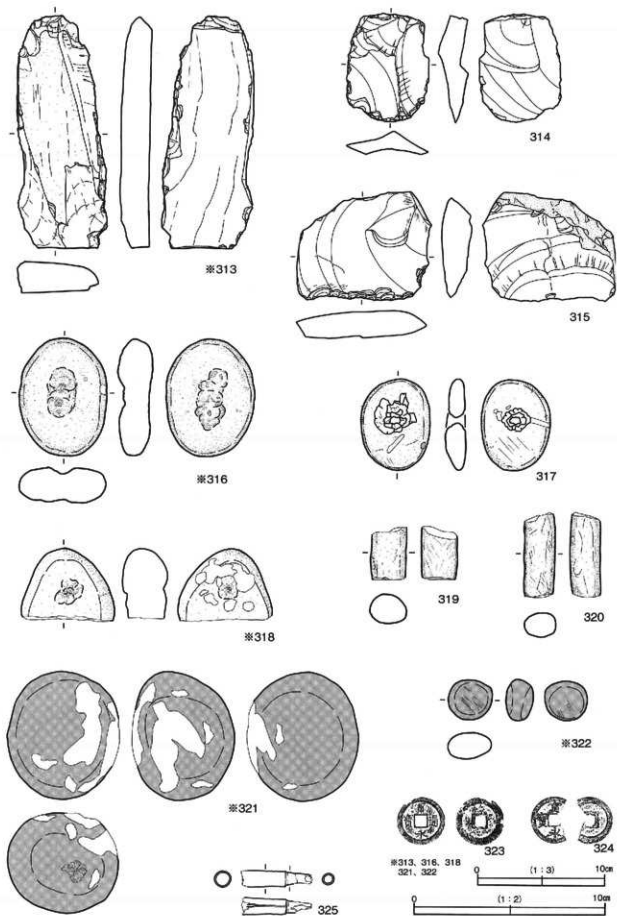
平成19年度
南側調査区

0 (1:3) 10cm

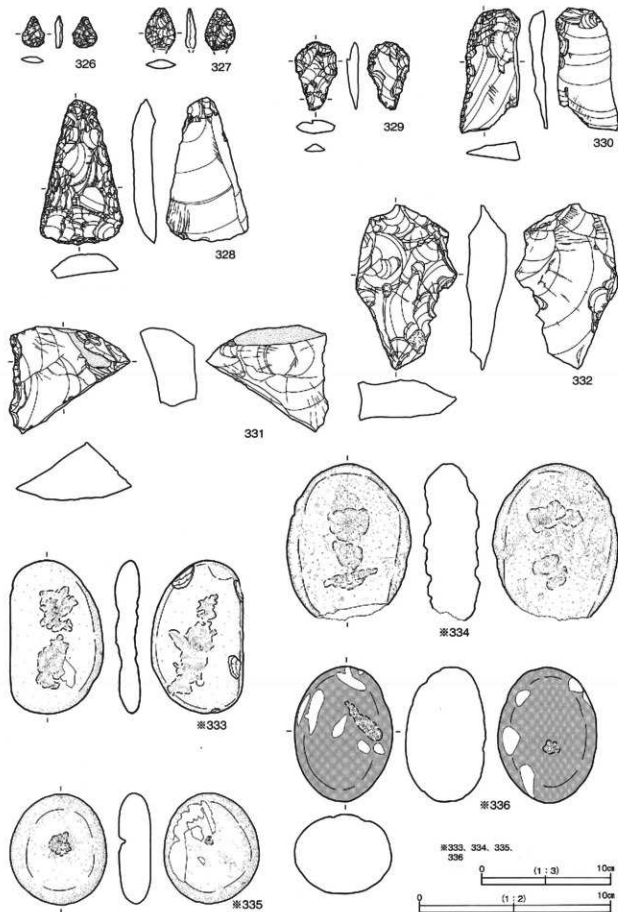
第39回 遺構外出土遺物 (1)



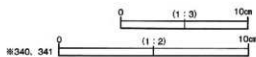
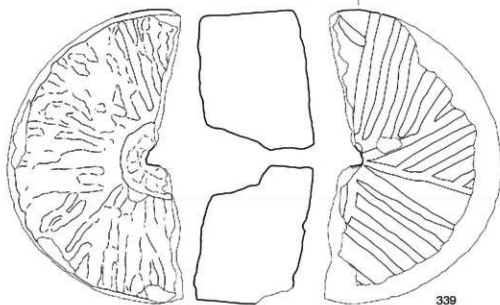
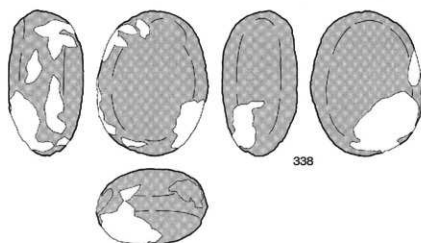
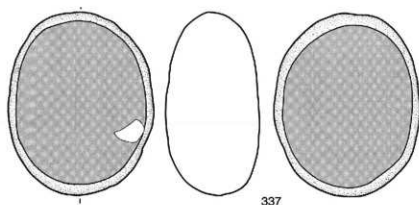
第40図 遺構外出土遺物(2)



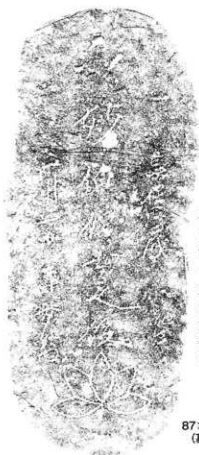
第41図 遺構外出土遺物 (3)



第42図 遺構外出土遺物(4)



第43図 瀬橋外出土遺物 (5)



(一七一九年)
 享保四歲
 □ 妙伯信女之位
 二月二日 平安左衛門
 施国?

87×31×18cm
 (墓石-1)



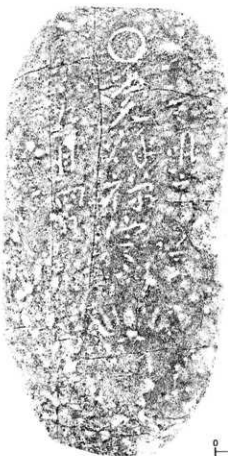
元文元年(一七三六年)
 ○ 秋葉禪定門
 十月廿六日

66×42×20cm
 (墓石-2)



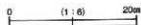
元文三年(一七三八年)
 ○ 寒翁禪男
 十二月廿五日

75×29×6cm
 (墓石-3)



天明六圍(一七八六年)
 ○ 覺煠禪定門
 (秋)
 九月四日

88×38×10cm
 (墓石-4)



第44回 墓石(1)



○石岩妙骨禪定尼
寬政七年[?]
(一七九五年)
十月十五日

68×40×12cm
(墓石-5)



○好顔妙姿禪女
文政六年祀
(一八二三年)
六月初四日

66×38×11cm
(墓石-6)



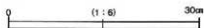
有縁無縁三界万灵
天保十五年
(一八四四年)
九月廿九日

40×25×8cm
(墓石-7)



○安心妙雲禪女
嘉永五[?]子三月廿七日
(一八五二年)
壽前祖□禪男
天保九戌三月二日
(一八三八年)

66×36×10cm
(墓石-8)



第45圖 墓石(2)



57×37×15 cm
(墓石-9)

○久安良道禪男
九月初三日
文久二戊（一八六二年）



78×41×13 cm
(墓石-10)

○單相妙傳信女
四月廿日
明治廿四年（一八九一年）



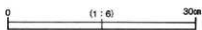
52×38×16 cm
(墓石-11)

○縁室妙念善女
八月三日
明治卅四年
(一九〇一年)



32×23×4 cm
(墓石-12)

23×18×3 cm
(墓石-13)



第46図 墓石(3)

第3表 平成19年度出土遺物調査表(縄文土器)

探検番号	発掘地点	層位	器種	部位	外面(文様・装飾、施文・取柄)	内面	付属物	分類	その他
1	1301号墓穴住居	埋土層	深鉢	山形部	白段多条(L.R.) 焼成痕	ナナ(丁寧)		Ⅲ3	No.9と同一-個体?
2	1311号墓穴住居	埋土層	深鉢	山形部	黒赤土 頭部・縁部に赤赤土(L.R.)	ナナ	スス	Ⅲ3	ナナ
3	132101号墓穴住居	埋土層	深鉢	山形部	淡緑口縁 平行沈線 縦線	ナナ		Ⅲ2 a	深鉢 No.5と同一-個体?
4	132102号墓穴住居	埋土層	深鉢	山形部	斜文文			Ⅲ2 a	深鉢
5	133101号墓穴住居	埋土層	深鉢	山形部	淡緑口縁 平行沈線			Ⅲ2 a	深鉢 No.5と同一-個体?
6	133102号墓穴住居	埋土層	深鉢	山形部	淡緑口縁 平行沈線			Ⅲ2 a	深鉢
7	133103号墓穴住居 ベルト	埋土層	深鉢?	取柄	淡緑 入組文? 褐色赤や白	ナナ	集?	Ⅲ3	No.2と同一-個体?
8	140101号墓穴住居	埋土層	深鉢	取柄	白段多条(L.R.) 物縁のみ少し 褐色赤や白	ナナ		Ⅲ3	No.1と同一-個体
9	141101号墓穴住居 ベルト	埋土層	深鉢	取柄	白段多条(L.R.) 焼成痕	ナナ	焼成痕	Ⅲ4	深鉢
10	137101号墓穴住居	埋土層	深鉢	取柄	ナナ	ナナ		Ⅲ4	小輪多
11	131101号墓穴住居 西側	埋土層	深鉢	取柄	水書気			Ⅲ4 b	No.7と同一-個体?
14	11102号墓穴住居 Q1-一括	埋土上段	深鉢	山形部	山形部縁文取柄 山形部取柄 L.R. 縦線	ナナ	スス	Ⅲ4 b	No.15・25・29・33と同一-個体?
15	3102号墓穴住居 Q1-一括	埋土上段	深鉢	山形部	山形部縁文取柄 山形部取柄 L.R. 縦線	ナナ	スス	Ⅲ4 b	深鉢
16	142102号墓穴住居 Q1-一括	埋土中	深鉢	山形部	山形部縁文取柄 ココナテ	ナナ	スス(分置)	Ⅲ4 b	深鉢
17	148102号墓穴住居 東側ベルト	埋土上	深鉢	山形部	口縁部外反(ココナテ)	ナナ		Ⅲ4 b	深鉢
18	144102号墓穴住居 Q1	埋土上	深鉢	山形部	くの字に外反 口縁部取柄 山形部取柄 L.R.	ナナ		Ⅲ4 b	深鉢
19	142102号墓穴住居 Q1-一括	埋土上段	深鉢	山形部	山形部縁文取柄 山形部取柄 L.R. 縦線	ナナ		Ⅲ4 b	小輪多
20	11102号墓穴住居 西側	埋土上段	深鉢	山形部	山形部縁文取柄 山形部取柄 L.R. 縦線	ナナ		Ⅲ4 b	小輪多
21	15102号墓穴住居 中層	埋土中	深鉢	山形部	山形部縁文取柄(押付) 頭部ナナ L.R. 口縁部内反線 縦線	ナナ		Ⅲ4 b	小輪多
22	2102号墓穴住居 Q4	埋土上段	深鉢	山形部	山形部縁文取柄(押付) 頭部ナナ L.R. 口縁部内反線 縦線	ナナ		Ⅲ4 b	小輪多 No.2と同一-個体?
23	8102号墓穴住居 Q3 Q4	埋土上-中位	深鉢	山形部	各部位も少しは8号墓穴の小段山形部 ココナテ取柄 L.R. 縦線	ココナテ	スス	Ⅲ4 b	小輪多
24	9102号墓穴住居 Q1-一括	埋土上段	深鉢	山形部	山形部縁文取柄 L.R. 縦線	ココナテ	スス	Ⅲ4 b	小輪多
25	4102号墓穴住居 Q1-一括	埋土上段	深鉢	山形部	山形部縁文取柄 L.R. 縦線	ナナ	スス	Ⅲ4 c	小輪多
26	149102号墓穴住居 P.5	埋土中	深鉢	取柄	山形部縁文取柄 L.R. 縦線	ナナ		Ⅲ2	深鉢
27	147102号墓穴住居 西側	埋土中	深鉢	取柄	山形部縁文取柄 L.R. 縦線	ナナ		Ⅲ2	深鉢
28	102号墓穴住居 Q3	埋土上段	深鉢	取柄	山形部縁文取柄 L.R. 縦線	ナナ		Ⅲ4 c	深鉢
29	5102号墓穴住居 Q1-一括	埋土上段	深鉢	取柄	山形部縁文取柄 L.R. 縦線	ナナ		Ⅲ4 c	深鉢
30	1102号墓穴住居 Q3	埋土中	深鉢	取柄	山形部縁文取柄 L.R. 縦線	ナナ		Ⅲ4 c	No.15・25・29・33と同一-個体?
31	19102号墓穴住居 Q3	埋土上段	深鉢	取柄	山形部縁文取柄 L.R. 縦線	ナナ		Ⅲ4 c	深鉢
32	14102号墓穴住居 Q3	埋土上段	深鉢	取柄	山形部縁文取柄 L.R. 縦線	ナナ		Ⅲ4 c	深鉢
33	102号墓穴住居 Q1-一括	埋土上段	深鉢	取柄	山形部縁文取柄 L.R. 縦線	ナナ		Ⅲ4 c	小輪多
34	18102号墓穴住居 Q3	埋土上段	深鉢	取柄	山形部縁文取柄 L.R. 縦線	ナナ		Ⅲ4 c	小輪多 No.2と同一-個体?
42	56101号墓穴住居 (P.48)	Ⅰ層	深鉢	山形部	山形部縁文取柄 L.R. 縦線	ナナ (丁寧)		Ⅲ6	No.3と同一-個体
43	97101号墓穴住居 (P.48)	Ⅰ層	深鉢	山形部	山形部縁文取柄 L.R. 縦線	ナナ (丁寧)		Ⅲ3	No.2と同一-個体 深鉢
44	95101号墓穴住居 (P.48)	Ⅰ層	深鉢	山形部	山形部縁文取柄 L.R. 縦線	ナナ (丁寧)		Ⅲ1 a	No.5と同一-個体
45	96101号墓穴住居 (P.48)	Ⅰ層	深鉢	山形部	山形部縁文取柄 L.R. 縦線	ナナ		Ⅲ1 a	No.4と同一-個体
46	102101号墓穴住居 (P.56)	Ⅰ層	深鉢?	取柄	山形部縁文取柄 L.R. 縦線	ナナ		Ⅴ1	

掲載番号	書名	巻上	部位	形態	配位	外題(文種・製法・版文・書体)	内題	特徴物	分類	その他
47	59101号施文狂草御膳(P.48)	巻上	残巻	刷部	裏上?	染紙	ナデ		V1	
48	102号施文狂草御膳(P.48)	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
49	102号施文狂草御膳(P.25)	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
50	102号施文狂草御膳(P.62)	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
51	102号施文狂草御膳(P.63)	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
52	102号施文狂草御膳(P.65)	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
53	301号施文狂草御膳(備)	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
59	31号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
60	32号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
61	102号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
62	34号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
63	102号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
64	102号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
65	172号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
66	171号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
67	103号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
69	46号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
70	47号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
71	48号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
72	49号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
73	103号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
74	78号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
75	79号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
76	106号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
77	205号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
78	106号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
79	26号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
80	23号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
81	106号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
82	106号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
83	106号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
89	28107号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
92	151号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
93	154号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
94	106号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
95	108号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙
96	153号施文狂草御膳	巻上	残巻	刷部	1段部	染紙	ナデ		V1	染紙

所属 番号	児童 番号	山上地区	性別	年齢	特徴	部位	外傷(文様・衣服・施設・環境)	内面	付着物	分類	その他
96	152	06号上坑	1男	9歳	顔面	顔部	顔面横文	ナア	スス(内面)	Ⅲ1c	顔面
97	155	008号本坑	1男	9歳	左膝	膝部	LR	ナア	スス	Ⅲ3	ナア
98	159	008号本坑	1男	9歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ3	両膝
99	160	008号本坑	1男	9歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1c	両膝
100	156	008号上坑	1男	9歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1c	両膝
101	157	008号上坑	1男	9歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1c	両膝
104	38	100号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1c	両膝
105	39	100号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1c	両膝
106	37	100号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
109	67	110号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
110	66	110号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
111	44	111号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
112	45	111号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
113	43	112号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
114	40	113号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
115	41	113号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
116	42	113号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
117	51	114号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
118	52	114号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
119	54	114号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
120	53	114号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
121	55	114号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
122	58	114号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
123	57	114号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
124	56	114号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
126	61	115号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
127	62	115号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
128	68	116号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
129	69	116号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
130	71	116号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
131	72	116号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
132	75	116号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
133	76	116号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
134	71	116号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
135	70	116号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
136	77	116号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
139	175	118号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
140	65	119号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝
141	165	120号上坑	男	10歳	両膝	膝部	両膝	両膝	両膝	Ⅲ1	両膝

検出 番号	位置 番号	出土地点	層位	遺構	部位	外周(文様・装飾・地名・原形)	内面	付着物	分類	その他
142	81	121号土坑	Ⅲ上	漆椀	山口部	ぬい塗の口縁 漆器底文 漆器底文 平行沈線	ナア	スス(少量)	Ⅲ1b	
143	82	121号土坑	Ⅲ上	漆椀	胴部	漆器底文 平行沈線	ナア	スス(少量)	Ⅲ1b	
235	33	210号土坑	Ⅲ上・Ⅲ	漆椀	口唇部	平行沈線	ナア	スス多	Ⅲ1c	もろい
236	47	102号土坑	Ⅲ上・Ⅲ	漆椀	胴部	風船のみ	ナア	ナア	V1	磨滅
238	86	303号土坑	Ⅲ中～Ⅲ下	漆椀	胴部	横筋のみ	ナア	ナア	V1	
239	89	P3	Ⅲ上	漆椀	胴部	口唇部横文 0段多委(1本盛)	ナア	ナア	Ⅲ	
270	98	P3	Ⅲ上	漆椀	口唇部	平行沈線	ナア	ナア	Ⅲ3	
271	90	P3	Ⅲ上	漆椀	底面	湖代風(1本盛り1本盛)	ナア	スス	Ⅲ4	
272	91	P4	Ⅲ上	漆椀	胴部	L.R	ナア	スス	V1	
273	100	P5.0	Ⅲ中	漆椀	口唇部	平行沈線	ナア	ナア	Ⅲ1c	No271と同 物体 磨滅
274	101	P5.0	Ⅲ中	漆椀	胴部	平行沈線	ナア	ナア	Ⅲ1c	No273と同 物体 磨滅
275	103	P5.7	Ⅲ中	漆椀	口唇部	平行沈線	ナア	ナア		
277	104	P6.1	Ⅲ中	漆椀	胴部	R	ナア	ナア	V1	
278	111	T.A.Ⅲ	Ⅲ中	漆椀	胴部	風船のみ 外反 R.L.仕組	ナア(丁寧)	ナア	Ⅲ	
279	117	Ⅲ中	Ⅲ中	漆椀	山口部	口唇部横文 風船のみ 外反 R.L.仕組	ナア	ナア	Ⅲ4a	
280	113	T.C.Ⅲ	Ⅲ中	漆椀	山口部	口唇部横文 風船のみ 外反 R.L.仕組	ナア	ナア	Ⅲ3	
281	112	T.A.Ⅲ	Ⅲ中	漆椀	胴部	口唇部横文 風船のみ 外反 R.L.仕組	ナア	ナア	Ⅲ1c	
282	114	T.C.Ⅲ	Ⅲ中	漆椀	胴部	口唇部横文 風船のみ 外反 R.L.仕組	ナア	ナア	Ⅲ1c	
283	110	T.A.7	Ⅲ中	漆椀	胴部	口唇部横文 風船のみ 外反 R.L.仕組	ナア	ナア	Ⅲ1b	
284	115	Ⅲ中	Ⅲ中	漆椀	胴部	口唇部横文 風船のみ 外反 R.L.仕組	ナア	ナア	Ⅲ4b	
285	108	T.A.6b	Ⅲ中	漆椀	胴部	口唇部横文 風船のみ 外反 R.L.仕組	ナア	ナア	Ⅲ1c	
286	110	Ⅲ中	Ⅲ中	漆椀	胴部	口唇部横文 風船のみ 外反 R.L.仕組	ナア	ナア	Ⅲ4c	
287	109	T.A.6	Ⅲ中	漆椀	胴部	口唇部横文 風船のみ 外反 R.L.仕組	ナア	ナア	V2	
288	115	T.C.Ⅲ	Ⅲ中	漆椀	胴部	口唇部横文 風船のみ 外反 R.L.仕組	ナア	ナア	Ⅲ6	磨滅
290	127	T.C.8e	Ⅲ中	漆椀	胴部	口唇部横文 風船のみ 外反 R.L.仕組	ナア	ナア	Ⅲ	No289～292同 物体
291	128	T.C.8e	Ⅲ中	漆椀	胴部	口唇部横文 風船のみ 外反 R.L.仕組	ナア	ナア	Ⅲ	No289～292同 物体
292	129	T.C.8e	Ⅲ中	漆椀	胴部	口唇部横文 風船のみ 外反 R.L.仕組	ナア	ナア	Ⅲ	No289～292同 物体
293	168	T.C.10c	Ⅲ中	漆椀	口唇部	口唇部横文 風船のみ 外反 R.L.仕組	ナア	ナア	Ⅲ2c	No289～292同 物体
294	50	T.C.9d	Ⅲ中	漆椀	口唇部	口唇部横文 風船のみ 外反 R.L.仕組	ナア	ナア	Ⅲ2c	小舞多
295	124	T.C.7g	Ⅲ中	漆椀	口唇部	口唇部横文 風船のみ 外反 R.L.仕組	ナア	ナア	Ⅲ2b	舞多
296	60	T.C.9d	Ⅲ中	漆椀	胴部	口唇部横文 風船のみ 外反 R.L.仕組	ナア	ナア	V2	
297	120	T.C.7c	Ⅲ中	漆椀	胴部	口唇部横文 風船のみ 外反 R.L.仕組	ナア	ナア	V2	
298	123	T.C.7g	Ⅲ中	漆椀	胴部	口唇部横文 風船のみ 外反 R.L.仕組	ナア	ナア	Ⅲ6	
299	95	T.C.8e (P.10周辺)	Ⅲ上	注口	注口部	注口部横文 風船のみ 外反 R.L.仕組	ナア	ナア	Ⅲ	

第4章 平成19年度出土遺物総覧(石器・石製品)

品類 番号	品名	出土地点	層位	図様	総人数(人)	最大径(cm)	重量(g)	石質	産地	時代	備考	
12	367 101号型石棒		埋土	石棒	6.10	36.10	2860.00	安山岩	奥山山脈	新石器前期三紀		
13	368 101号型石棒		埋土	石棒	38.40	17.30	16300.00	安山岩	奥山山脈	新石器前期三紀		
35	302 102号型石棒 Q-3		埋土	石棒	5.05	3.70	0.80	頁岩	奥山山脈	新石器前期三紀	緑泥	
36	306 102号型石棒 裏面×4.5ト巾		埋土	石棒	7.60	2.60	0.70	頁岩	奥山山脈	新石器前期三紀	埋土	
37	319 102号型石棒 Q-3		埋土	彫削石棒	3.20	2.90	1.30	頁岩	奥山山脈	新石器前期三紀		
38	369 102号型石棒		埋土	石製品	30.40	10.90	7.80	7100.00	安山山脈	新石器前期三紀		
39	309 102号型石棒 Q-1		埋土	石製品	3.20	2.10	1.65	21.20	頁岩	新石器前期三紀		
40	503 102号型石棒 Q-1		埋土	石製品	11.80	8.30	7.05	60.00	頁岩	新石器前期三紀		
41	504 102号型石棒 Q-2		埋土	石製品	32.00	1.80	4.20	616.70	頁岩	古土代	未確認?	
54	366 301号型石製品(鏃)		埋土	鏃・鏃茎	6.10	2.90	1.00	13.00	頁岩	新石器前期三紀		
55	533 301号型石製品(鏃)	西溝	埋土	石製品	10.50	7.70	3.20	319.90	頁岩	古土代	埋土	
56	530 301号型石製品(鏃)		埋土	石製品	63.50	3.50	2.10	28.30	頁岩	新石器前期三紀		
57	522 301号型石製品(鏃) 付石		埋土	石製品	33.60	26.90	5.40	6100.00	安山岩	新石器前期三紀		
68	373 301号型石製品(鏃) P 60		埋土	石製品	26.00	35.50	8.90	12300.00	安山岩	新石器前期三紀		
68	571 104号型石製品		埋土	石製品	24.20	27.60	4.10	4600.00	安山岩	新石器前期三紀		
84	511 106号型石製品		埋土	石製品	17.90	7.10	5.00	525.40	燧石	新石器前期三紀		
85	321 106号型石製品 Q-3		埋土	石製品	4.70	2.70	0.70	8.00	頁岩	新石器前期三紀	4層に出土	
86	509 106号型石製品		埋土	石製品	01.90	03.50	0.410	42.60	安山岩	新石器前期三紀	埋土	
87	510 106号型石製品 北平		埋土	鏃・鏃・石	15.65	8.30	6.05	1114.80	安山岩	新石器前期三紀		
88	570 106号型石製品 裏面埋土		埋土	石製品	34.30	35.00	8.00	11500.00	安山岩	新石器前期三紀		
91	320 107号型石製品		埋土	石製品	2.06	1.50	0.25	0.60	めがね	新石器前期三紀	中央寄	
102	316 108号型石製品	バレット	埋土	石製品	9.30	9.65	6.10	781.70	安山岩	新石器前期三紀		
103	314 108号型石製品		埋土	石製品	4.30	6.00	1.70	40.90	燧石	新石器前期三紀		
107	522 109号型石製品		埋土	石製品	2.50	2.70	16.10	燧石	奥山山脈	新石器前期三紀		
108	525 109号型石製品		埋土	不明	22.30	14.10	7.90	3134.00	安山岩	新石器前期三紀	埋土	
126	347 114号型石製品		埋土	石製品	11.40	6.50	3.00	226.20	頁岩	奥山山脈	新石器前期三紀	埋土
137	529 116号型石製品 北溝		埋土	石製品	63.90	2.10	1.80	19.80	頁岩	奥山山脈	新石器前期三紀	土製品?→埋土二個あり
138	528 116号型石製品		埋土	石製品	02.10	5.90	4.10	300.10	燧石	奥山山脈	新石器前期三紀	埋土
194	518 200号型石製品		埋土	石製品	16.40	11.35	4.65	1290.40	燧石	奥山山脈	新石器前期三紀	埋土
219	519 213号型石製品		埋土	鏃・鏃茎	9.40	7.50	4.00	372.10	燧石	奥山山脈	新石器前期三紀	
230	520 213号型石製品 中央		埋土	鏃	8.90	9.00	6.15	638.60	安山岩	奥山山脈	新石器前期三紀	
231	521 213号型石製品 裏面		埋土	鏃	4.10	3.35	2.50	25.60	燧石	奥山山脈	新石器前期三紀	
267	313 303号型石製品		埋土	石製品	10.70	8.30	6.00	595.90	安山岩	奥山山脈	新石器前期三紀	
276	377 P 5 7		埋土	石製品	2.80	1.30	0.60	2.00	赤色頁岩	奥山山脈	新石器前期三紀	門田産
300	328 I A. 105		埋土	石製品	2.10	1.10	0.50	0.90	頁岩	奥山山脈	新石器前期三紀	凸縁有玉
301	400 III A. 18		1層(埋土)	石製品	2.05	1.20	0.50	0.80	めがね	奥山山脈	新石器前期三紀	凸縁有玉

調査 番号	遺構 番号	出土地点	部位	部材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	基壇高	石目	高さ	時代	備考
302	442	ⅡB 2b 本根中	扉	石塊	62.00	1.60	0.50	100	60の寸	奥羽山脈	新古代新第三紀	汽車倉庫
303	500	ⅡA 9a	扉	不定形石器	3.90	3.70	1.50	23.00	頁岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	再加工?
304	446	ⅠA 9 本根中	扉	6石	7.20	2.00	0.60	8.50	頁岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	扉
305	460	ⅠBc (北側溝蓋石)	扉	5石	8.50	3.20	0.90	22.20	頁岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	扉
306	462	ⅠA 9 本根中	扉	石	5.90	3.30	1.00	16.00	頁岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	扉
307	425	ⅡB 2b 本根中	扉	不定形石器	4.40	5.55	1.60	21.40	頁岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	扉
308	443	ⅡB 3a 本根中	扉	扉	14.40	3.90	0.70	10.40	頁岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	扉
309	391	ⅡA 7a	扉	不定形石器	7.10	8.70	2.80	13.40	頁岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	二次加工
310	463	ⅠA 9 本根中	扉	扉	3.60	5.70	1.90	34.00	頁岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	二次加工
311	113	ⅡB 2b 本根中	扉	不定形石器	6.40	4.70	1.50	35.70	頁岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	二次加工
312	466	ⅡB 2b 本根中	扉	扉・溝石	9.80	12.30	2.40	22.30	頁岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	二次加工
313	536	ⅠA 5 1	扉	不定形石器	18.30	7.00	3.40	30.10	頁岩	北上山脈	古土代	
314	437	ⅡB 2b 本根中	扉	扉	5.70	4.50	1.50	30.50	頁岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	
315	463	ⅠBc (北側溝蓋石)	扉	扉・扉	5.70	7.10	1.50	80.30	頁岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	
316	540	ⅠA 9 本根中	扉	扉・凹石	9.40	6.90	2.70	225.80	凝灰岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	扉
317	553	ⅠA 7c	扉	穿孔打撃石	4.80	3.60	1.00	20.30	砂岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	何處から石孔 判明
318	539	ⅠA 9 本根中	扉	凹石	6.20	6.90	0.60	199.50	安山岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	
319	537	ⅠA 7 a	扉	石製品	62.80	1.90	1.60	11.90	頁岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	
320	555	ⅠA 9 本根中	扉	7石製品	14.50	1.65	1.80	13.60	頁岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	
321	542	ⅠA 9 本根中	扉	扉・扉	10.10	8.75	7.90	94.10	安山岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	
322	556	ⅠBc 本根中	扉	扉	2.10	3.40	2.30	27.00	凝灰岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	
326	498	ⅠC 7 a	扉	石塊	1.60	1.20	0.30	0.50	扉	不明	不明	伊藤麻生
327	494	ⅠC 7 a	扉	石塊	0.20	1.60	0.50	1.50	頁岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	伊藤麻生
328	485	ⅠBc (溝側溝蓋石)	扉	石	7.60	4.30	1.20	39.20	頁岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	伊藤麻生
329	381	ⅠC 7 d	扉	石	3.60	2.10	0.70	1.50	頁岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	伊藤麻生
329	382	ⅠC 7 d 重箱	扉	扉・扉	6.50	3.00	1.00	15.00	頁岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	伊藤麻生
331	571	ⅠC 9 c	扉	不定形石器	6.35	3.70	2.30	67.90	頁岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	二次加工
332	497	ⅠBc (溝側溝蓋石)	扉	不定形石器	8.70	3.30	2.10	89.40	頁岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	二次加工
333	564	ⅠC 9 c	扉	凹石	15.00	7.80	2.00	255.00	凝灰岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	伊藤
334	565	奥羽山脈区外	扉	扉	12.80	9.70	4.40	587.20	凝灰岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	伊藤 藤原あり
335	548	ⅠC 8 c	扉	扉・凹石	8.70	7.60	2.50	198.10	砂岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	伊藤
336	542	奥羽山脈区	扉	扉	10.70	7.60	6.50	650.10	安山岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	伊藤
337	535	ⅠC 7 c	扉	扉・石	14.40	11.30	7.30	1575.10	安山岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	伊藤
338	560	奥羽山脈区	扉	扉	11.40	8.70	5.90	695.50	凝灰岩	奥羽山脈	新古代新第三紀	伊藤

第5表 平成19年度出土遺物調査表(銭貨)

図録番号	山手地点	層位	素材	径 (cm)	重量 (g)	種類	初出年代	所産	その他	
134	601 201 5号土坑	底面直上	銅	2.40	3.46	寛永通寶	1635年	水戸銭		
135	602 201 5号土坑	底面直上	銅	2.52	3.49	寛永通寶	176 後	1668年	河内文	
146	603 201 5号土坑	底面直上	銅	2.40	3.65	寛永通寶	176 前	1635年	水戸銭	
147	604 201 5号土坑	底面直上	銅	2.30	2.95	寛永通寶	176 前	1637年	岡山銭?	
148	605 201 5号土坑	底面直上	銅	2.35	2.97	寛永通寶	新	176 後	1668年	正字文
149	606 201 5号土坑	底面直上	銅	2.50	2.71	寛永通寶	新	176 後	1668年	通字文
150	607 202 5号土坑	底面直上	銅	2.45	3.19	寛永通寶	古	176 前	1637年	岡山銭
151	608 202 5号土坑	底面直上	銅	2.50	2.99	寛永通寶	古	176 前	1636年	島越銭
152	609 202 5号土坑	底面直上	銅	2.50	3.29	寛永通寶	古	176 前	1633年	徳仁寺銭
153	610 202 5号土坑	底面直上	銅	2.40	4.28	寛永通寶	古	176 前	1639年	井之宮銭
154	611 202 5号土坑	底面直上	銅	2.55	3.67	寛永通寶	新	176 後	1668年	通字文
155	612 202 5号土坑	底面直上	銅	2.45	4.08	寛永通寶	古	176 中?	1656年?	島越銭?
156	693 202 5号土坑	底面直上	不明	2.30 × 2.05	11.12	不明	?	?	徳島銭?	
157	613 203 5号土坑	埋土上位	銅	2.40	3.03	寛永通寶	古	176 前	1637年	水戸銭
158	614 203 5号土坑	埋土上位	銅	2.45	3.15	寛永通寶	古	176 前	1637年	水戸銭
159	615 203 5号土坑	埋土上位	銅	2.55	3.41	寛永通寶	古	176 前	1633年	徳仁寺銭
160	616 203 5号土坑	埋土上位	銅	2.45	2.44	寛永通寶	古	176 前	1639年	井之宮銭
161	617 203 5号土坑	埋土上位	銅	2.40	3.15	寛永通寶	古	176 前	1637年	島越銭
162	618 203 5号土坑	埋土上位	銅	2.50	1.18	寛永通寶	古	176 中?	1656年?	島越銭?
163	619 203 5号土坑	埋土上位	銅	2.50	1.90	神平元寶	998年	998年?	水戸銭	
165	620 203 5号土坑	埋土上位	銅	2.50	2.07	寛永通寶	古?	?		
166	621 203 5号土坑	埋土下位	銅	2.60	2.95	寛永通寶	新	176 後	1668年	通字文
167	622 203 5号土坑	埋土下位	銅	2.55	2.26	寛永通寶	新	176 後	1668年	文銭
168	623 206 5号土坑	埋土下位	銅	2.50	3.14	天聖元寶	北朝銭	1023年	正平銭	
169	624 206 5号土坑	埋土下位	銅	2.45	2.91	寛永通寶	古	176 前	1637年	立田銭
170	625 206 5号土坑	埋土下位	銅	2.40	2.39	寛永通寶	古	176 前	1637年?	岡山銭?
174	628 207 5号土坑	埋土上位	銅	2.50	1.90	寛永通寶	古	176 前	1637年	島越銭
175	627 207 5号土坑	埋土上位	銅		0.61	寛永通寶	古?	?	?	
178	628 208 5号土坑	埋土	銅	2.60	1.97	寛永通寶	新	176 後	1668年	正字文
179	630 208 5号土坑	埋土	銅	2.50	3.15	寛永通寶	新	176 後	1668年	文銭
180	629 208 5号土坑	埋土	銅	2.50	2.94	寛永通寶	古	176 前	1639年	井之宮銭
181	631 208 5号土坑	埋土	銅	2.50	2.94	不明	?	?	徳島銭?	
182	632 208 5号土坑	埋土	銅	2.40	2.22	寛永通寶	古?	1637年?	岡山銭?	
183	633 208 5号土坑	埋土	銅	2.50	2.73	寛永通寶	新	176 後	1668年	正字文
184	634 208 5号土坑	埋土	銅	2.50	2.77	寛永通寶	新	176 後	1668年	正字文

遺跡番号	遺跡名	層位	素材	径 (cm)	重量 (g)	種別	初得年代	初得場所	その他	
187	635 209号土坑	a 底層直上	銅	2.20	1.09	粟米通貫? 不明	?	?	?	
188	636 209号土坑	b 底層直上	銅	2.33	1.59	粟米通貫	17c 後	?	?	
189	637 209号土坑	c 層上1位	銅	2.30	1.96	粟米通貫?	?	?	?	
190	638 209号土坑	b 層上1位	銅	2.50	2.27	粟米通貫	18c 前	1776年?	谷口七條橋?	
196	639 210号土坑 中央	層上1位	銅	2.50	1.97	粟米通貫	17c 後	1668年	遺点文 文様	
192	641 210号土坑	a 底層直上	銅	2.50	2.64	粟米通貫	新	17c 後	1668年	遺点文
193	642 210号土坑	c 底層直上	銅	2.50	2.86	粟米通貫	新	17c 前	1653年	遺点文
194	643 210号土坑	d 底層直上	銅	2.20	3.28	粟米通貫	新	18c 前	1716年頃	遺点文?
195	644 210号土坑	c 底層直上	銅	2.50	3.11	粟米通貫	古	17c 前	1711年?	丸形瓦?
197	640 210号土坑	a 底層直上	銅	2.40	2.80	粟米通貫	古	17c 前	1637年	谷田瓦
198	645 210号土坑	f 底層直上	銅	2.50	2.22	粟米通貫	古	17c 中	1653年	徳仁寺瓦
199	646 211号土坑	底層直上	銅	2.50	0.22	粟米通貫	新	17c 後	1668年以降	丸 60%
200	647 211号土坑	底層直上	銅	2.50	1.43	粟米通貫	新	17c 後	1668年	遺点文
201	648 211号土坑	a 底層直上	銅	2.45	2.34	半漢瓦	北条氏	995年	995年	瓦
202	649 211号土坑	b 底層直上	銅	2.40	1.42	半漢瓦	北条氏	995年	995年	瓦
203	650 211号土坑	c 底層直上	銅	2.50	2.59	五波瓦	北条氏	995年	995年	瓦
204	651 211号土坑	d 底層直上	銅	2.40	2.73	粟米通貫	古	17c 前	1637年	丹山瓦
205	652 211号土坑	e 底層直上	銅	2.50	3.24	五波瓦	北条氏	995年	995年	瓦
206	653 211号土坑	f 底層直上	銅	2.40	1.03	五波瓦	北条氏	995年?	995年?	瓦
210	664 212号土坑	a 底層直上	銅	2.30	2.37	粟米通貫	新?	17c 後~	?	?
211	655 212号土坑	b 底層直上	銅	2.40	2.26	粟米通貫	新	18c 後	1767年	四年棟小瓦
212	656 212号土坑	c 底層直上	銅	2.50	2.37	粟米通貫	占	17c 前	1637年?	丹山瓦?
213	657 212号土坑	d 底層直上	銅	2.50	2.57	五波瓦	北条氏	1078年	1078年	瓦
214	658 212号土坑	e 底層直上	銅	2.80	3.01	粟米通貫	新	18c 前	1708年	四年瓦(弘永)
215	659 212号土坑	f 底層直上	銅	2.50	2.07	粟米通貫	占	17c 前	1635年	水戸瓦?
216	660 212号土坑	a 底層直上	銅	2.30	2.54	粟米通貫	新	18c 前	1716年頃	徳仁瓦?
217	661 212号土坑	b 底層直上	銅	2.45	2.67	粟米通貫	新	18c 前~	1726年~	伏見子?
218	662 212号土坑	i 底層直上	銅	2.80	1.68	粟米通貫	新	18c 前~	1726年~	伏見子?
222	663 213号土坑	層上	銅	2.35	1.53	粟米通貫	新	18c 前	1728年	粟米通貫(石ノ巻)
225	665 a 213号土坑	層上	銅	2.50	1.83	粟米通貫	新	18c 前	1728年	粟米通貫(石ノ巻)
226	665 b 213号土坑	層上	銅	2.40		粟米通貫	新	18c 前	1728年	粟米通貫(石ノ巻)
227	667 213号土坑	層上	銅	2.50	1.57	粟米通貫	古	17c 中	1653年	665 a 土坑層直上
228	667 213号土坑	層上	銅	2.50	2.66	粟米通貫	新?	18c 前?	1726年?	665 b 土坑層直上
229	666 213号土坑	層上	銅	-	1.03	粟米通貫	新	17c 後~	?	665 c 土坑層直上
233	669 215号土坑 中央	a 層上1位	銅	2.55	2.33	粟米通貫	古?	17c 前?	?	665 d 土坑層直上
234	670 215号土坑	層上1位	銅	2.45	2.03	粟米通貫	占	17c 前	1635年	水戸瓦

路線 番号 番号	地上地点	単位	村	幅 (m)	重量 (t)	種別		初年度年次	翌年度年次	用途	その他
						種別	種別				
225	671 215号上坑 中央 c	岡山中位	岡	240	102	重水運賃	占	17c 前	1633年	水門橋	/
226	672 215号上坑 中央 d	岡中中位	岡	230	300	重水運賃	占	17c 前	1633年	徳仁寺橋	
227	673 215号中坑 中央 e	岡中中位	岡	240	237	重水運賃	新	17c 後	1668年		文蔵
240	674 216号上坑	底面道上	岡	230	227	重水運賃	新	18c 前	1736年	船十津橋下流ノ原塚小学 (十万坪) ?	
241	688 216号上坑	底面道上	鉄	-	-	重水運賃	新	17c 後~	?		水門とともに築替
242	689 216号上坑	底面道上	鉄	-	-	重水運賃	新	17c 後~	?		水門とともに築替
243	690 216号上坑	底面道上	鉄	240	369	不明	?	?	?		築替當しい
244	676 217号上坑 西側	岡上上位	岡	230	136	重水運賃	新	18c 前?	1714年?	丸懸橋?	
245	677 217号上坑 ①	岡中中位	岡	235	091	重水運賃	新	18c 前	1736年	船十津橋? 北ノ原塚小学 (十万坪) ?	
251	679 217号上坑 ②	岡上中位	岡	245	278	重水運賃	新	17c 前	1637年	徳田橋?	
246	680 a 217号上坑 a ③	岡上中位	岡	235	077	重水運賃	新?	17c 後~	?		水門あり
247	680 b 217号上坑 b ④	岡中中位	岡	235	077	重水運賃	新	18c 前	1728年	依田入字	
248	680 c 217号上坑 c ⑤	岡中中位	岡	245	077	重水運賃	新	18c 前	1728年	依田入字	
252	681 217号上坑 b	岡上中位	岡	240	135	重水運賃	新	17c 後~	?		?
249	682 217号上坑 c	岡中中位	岡	230	175	重水運賃	新	18c 前	1729年	船十津橋 (北山橋)	
248	683 217号上坑 d	岡中中位	岡	250	174	重水運賃	新	17c 後	1668年?	船十津橋? 北ノ原塚小学 (十万坪) ?	
253	684 218号上坑 南半	岡上上位	岡	-	037	重水運賃	新	17c 後~	?		?
252	694 220号上坑	不明	不明	210	749	不明	?	?	?		船十津橋?
340	685 1 C 7 b	I 橋	岡	250	182	重水運賃	明橋	1408年	1408年		
323	686 II A 斜 (301号添付表)	II一暫置	岡	235	177	重水運賃	新	17c 後	1668年?	船十津橋?	
324	687 II A 5c (17 D 322)	II一暫置	岡	230	162	重水運賃	占	17c 中	1668年?	船十津橋?	
341	692 1 C 7 b	I 橋	岡	230	094	不明	十銭	1941年	1941年		岡橋16号架

第6表 平成19年度出土遺物観察表(陶磁器)

発掘 番号	登録 番号	出土地点	部位	材質	形状	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	重量 (g)	内外径(縦溝・凸行)	産地	年代	その他
255	1001	218号上墳	南下	陶器	胴一底部	-	43.1	60	72.0	なし	人形陶器	江戸	
256	1002	220号上墳	南下	陶器	胴	-	-	-	4.3	底溝	不明		
257	1003	220号上墳	南下	陶器	胴	-	-	-	3.1	底溝	不明		
258	1004	211号墳	西側	陶器	胴	-	-	-	12.7	底溝(底溝なし)	人形陶器?		
259	1005	211号墳	西側	陶器	胴	-	-	-	2.4	底溝(底溝なし)	不明		
260	1006	181号墳	西側	陶器	胴	-	-	-	2.0	底溝(底溝なし)	不明		
261	1007	181号墳	西側	陶器	胴	-	-	-	28.2	底溝(底溝なし)	不明		
262	1008	同地敷表外	北側	陶器	胴	-	-	-	21.3	底溝(底溝なし)	不明		

第7表 平成19年度出土遺物観察表(煙管)

発掘 番号	登録 番号	出土地点	部位	形状	素材	長さ (cm)	口径 (cm)	重量 (g)	特徴等	分類	時期
172	202	207号上墳	西下位	煙管	陶	42.60	1.00	158			
173	203	207号上墳	東面直上	煙管	陶	48.40	1.40	308			
174	204	207号上墳	東面直上	煙管	陶	42.70	1.40	459	内側面・縁部なし・通門一枚もの	18世紀前半	
175	205	209号上墳	西下位	煙管	陶	42.20	0.80	459	内側面・縁部なし	18世紀前半	
176	206	212号上墳	東面直上	煙管	陶	60.00	2.00	2.05	底溝なし(底溝なし)	18世紀前半	
177	207	212号上墳	東面直上	煙管	陶	61.00	1.00	2.84	底溝なし(底溝なし)	18世紀前半	
220	707	213号上墳	東面直上	煙管	陶	60.00	0.90	0.80	700と同じ形状か?		
232	709	213号上墳	東面直上	煙管	陶	0.80	1.80	1.00	706と同じ形状か?		
239	712	216号上墳	東面直上	煙管	陶	0.70	1.10	1.00	4.52		
254	713	217号上墳	東面直上	煙管	陶	43.70	1.10	1.32	底溝のみの巻込みあり		
255	714	211号墳	東面直上	煙管	陶	43.80	0.90	0.90	1.10	1.32	17世紀

第8表 平成19年度出土遺物観察表(鉄製品)

発掘 番号	登録 番号	出土地点	部位	形状	素材	長さ (cm)	口径 (cm)	重量 (g)	特徴等	分類	その他
171	803	207号上墳	西下位	短冊	鉄	9.20	2.80	1.45	15.43		
172	804	207号上墳	東面直上	短冊	鉄	8.50	3.50	1.00	13.21		
173	805	207号上墳	東面直上	短冊	鉄	9.00	3.50	1.00	13.21		
207	810	212号上墳	東面直上	短冊	鉄	20.00	1.40	1.20	39.69	生肌部のみなし	出土層bと併せて 出土層aと併せて
222	819	212号上墳	東面直上	短冊	鉄	16.60	2.00	1.20	37.69	柄部なし	出土層aと併せて
251	821	213号上墳	東面直上	短冊	鉄	8.55	1.65	1.45	10.09		
253	822	217号上墳	東面直上	短冊	鉄	2.40	0.85	0.50	11.54		
256	825	218号上墳	東面直上	短冊	鉄	2.45	0.85	0.55	13.09		
259	826	219号上墳	東面直上	短冊	鉄	4.75	1.45	7.60	7.60	小片	

第9表 平成19年度出土遺物観察表 (その他)

発掘番号	出土地点	層位	種類	部位	素材	長さ(cm)	幅幅(cm)	総厚(mm)	重量(g)	特徴等	その他
57	113号土坑	第1層	土器	耳環部	銅	45.65	0.70	0.20	2.27		
101	162号土坑	遺跡南上	土	土	42.59	0.50	1.20	5.01	材質?		

第10表 平成19年度出土遺物観察表 (参考)

発掘番号	出土地点	層位	種類	部位	素材	長さ(cm)	幅幅(cm)	総厚(mm)	重量(g)	特徴等	その他
343	607号土坑	第1層	土器	木	木	3.50	2.20	0.55	1.05	椀形	厚みのみ
344	619号土坑	第1層	土器	木	木	3.50	2.70	0.60	0.64	木製	寸法のみ
345	621号土坑	第1層	土器	木	木	2.50	2.10	0.10	0.10	木製	寸法のみ
346	647号土坑	第1層	土器	木	木	2.30	2.10	0.10	0.10	木製	寸法のみ
347	676号土坑	第1層	土器	木	木	2.30	2.10	0.40	0.60	木製	寸法のみ
348	679号土坑	第1層	土器	木	木	2.55	1.90	0.40	0.64	木製	寸法のみ

第11表 平成19年度出土遺物観察表 (表面採集品)

発掘番号	出土地点	層位	部位	種類	長さ(cm)	幅幅(mm)	厚厚(mm)	中央部寸法	重量(g)	材質	年代	備考
350	573号土坑	第1層	表面採集	石片	1.2	31.00	13.50	8.40	80.000	チャイタ	弥生前期	部分のみ
351	588号土坑	第1層	表面採集	石片	1.2	31.00	13.50	8.40	13.00	陶器	弥生前期	部分のみ
352	1000号土坑	第1層	表面採集	石片	1.2	31.00	13.50	8.40	353.00	木製	弥生前期	部分のみ

3 平成20年度調査

(1) 遺構

a 土器埋設遺構

平成20年度調査でのみ1基検出された。埋設された土器から、時期は縄文時代中期後半と考えられる。

101号土器埋設遺構（第47図、写真図版52）

<位置> IC9hグリッドの南西隅寄りで確認された。本遺構の南側約2mに124号土坑がある。

<概要> 墓壇が集中する平坦部から東側へ下る斜面肩部付近に位置する。埋設された土器の掘り方は明瞭でない。この周辺に柱穴などは見つからず、遺構間の重複もない。

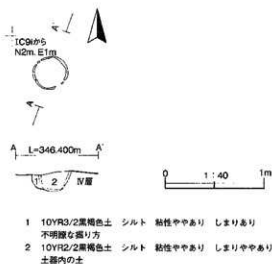
<規模> 土器の直径15cm。一部深さ10cm程度の掘り方を有する。底部が残っており、正立状態で埋められたものだが、遺構の上部は検出時かそれ以前に失われたと思われる。

<出土遺物> 深鉢形土器の胴部から底部（354）。

土器内部には暗褐色土が入っていた。

<時期> 出土遺物から縄文時代中期後半の遺構としておく。詳細な時期は不明である。

101号土器埋設遺構



第47図 101号土器埋設遺構

b 土坑

平成20年度の調査では89基検出された。その内訳は、縄文時代に属する土坑が4基、近世以降の墓壇が72基、時期不明の土坑が13基である。近世以降に属する墓壇のうち、副葬品に明治・大正および昭和期の銭貨が納められていたものは9基見つかった。これらの墓壇は基本的に改葬されており、埋葬時の墓の形状や副葬品がそのまま留められているものは少ない。近世以降の墓壇とした根拠は、副葬品または人骨を伴っていることに依ったが、中にはその平面形状等から判断したものもある。

なお、墓壇から出土した人骨は、委託者を通じ奥州市胆沢総合支所胆沢ダム振興寮の担当者と同地権者との協議を経て、後日「市野々公葬地」に埋葬された。

122号土坑（第48図、写真図版31）

<位置> IC10fグリッド内。

<概要> 平面形は不整な円形で、断面形は浅皿状である。底面は波打つ。重複は認められない。

<規模> 107×90cm、深さ8cm。

<堆積土> ぶい黄褐色土の単層で炭化物を含む。

<出土遺物> 縄文土器（355）と石器剥片2点3.5g。

<時期> 出土した遺物から縄文時代に属する遺構である。詳細な時期は不明である。

123号土坑 (第48図、写真図版31)

<位置> II C2c グリッド内。

<概要> 平面形は不整な円形で、断面形は逆台形状である。底面は平坦で、他の遺構との重複はない。

<規模> 125×116cm、深さ46cm。 <堆積土> 黒褐色土の単層で黄褐色土粒を含む。

<出土遺物> 土器片15点179.1g。

<時期> 遺物から縄文時代に属する遺構である。出土遺物がわずかであり、詳細な時期は不明である。

124号土坑 (第48図、写真図版31)

<位置> I C9i グリッド内、1号土器埋設遺構の南側約3mに位置する。

<概要> 平面形はほぼ円形で、断面形は浅皿状である。底面は斜面下側が凹む。他遺構との重複は認められない。 <規模> 137×?cm、深さ29cm。

<堆積土> 上位は土器片を含む黒褐色土、下位は礫を含む暗褐色土である。自然堆積と思われる。

<出土遺物> 縄文土器 (356・357) と土器片7点43.3g。

<時期> 出土した遺物から縄文時代に属する遺構である。土器の器形などから後・晩期に所属するものと思われる。

125号土坑 (第48図、写真図版31)

<位置> I C9e グリッド南側にある。

<概要> 平面形は楕円形状と思われる。断面形は浅皿状である。本遺構の東側で近世墓壇の239号土坑と重複する。 <規模> 86×?cm、深さ19cm。

<堆積土> 4層に分層される。最上位は炭化物を含む黒色土、中位は投げ込まれたかのような焼けの悪い焼上、下位は黒褐色土と焼土粒を含む暗褐色土からなる。人為堆積の様相である。

<出土遺物> 縄文土器の胴部 (358) と土器片15点153.0g。

<時期> 出土した遺物から縄文時代に属する遺構であるが、詳細な時期は不明である。

223号土坑 (第49図、写真図版32)

<位置> 調査区南端の I C8i グリッド内

<概要> 平面形はほぼ円形で、浅皿状の断面である。 <規模> 54×53cm、深さ5cm。

<堆積土> 暗褐色土の単層である。

<出土遺物> 古寛永1枚 (359) と骨片少々。

<時期> 出土遺物から17世紀前半以降の墓壇としておく。

224号土坑 (第49図、写真図版32)

<位置> 平成19年度南側調査区東端との境界付近、 I C7h・ I C7i グリッドに跨る。

<概要> 平面形は不整な円形で、浅皿状の断面である。底面は大きい凹凸が見られる。他の遺構との重複はない。

<規模> 94×86cm、深さ10cm。 <長軸方向> N-34°-W。

<堆積土> 黄褐色土ブロックを含む暗褐色土の単層である。

<出土遺物> 焼骨片がわずかに出土した。

<時期> 近世以降の墓壇と思われるが、詳細は不明である。

225号土坑 (第49図、写真図版32)

<位置>224号土坑の北東約3.5mに位置し、IC7h・IC8hグリッドに跨る。

<概要>平面形は不整な楕円形、断面形は長方形である。底面には小さな凹凸がある。重複はない。

<規模>108×97cm、深さ29cm。 <長軸方向>N-40°-W。

<堆積土>炭化物を多く含む黒褐色土を主体とする。

<出土遺物>煙管1セット(360)、小柄1点(361)、古寛永6枚、釘3点26.0g、焼骨片。

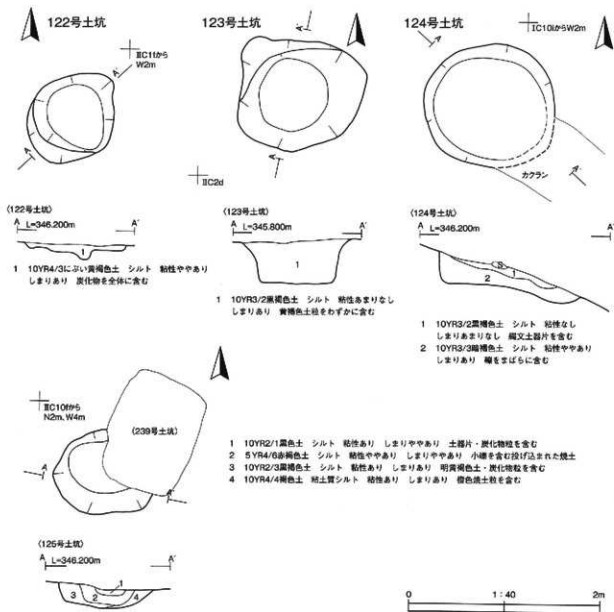
<時期>副葬品の銭貨が古寛永のみであることから、17世紀前半以降の墓塚と判断される。

226号土坑 (第49図、写真図版32)

<位置>調査区南側のIC9hグリッド内。

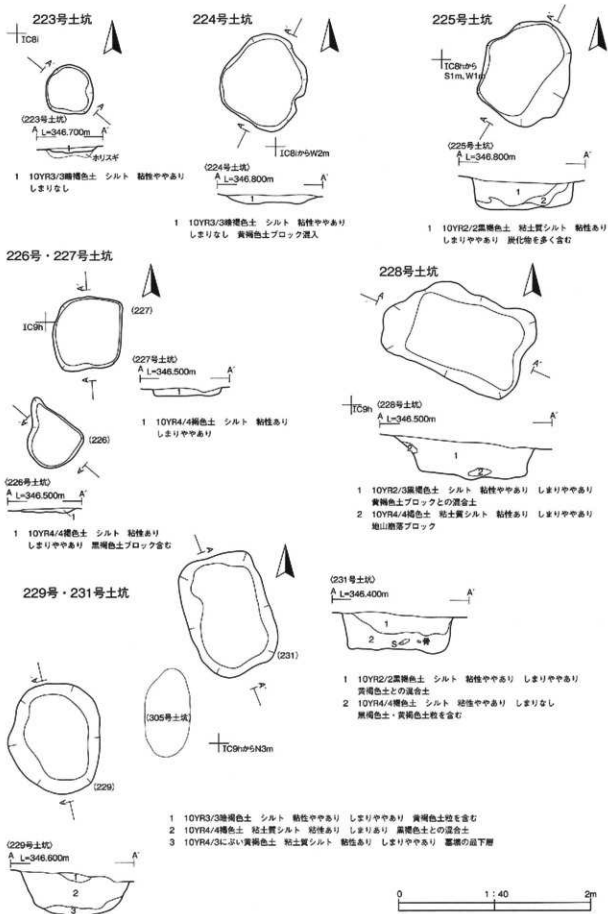
<概要>平面形は不整形で、断面形はごく浅い皿状である。 <規模>70×54cm、深さ7cm。

<長軸方向>N-19°-W。 <堆積土>褐色土の単層で黒褐色土のブロックを含む。



第48図 122~125号土坑

3 平成20年度調査



第49図 223～229・231号土坑

＜出土遺物＞焼骨片少々。

＜時期＞近世以降の墓塚と思われるが、詳細な時期は不明である。

227号土坑（第49図、写真図版33）

＜位置＞I C9hグリッドの北西隅に位置する。

＜概要＞平面形は隅丸方形で、断面形は浅皿状である。＜規模＞75×72cm、深さ8cm。

＜長軸方向＞N-5°-E。＜堆積土＞褐色土の単層。＜出土遺物＞焼骨片。

＜時期＞近世以降の墓塚と思われるが、詳細な時期は不明である。

228号土坑（第49図、写真図版33）

＜位置＞I C9h・I C9gグリッドに跨る。227号土坑の北側に近接する。

＜概要＞平面形は不整な長方形で、断面形は逆台形状である。＜規模＞150×93cm、深さ38cm。

＜長軸方向＞N-69°-W。＜堆積土＞地山崩落ブロックを含む黒褐色土の単層。

＜出土遺物＞煙管の吸口1点（368）、古寛永2枚、元豊通寶1枚のほか、焼骨片少々。

＜時期＞出土遺物から17世紀前半以降の墓塚とする。

229号土坑（第49図、写真図版33）

＜位置＞I C8gグリッドに位置する。305号土坑の西側に隣接する。

＜概要＞平面形は楕円形で、断面形は逆台形状である。

＜規模＞118×100cm、深さ44cm。＜長軸方向＞N-9°-W。

＜堆積土＞3層に分層された。褐色土を主体とし、最下部には粘性のあるにぶい黄褐色土が堆積する。

＜出土遺物＞四肢骨かと思われる人骨。

＜時期＞近世以降と思われるが詳細な時期は不明である。

230号土坑（第50図、写真図版33）

＜位置＞I C9gグリッドのはほぼ中央にある。

＜概要＞北側で233号土坑、西側で234号土坑と重複し、本遺構が最も新しい。平面形は不整な長方形である。断面形は逆台形状である。＜規模＞143×86cm、深さ65cm。

＜長軸方向＞N-4°-E。＜堆積土＞にぶい黄褐色土の単層である。

＜出土遺物＞煙管1セット（372）、古寛永・新寛永併せて2枚、鉄銭数枚24.5g、釘2点2.5g。

＜時期＞出土した遺物から18世紀中頃以降の墓塚とする。

231号土坑（第49図、写真図版34）

＜位置＞I C9gグリッド北西端に位置する。

＜概要＞平面形は長方形で、断面形は逆台形状である。＜規模＞128×87cm、深さ40cm。

＜長軸方向＞N-17°-W。＜堆積土＞2層に分層され上位は黒褐色土、下位は褐色土からなる。

＜出土遺物＞煙管1セット（373）、刀子1点（376）、和鋏2点（374・375）、火打金2点（377・378）、棒状製品2点（379・380）、柄鏡1点（388）、寛永通寶1枚、古寛永・新寛永併せて5枚、判読不能の銭貨1枚、漆器の漆膜、焼骨片や四肢骨と思われる人骨が出土した。

＜時期＞出土遺物から18世紀前半以降の墓塚であろう。

232号土坑 (第50図、写真図版34)

<位置> I C9 f・9g グリッドに跨る。

<概要> 平面形は円形で、断面形は深バケツ形である。他遺構との重複はない。人骨の残存状況から未改葬の墓と思われる。 <規模> 81×81cm、深さ78cm。

<堆積土> 黄褐色土粒を含むいぶ貴褐色土の単層。

<出土遺物> 古寛永・新寛永あわせて5枚、判読不能の銭貨1枚、棺の底板のほか、頭蓋骨を含む人骨片多数。

<時期> 18世紀前半以降と思われる未改葬の墓墳である。

233号土坑 (第50図、写真図版33・34)

<位置> I C9 g グリッド中央部。

<概要> 平面形は長方形と思われ、断面形は逆台形状である。230号土坑と重複するが本遺構のほうが古い。 <規模> 90×?cm、深さ47cm。 <長軸方向> N-12°-W。

<堆積土> いぶ貴褐色土の単層。

<出土遺物> 煙管1セット(395)と古寛永・新寛永併せて7枚。

<時期> 18世紀前半以降の墓墳とする。

234号土坑 (第50図、写真図版33・34)

<位置> I C9 g グリッド中央部。

<概要> 平面形は不整形長方形で、断面形は皿状。230号土坑と重複するが本遺構のほうが古い。233号土坑との新旧完形は不明である。

<規模> 77×?cm、深さ27cm。 <長軸方向> N-52°-W。 <堆積土> いぶ貴褐色土の単層。

<出土遺物> 煙管2セット(404・405)と吸口1点(406)、肥前産陶器碗の高台部破片(403)古寛永・新寛永併せて10枚、鉄銭1枚4.5g、釘1点13.0gが出土した。

<時期> 18世紀前半以降の墓墳である。

235号土坑 (第50図、写真図版34)

<位置> I C9 f グリッド南東端に位置する。

<概要> 平面形は円形で、断面形はバケツ形である。他遺構との重複はない。

<規模> 83×79cm、深さ65cm。

<堆積土> 上位から中位は粘性の乏しい黒褐色土、下位はいぶ貴褐色土の2層からなる。

<出土遺物> 四肢骨と思われる人骨。

<時期> 近世以降の墓墳と思われるが、詳細な時期は不明である。

236号土坑 (第51図、写真図版35)

<位置> I C9 f グリッド中央に位置する。

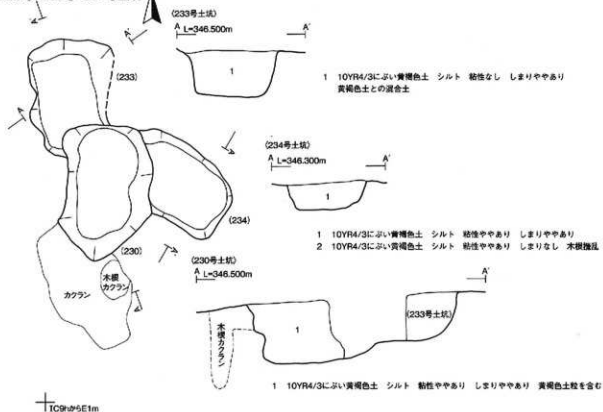
<概要> 平面形は長方形を基調とし、断面形は逆台形状である。他遺構との重複はない。

<規模> 116×85cm、深さ40cm。 <長軸方向> N-43°-E。

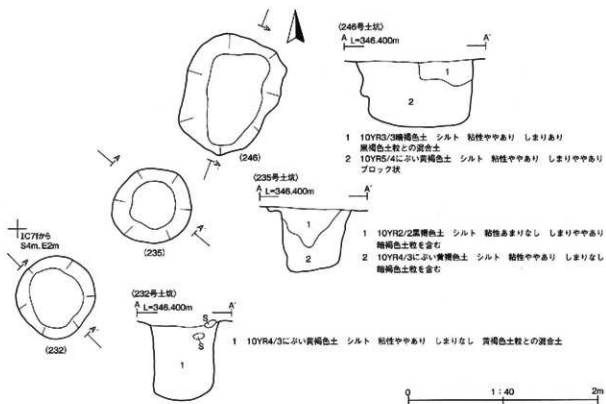
<堆積土> 褐色土粒を含む黒褐色土の単層で礫を含む。

<出土遺物> 煙管1セット(417)、鏡背に草花が描かれた納鏡1点(424)、古寛永・新寛永併せて6枚、

230号・233号・234号土坑



232号・235号・246号土坑



第50図 230・232~235・246号土坑

和鉄、棺の金具、不明鉄製品17.1gのほか、頭蓋骨と思われる人骨数片。

<時期>18世紀前半以降の墓塚である。

237号土坑 (第51図、写真図版35)

<位置> I C9 f グリッドの北西隅、236号土坑の北西側1mに長軸を同じくして位置する。

<概要> 平面形は不整長方形、断面形は逆台形状である。重複はない。

<規模> 109×73cm、深さ35cm。 <長軸方向> N-35°-E。

<堆積土> 3層に分層した。埋め戻された黒褐色土・褐色土が主体である。

<出土遺物> 煙管1セット(425)、古寛永・新寛永通寶併せて3枚、釘10点17.6gが出土した。

<時期> 18世紀前半以降の墓塚である。

238号土坑 (第51図、写真図版35)

<位置> I C9 f グリッドの北東側、240号土坑に近接する。

<概要> 平面形は長方形、断面形は逆台形状である。重複はない。

<規模> 102×70cm、深さ44cm。 <長軸方向> N-10°-W。

<堆積土> 黒褐色土と褐色土の小ブロックを含む暗褐色土の単層。

<出土遺物> 煙管1セット(429)、新寛永3枚。

<時期> 18世紀前半以降の墓塚である。

239号土坑 (第51図、写真図版35)

<位置> I C9 e グリッドの南寄りに位置する。

<概要> 平面形は長方形、断面形は浅皿状。縄文時代に属する125号土坑と重複している。

<規模> 112×93cm、深さ8cm。 <長軸方向> N-23°-E。

<堆積土> 褐色土粒を全体に含む黒褐色土の単層である。

<出土遺物> 煙管1セット(433)、文銭4枚を含む新寛永5枚と古寛永1枚、寛永通寶と思われる銭貨3枚、縄文時代の土器片5点36.9g、不明鉄製品1点2.8g。

<時期> 文銭が出土していることから、17世紀後半以降の墓塚としておく。

240号土坑 (第51図、写真図版36)

<位置> I C9 e グリッドの南東側に位置する。239号土坑と近接する。

<概要> 平面形は不整な長方形、断面形は浅皿状である。

<規模> 92×65cm、深さ29cm。 <長軸方向> N-43°-E。

<堆積土> 黒褐色土粒や褐色土ブロックを含む黒褐色土の単層。

<出土遺物> 古寛永・新寛永併せて5枚、縄文時代の土器片3点28.2g。

<時期> 17世紀後半以降の墓塚とする。

241号土坑 (第52図、写真図版36)

<位置> I C9 f・10 f グリッドに跨っており、遺構北側の隅が242号土坑とわずかに重複する。

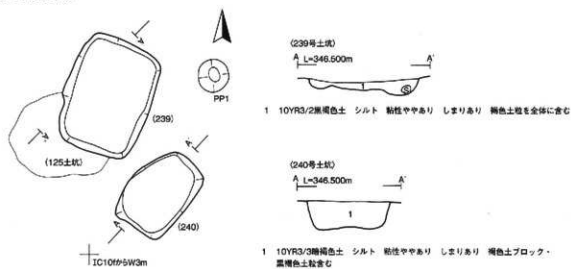
<概要> 平面形は長方形、断面形は逆台形状である。両者の新旧関係は不明である。

<規模> 131×82cm、深さ38cm。 <長軸方向> N-30°-W。

236号・237号・238号土坑



239号・240号土坑



第51図 236~240号土坑

<堆積土>3層に分層される。上位から黒褐色土・黄褐色土・暗褐色土の順である。

<出土遺物>花模様の細工がある煙管1セット(448)、刀子の細片、和鉄(449)、棒状の鉄製品3点19.9g、新古の判断が付かない寛永通寶1枚が出土した。

<時期>17世紀後半以降の墓塚とする。

242号土坑(第52図、写真図版36)

<位置>I C9 e グリッドの南東端にあり、243号土坑と近接する。

<概要>平面形は円形、断面形はバケツ形である。

<規模>73×67cm、深さ59cm。

<堆積土>にぶい黄褐色土の単層からなるが、黒褐色土や地山崩落土のブロックを含んでいる。

<出土遺物>煙管1セット(451)、硯(452)、古寛永・新寛永併せて6枚、棺の木片、漆膜。

<時期>18世紀前半以降の墓塚である。

243号土坑(第52図、写真図版36)

<位置>I C9 e・10 e グリッドに跨る。

<概要>平面形は不整な円形、断面形はバケツ形である。重複は認められない。

<規模>87×70cm、深さ53cm。 <長軸方向>N-50°-W。

<堆積土>上位は暗褐色土、下位は黄褐色土の2層に分層される。

<出土遺物>煙管1セット(459)、刀子などの刃物と思われる先端2点(460・461)、家紋が描かれた方形鏡1点(466)、古寛永3枚、木節の一部1点、布片、木片、焼骨片。

<時期>古寛永の年代から17世紀前半以降の墓塚とした。

244号土坑(第52図、写真図版37)

<位置>I C10 e グリッド西隅。

<概要>平面形は楕円形、断面形は浅皿状である。重複は認められない。

<規模>88×56cm、深さ6cm。 <長軸方向>N-42°-W。

<堆積土>炭化物を含む黒褐色土の単層。 <出土遺物>古寛永6枚と漆器の漆膜。

<時期>出土した銭貨がすべて古寛永であることから、17世紀後半以降の墓塚とした。

245号土坑(第52図、写真図版37)

<位置>I C10 f グリッド南西隅に位置する。

<概要>平面形は長方形、断面形は浅いピーカー状である。315号土坑と遺構の南隅で重複し、本遺構のほうが新しい。北東側に近接する246号土坑とは、かろうじて重複しない。

<規模>124×84cm、深さ38cm。 <長軸方向>N-56°-W。

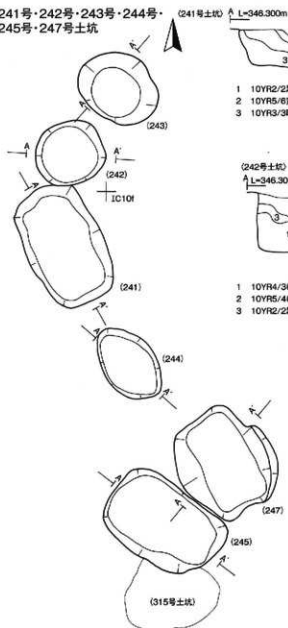
<堆積土>2層に分層され、暗褐色土と地山の崩落ブロックからなる。前者が主体である。

<出土遺物>刀子1点(473)、和鉄1点(475)、鉄製品2点7.7g、新寛永8枚、人骨少量。

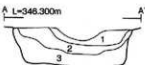
<時期>出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓塚と思われる。

246号土坑(第50図、写真図版37)

<位置>I C9 f グリッド東側に位置する。

241号・242号・243号・244号・
245号・247号土坑

(241号土坑)



- 1 10YR2/2黒褐色土 シルト 粘性ややあり しまりあり 褐色土小ブロック含む
- 2 10YR5/6黄褐色土 粘土質シルト 粘性あり しまりあり 黒色土ブロック含む
- 3 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性ややあり しまりややあり わずかに褐色土粒含む

(242号土坑)



- 1 10YR4/3にぶい黄褐色土 シルト 粘性ややあり しまりややあり 褐色土小ブロック含む
- 2 10YR5/4にぶい黄褐色土 粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 焼山ブロック
- 3 10YR2/2黒褐色土 シルト 粘性ややあり しまりなし 褐色土粒含む

(243号土坑)



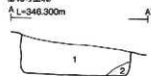
- 1 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性ややあり しまりあり 黄褐色土粒を全体に含む
- 2 10YR5/6黄褐色土 粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 運入物なし

(244号土坑)



- 1 10YR2/3黒褐色土 シルト 粘性なし しまりなし 炭化物を含む

(245号土坑)

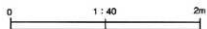


- 1 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性ややあり しまりあり 褐色土粒を含む
- 2 10YR4/4褐色土 粘土質シルト 粘性ややあり しまりややあり 黒褐色土粒を含む

(247号土坑)



- 1 10YR5/6黄褐色土 シルト 粘性ややあり しまりあまりなし フカフカ感あり
- 2 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性ややあり しまりややあり 黒褐色土粒を含む



第52図 241～245・247号土坑

<概要>平面形は不整な楕円形、断面形は浅いピーカー状である。235号土坑の北東側で隣接する。

<規模>109×102cm、深さ49cm。 <長軸方向>N-14°-E。

<堆積土>にぶい黄褐色土が主体で、暗褐色土のブロックを含んでいる。

<出土遺物>煙管1セット(484)、古寛永・新寛永併せて10枚と不明の銭貨が2枚のほか、土器1点8.6gと人骨片少量が出土している。

<時期>出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓塚としておく。

247号土坑(第52図、写真図版37)

<位置>I C10 f グリッド南西隅に位置する。

<概要>平面形は長方形、断面形は浅いピーカー状である。315号土坑と遺構の南隅で重複し、本遺構のほうが新しい。北東側に近接する246号土坑とは、重複しない。

<規模>124×84cm、深さ38cm。 <長軸方向>N-32°-W。

<堆積土>フカフカと軟らかい黄褐色土の単層で、暗褐色土の小ブロックを含む。

<出土遺物>煙管1セット(497)、不明鉄製品1点(498)、鏡背に雀?と竹などが描かれる門鏡(紐鏡)1点(506)、木櫛1点(499)、古寛永・新寛永併せて6枚、人骨片。

<時期>出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓塚と思われる。

248号土坑(第53図、写真図版38)

<位置>I C9 e・10 e グリッドに跨る。

<概要>平面形は楕円形、断面形は浅皿状である。他遺構との重複はない。

<規模>109×63cm、深さ15cm。 <長軸方向>N-35°-E。

<堆積土>褐色土ブロックを含む黒褐色土の単層である。

<出土遺物>雁首1点(248)、寛永通寶17枚の緋銭58.1g(写真図版56に掲載)と漆器の漆膜。

<時期>銭種から18世紀前半以降の墓塚としておく。

249号土坑(第53図、写真図版38)

<位置>I C10 e グリッド中央に位置する。306号土坑と北西側で近接するが重複はない。

<概要>平面形は長方形で隅丸に近い。断面形は浅いピーカー状である。

<規模>117×93cm、深さ61cm。 <長軸方向>N-39°-E。

<堆積土>3層に分層される。上位はにぶい黄褐色土、中位は褐色土、下位はフカフカとしまりのない褐色土からなる。全体に黄褐色土粒を含む。

<出土遺物>古寛永・新寛永併せて5枚と銭種不明1枚。

<時期>出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓塚と思われる。

250号土坑(第53図、写真図版38)

<位置>I C10 e・10 f グリッドに跨る。

<概要>平面形は不整な長方形で、断面形は浅いピーカー状である。遺構間の重複はない。

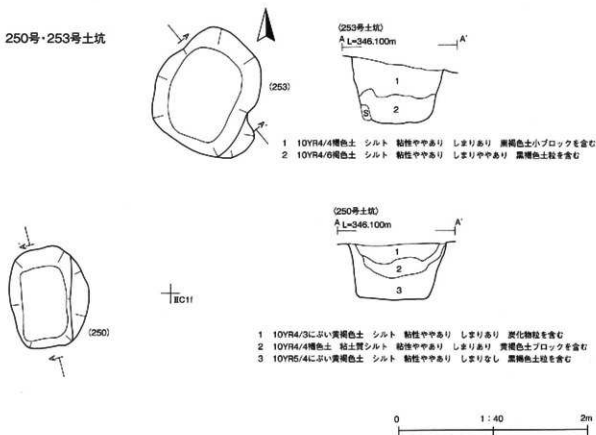
<規模>105×83cm、深さ46cm。 <長軸方向>N-8°-W。

<堆積土>3層に分層された。上位は炭化物粒を含むにぶい黄褐色土、中位は褐色土、下位はにぶい黄褐色土である。

248号・249号・251号・252号土坑



250号・253号土坑



第53図 248～253号土坑

＜出土遺物＞煙管1セット(514)、肥前産陶器の小坏(515)、古寛永・新寛永併せて4枚と銭種不明2枚。

＜時期＞出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓塚である。

251号土坑(第53図、写真図版38)

＜位置＞I C10 d グリッドの南西端にある。

＜概要＞平面形は不整な長方形で、断面形は浅皿状である。遺構間の重複はない。

＜規模＞63×47cm、深さ7cm。＜長軸方向＞N-50°-E。

＜堆積土＞暗褐色土の単層である。混入物もない。

＜出土遺物＞煙管1セット(522)、火打金1点(523)、新寛永のみ5枚、釘1点2.9gが出土した。

＜時期＞出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓塚である。

252号土坑(第53図、写真図版39)

＜位置＞I C9 e・10 e グリッドに跨る。本遺構の東側には他の遺構が広がらない。

＜概要＞平面形は長方形で、断面形は皿状である。

＜規模＞115×65cm、深さ25cm。＜長軸方向＞N-15°-W。

＜堆積土＞黄褐色土粒を含む暗褐色土の単層である。

＜出土遺物＞煙管の細片、「人見藤原重次」と銘がある柄鏡1点(539)、不明鉄製品2点2.3g、釘9点23.1g、古寛永・新寛永併せて7枚と銭種不明3枚が出土している。

＜時期＞出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓塚である。

253号土坑(第53図、写真図版39)

＜位置＞II C1 e グリッドの西端中央に位置する。本遺構の西側にしか他の墓塚は広がっていない。

＜概要＞平面形は楕円形基調、断面形はバケツ形である。

＜規模＞128×101cm、深さ63cm。＜長軸方向＞N-30°-W。

＜堆積土＞2層に分けられ上位・下位とも褐色土からなるが、上位には黒褐色土のブロックが目立つ。

＜出土遺物＞古寛永と思われるもの1枚のみ出土した。

＜時期＞18世紀前半以降の墓塚としておく。

254号土坑(第54図、写真図版39)

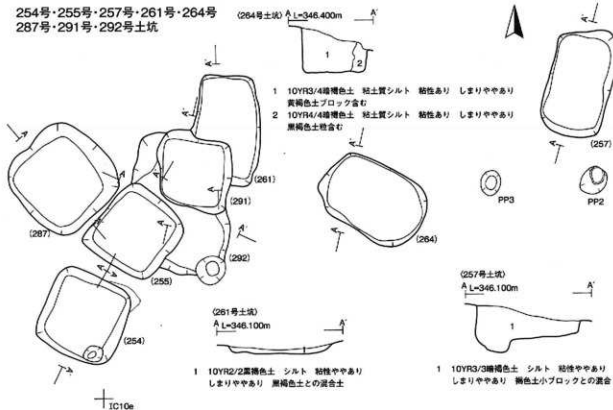
＜位置＞I C9 d・10 d グリッドに跨る。本遺構のすぐ北側には4基の墓塚群がある。

＜概要＞平面形は方形で南隅に小ピットを有する。断面形は浅いビーカー状である。他遺構との重複は認められない。＜規模＞89×87cm、深さ48cm。

＜堆積土＞改葬時に墓の中央部だけが掘られている。中央部は黒褐色土、壁際は元々の堆積土である黄褐色土が残っている。

＜出土遺物＞大堀・相馬産鯨猪口(鯨入れ)1点(541)、簪の欠損品1点(542)、古寛永・新寛永併せて4枚と銭種不明2枚、一銭ほか明治期以降の硬貨6枚、棺の木片と人骨が多数出土している。米改葬か。

＜時期＞近代(明治期以降)の墓塚である。

254号・255号・257号・261号・264号
287号・291号・292号土坑

第54図 254・255・257・261・264・287・291・292号土坑

255号土坑 (第54図、写真図版39)

<位置> I C10e グリッド南西隅、I C9e・10e グリッドに跨っている。

<概要> 平面形は方形、断面形はピーカー状である。292号土坑と重複するが本遺構のほうが新しい。291号・287号土坑とは切り合わない。

<規模> 85×80cm、深さ62cm。

<堆積土> 黒褐色土粒を含む黄褐色土が主体で、黒褐色土のブロックを層上部に含む。

<出土遺物> 煙管の雁首1点(555)、環状鉄製品1点(556)、不明鉄製品2点、鉄銭5点、釘29.1gが出土した。

<時期> 鉄銭が出土していることから、18世紀前半以降の墓塚としておく。

256号土坑 (第55図、写真図版40)

<位置> I C10c グリッド南側にあり、6基の墓塚群の中央に位置する。

<概要> 平面形は方形、断面形は浅いピーカー状である。他の遺構とは重複しない。

<規模> 96×83cm、深さ33cm。

<堆積土> 上位はフカフカとやわらかい暗褐色土、下位は黄褐色土の2層に分層される。

<出土遺物> 細工のある煙管1セット(557)、管4点(559～562)、弁1点(558)、鉄製品1点、古寛永・新寛永併せて16枚、銭種不明10枚、鉄銭40枚前後60.2g、釘21点51.2g。

<時期> 鉄銭が出土していることから、18世紀中頃以降の墓塚と思われる。被葬者は女性であろう。

257号土坑 (第54図、写真図版40)

<位置> II C1d グリッド西側に位置し、すぐ南側にはPP4がある。

<概要> 平面形は長方形、断面形は浅皿状で、底面は波打つ。他の遺構との重複はない。

<規模> 84×68cm、深さ6cm。 <長軸方向> N-13°-E。

<堆積土> 褐色土小ブロックを含む暗褐色土の単層。

<出土遺物> 雁首1点(589)、小柄1点(590)、古寛永・新寛永併せて5枚と銭種不明1枚。

<時期> 新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓塚と思われる。

258号土坑 (第57図、写真図版41)

<位置> II C1d グリッドの北東側に位置する。

<概要> 平面形は円形、断面形はバケツ形である。改葬された状況が明瞭な断面が残る。他の遺構との重複は認められない。

<規模> 98×94cm、深さ57cm。

<堆積土> 上位から中位には黄褐色土・褐色土・黒褐色土からなり、下位は褐色土粒を含む暗褐色土が埋め戻される。

<出土遺物> 古寛永・新寛永併せて6枚と銭種不明1枚のほか、人骨片少々。

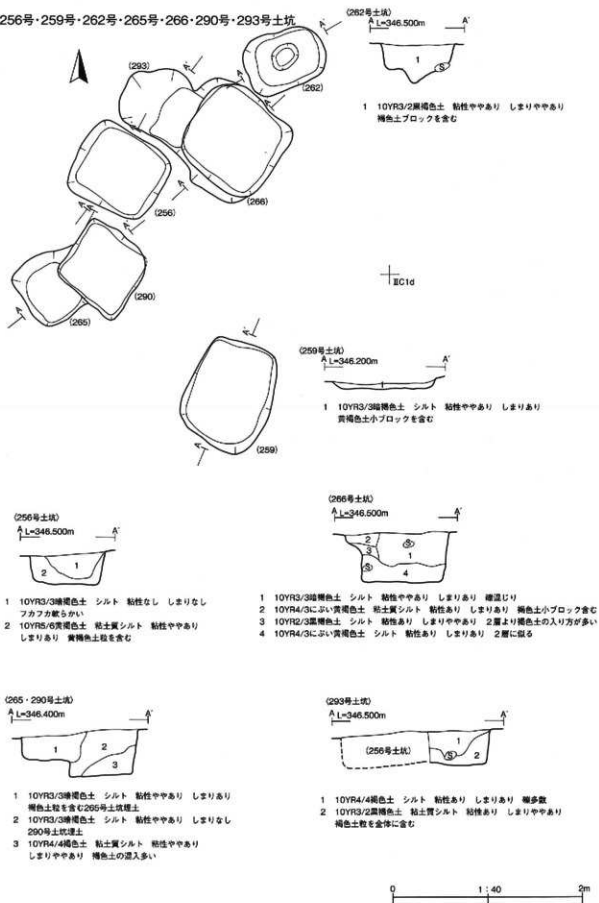
<時期> 新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓塚である。

259号土坑 (第55図、写真図版41)

<位置> I C10d グリッドの北東側。

<概要> 平面形は不整形長方形、断面形は浅い皿状である。底面は緩く波打つ。遺構間の重複はない。

256号・259号・262号・265号・266号・290号・293号土坑



第55図 256・259・262・265・266・290・293号土坑

＜規模＞126×89cm、深さ6cm。 ＜長軸方向＞N-22°-E。

＜堆積土＞黄褐色土小ブロックを含む暗褐色土の単層。

＜出土遺物＞煙管の雁首1点(603)、古寛永1枚・新寛永3枚の併せて4枚出土した。

＜時期＞新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓域である。

260号土坑(第56図、写真図版41)

＜位置＞I C10cグリッドの中央北側にある。

＜概要＞平面形は楕円形、断面形は浅皿状である。底面はほぼ平坦である。遺構間の重複なし。

＜規模＞118×77cm、深さ9cm。 ＜長軸方向＞N-21°-E。

＜堆積土＞小礫含む褐色土の単層である。

＜出土遺物＞煙管の細片2点、寛永通寶1枚と銭種不明2枚、釘6点7.2g。

＜時期＞寛永通寶の年代から、18世紀前半以降の墓域としておく。

261号土坑(第54図、写真図版39・40)

＜位置＞I C10dグリッド中央付近の墓域6基が密集する地点にある。

＜概要＞平面形は長方形、断面形は皿状であるが、底面は一部分が大きく凹む。第291号土坑と重複するが、検出状況から本遺構の方が古い。

＜規模＞117×71cm、深さ29cm。 ＜長軸方向＞N-8°-E。

＜堆積土＞小礫含む褐色土の単層である。

＜出土遺物＞煙管の細片1点、羅字3点、簪1点(610)、古寛永1枚・新寛永1枚、棺の金具5点179.1g、木片と銭貨が接着したもの1点3.2g、釘3点8.5gが出土した。

＜時期＞寛永通寶の年代から、18世紀前半以降の墓域としておく。

262号土坑(第55図、写真図版41)

＜位置＞I C10cグリッド東寄りの墓域群内にあり、その中では最も北側に位置する。

＜概要＞平面形は長方形で、底面は中央部が窪んでいる。266号土坑との重複はない。

＜規模＞85×60cm、深さ27cm。 ＜長軸方向＞N-72°-E。

＜堆積土＞褐色土ブロックを含む黒褐色土の単層である。

＜出土遺物＞乳児用の玩具のほか、一銭3枚と釘6点7.2gが出土した。

＜時期＞近代(明治期以降)の墓域である。被葬者は幼子と思われる。

263号土坑(第58図、写真図版42)

＜位置＞II C1cグリッド南東寄りにある。

＜概要＞平面形は不整長方形、断面形は逆台形状である。本遺構の南西側で276号土坑と近接するが、重複はない。

＜規模＞91×60cm、深さ27cm。 ＜長軸方向＞N-46°-E。

＜堆積土＞黒褐色土粒を含む褐色土が主体であり、最下部には黄褐色土が薄く堆積する。

＜出土遺物＞基石状の礫1点(616)と新寛永6枚。

＜時期＞新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓域である。

264号土坑 (第54図、写真図版42)

<位置> I C 10 d グリッド中央やや南東寄り。

<概要> 平面形は楕円形、断面形は浅いピーカー状である。本遺構の西側には方形の土坑群が近接。

<規模> 112×75cm、深さ47cm。 <長軸方向> N-59°-W。

<堆積土> 黄褐色土: ブロックを含む暗褐色土が主体で、人為的に埋め戻されている様子が明瞭である。

<出土遺物> 煙管の雁首の破片1点、羅字1点、古寛永・新寛永併せて4枚と破片1点。

<時期> 新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓墳である。

265号土坑 (第55図、写真図版42)

<位置> I C 10 d グリッドの北西にあり、そこから北東方向に延びる墓墳群の南端に位置する。

<概要> 平面形は不整な長方形をなす。断面形は浅いピーカー状である。近代墓墳と思われる290号土坑と重複するが、堆積土の状況から本遺構のほうが新しい。

<規模> 74×?cm、深さ26cm。 <長軸方向> 重複のため不明。

<堆積土> 褐色土粒を含む暗褐色土の単層である。

<出土遺物> 煙管1セット(627)と新寛永4枚(うち文銭2枚)、鉄一文銭数枚41.5g、一銭10枚、二銭2枚、五銭1枚の各硬貨のほか、布が付着する硬貨1枚2.8g(写真図版56掲載)。

<時期> 大正期の銭貨が出土していることから、近代(大正期以降)の墓墳である。

266号土坑 (第55図、写真図版42)

<位置> I C 10 c グリッドの南東隅寄りに位置する6基の墓墳群の中の1つである。

<概要> 平面形は方形、断面形は浅いピーカー状である。底面は平坦である。293号土坑と重複するが、本遺構のほうが新しい。<規模> 112×107cm、深さ40cm。

<堆積土> 4層に分層した。改葬時に新たに埋められた暗褐色土と、元の堆積土と思われる黒褐色土にぶい黄褐色土からなる。

<出土遺物> 煙管1セット(645)とその破片2点、何らかの金具2点(646・647)、不明鉄製品1点2.1g、釘28点78.2g、ボタン1点、ガラス瓶1点。銭貨は出土していない。

<時期> 煙管の形状など、出土遺物の特徴から近代の墓墳と思われる。

267号土坑 (第56図、写真図版43)

<位置> I C 10 c グリッドの北東隅にある。

<概要> 平面形は長方形、断面形は台形状をなす。260号土坑と南西側で近接するが重複しない。

<規模> 107×70cm、深さ34cm。 <長軸方向> N-12°-E。

<堆積土> 改葬時のものと思われる暗褐色土と、元の堆積土である黒褐色土からなる。

<出土遺物> 小柄の一部(648)と毛抜き(649)がそれぞれ1点ずつ出土した。

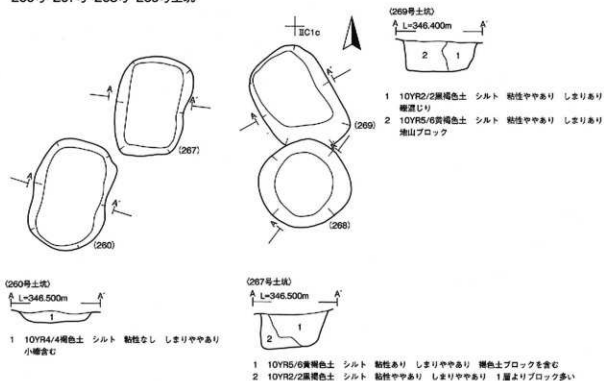
<時期> 出土した特徴から、近代の墓墳と考えられる。

268号土坑 (第56図、写真図版43)

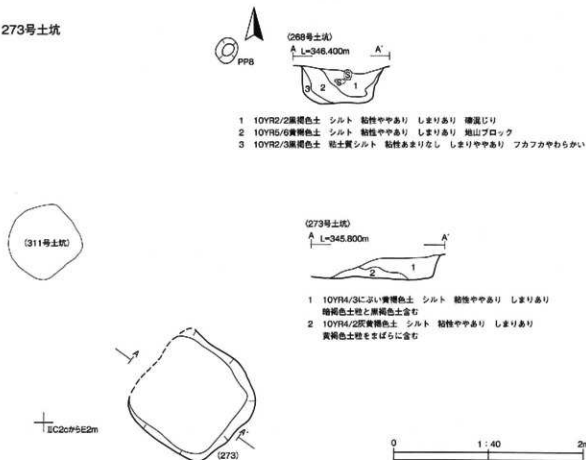
<位置> I C 10 c・II C 1 c グリッドに跨る。

<概要> 平面形は円形、断面形は浅いピーカー状をなす。北側で269号土坑と切り合うが、本遺構のほうが新しい。底面は中央部がわずかに盛り上がる。

260号・267号・268号・269号土坑



273号土坑



第56図 260・267~269・273号土坑

<規模>92×90cm、深さ37cm。

<堆積土>3層に分けられた。礫混じりの黒褐色土、地山主体の黄褐色土、しまりのない黒褐色土からなる。

<出土遺物>古寛永・新寛永合わせて4枚出土した。人骨は出土していない。

<時期>出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓墳である。

269号土坑 (第56図、写真図版43)

<位置>I C10c・II C1cグリッドに跨り、上述した268号土坑で記載の重複関係にある。

<概要>平面形は長方形、断面形は逆台形状である。底面はほぼ平坦である。

<規模>113×79cm、深さ31cm。 <長軸方向>N-37°-W。

<堆積土>改葬時のものと思われる黒褐色土と、元々の堆積土であるにぶい黄褐色土の2層からなる。

<出土遺物>煙管の雁首の細片1点(654)と、古寛永・新寛永合わせて7枚出土した。

<時期>出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓墳である。

270号土坑 (第58図、写真図版43)

<位置>II C1c・II C1dグリッドに跨る。

<概要>平面形は円形、断面形はピーカー状である。底面はほぼ平坦である。本遺構の北西側で276号土坑と重複するが、新旧は掴めなかった。

<規模>113×110cm、深さ65cm。

<堆積土>改葬時のものと思われる黒褐色土・にぶい黄褐色土と、元々の堆積土であるにぶい黄褐色土からなる。

<出土遺物>新寛永(文銭)1枚のみ出土。

<時期>出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓墳としておく。

271号土坑 (第58図、写真図版44)

<位置>II C2cグリッド西側に位置する。

<概要>平面形は長方形、断面形は逆台形状をなす。本遺構の南側に122号土坑が近接する。

<規模>110×85cm、深さ30cm。 <長軸方向>N-10°-W。

<堆積土>暗褐色土の単層である。

<出土遺物>古寛永4枚、新寛永(文銭2枚含む)3枚、釘1点59.3g、縄土土器3点35.0gのほか、焼骨片が出土している。

<時期>出土した新寛永の年代から、17世紀後半以降の墓墳としておく。

272号土坑 (第59図、写真図版44)

<位置>II C1bグリッド西側の平成19年度調査区との境にあり、確認された近世以降の墓墳群の最も北側に位置する。

<概要>平面形は不整楕円形、断面形は皿状をなし底面は波打つ。本遺構に近接する遺構はない。

<規模>97×79cm、深さ8cm。 <長軸方向>N-43°-E。

<堆積土>小礫を含む黒褐色土の単層である。

<出土遺物>古寛永・新寛永(文銭1枚)併せて3枚と釘1点0.6gである。

<時期>出土した新寛永の年代から、17世紀後半以降の墓塚としておく。

273号土坑 (第56図、写真図版44)

<位置>ⅡC2b・2cグリッドの東寄りで跨る。

<概要>平面形は方形で、北西壁を失っているため断面形は不明である。重複する遺構はない。

<規模>117×102cm、深さ21cm。

<堆積土>上位がにぶい黄褐色土、下位が灰黄褐色土の2層に分層された。

<出土遺物>煙管の細片1点、羅字1点、古寛永1枚である。

<時期>出土した古寛永の年代から、17世紀前半を含むそれ以降の墓塚としておく。

274号土坑 (第57図、写真図版44)

<位置>ⅡC2dグリッドの中央からやや北西寄りにある。

<概要>平面形は不整な長方形で、断面形はバケツ形である。312号土坑とは南西方向に70cmの距離を置く。

<規模>144×85cm、深さ56cm。 <長軸方向>N-23°-E。

<堆積土>礫を多数含む暗褐色土の単層で、改葬後であることが明瞭である。

<出土遺物>煙管1セット(674)と吸口1点(675)、銭貨は北宋銭(初鑄1039年)の皇宋元寶1枚、古寛永・新寛永併せて2枚である。

<時期>出土した新寛永の年代から、17世紀後半以降の墓塚としておく。

275号土坑 (第57図、写真図版45)

<位置>ⅡC1dグリッドの中央からやや東寄りにある。

<概要>遺構の南西側を欠くが平面形は長方形と思われる。断面形は逆台形状である。遺構の欠損は後世の擾乱による。 <規模>106×58cm、深さ30cm。 <長軸方向>N-63°-W。

<堆積土>炭化物粒をまばらに含む暗褐色土の単層である。

<出土遺物>煙管の吸口1点(675)、新寛永4枚のほか、四肢骨及び頭蓋骨片が出土した。

<時期>出土した新寛永の年代から、17世紀後半以降の墓塚としておく。

276号土坑 (第58図、写真図版45)

<位置>ⅡC1cグリッドの南側にあり、ⅡC1dグリッドにわずかに跨る。

<概要>平面形は不整な円形で、断面形は浅いピーカー状である。本遺構の南西側で270号土坑と重複する。前述のとおり新旧は不明である。

<規模>113×104cm、深さ32cm。

<堆積土>改葬時のものと思われる暗褐色土、元々の堆積土である黒褐色土の2層からなる。

<出土遺物>棺の金具1点、新寛永5枚と銭貨の細片1点、釘6点89.7g、石器剥片1点(2.3g)、縄文土器1点(11.4g)。

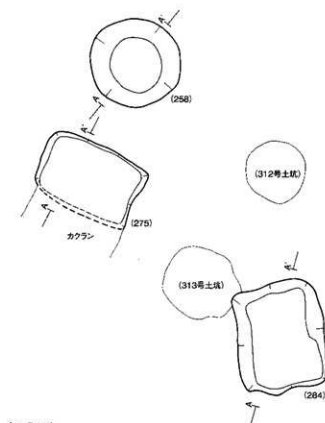
<時期>出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓塚としておく。

277号土坑 (第57図、写真図版45)

<位置>ⅡC2eグリッドの北東寄りに位置し、北側80cmに278号土坑がある。

258号・274号・275号・284号土坑

+ IC2d



(258号土坑)

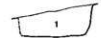
A L=346.000m



- 1 10YR4/3に多い黄褐色土 シルト 粘性ややあり しまりややあり
褐色土ブロックとの混在
- 2 10YR4/6褐色土 シルト 粘性あり しまりあり 黒褐色土粒との混在
- 3 10YR2/2黒褐色土 シルト 粘性あり しまりあまりなし ブロック状
- 4 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性ややあり しまりなし 褐色土粒を全体に含む

(275号土坑)

A L=345.800m



- 1 10YR4/4暗褐色土 シルト 粘性ややあり しまりあり
炭化物粒をまばらに含む

0 1:40 2m



(274号土坑)

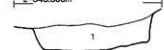
A L=345.700m



- 1 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性なし しまりややあり
礫多数含む改修済みの墓塚

(284号土坑)

A L=345.500m



- 1 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性あまりなし しまりややあり 礫混じり

277号土坑



(277号土坑)

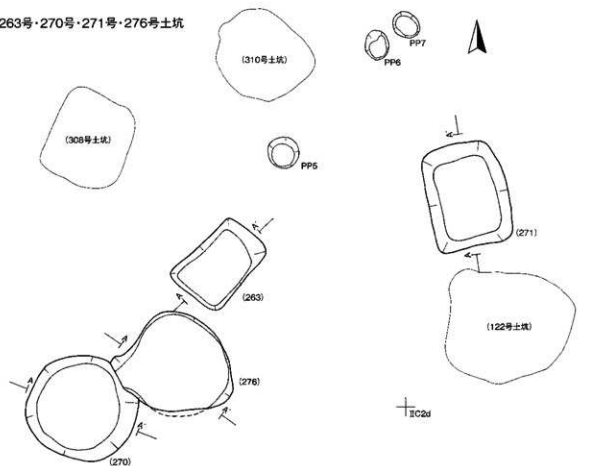
A L=344.700m



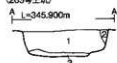
- 1 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性あまりなし しまりあり
黄褐色土粒と小礫含む

第57図 258・274・275・277・284号土坑

263号・270号・271号・276号土坑

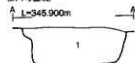


(263号土坑)



- 1 10YR4/4褐色土 シルト 粘性あり しまりややあり
黒褐色土粒を含む
- 2 10YR5/6黄褐色土 シルト 粘性あり しまりあり 地山に転る
- 3 10YR5/6黄褐色土 シルト 粘性あり しまりあり
黒褐色土粒をわずかに含む

(271号土坑)



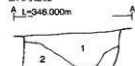
- 1 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性ややあり しまりややあり
黒褐色土と黄褐色土の混合

(270号土坑)

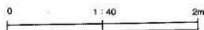


- 1 10YR3/2黒褐色土 シルト 粘性ややあり しまりあり
黄褐色土粒を含む
- 2 10YR5/4にぶい黄褐色土 砂質シルト 粘性なし しまりややあり
地山崩落ブロックを含む
- 3 10YR2/2黒褐色土 シルト 粘性ややあり しまりややあり
逆入物なし
- 4 10YR4/3にぶい黄褐色土 シルト 粘性あり しまりややあり
黄褐色土粒を全体に含む

(276号土坑)



- 1 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性あり しまりあり
黄褐色土小ブロックを含む
- 2 10YR3/2黒褐色土 シルト 粘性あり しまりややあり
1層よりも黒味が強い



第58図 263・270・271・276号土坑

<概要>平面形は長方形で、断面形は浅皿状である。重複する遺構はない。

<規模>137×98cm、深さ28cm。 <長軸方向>N-52°-E。

<堆積土>黄褐色土粒と小礫を含む暗褐色土の単層である。

<出土遺物>煙管2セット(689・690)、古寛永・新寛永併せて21枚と鉄一文銭90枚あまり281.7g、釘2点6.5gのほか、部位不明の人骨片が出土した。

<時期>出土遺物に大量の鉄銭が認められることから、18世紀中頃以降の墓塚と思われる。墓は未改葬の可能性が高い。

278号土坑(第59図、写真図版45)

<位置>II C2dグリッドの南東隅に位置する。北側50cmほどに279号土坑がある。

<概要>平面形は方形、断面形は浅皿状である。重複する遺構はない。

<規模>80×77cm、深さ22cm。

<堆積土>にぶい黄褐色土の単層で、部分的に黒褐色土を含む。

<出土遺物>煙管1セット(712)と鉄銭5枚14.9g、不明鉄製品1点。人骨は四肢骨片と焼骨などが出土した。

<時期>鉄銭が出土したことから、18世紀中頃以降としておく。

279号土坑(第59図、写真図版46)

<位置>II C2dグリッドの南東隅にあり、上述のとおり位置関係である。

<概要>平面形は長方形、断面形は浅いピーカー状である。重複する遺構はない。

<規模>114×75cm、深さ37cm。 <長軸方向>N-59°-E。

<堆積土>2層に分層される。上位は黒色土などを含む褐色土、下位は暗褐色土からなる。

<出土遺物>掲載した遺物はないが、不明鉄製品1点と鉄一文銭が5点26.9g出土している。

<時期>鉄銭が出土したことから、18世紀中頃前半以降の墓塚としておく。

280号土坑(第59図、写真図版46)

<位置>II C3dグリッドの南東側にあり、281号土坑とは南西方向に1mの距離を置く。

<概要>平面形は不整な方形で、断面形はピーカー状である。重複する遺構はない。

<規模>98×86cm、深さ61cm。 <長軸方向>N-46°-E。

<堆積土>小礫と黄褐色土粒を含む暗褐色土の単層。

<出土遺物>釘6点31.3gと頭蓋骨片が出土した。

<時期>出土した釘などから、近代の墓塚と思われるが詳細は不明である。

281号土坑(第59図、写真図版46)

<位置>II C3d・3eグリッドに跨る。

<概要>平面形は方形で、断面形は浅いピーカー状である。重複する遺構はない。

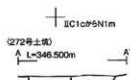
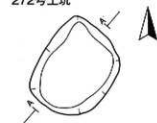
<規模>80×68cm、深さ50cm。 <長軸方向>N-45°-E。

<堆積土>小礫を全体に含む暗褐色土の単層。

<出土遺物>煙管1セット(713)、鉄銭2点10.3g、釘9点49.4g、人骨片1点。

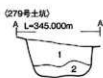
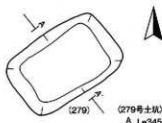
<時期>鉄銭が出土していることなどから、18世紀前半以降の墓塚と考えられる。

272号土坑



- 1 10YR3/2黒褐色土 シルト 粘性なし しまりなし 小礫多い

278号・279号土坑



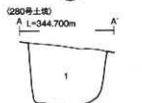
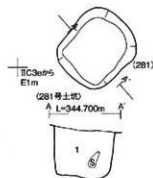
278号土坑

- 1 10YR4/3にひい黄褐色土 シルト 粘性なし しまりややあり 黄褐色土数箇小ブロック含む
2 10YR2/2黒褐色土 シルト 粘性ややあり しまりあり 黒褐色土小ブロック含む

279号土坑

- 1 10YR4/6褐色土 粘土質シルト 粘性あまりなし しまりややあり 黒色土・褐色土を含む
2 10YR3/3暗褐色土 粘土質シルト 粘性あまりなし しまりややあり

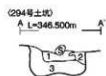
280号・281号土坑



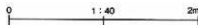
- 1 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性ややあり しまりややあり 小礫を全体に含む

- 1 10YR3/3暗褐色土 粘土質シルト 粘性ややあり しまりややあり 小礫・黄褐色土粒を含む

294号土坑



- 1 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性あり しまりなし 黄褐色土と黒褐色土の混金
2 10YR4/4褐色土 シルト 粘性あり しまりややあり 黒褐色土粒との混金
3 10YR2/2黒褐色土 シルト 粘性あり しまりややあり 黄褐色土粒を全体に含む



第59図 272・278~281・294号土坑

282号土坑 (第60図、写真図版46)

<位置> II C3e グリッド中央南寄りにある。

<概要> 平面形は不整な長方形で、断面形は浅いバケツ形である。283号土坑と隣り合うが、重複していない。この2基はあわせて改葬され、両方が同時に埋め戻されたようである。

<規模> 142×92cm、深さ56cm。 <長軸方向> N-65°-W。

<堆積土> 改葬時最初に埋め戻された黒褐色土とその後の暗褐色土からなる。

<出土遺物> 十銭硬貨1枚、石器剥片1点(13.7g)、釘1点2.2gが出土した。

<時期> 十銭の年号が判読できないことから、明治期の墓塚としておく。

283号土坑 (第60図、写真図版46・47)

<位置> II C3e グリッド南西寄りにある。

<概要> 平面形は不整な長方形で、断面形は浅いバケツ形である。

<規模> 193×95cm、深さ68cm。 <長軸方向> N-72°-W。

<堆積土> 元々の埋土である黒褐色土と改葬時に戻された暗褐色土の2層からなる。

<出土遺物> 大正期の一銭硬貨1枚、昭和の一銭硬貨3枚、昭和の年号がある十銭硬貨2枚のほか、木片やセルロイド製の髪留め(716)が出土した。

<時期> 出土した銭貨から、昭和期の墓塚である。

284号土坑 (第60図、写真図版47)

<位置> II C1d・2d グリッドの南側で跨っている。

<概要> 平面形は長方形で、断面形は浅皿状である。313号土坑と切り合うが、重複部がわずかであり新旧は掴めなかった。 <規模> 112×91cm、深さ22cm。 <長軸方向> N-10°-W。

<堆積土> 礫混じりの暗褐色土の単層である。

<出土遺物> 煙管1セット(723)、古寛永・新寛永(文銭1枚)併せて8枚と銭種不明1枚、人骨片などが出土した。

<時期> 出土した新寛永の年代から、17世紀後半以降の墓塚と思われる。

285号土坑 (第60図、写真図版47)

<位置> II C3f グリッド北東寄りにある。

<概要> 平面形は長方形で、断面形は浅い皿状である。他の遺構との重複はないが、北東方向1.5mにある286号土坑とともに小型の重機により改葬されたような状況である。

<規模> 108×89cm、深さ43cm。 <長軸方向> N-54°-E。

<堆積土> 暗褐色土の単層である。 <出土遺物> 頭蓋骨片。

<時期> 人骨以外に副葬品が見られないが、近代の墓塚と思われる。

286号土坑 (第60図、写真図版47)

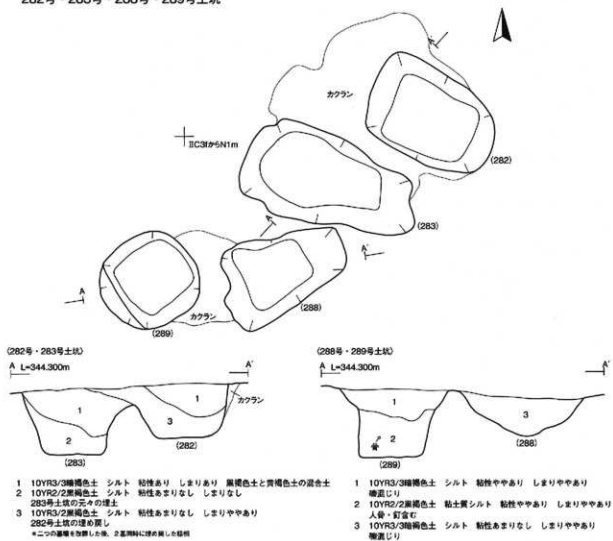
<位置> II C4e グリッド南西隅にある。

<概要> 平面形は長方形で、断面形はごく浅い皿状である。 <規模> 124×68cm、深さ30cm。

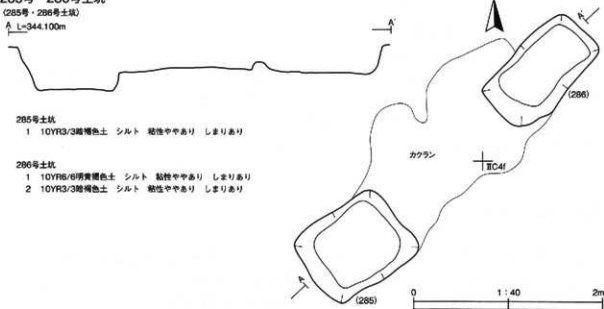
<長軸方向> N-48°-W。 <堆積土> 暗褐色土と明黄褐色土からなる。

<出土遺物> 昭和22年の50銭硬貨1枚と模造銭かと思われるもの1枚1.9g。

282号・283号・288号・289号土坑



285号・286号土坑



第60図 282・283・285・286・288・289号土坑

<時期>出土した銭貨から、近代の墓塚である。

287号土坑 (第54図、写真図版48)

<位置> I C9 d・10 d グリッドに跨っており、このグリッドに位置する4基の墓塚が重複する箇所
の西側に近接する。

<概要>平面形は方形で、断面形はピーカー状。底面は平坦である。他の遺構との重複はない。

<規模>108×89cm、深さ43cm。

<堆積土>3層に分層した。2・3層は元の堆積土である暗褐色土で、1層は改葬時に埋められたに
おい黄褐色土である。このことから、その際の掘削は遺構の下面には及んでいないようである。

<出土遺物>雁首・吸口に細工が施される煙管1セット(734)と明治期の一銭硬貨が5枚、釘19点
187.5gと四肢骨・頭蓋骨片が出土した。

<時期>出土した銭貨から、近代の墓塚である。

288号土坑 (第60図、写真図版48)

<位置> II C3 f グリッドの北西隅にあり、西側に289号土坑がつながるようにある。

<概要>平面形は不整な長方形状で、断面形は皿状である。重複する遺構はない。

<規模>140×78cm、深さ39cm。 <長軸方向> N-68°-E。

<堆積土>礫混じりの暗褐色土の単層。

<出土遺物>釣具のビーズ玉様のもの4ヶと釘2点3.4g。

<時期>近代の墓塚と思われる。

289号土坑 (第60図、写真図版48)

<位置> II C2 f グリッドの北東隅にある。

<概要>平面形は方形、断面形はピーカー状である。重複する遺構はない。

<規模>102×96cm、深さ72cm。

<堆積土>2層に分層される。上位は礫混じりの暗褐色土、中位以下は人骨を含む黒褐色土である。

<出土遺物>四肢骨片と石器剥片2.4g、釘など。

<時期>棺の釘と思われる遺物が出土していることから、近代の墓塚と思われる。

290号土坑 (第55図、写真図版42・48)

<位置> I C10 c・10 d グリッドに跨る。本遺構の北東に延びる墓塚群の南側に位置する。

<概要>平面形は不整な方形、断面形はバケツ形と思われる。近代墓塚の265号土坑に切られる。

<規模>80×78cm、深さ48cm。

<堆積土>2層に分けられ、改葬前の褐色土とその後の暗褐色土からなる。

<出土遺物>明治期の一銭1枚、大正期の一銭9枚、年号が不明の一銭1枚、計11枚。

<時期>大正期の銭貨が出土していることから、近代(大正期以降)の墓塚である。

291号土坑 (第54図、写真図版39・40)

<位置> I C10 d グリッド中央やや西寄りの墓塚6基が集中する箇所にある。

<概要>平面形は不整形、断面形はバケツ形である。底面はやわずかに丸みをもつ。261号土坑と

重複するが、本遺構の方が新しい。 <規模>76×73cm、深さ53cm。

<堆積土>褐色土粒及び大形の礫を含むにぶい黄褐色土の単層である。

<出土遺物>明治期の一銭硬貨2枚、半銭3枚、古寛永・新寛永が合わせて29枚出土した。

<時期>明治期の銭貨を含むことから、近代の墓塚としておく。

292号土坑 (第54図、写真図版39・40)

<位置>これもI C10dグリッド中央やや西寄りの墓塚6基が集中する箇所にある。

<概要>遺構の南西側が255号土坑に、北東側が291号土坑に、南東側はPP9に切られている。

そのため平面形は定かでないが、方形か長方形と思われる。断面形はバケツ形か。

<規模>深さ55cm。 <長軸方向>N-9°-E。

<堆積土>地山崩落土を含む黒褐色土の単層である。

<出土遺物>なし。

<時期>形状から近世以降の墓塚としておく。時期は不明である。

293号土坑 (第55図、写真図版49)

<位置>I C10cグリッドの南西隅にある。

<概要>平面形は266号土坑と重複するため不明、断面形は浅いピーカー状である。本遺構のほうが古い。 <規模>72×?cm、深さ36cm。

<堆積土>上位が褐色土、下位が褐色土粒を含む黒褐色土の2層からなる。

<出土遺物>なし。

<時期>形状などから近世以降の墓塚とした。時期は不明確である。

294号土坑 (第59図、写真図版49)

<位置>I C9fグリッドの南西隅にある。

<概要>平面形は不整形、断面形は浅いピーカー状である。

<規模>63×56cm、深さ30cm。

<堆積土>暗褐色土、褐色土、黄褐色土粒を含む黒褐色土の3層からなり人為的に埋め戻されている。

<出土遺物>なし。

<時期>形状などから近世以降の墓塚とする。

302号土坑 (第61図、写真図版49)

<位置>I C8iグリッドの中央やや東寄りにある。

<概要>平面形は不整形長方形、断面形は浅皿状である。他の遺構との重複は認められない。

<規模>90×56cm、深さ9cm。 <長軸方向>N-20°-W。

<堆積土>黒褐色土の単層である。 <出土遺物>なし。

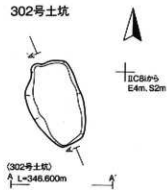
<時期>時期不明の土坑である。

303号土坑 (第61図、写真図版49)

<位置>I C8fグリッド北西端、225号土坑の北東側3mほどにある。

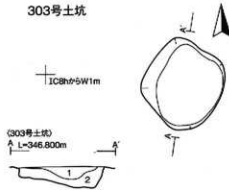
<概要>平面形は不整形円形、断面形は皿状である。他の遺構との重複は認められない。

302号土坑



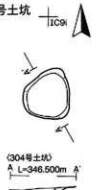
1 10YR2/2黒褐色土 シルト 粘性ややあり しまりなし

303号土坑



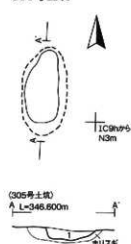
1 10YR2/3黒褐色土 シルト 粘性ややあり しまりややあり
2 10YR3/4暗褐色土 シルト 粘性ややあり しまりあり

304号土坑



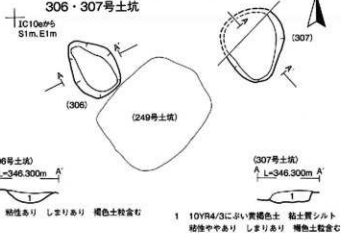
1 10YR4/4褐色土 シルト 粘性あり
しまりややあり 黒褐色土ブロックを部分的に含む

305号土坑



1 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性ややあり しまりややあり 黒褐色土と暗褐色土の混合物

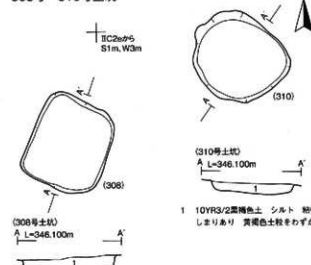
306・307号土坑



1 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性あり しまりあり 褐色土粒を含む

1 10YR4/3に似る黄褐色土 粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 褐色土粒を含む

308号・310号土坑

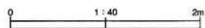


1 10YR4/3に似る黄褐色土 シルト 粘性ややあり
しまりあり 褐色土ブロックを含む

309号土坑



1 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性ややあり
しまりややあり 地山崩落土を含む



第61図 302～310号土坑

<規模>82×82cm、深さ22cm。 <長軸方向>N-20°-E。
<堆積土>中央部は黒褐色土、その周りと下位にかけては暗褐色土が堆積する。
<出土遺物>なし。
<時期>時期不明の土坑である。

304号土坑 (第61図、写真図版50)

<位置>I C9 i グリッド北西端付近にある。
<概要>平面形は不整円形、断面形はごく浅い皿状である。他の遺構との重複は認められない。
<規模>51×51cm、深さ7cm。
<堆積土>黒褐色土ブロックを部分的に含む褐色土の単層である。
<出土遺物>なし。
<時期>時期不明の土坑である。

305号土坑 (第61図、写真図版50)

<位置>I C8 g グリッド西端にある。
<概要>平面形は不整形、断面形は浅い皿状である。他の遺構との重複は認められない。遺構の上部を掘りすぎたため、全体の規模は不明である。
<規模>深さ9cm。 <長軸方向>N-9°-E。
<堆積土>暗褐色土の単層である。 <出土遺物>なし。
<時期>時期不明の土坑である。

306号土坑 (第61図、写真図版50)

<位置>I C10 e グリッド中央からやや北西寄りにある。
<概要>平面形は不整形、断面形は浅い皿状である。249号土坑と近接する。
<規模>66×48cm、深さ9cm。 <長軸方向>N-37°-W。
<堆積土>褐色土粒を含む暗褐色土の単層である。
<出土遺物>なし。
<時期>時期不明の土坑である。

307号土坑 (第61図、写真図版50)

<位置>I C10 e グリッドの北東寄りにある。
<概要>平面形は不整形、断面形は浅い皿状である。遺構の北西側を掘りすぎたため、全体規模が不明である。 <規模>69×?cm、深さ11cm。
<堆積土>褐色土粒を含むにぶい黄褐色土の単層である。
<出土遺物>なし。
<時期>時期不明の土坑である。

308号土坑 (第61図、写真図版51)

<概要>平面形は方形、断面形は浅皿状である。遺構間の重複はない。
<規模>96×72cm、深さ12cm。 <長軸方向>N-25°-E。

<堆積土>褐色土ブロックを含むふい黄褐色土の単層である。

<出土遺物>なし。

<時期>時期不明の土坑である。

309号土坑 (第61図、写真図版51)

<位置> I C10g グリッド北西寄りに位置する。

<概要>平面形は長方形、断面形は浅皿状である。遺構間の重複はない。

<規模>105×75cm、深さ21cm。 <長軸方向>N-26°-E。

<堆積土>地山崩落土を含む暗褐色土の単層である。

<出土遺物>なし。

<時期>時期不明の土坑である。

310号土坑 (第61図、写真図版51)

<位置> II C1c グリッド北東寄りに位置する。

<概要>平面形は不整形、断面形は浅い皿状である。遺構間の重複はない。

<規模>100×87cm、深さ11cm。

<堆積土>黄褐色土粒を含む黒褐色土の単層である。

<出土遺物>なし。

<時期>時期不明の土坑である。

311号土坑 (第62図、写真図版51)

<位置> II C2b グリッド中央わずかに南西寄りにある。

<概要>平面形は不整形、断面形は浅いピーカー状である。重複はない。

<規模>74×72cm、深さ34cm。

<堆積土>黄褐色土粒を含む黒褐色土の単層である。

<出土遺物>石器剥片1点15.9g。

<時期>縄文時代に属すると思われる剥片が1点出土したが、時期不明とした。

312号土坑 (第62図、写真図版52)

<位置> II C1d・2d グリッドに跨る。

<概要>平面形は円形、断面形は皿状で、重複はない。

<規模>63×62cm、深さ20cm。

<堆積土>炭化物粒を含む暗褐色土の単層である。

<出土遺物>なし。

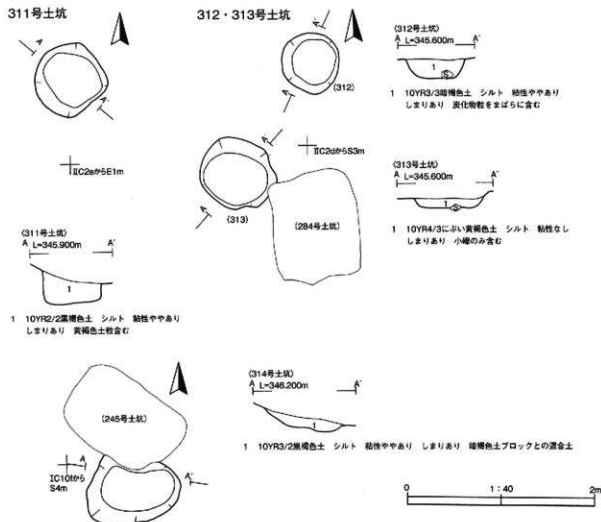
<時期>時期不明の土坑である。

313号土坑 (第62図、写真図版52)

<位置> II C1d グリッド南東側に跨る。

<概要>平面形は円形、断面形は皿状である。重複はない。

<規模>83×72cm、深さ10cm。



第62図 311～314号土坑

<堆積土>小礫含むに黄褐色土の単層である。

<出土遺物>なし。

<時期>時期不明の土坑である。

314号土坑 (第62図、写真版52)

<位置> IC10 f グリッド南西隅にある。

<概要>平面形は不整楕円形、断面形は浅皿状である。底面は波打つ。245号土坑と重複するが、本遺構のほうが古い。

<規模> ? × 102cm、深さ14cm。 <長軸方向> N-84°-E。

<堆積土>暗褐色土ブロックと黒褐色土の混泥土である。

<出土遺物>縄文土器3点10.1g出土した。

<時期>縄文時代の土器片が1点出土しているが、時期不明の土坑とした。

c 柱穴状小土坑

墓塚群の中を主体として9個検出された。いずれも出土遺物がなく、また掘立柱建物を構成する配置のものもない。規模等の詳細は一覧表に詳しいを記載した。

第12表 柱穴状小土坑観察表

遺構名	グリッド	長さ (cm)	幅径 (cm)	深さ (cm)	底部標高 (m)	埋 土
P71	I C 9 e	35	33			10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性やや有 しまり有 黄褐色土粒含む
P72	I C 9 e	27	25	42.7		10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有 しまり有
P73	I C 10 d	25	22	37.9	345.641	10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有 しまり有
P74	II C 1 d	30	26			10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有 しまりあり 炭化物粒含む
P75	II C 1 e	34	32	19.1	345.725	10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有 しまりあり
P76	II C 1 e	34	23	22.5	345.652	10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有 しまりあり
P77	II C 1 e	31	26	22.2	345.648	10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有 しまりあり
P78	II C 2 b	25	22	12.4	345.585	10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有 しまりあり
P79	I C 10 d	32	30	63.2	345.790	

(2) 遺 物

平成20年度調査で出土した遺物は、当センター収納用中コンテナ（容量28ℓ）3箱である。内訳は、縄文土器2袋およそ1,500g、石器剥片11点68.8g、副葬銭373枚と100枚を超える鉄銭（寛永通寶）、銭貨・釘類を除く箸や和鋏などの金属製品32点、棺の金具や鉄釘類894.4g、漆器の漆膜、玩具、ボタン、ビーズ玉などで、その他墓境内に残された人骨が中コンテナ2箱分出土した。

以下に主要な遺物の詳細を記す。

a 銭貨（第63～77図、写真図版57～62）

掲載した355枚の銭種には、渡来銭である北宋銭2枚、（元豊通寶：初鋳1078年、皇宋通寶：初鋳1039年各1枚ずつ）、国内銭では寛永通寶銅一文銭272枚（「古寛永」147枚、文銭以降の「新寛永」か58枚、いずれか不明のもの6枚）、それ以外の近世の国内銭である寶永通寶1枚、二銭や五銭、十銭などの明治以降の硬貨52枚、明治期以降に属さない銭種不明の銭貨28枚がある。また、写真掲載したものには、寛永通寶鉄一文銭と思われる100枚前後468.3gの一部、寛永通寶17枚からなる緋銭1本58.1g、ガーゼのような布が付着する硬貨1枚2.8gがある。さらに、材質不明の摸造銭かと思われるものが1点1.9g、採掘出来ない銭貨の細片が18.5g出土した。

出土した銭貨の種類を検討することは、被葬者が埋葬された年代を決定する根拠となるが、今回の調査では改葬、未改葬のものが混在しており、全体として墓塚の年代観を明確に示すことは不可能である。だが、墓塚の形状なども加えて考察することで、「近世に属する墓塚」と「明治期以降に属する墓塚」程度の大まかな分類は可能となろうが、これについては後述する。

なお、銭貨が認められた墓塚は72基中58基（80%）で、当時の習俗として銭貨の埋納は当然のごとく行われてきたものであることがわかる。

b 煙管（第63～76図、写真図版53～56）

掲載した煙管は64点で、いずれも雁首と吸口が竹製の羅字で繋がる羅字煙管と思われるものである。そのうち、雁首と吸口がセットで出土しているものが27組あり、副葬品の残存状況は良好と言えよう。また、煙管が副葬されていた墓塚は72基中33基（46%）で、当時の喫煙習慣の一端が窺える。19年度同様、今回出土した煙管を古泉氏の分類に照らしてみれば、いずれも雁首の補強体が明瞭でないことから、IV段階18世紀後半を主体として、V段階19世紀に属するものが多いようである。特徴的な煙管としては、372・429・448・557・734などのように、幾何学的な模様細工が入るものが挙げられる。

c 金属製品 (第63～73図、写真図版53～56)

銭貨や釘類を除く金属製品32点のうち、鉄製品は17点である。内訳は和鉄4点(374・375・449・475)、毛抜き1点(649)、刀子などの刃物類4点(376・460・461・473)、火打金3点(377・378・523)、環状製品1点(556)、棒状のものを含む不明鉄製品4点などである。この他に、それぞれの墓壇から出土した棺の鉄釘と金具類があるが、これらは重量計測だけを行い本書には掲載しなかった。鉄釘は木質部が取り付けられているものが多く、角釘・頭折釘などがあった。

銅製品には、柄鏡3枚、方形鏡1枚、円形鏡(紐鏡)1枚、小柄3点の計8点がある。方形鏡(466)には上下2箇所、円形鏡(506)には中央部に1箇所、紐を通す箇所があり、いずれも年代的には柄鏡のよりも古い形態とされている。

銀製品は簪6点(542・559～562・610)と筭1点(558)の計7点で、560は耳かきが残る。いずれもにおい色合いである。

d 陶磁器 (第65・69・70図、写真図版54・55)

墓壇の副葬品である3点のみ掲載した。近代以降の陶磁器については掲載していない。403は234号土坑出土の肥前産陶器碗の底部破片である。年代は18世紀代か。515も肥前産陶器で器種は小坏、250号土坑から出土した。草花文が描かれるが、年代は403よりは古く17世紀中頃か。541は254号土坑から出土した餌猪口とも呼ばれる煎入れである。大堀・相馬産、19世紀前半から中頃のものである。

e 木製品 (第67・69図、写真図版54・55)

木櫛の一部が2点(462・499)出土した。被葬者を女性とする根拠と出来るか。樹種は不明である。

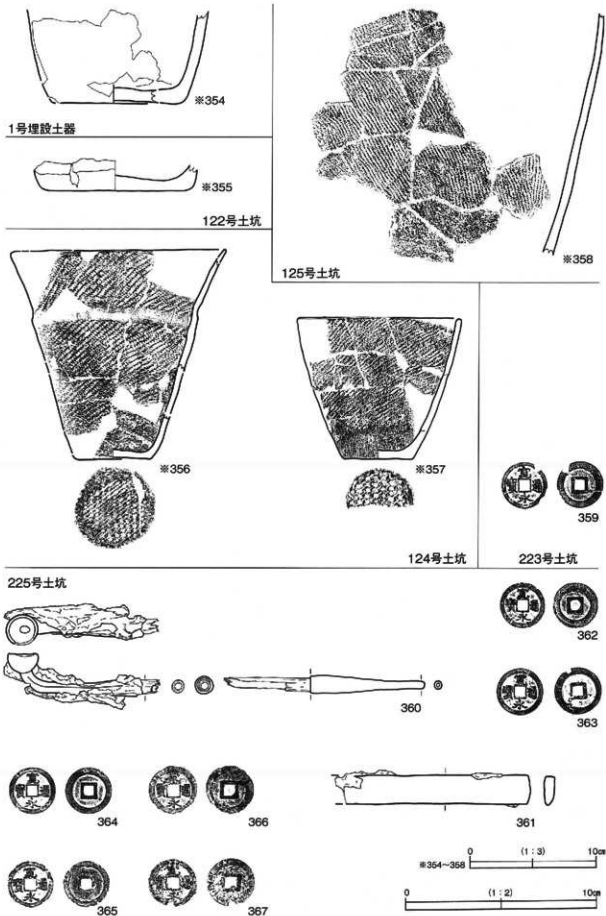
f 石製品 (第67・72図、写真図版54・56)

使い込まれた硯1点(452)と碁石状の礫(616)が1点出土した。

g その他 (第75図、写真図版56)

上記以外の副葬品を挙げてみる。釣具にあるような赤いビーズ玉4点1例、いわゆる「ガラガラ」と呼ばれる玩具1点1例、Yシャツのボタン1点1例、ガラス瓶1点1例、セルロイド製の髪留め1点1例(716)。このことから、被葬者は子供や女性であったことがわかる。改葬され残ったものか、あるいはお骨だけが拾われたものか。

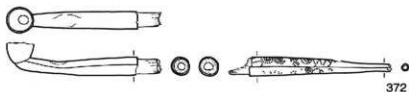
なお、調査の際に出土した人骨は、当センターの中コンテナ(容量28ℓ)2箱ほどになったが、調査後には人骨の鑑定等を行わず、野外調査中に筆者が部位等を記録したものである。その後の人骨の取扱いについては、既述のとおりである。



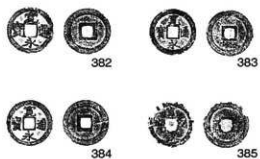
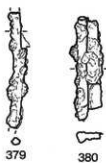
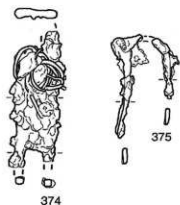
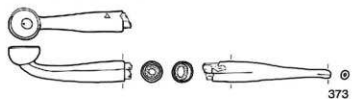
第63図 遺構内出土遺物 (17)



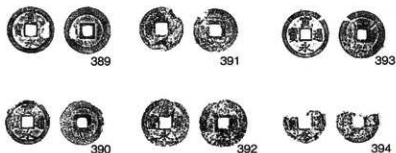
228号土坑



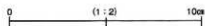
230号土坑



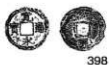
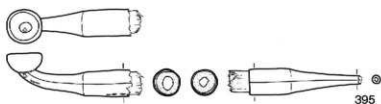
232号土坑



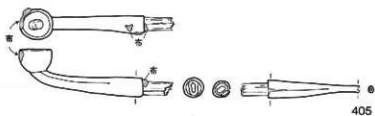
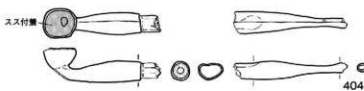
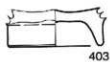
231号土坑



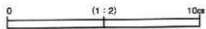
第64回 遺構内出土遺物 (18)



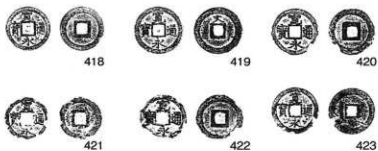
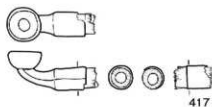
233号土坑



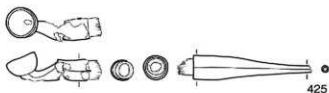
234号土坑



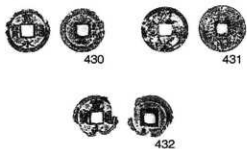
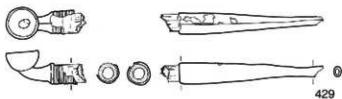
第65図 遺構内出土遺物 (19)



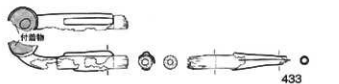
236号土坑



237号土坑



238号土坑



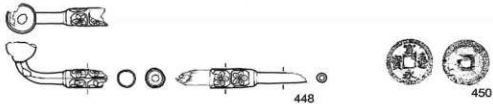
239号土坑



第66図 遺構内出土遺物 (20)



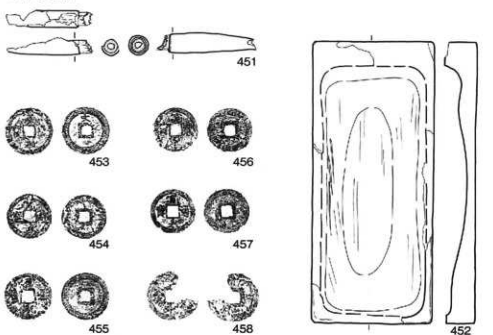
241号土坑



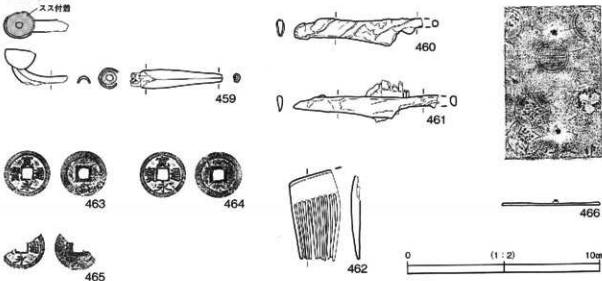
240号土坑



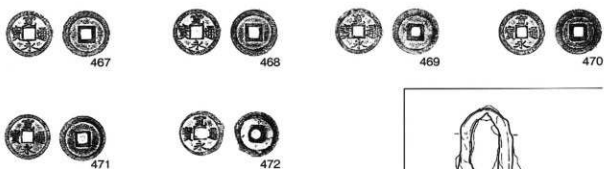
242号土坑



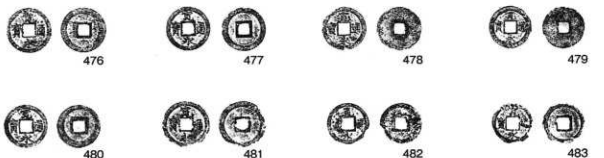
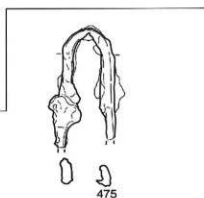
243号土坑



第67図 遺構内出土遺物 (21)

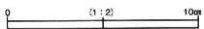
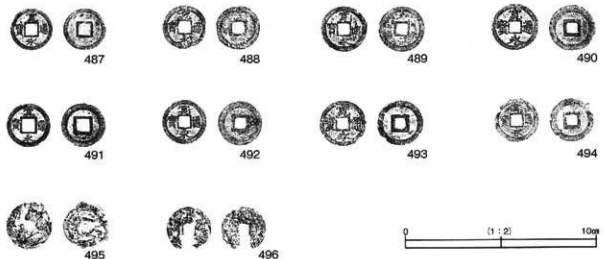
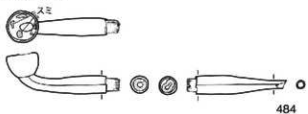


244号土坑

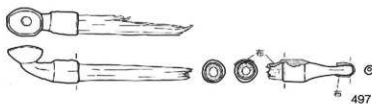


245号土坑

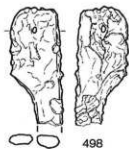
246号土坑



第68図 遺構内出土遺物 (22)



497



498



500

501

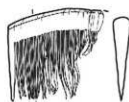
502



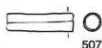
503

504

505



499



507

248号土坑



508

509

510



511

512

513

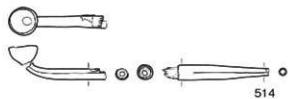


249号土坑

247号土坑



506



514



516

517



518

519

250号土坑

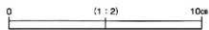


515

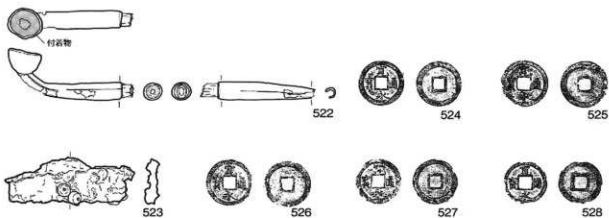


520

521

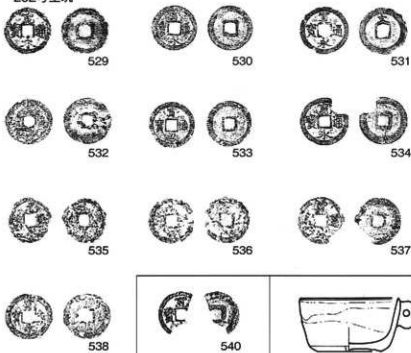


第69図 遺構内出土遺物 (23)



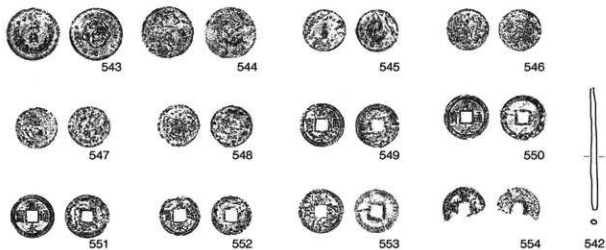
251号土坑

252号土坑

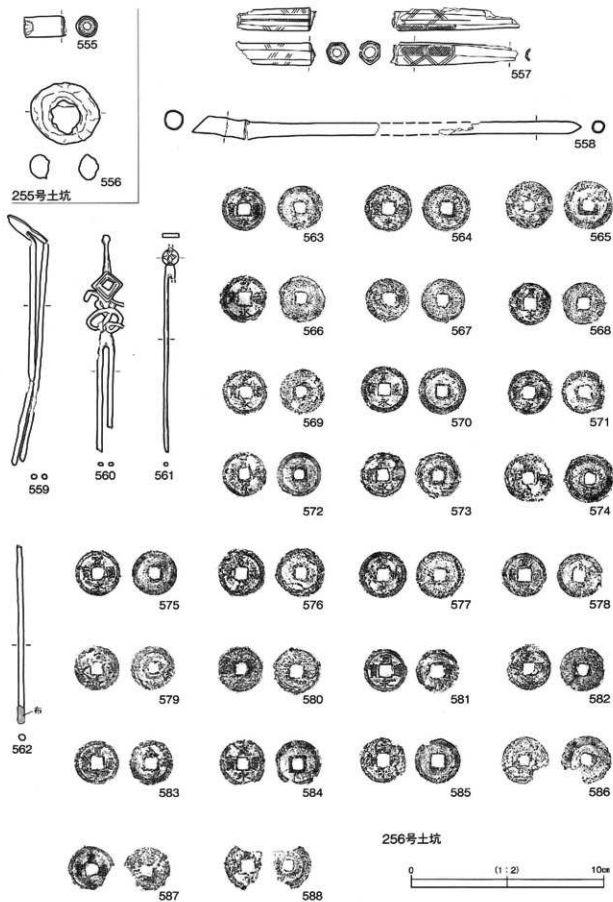


253号土坑

254号土坑



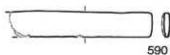
第70回 遺構内出土遺物 (24)



第71図 遺構内出土遺物 (25)



589



590



591



592



593



594



595

258号土坑



596



597



598



599



600



601



602



604



605



603



606



607

262号土坑



613



614



615



617



618



619



623



624



621



625



626

257号土坑



608



609

260号土坑



611



612

261号土坑



610



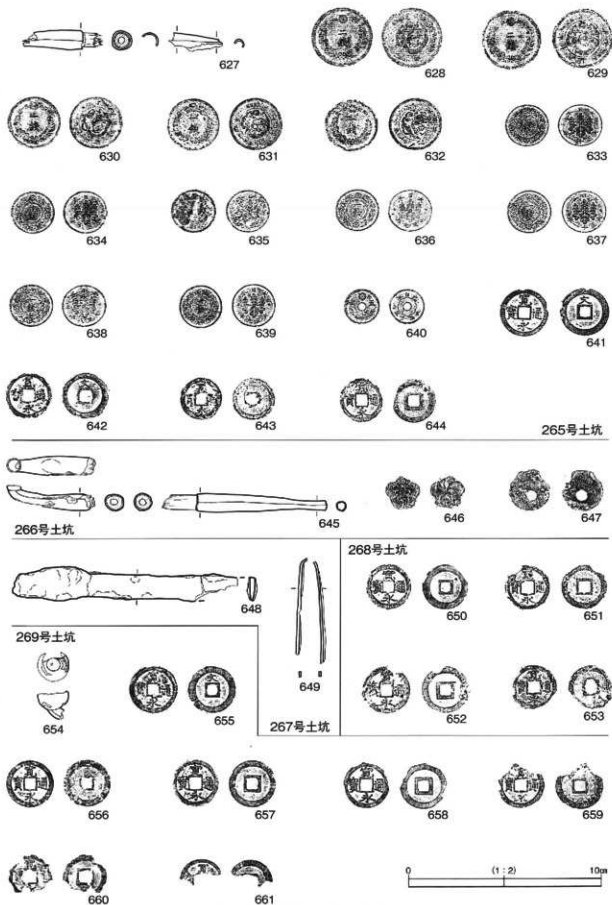
616

263号土坑

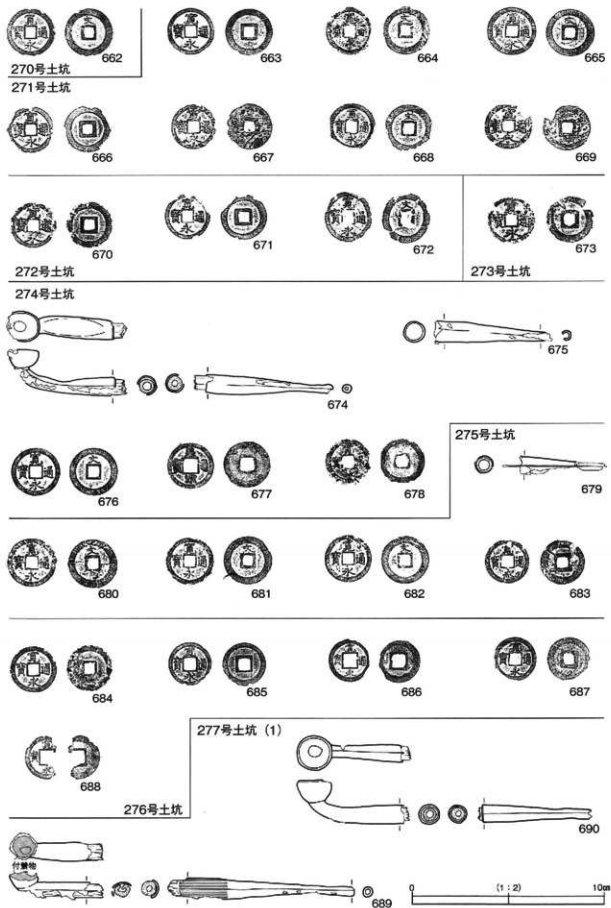


264号土坑

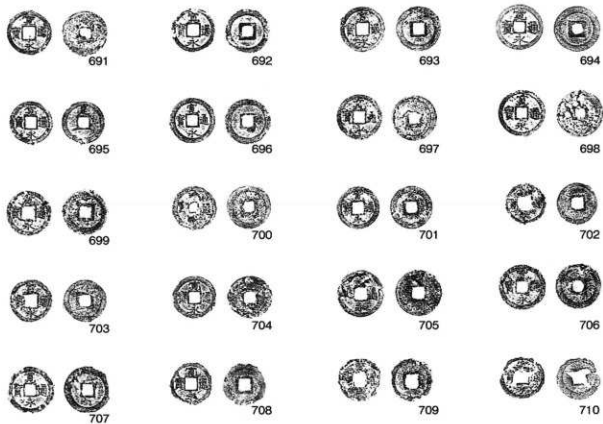
第72号 溝構内出土遺物 (26)



第73図 遺構内出土遺物 (27)



第74図 遺構内出土遺物 (28)



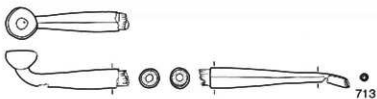
272号土坑 (2)



278号土坑



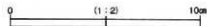
282号土坑



281号土坑



282号・283号土坑

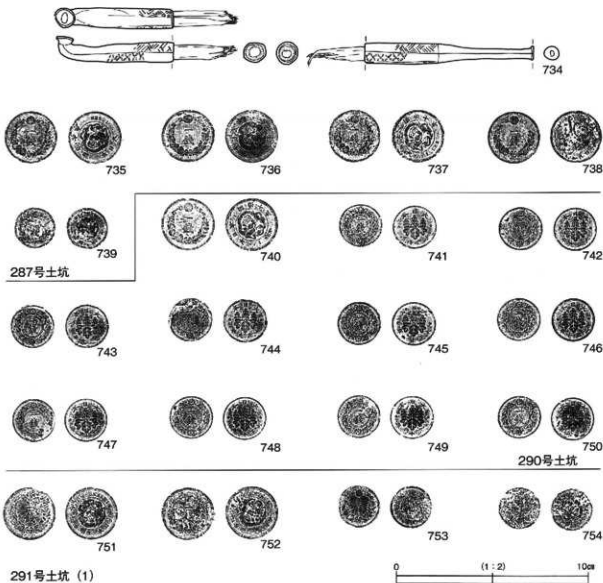
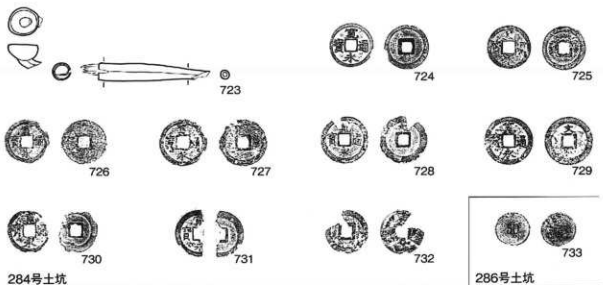


283号土坑

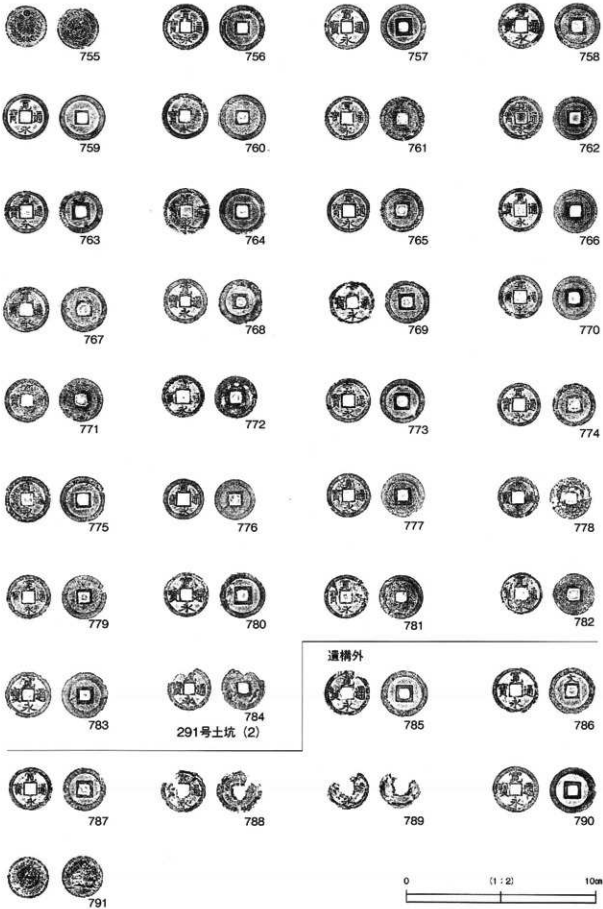


716

第75図 遺構内出土遺物 (29)



第76図 遺構内出土遺物 (30)



第77図 遺構内出土遺物 (31)・遺構外出土銭貨

第13表 平成20年度出土遺物調査表（縄文時代）

掲載番号	発掘番号	出土地点	層位	器種	部位	外形（文様・裝飾、長さ・直径）	内面	付属物	分類	その他
354	79-101	舟十郎岡改遺構	埋土	深鉢	底部	無文	ナデ			表面に刷代痕等なし
355	80-122	舟十郎岡改遺構	埋土	深鉢	底部	無文	ナデ			底面に刷代痕等なし
356	82-124	舟十郎岡改遺構	埋土	深鉢	口～底部	山縁と胴部縁に段 0段多本（L形）	ミガキ			内外面スス
357	81-124	舟十郎岡改遺構	埋土	深鉢	口～底部	小形 0段多本（L形）	ミガキ			
358	83-125	舟十郎岡改遺構	埋土	深鉢	胴縁	無	ナデ			

第14表 平成20年度出土遺物調査表（縄文時代）

掲載番号	発掘番号	出土地点	層位	素材	径（cm）	重量（g）	特徴	初検定年代	その他
359	2-1	223号土坑	埋土	銅	2.40	2.40	裏水通貫	古	
360	4-1	225号土坑	埋土	銅	2.40	2.80	裏水通貫	古?	
361	362	4-2	225号土坑	埋土	2.45	3.10	裏水通貫	古	
362	361	4-3	225号土坑	埋土	2.40	3.40	裏水通貫	古	
363	365	4-4	225号土坑	埋土	2.40	2.80	裏水通貫	古	
364	366	4-5	225号土坑	埋土	2.50	3.00	裏水通貫	古?	
365	367	4-6	225号土坑	埋土	2.50	2.10	裏水通貫	古?	
366	91	228号土坑	埋土	銅	2.30	3.00	元巻通貫	古?	
367	370	9-2	229号土坑	埋土	2.50	2.10	裏水通貫	古?	
368	371	9-3	228号土坑	埋土	2.55	1.20	裏水通貫	古	
369	381	13-1	231号土坑	埋土	3.70	8.20	裏水通貫	古	
370	382	13-2	231号土坑	埋土	2.40	2.70	裏水通貫	古	
371	383	13-3	231号土坑	埋土	2.40	3.20	裏水通貫	古	
372	384	13-4	231号土坑	埋土	2.85	2.60	裏水通貫	新	
373	385	13-5	231号土坑	埋土	2.40	1.90	裏水通貫	新?古?	
374	386	13-6	231号土坑	埋土	2.40	2.40	裏水通貫	新	
375	387	13-7	231号土坑	埋土	2.40	2.40	?		
376	389	14-1	232号土坑	埋土	2.45	2.70	裏水通貫	新	
377	390	14-2	232号土坑	埋土	2.30	2.90	裏水通貫	古?	
378	391	14-3	232号土坑	埋土	2.30	2.70	?		
379	392	14-4	232号土坑	埋土	2.40	1.70	裏水通貫	古?	
380	393	14-5	232号土坑	埋土	2.40	2.00	裏水通貫	古	
381	394	14-6	232号土坑	埋土	2.25	2.90	裏水通貫	新	
382	396	15-1	233号土坑	埋土	2.30	2.80	裏水通貫	新	
383	397	15-2	233号土坑	埋土	2.40	2.80	裏水通貫	新	
384	398	15-3	233号土坑	埋土	2.30	2.50	裏水通貫	新	
385	399	15-4	233号土坑	埋土	2.30	1.80	裏水通貫	新	
386	400	15-5	233号土坑	埋土	2.00	1.60	裏水通貫	古?新?	
387	401	15-6	233号土坑	埋土	2.35	2.40	裏水通貫	古?新?	
388	402	15-7	233号土坑	埋土	2.10	1.10	裏水通貫	新	

図録番号	登録番号	出土地点	形状	素材	径 (cm)	重量 (g)	類別	初出年代	その他
407	16-1	224号土坑	埴土	銅	2.50	3.30	寛永通寶	17世紀後	
408	16-2	224号土坑	埴土	銅	2.30	2.30	寛永通寶	18世紀前	
409	16-3	224号土坑	埴土	銅	2.40	2.40	寛永通寶	17世紀後	
410	16-4	224号土坑	埴土	銅	2.40	3.40	寛永通寶	18世紀前	
411	16-5	224号土坑	埴土	銅	2.30	1.90	寛永通寶	17世紀後	
412	16-6	224号土坑	埴土	銅	2.30	3.80	寛永通寶	古?新?	
413	16-7	224号土坑	埴土	銅	2.40	3.30	寛永通寶	古?新?	
414	16-8	224号土坑	埴土	銅	2.40	2.60	寛永通寶		
415	16-9	224号土坑	埴土	銅	2.40	3.10	寛永通寶	古	18世紀前
416	16-10	224号土坑	埴土	銅	2.30	3.80	寛永通寶	古	18世紀前
418	18-1	226号土坑	埴土	銅	2.30	2.60	寛永通寶	新	18世紀前
419	18-2	226号土坑	埴土	銅	2.40	3.90	寛永通寶	新	17世紀前
420	18-3	226号土坑	埴土	銅	2.40	3.30	寛永通寶	古	17世紀後
421	18-4	226号土坑	埴土	銅	2.30	2.30	寛永通寶	古	17世紀後
422	18-5	226号土坑	埴土	銅	2.40	2.00	寛永通寶	古	17世紀前
423	18-6	226号土坑	埴土	銅	2.40	2.00	寛永通寶	新	18世紀前
426	19-1	227号土坑	埴土	銅	2.25	2.10	寛永通寶	新	18世紀前
427	19-2	227号土坑	埴土	銅	2.40	1.80	寛永通寶	古?新?	
428	19-3	227号土坑	埴土	銅	2.40	1.80	寛永通寶	新	17世紀
430	20-1	228号土坑	埴土	銅	2.30	1.50	寛永通寶	新	18世紀前
431	20-2	228号土坑	埴土	銅	2.40	2.50	寛永通寶	古?新?	
432	20-3	228号土坑	埴土	銅	2.10	1.60	寛永通寶	古?	
434	21-1	229号土坑	埴土	銅	2.45	3.00	寛永通寶	古	17世紀中
435	21-2	229号土坑	埴土	銅	2.50	3.40	寛永通寶	新	17世紀後
436	21-3	229号土坑	埴土	銅	2.50	2.90	寛永通寶	新	17世紀後
437	21-4	229号土坑	埴土	銅	2.50	3.10	寛永通寶	新	17世紀後
438	21-5	229号土坑	埴土	銅	2.50	2.70	寛永通寶	新	17世紀後
439	21-6	229号土坑	埴土	銅	2.40	2.10	寛永通寶	新	17世紀後
440	21-7	229号土坑	埴土	銅	?	0.90	寛永通寶	古?新?	
441	21-8	229号土坑	埴土	銅	2.30	1.50	寛永通寶	古?新?	
442	21-9	229号土坑	埴土	銅	2.30	1.10	寛永通寶	古?	
443	22-1	240号土坑	埴土	銅	2.30	2.00	寛永通寶	新	17世紀後
444	22-2	240号土坑	埴土	銅	2.30	1.90	寛永通寶	古?新?	
445	22-3	240号土坑	埴土	銅	2.30	1.80	寛永通寶	古	17世紀前
446	22-4	240号土坑	埴土	銅	2.40	1.30	寛永通寶	新	17世紀後
447	22-5	240号土坑	埴土	銅	2.30	0.70	寛永通寶	新	17世紀後
450	23-1	241号土坑	埴土	銅	2.40	2.00	寛永通寶	古	17世紀
453	24-1	241号土坑	埴土	銅	2.05	2.70	寛永通寶	新	17世紀
454	24-2	242号土坑	埴土	銅	2.30	1.90	寛永通寶	新	17世紀後
455	24-3	242号土坑	埴土	銅	2.40	2.80	寛永通寶	古?新?	
456	24-4	242号土坑	埴土	銅	2.55	1.50	寛永通寶	古?	

調査 番号	発掘 番号	出土地点	層位	素材	径 (cm)	重量 (g)	類別		初発的年代	その他
							質	新		
467	245	243号土坑	層土	銅	230	210	寛永通寶	新	18世紀前	
468	246	243号土坑	層土	銅	260	220	寛永通寶	古	17世紀前	
469	251	243号土坑	層土	銅	240	170	寛永通寶	古	17世紀前	
467	252	243号土坑	層土	銅	240	170	寛永通寶	古?	17世紀前	
465	253	243号土坑	層土	銅	240	120	寛永通寶	古?	17世紀前	
467	261	244号土坑	層土	銅	240	380	寛永通寶	古	17世紀前	
468	262	244号土坑	層土	銅	245	260	寛永通寶	古	17世紀前	
469	263	244号土坑	層土	銅	240	310	寛永通寶	古	17世紀前	
470	264	244号土坑	層土	銅	240	350	寛永通寶	古	17世紀前	
471	265	244号土坑	層土	銅	240	240	寛永通寶	古	17世紀前	
472	266	244号土坑	層土	銅	255	230	寛永通寶	古	17世紀前	
476	271	245号土坑	層土	銅	230	250	寛永通寶	新	17世紀前	
477	272	245号土坑	層土	銅	230	250	寛永通寶	新	18世紀前	
478	273	245号土坑	層土	銅	230	250	寛永通寶	新	18世紀前	
479	274	245号土坑	層土	銅	230	280	寛永通寶	新	18世紀前	
480	275	245号土坑	層土	銅	230	250	寛永通寶	新	18世紀前	
481	276	245号土坑	層土	銅	245	230	寛永通寶	新	17世紀前	
482	277	245号土坑	層土	銅	220	120	寛永通寶	新	17世紀前	
483	278	245号土坑	層土	銅	240	350	寛永通寶	古	17世紀前	
485	281	246号土坑	層土	銅	240	350	寛永通寶	古	17世紀前	
486	282	246号土坑	層土	銅	230	170	寛永通寶	古	17世紀前	
487	283	246号土坑	層土	銅	220	160	寛永通寶	新	18世紀前	
488	284	246号土坑	層土	銅	220	210	寛永通寶	新	18世紀前	
489	285	246号土坑	層土	銅	235	300	寛永通寶	新	17世紀前	
490	286	246号土坑	層土	銅	240	230	寛永通寶	古	17世紀前	
491	287	246号土坑	層土	銅	225	210	寛永通寶	新	18世紀前	
492	288	246号土坑	層土	銅	230	210	寛永通寶	新	18世紀前	
493	289	246号土坑	層土	銅	240	330	寛永通寶	古	18世紀前	
494	290	246号土坑	層土	銅	240	180	寛永通寶	古	18世紀前	
495	291	246号土坑	層土	銅	225	170	寛永通寶	古	18世紀前	
496	292	246号土坑	層土	銅	230	160	寛永通寶	古	18世紀前	
500	294	247号土坑	層土	銅	240	320	寛永通寶	古	17世紀前	
501	295	247号土坑	層土	銅	240	330	寛永通寶	新	18世紀前	
502	296	247号土坑	層土	銅	240	340	寛永通寶	古	17世紀前	
503	297	247号土坑	層土	銅	240	380	寛永通寶	新	18世紀前	
504	298	247号土坑	層土	銅	230	210	寛永通寶	新?	18世紀前	
505	299	247号土坑	層土	銅	240	220	寛永通寶	新?	18世紀前	
506	300	247号土坑	層土	銅	240	320	寛永通寶	新?	18世紀前	
508	321	249号土坑	層土	銅	230	400	寛永通寶	古?	18世紀前	
509	322	249号土坑	層土	銅	240	300	寛永通寶	古?	18世紀前	
510	323	249号土坑	層土	銅	240	300	寛永通寶	古?	18世紀前	
511	324	249号土坑	層土	銅	230	300	寛永通寶	古?新?	18世紀前	

掲載 番号	登録 番号	出土地点	方位	素材	径 (cm)	重さ (g)	種類	相対年代	その他
512	35-5	249号土坑	南上	銅	2.40	260	寛永通寶	17世紀後	
513	35-6	249号土坑	南上	銅	2.40	200	?	新	
516	34-1	230号土坑	南上	銅	2.30	280	寛永通寶	18世紀前	
517	34-2	230号土坑	南上	銅	2.35	260	寛永通寶	17世紀前	
518	34-3	230号土坑	南上	銅	2.20	160	?	古	
519	34-4	230号土坑	南上	銅	2.35	250	寛永通寶	17世紀中	
520	34-5	230号土坑	南上	銅	2.30	250	?	古	
521	34-6	230号土坑	南上	銅	2.25	130	寛永通寶	17世紀前	
524	35-1	251号土坑	南上	銅	2.40	280	寛永通寶	18世紀前	
525	35-2	251号土坑	南上	銅	2.40	380	寛永通寶	18世紀前	
526	35-3	251号土坑	南上	銅	2.40	310	寛永通寶	18世紀前	
527	35-4	251号土坑	南上	銅	2.35	210	寛永通寶	17世紀前	
528	35-5	251号土坑	南上	銅	2.25	180	寛永通寶	18世紀前	
529	36-1	252号土坑	南上	銅	2.40	300	寛永通寶	17世紀前	
530	36-2	252号土坑	南上	銅	2.40	200	寛永通寶	17世紀前	
531	36-3	252号土坑	南上	銅	2.40	230	寛永通寶	古	
532	36-4	252号土坑	南上	銅	2.50	280	寛永通寶	新	
533	36-5	252号土坑	南上	銅	2.40	250	?	新	
534	36-6	252号土坑	南上	銅	2.40	160	寛永通寶	17世紀後	
535	36-7	252号土坑	南上	銅	2.30	210	寛永通寶	17世紀前	
536	36-8	252号土坑	南上	銅	2.40	1.40	?	古	
537	36-9	252号土坑	南上	銅	2.40	1.20	?	古?新?	
538	36-10	252号土坑	南上	銅	2.40	1.30	寛永通寶	17世紀後	
540	37-1	253号土坑	南上	銅	2.40	1.50	寛永通寶	新	
543	38-1	254号土坑	南上	銅	2.70	580	寛永通寶	八?	
544	38-2	254号土坑	南上	銅	2.70	330	一銭		
545	38-3	254号土坑	南上	銅	2.70	330	一銭		
546	38-4	254号土坑	南上	銅	2.20	290	明治前		
547	38-5	254号土坑	南上	銅	2.20	260	明治前		
548	38-6	254号土坑	南上	銅	2.20	280	明治前		
549	38-7	254号土坑	南上	銅	2.20	280	明治前		
550	38-8	254号土坑	南上	銅	2.30	140	寛永通寶	新?	
551	38-9	254号土坑	南上	銅	2.30	210	寛永通寶	新	18世紀前
552	38-10	254号土坑	南上	銅	2.30	150	寛永通寶	古?新?	
553	38-11	254号土坑	南上	銅	2.10	130	寛永通寶	古?新?	
554	38-12	254号土坑	南上	銅	2.30	180	?	?	
563	41-1	256号土坑	南上	銅	2.25	110	寛永通寶	新	18世紀後
564	41-2	256号土坑	南上	銅	2.30	280	寛永通寶	古?新?	
565	41-3	256号土坑	南上	銅	2.45	290	寛永通寶	古?新?	
566	41-4	256号土坑	南上	銅	2.50	240	?	?	
567	41-5	256号土坑	南上	銅	2.40	450	寛永通寶	新	17世紀後
567	41-5	256号土坑	南上	銅	2.30	350	?	?	

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	素材	径 (cm)	重量 (g)	種類	初測造年代	その他
566	41-6	256分土坑	層土	銅	2.30	2.10	寛永通寶		
569	41-7	256分土坑	層土	銅	2.35	2.30	寛永通寶	古?新?	
570	41-8	256分土坑	層土	銅	2.40	1.90	寛永通寶	新	17世紀後
571	41-9	256分土坑	層土	銅	2.30	1.80	寛永通寶	古?新?	17世紀後
572	41-10	256分土坑	層土	銅	2.30	2.80	?		
573	41-11	256分土坑	層土	銅	2.35	2.60	寛永通寶	古?新?	
574	41-12	256分土坑	層土	銅	2.40	3.10	?		
575	41-13	256分土坑	層土	銅	2.30	2.40	寛永通寶	新	17世紀後
576	41-14	256分土坑	層土	銅	2.40	4.00	?		
577	41-15	256分土坑	層土	銅	2.40	3.60	寛永通寶	新	17世紀後
578	41-16	256分土坑	層土	銅	2.30	2.30	?		
579	41-17	256分土坑	層土	銅	2.30	2.50	?		
580	41-18	256分土坑	層土	銅	2.35	4.00	?		
581	41-19	256分土坑	層土	銅	2.25	1.90	寛永通寶	新	18世紀初
582	41-20	256分土坑	層土	銅	2.30	2.80	?		
583	41-21	256分土坑	層土	銅	2.30	2.60	寛永通寶	新	17世紀後
584	41-22	256分土坑	層土	銅	2.40	2.60	寛永通寶	古?新?	
585	41-23	256分土坑	層土	銅	2.40	2.10	寛永通寶	古?新?	
586	41-24	256分土坑	層土	銅	2.50	3.40	?		
587	41-25	256分土坑	層土	銅	2.30	1.70	寛永通寶	新	17世紀後
588	41-26	256分土坑	層土	銅	2.35	1.50	寛永通寶	古?新?	
591	42-1	257分土坑	層土	銅	2.25	3.80	寛永通寶	新	18世紀初
592	42-2	257分土坑	層土	銅	2.35	2.30	寛永通寶	古	17世紀初
593	42-3	257分土坑	層土	銅	2.40	2.30	寛永通寶	新	18世紀初
594	42-4	257分土坑	層土	銅	2.30	1.70	寛永通寶	新	17世紀後
595	42-5	257分土坑	層土	銅	2.30	1.10	寛永通寶	新	17世紀後
596	42-6	257分土坑	層土	銅	2.30	1.80	?		
597	42-7	258分土坑	層土	銅	2.30	1.90	寛永通寶	新?	
598	42-8	258分土坑	層土	銅	2.30	2.10	寛永通寶	新	17世紀後
599	42-9	258分土坑	層土	銅	2.40	3.90	寛永通寶	古	17世紀初
600	42-10	258分土坑	層土	銅	2.30	2.20	寛永通寶	新?	
601	42-11	258分土坑	層土	銅	2.50	2.60	寛永通寶	新	18世紀初
602	42-12	259分土坑	層土	銅	2.50	2.10	寛永通寶	古	17世紀初
603	44-1	259分土坑	層土	銅	2.40	2.90	寛永通寶	新	17世紀後
604	44-2	259分土坑	層土	銅	2.30	2.10	寛永通寶	新	18世紀初
605	44-3	259分土坑	層土	銅	2.35	1.20	寛永通寶	古	18世紀初
607	44-4	259分土坑	層土	銅	?	0.60	寛永通寶	古	17世紀後
608	46-1	260分土坑	層土	銅	2.50	1.50	寛永通寶	古?新?	
609	46-2	260分土坑	層土	銅	?	0.80	?		
611	47-1	261分土坑	層土	銅	2.30	2.30	寛永通寶	古	17世紀初
612	47-2	261分土坑	層土	銅	2.50	1.90	寛永通寶	新	17世紀後

阿波 番号	登録 番号	出土地点	形状	素材	径 (cm)	重量 (g)	種類	埋蔵年代	その他
613	48-1	269号土坑	埴土	銅	2.30	3.10	一銭	明治十年	
614	48-2	269号土坑	埴土	銅	2.30	3.10	一銭	明治十年	
615	48-3	269号土坑	埴土	銅	2.30	3.00	一銭	大正十二年	
617	49-1	263号土坑	埴土	銅	2.20	2.20	壹匁酒質	新	18世紀前
618	49-2	263号土坑	埴土	銅	2.20	2.60	壹匁酒質	新	18世紀前
619	49-3	263号土坑	埴土	銅	2.25	2.40	壹匁酒質	新	18世紀前
620	49-4	263号土坑	埴土	銅	2.20	2.10	壹匁酒質	新	18世紀前
621	49-5	263号土坑	埴土	銅	2.30	1.90	壹匁酒質	新	18世紀前
622	49-6	263号土坑	埴土	銅	2.40	2.50	壹匁酒質	新?	18世紀前
629	51-1	264号土坑	埴土	銅	2.40	1.90	壹匁酒質	新	17世紀後
624	51-2	264号土坑	埴土	銅	2.40	1.50	壹匁酒質	新	17世紀後
626	51-3	264号土坑	埴土	銅	2.40	1.50	壹匁酒質	古	17世紀中
628	51-4	264号土坑	埴土	銅	2.20	1.20	壹匁酒質	新	18世紀前
629	52-1	265号土坑	埴土	銅	3.15	13.20	一銭		
629	52-2	265号土坑	埴土	銅	3.10	12.20	一銭	明治十年	
630	52-3	265号土坑	埴土	銅	2.75	6.50	一銭	明治十年	
631	52-4	265号土坑	埴土	銅	2.70	6.80	一銭	明治十年	
632	52-5	265号土坑	埴土	銅	2.75	6.50	一銭	明治十年	
633	52-6	265号土坑	埴土	銅	2.20	3.70	一銭	明治十年	
634	52-7	265号土坑	埴土	銅	2.25	3.40	一銭	大正八年	
635	52-8	265号土坑	埴土	銅	2.20	2.50	一銭	大正八年	
636	52-9	265号土坑	埴土	銅	2.20	3.50	一銭	大正九年	
637	52-10	265号土坑	埴土	銅	2.25	3.60	一銭	大正十一年	
638	52-11	265号土坑	埴土	銅	2.20	3.60	一銭	大正八年	
639	52-12	265号土坑	埴土	銅	2.25	3.50	一銭	大正九年	
640	52-13	265号土坑	埴土	銅	1.85	2.50	五匁	大正九年	
641	52-14	265号土坑	埴土	銅	2.50	2.60	壹匁酒質	新	17世紀後
642	52-15	265号土坑	埴土	銅	2.30	2.40	壹匁酒質	新	17世紀後
643	52-16	265号土坑	埴土	銅	2.15	2.60	壹匁酒質	新	17世紀後
644	52-17	265号土坑	埴土	銅	2.20	1.50	壹匁酒質	新	18世紀前
650	55-1	268号土坑	埴土	銅	2.20	3.10	壹匁酒質	古	17世紀前
651	55-2	268号土坑	埴土	銅	2.20	2.20	壹匁酒質	新	18世紀前
652	55-3	268号土坑	埴土	銅	2.50	1.80	壹匁酒質	古	17世紀前
653	55-4	268号土坑	埴土	銅	2.20	2.00	壹匁酒質	新	17世紀後
655	56-1	269号土坑	埴土	銅	2.30	2.50	壹匁酒質	新	17世紀後
656	56-2	269号土坑	埴土	銅	2.30	2.20	壹匁酒質	新	18世紀前
657	56-3	269号土坑	埴土	銅	2.40	2.30	壹匁酒質	新	18世紀前
658	56-4	269号土坑	埴土	銅	2.50	2.80	壹匁酒質	古	17世紀前
659	56-5	269号土坑	埴土	銅	2.40	2.60	壹匁酒質	新	17世紀前
660	56-6	269号土坑	埴土	銅	2.40	1.70	壹匁酒質	新	17世紀後
661	56-7	269号土坑	埴土	銅	2.25	0.90	壹匁酒質	新	17世紀後

国庫 番号	砂防 番号	出土地点	方位	素材	径 (cm)	重量 (g)	類別	制作年代	その他
662	57-1 270号土坑	同上	同上	銅	2.45	2.70	寛永通寶	新	17世紀後
663	58-1 271号土坑	同上	同上	銅	2.40	1.90	寛永通寶	新	17世紀後
664	58-2 271号土坑	同上	同上	銅	2.65	2.30	寛永通寶	新	17世紀後
665	58-3 271号土坑	同上	同上	銅	2.50	2.20	寛永通寶	新	17世紀後
666	58-4 271号土坑	同上	同上	銅	2.40	2.10	寛永通寶	古	17世紀後
667	58-5 271号土坑	同上	同上	銅	2.30	2.00	寛永通寶	古?	17世紀後
668	58-6 271号土坑	同上	同上	銅	2.40	2.00	寛永通寶	新	17世紀後
669	58-7 271号土坑	同上	同上	銅	2.30	1.80	寛永通寶	古	17世紀中
670	61-1 272号土坑	同上	同上	銅	2.30	2.30	寛永通寶	古	17世紀中
671	61-2 272号土坑	同上	同上	銅	2.35	1.20	寛永通寶	古	17世紀初
672	61-3 272号土坑	同上	同上	銅	2.40	1.70	寛永通寶	新	17世紀後
673	63-1 273号土坑	同上	同上	銅	2.40	2.10	寛永通寶	古	17世紀後
676	64-1 274号土坑	同上	同上	銅	2.50	3.00	寛永通寶	古	17世紀後
677	64-2 274号土坑	同上	同上	銅	2.40	2.60	寛永通寶	新	17世紀後
678	64-3 274号土坑	同上	同上	銅	2.40	2.60	寛永通寶	新	17世紀後
680	65-1 275号土坑	同上	同上	銅	2.25	1.80	寛永通寶	古?新?	17世紀初
681	65-2 275号土坑	同上	同上	銅	2.50	2.30	寛永通寶	新	17世紀後
682	65-3 275号土坑	同上	同上	銅	2.50	2.50	寛永通寶	新	17世紀後
683	65-4 275号土坑	同上	同上	銅	2.45	2.40	寛永通寶	新	17世紀後
684	66-1 276号土坑	同上	同上	銅	2.25	1.60	寛永通寶	新	17世紀後
685	66-2 276号土坑	同上	同上	銅	2.40	2.30	寛永通寶	新	18世紀初
686	66-3 276号土坑	同上	同上	銅	2.25	1.70	寛永通寶	新	18世紀初
687	67-1 276号土坑	同上	同上	銅	2.30	1.70	寛永通寶	新	18世紀初
688	67-2 276号土坑	同上	同上	銅	2.25	2.20	寛永通寶	新	18世紀初
691	69-1 277号土坑	同上	同上	銅	2.25	0.90	寛永通寶	新	18世紀初
692	69-2 277号土坑	同上	同上	銅	2.25	0.90	寛永通寶	新	18世紀初
693	69-3 277号土坑	同上	同上	銅	2.30	2.90	寛永通寶	新	18世紀初
694	69-4 277号土坑	同上	同上	銅	2.30	2.50	寛永通寶	新	18世紀初
695	69-5 277号土坑	同上	同上	銅	2.40	3.30	寛永通寶	古	17世紀初
696	69-6 277号土坑	同上	同上	銅	2.20	1.90	寛永通寶	新	18世紀初
697	69-7 277号土坑	同上	同上	銅	2.35	2.50	寛永通寶	新	18世紀初
698	69-8 277号土坑	同上	同上	銅	2.35	2.80	寛永通寶	新	18世紀初
699	69-9 277号土坑	同上	同上	銅	2.40	3.80	寛永通寶	古?	17世紀後
700	69-10 277号土坑	同上	同上	銅	2.30	3.30	寛永通寶	古?	17世紀後
701	69-11 277号土坑	同上	同上	銅	2.30	2.90	寛永通寶	新	17世紀後
702	69-12 277号土坑	同上	同上	銅	2.25	2.40	寛永通寶	新?	
703	69-13 277号土坑	同上	同上	銅	2.15	2.10	寛永通寶	古?新?	
704	69-14 277号土坑	同上	同上	銅	2.30	2.20	寛永通寶	古?新?	
705	69-15 277号土坑	同上	同上	銅	2.30	2.00	寛永通寶	新	18世紀初
706	69-16 277号土坑	同上	同上	銅	2.40	3.90	寛永通寶	古?新?	
707	69-17 277号土坑	同上	同上	銅	2.40	2.40	寛永通寶	新	17世紀後
				銅	2.40	2.60	寛永通寶	新	18世紀初

埋藏 番号	登録 番号	出土地点	位置	素材	径 (cm)	重量 (g)	類別	製造年代	その他
708	69-18	277号土坑	埋上	銅	2.20	1.50	寛永通寶	18世紀前半	
709	69-19	277号土坑	埋上	銅	2.20	2.30	?	新	
710	69-20	277号土坑	埋上	銅	2.30	1.40	寛永通寶	占?新?	
711	69-21	277号土坑	埋上	銅	2.20	1.20	寛永通寶	占?新?	
714	71-1	289号土坑	埋上	銅	2.10	1.20	十銭	?	
715	71-1	289号土坑	埋上	銅	2.20	3.50	一銭	人正〇年	
717	75-1	283号土坑	埋上	銅	2.20	3.60	一銭	人正十二年	
718	75-2	283号土坑	埋上	銅	2.05	1.10	十銭	天和十七年	
719	75-3	283号土坑	埋上	銅	2.10	1.00	十銭	天和十八年	
720	75-4	283号土坑	埋上	銅	1.55	0.60	一銭	天和十八年	
721	75-5	283号土坑	埋上	銅	1.85	0.60	一銭	天和十八年	
722	75-6	283号土坑	埋上	銅	1.55	0.60	一銭	天和十八年	
724	76-1	284号土坑	埋上	銅	2.30	1.60	寛永通寶	占	
725	76-2	284号土坑	埋上	銅	2.25	2.80	寛永通寶	占?新?	
726	76-3	284号土坑	埋上	銅	2.30	2.30	寛永通寶	新	17世紀後
727	76-4	284号土坑	埋上	銅	2.50	2.60	寛永通寶	新	17世紀後
728	76-5	284号土坑	埋上	銅	2.45	2.80	寛永通寶	新	17世紀後
729	76-6	284号土坑	埋上	銅	2.50	2.80	寛永通寶	新	17世紀後
730	76-7	284号土坑	埋上	銅	2.50	1.60	寛永通寶	占?	
731	76-8	284号土坑	埋上	銅	2.50	1.40	寛永通寶	新	17世紀後
732	76-9	284号土坑	埋上	銅	2.25	1.40	?		
733	78-1	286号土坑	埋上	銅	1.80	2.40	50銭	天明一十二年	
735	80-1	287号土坑	埋上	銅	2.70	6.50	一銭	明治七年	
736	80-2	287号土坑	埋上	銅	2.70	6.60	一銭	?	
737	80-3	287号土坑	埋上	銅	2.70	5.90	一銭	明治十年	
738	80-4	287号土坑	埋上	銅	2.70	5.70	一銭	明治十年	
739	80-5	287号土坑	埋上	銅	2.10	2.80	一銭	明治十年	
740	81-1	290号土坑	埋上	銅	2.75	6.40	一銭	明治十年	
741	81-2	290号土坑	埋上	銅	2.20	3.30	一銭	人正十年	
742	84-3	290号土坑	埋上	銅	2.30	3.60	一銭	水正五年	
743	84-4	290号土坑	埋上	銅	2.30	3.40	一銭	人正九年	
744	84-5	290号土坑	埋上	銅	2.30	3.20	一銭	人正九年	
745	84-6	290号土坑	埋上	銅	2.25	3.70	一銭	人正十年	
746	84-7	290号土坑	埋上	銅	2.25	3.20	一銭	人正十年	
747	84-8	290号土坑	埋上	銅	2.25	3.80	一銭	本正七年	
748	84-9	290号土坑	埋上	銅	2.25	3.70	一銭	本正十一年	
749	84-10	290号土坑	埋上	銅	2.25	3.10	一銭	大正十一年	
750	84-11	290号土坑	埋上	銅	2.20	3.60	一銭	大正十二年	
751	85-1	291号土坑	埋上	銅	2.75	5.00	一銭	?	
752	85-2	291号土坑	埋上	銅	2.70	6.00	一銭	明治十七年	
753	85-3	291号土坑	埋上	銅	2.15	3.10	十銭	明治十七年	

採集番号	巻号	標高	山上地点	層位	素材	径 (cm)	重量 (g)	説明		物時層年代	その他
								質	特徴		
764	85-4	291号土坑	埋土	銅	銅	2.15	2.60	新	明治○年		
765	85-5	291号土坑	埋土	銅	銅	2.15	3.00	新	明治○年		
766	85-6	291号土坑	埋土	銅	銅	2.40	2.60	新	18世紀前		
767	85-7	291号土坑	埋土	銅	銅	2.30	2.70	新	17世紀前		
768	85-8	291号土坑	埋土	銅	銅	2.40	2.50	新	17世紀前		
769	85-9	291号土坑	埋土	銅	銅	2.40	3.20	新	18世紀前		
760	85-10	291号土坑	埋土	銅	銅	2.40	2.20	新?			
761	85-11	291号土坑	埋土	銅	銅	2.30	2.20	新?			
762	85-12	291号土坑	埋土	銅	銅	2.30	1.60	新	18世紀前		
763	85-13	291号土坑	埋土	銅	銅	2.30	3.10	新	18世紀前		
764	85-14	291号土坑	埋土	銅	銅	2.40	1.80	新	18世紀前		
765	85-15	291号土坑	埋土	銅	銅	2.25	2.10	新	18世紀前		
766	85-16	291号土坑	埋土	銅	銅	2.30	1.90	新	18世紀前		
767	85-17	291号土坑	埋土	銅	銅	2.40	2.20	新	18世紀前		
768	85-18	291号土坑	埋土	銅	銅	2.30	2.30	古?			
769	85-19	291号土坑	埋土	銅	銅	2.30	2.30	古?			
770	85-20	291号土坑	埋土	銅	銅	2.30	2.60	新?			
771	85-21	291号土坑	埋土	銅	銅	2.30	1.90	新?			
772	85-22	291号土坑	埋土	銅	銅	2.25	2.90	新	17世紀後		
773	85-23	291号土坑	埋土	銅	銅	2.30	3.20	新	18世紀前		
774	85-24	291号土坑	埋土	銅	銅	2.25	2.00	新	18世紀前		
775	85-25	291号土坑	埋土	銅	銅	2.35	2.10	新	18世紀前		
776	85-26	291号土坑	埋土	銅	銅	2.40	2.10	新	18世紀前		
777	85-27	291号土坑	埋土	銅	銅	2.30	2.30	新	18世紀前		
778	85-28	291号土坑	埋土	銅	銅	2.15	1.50	古?			
779	85-29	291号土坑	埋土	銅	銅	2.30	2.60	新	18世紀前		
780	85-30	291号土坑	埋土	銅	銅	2.40	2.40	古	17世紀中		
781	85-31	291号土坑	埋土	銅	銅	2.30	2.00	新	18世紀前		
782	85-32	291号土坑	埋土	銅	銅	2.20	1.80	新	17世紀後		
783	85-33	291号土坑	埋土	銅	銅	2.40	2.40	古	17世紀中		
784	85-34	291号土坑	埋土	銅	銅	2.30	2.40	古	17世紀中		
785	外-1	遺跡外	埋土	銅	銅	2.30	1.70	新	17世紀前		
786	外-2	遺跡外	埋土	銅	銅	2.35	3.40	古	17世紀前		
787	外-3	遺跡外	埋土	銅	銅	2.40	3.20	新	17世紀後		
788	外-4	遺跡外	埋土	銅	銅	2.30	2.30	新	18世紀前		
789	外-5	遺跡外	埋土	銅	銅	2.35	1.50	古?			
790	外-6	遺跡外	埋土	銅	銅	2.20	1.10	古?			
791	外-7	遺跡外	埋土	銅	銅	2.40	2.90	古	17世紀前		

第15表 平成20年度出土遺物観察表 (陶磁器)

遺物番号	出土地点	材質	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	容量 (cm)	内外面 (柄杓・捺付)	産地	年代	その他
403	45 234号土坑	磁土	陶器	碗	-	(2.0)	5.0	42.3		肥前	18世紀	
515	46 250号土坑	磁土	陶器	小杯	口→底径	6.5	4.5	3.8	67.6	単化文	17世紀中	
541	58 254号土坑	磁土	陶器	煎茶口	口→底径	5.2	2.8	3.4	28.5	内面にも柄杓 把手に孔	大塚紀馬	

第16表 平成20年度出土遺物観察表 (燗釜)

採掘 層別 番号	旧遺跡名	軒高時名	部位	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	容量 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	分類	時期	割合
360	1 1号土坑	25号土坑	碗	碗	a (8.0) b (10.5)	a (1.3) b (0.9)	a (1.2) b (0.9)	11.60			IV	18世紀以降	100%
368	2 2号土坑	28号土坑	碗	碗	a (6.00) b (8.15)	a (1.25) b (1.75)	1.20	6.10	6.55	6.10	IV ?	18世紀以降 ?	50%
372	3 12号土坑	30号土坑	碗	碗	a (8.15) b (8.6)	a (1.35) b (1.10)	a (1.75) b (1.00)	15.30	15.30	15.30	V	19世紀以降	100%
373	4 13号土坑	31号土坑	碗	碗	a (6.60) b (6.7)	a (1.60) b (1.30)	a (1.10) b (1.10)	13.10	13.10	13.10	IV	18世紀以降	100%
395	5 15号土坑	33号土坑	碗	碗	a (7.15) b (7.05)	a (1.80) b (1.40)	a (2.40) b (1.40)	19.80	19.80	19.80	IVでも計は らるか ?	18世紀以降	100%
404	7 16号土坑	34号土坑	碗	碗	a (6.20) b (5.80)	a (1.60) b (1.20)	a (1.20) b (1.00)	13.80	13.80	13.80	IV	18世紀以降	100%
405	6 16号土坑	34号土坑	碗	碗	a (8.10) b (6.30)	a (1.60) b (0.90)	a (1.00) b (0.90)	11.30	11.30	11.30	IV	18世紀以降	100%
406	8 16号土坑	34号土坑	碗	碗	a (6.50) b (6.50)	a (1.30) b (1.30)	a (2.10) b (2.10)	7.50	7.50	7.50	IV ?	18世紀以降 ?	50%
417	9 18号土坑	36号土坑	碗	碗	a (5.00) b (5.05)	a (1.20) b (1.80)	a (1.10) b (1.55)	11.90	11.90	11.90	IV ?	18世紀以降 ?	65%
425	10 19号土坑	37号土坑	碗	碗	a (7.10) b (7.10)	a (1.25) b (1.25)	a (1.25) b (1.25)	11.90	11.90	11.90	IV	18世紀以降	80%
429	11 20号土坑	38号土坑	碗	碗	a (4.20) b (4.80)	a (1.70) b (1.10)	a (1.10) b (1.10)	11.40	11.40	11.40	V ?	19世紀以降 ?	100%
433	12 21号土坑	39号土坑	碗	碗	a (5.35) b (5.45)	a (1.30) b (0.90)	a (1.65) b (0.70)	6.30	6.30	6.30	IV ?	18世紀以降 ?	70%
448	13 25号土坑	24号土坑	碗	碗	a (4.50) b (4.60)	a (0.90) b (1.00)	a (2.45) b (1.00)	8.00	8.00	8.00	IV ?	18世紀以降 ?	38%
451	14 26号土坑	24号土坑	碗	碗	a (4.50) b (4.50)	a (0.90) b (1.10)	a (2.45) b (1.10)	5.30	5.30	5.30	IV ?	18世紀以降 ?	60%
459	13 25号土坑	24号土坑	碗	碗	a (4.80) b (4.80)	a (1.40) b (1.10)	a (0.95) b (1.10)	5.40	5.40	5.40	IV ?	18世紀以降 ?	70%
484	16 28号土坑	36号土坑	碗	碗	a (5.30) b (5.30)	a (1.65) b (1.00)	a (2.20) b (1.00)	12.40	12.40	12.40	IV	18世紀以降	50%

調査年度	調査番号	出雲地名	調査者名	職位	種別	形状	素材	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	特徴等	分類	時期	保存率
497	17-29号土坑		247号土坑	河土	埴管	筒形	銅	a (5.70) b (4.70)	a 1.50 b 1.20	8.90	底面・底口とも裾環に似い	IV	18世紀以降	100%
507	18-31号七坑		348号土坑	埴土	埴管	扁管	銅	a (5.15) b (5.60)	a 1.50 b 0.80	3.30	口の内径			10%
514	19-34号土坑		250号土坑	埴土	埴管	特殊形	銅	a (5.50) b (4.00)	a 1.50 b 1.00	6.20	口内六角	IV	18世紀以降	85%
522	20-35号土坑		251号土坑	埴土	埴管	筒形	銅	a (5.20) b (4.20)	a 0.90 b 0.80	11.30		IV	18世紀以降	90%
555	21-39号土坑		255号土坑	埴土	埴管	特殊形?	銅	a (2.25) b (4.10)	a 1.00 b 1.20	2.40	底面・底口に糸字形裾環の跡。裾環六角形	V?	19世紀以降?	10%
557	22-41号土坑		256号土坑	埴土	埴管	口の一般	銅	a (4.10) b (5.70)	a 1.20 b 1.20	8.40				70%
580	23-42号土坑		257号土坑	埴土	埴管	火皿付足	銅	a (2.00) b (2.30)	a 0.90 b 0.80	0.59				5%
603	24-44号土坑		259号土坑	埴土	埴管	火皿付足	銅	a (2.30) b (2.80)	a 1.30 b 0.80	2.49				5%
627	25-52号土坑		265号土坑	埴土	埴管	口の一般	銅	a (4.20) b (4.60)	a 1.10 b 1.10	2.80				30%
645	26-55号土坑		266号土坑	埴土	埴管	火皿付足	銅	a (4.60) b (6.65)	a 1.10 b 0.90	8.60		IV	18世紀以降	90%
646	27-55号土坑		268号土坑	埴土	金糸	のびた	銅?	a (6.65) b (7.10)	a 1.30 b 1.10	1.30				
647	27-57号土坑		266号土坑	埴土	金糸	のびた	銅?	a (6.65) b (7.10)	a 1.30 b 1.10	1.30				
654	27-59号土坑		269号土坑	埴土	埴管	火皿	銅	a (4.60) b (5.59)	a 1.50 b 1.20	1.00				5%
674	28-64号土坑		274号土坑	埴土	埴管	特殊形	銅	a (6.30) b (7.30)	a 1.50 b 1.00	11.30		IV	18世紀以降	100%
675	29-64号土坑		274号土坑	埴土	埴管	特殊形	銅	a (6.30) b (7.30)	a 1.50 b 1.00	11.30				50%
679	30-66号土坑		275号土坑	埴土	埴管	特殊形	銅	a (6.45) b (7.50)	a 0.90 b 0.90	5.50				25%
689	31-69号七坑		277号土坑	埴土	埴管	筒形	銅	a (5.90) b (6.90)	a 0.80 b 0.90	11.90		V	19世紀以降	85%
690	32-69号土坑		277号土坑	埴土	埴管	特殊形	銅	a (6.00) b (6.00)	a 1.80 b 1.00	6.60		IV	18世紀以降	90%
712	33-70号土坑		278号土坑	埴土	埴管	筒形	銅	a (4.40) b (2.85)	a 1.50 b 0.60	3.30		IV	18世紀以降	80%
713	34-72号土坑		281号土坑	埴土	埴管	筒形	銅	a (6.30) b (7.90)	a 1.70 b 0.90	13.80		IV	18世紀以降	100%
723	35-76号土坑		284号土坑	埴土	埴管	火皿と流	銅	a (1.60) b (6.80)	a 1.50 b 0.90	5.40	高野野呂火皿			65%
734	36-80号土坑		287号土坑	埴土	埴管	筒形	銅	a (9.20) b (11.90)	a 1.10 b 1.10	28.40	底面・底口に六角の跡。跡なし等。	V	19世紀以降	100%

第17表 平成20年度出土遺物観察表(金属製品)

発掘 区画 番号	品名	旧遺跡名	遺物番号	種別	形状	材質	長さ (cm)	幅幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備録等	分析	時期	その他
361	37号土坑	223号土坑	遺土	小所	板・銅?	鉄	(9.60)	1.50	0.30	20.70				
371	38号土坑	231号土坑	遺土	鉄?	板	鉄	(6.00)	2.50	0.30	14.10				
375	39号土坑	21号七坑	同上	和障	板	鉄	(5.30)	0.50	0.80	8.30				
376	42号土坑	231号土坑	遺土	刀子	葉形	鉄	17.50	2.15	0.40	39.60				
377	44号土坑	231号土坑	遺土	火打金	葉形	鉄	2.50	6.40	0.70	13.10				
378	43号土坑	231号土坑	遺土	穴打金	穴形	鉄	3.10	6.70	1.00	37.20				
379	41号土坑	231号土坑	同上	神体製品	鉄	(6.15)	1.20	(6.40)	5.00					
380	40号土坑	231号土坑	同上	不明	不明	(6.00)	1.80	(6.00)	7.30					
388	72号土坑	231号土坑	遺土	和障	板	鉄	12.00	7.00	0.12	28.30				
424	73号土坑	236号土坑	同上	和障	板	11.15	6.45	0.30	40.80					
449	46号土坑	381号土坑	遺土	和障	板	(10.80)	1.30	0.30	12.20					
460	59号土坑	243号土坑	遺土	刀子	刀形	鉄	(6.80)	1.40	0.30	4.70				
461	49号土坑	243号土坑	同上	刀子	刀形	(7.70)	2.20	0.30	5.00					
466	74号土坑	243号土坑	遺土	刀形	板	8.30	3.15	0.30	28.80					
473	51号土坑	245号土坑	遺土	刀形	刀形	(8.30)	1.60	0.40	6.10					
474	52号土坑	245号土坑	遺土	不明	不明	(4.15)	(1.40)	(6.30)	3.30					
475	53号土坑	245号土坑	同上	和障	板	(6.50)	(1.00)	(1.40)	16.00					
498	54号土坑	247号土坑	遺土	不明	不明	(6.20)	2.70	0.60	23.60					
506	75号土坑	247号土坑	同上	和障	板	8.85	8.80	0.45	99.80					
523	57号土坑	251号土坑	遺土	火打金	葉形	鉄	2.25	6.80	0.80	30.80				
539	76号土坑	252号土坑	遺土	和障	板	12.45	7.25	0.25	43.00					
542	69号土坑	254号土坑	同上	骨	銅メッキ	(6.50)	0.30	0.20	1.80					
556	59号土坑	255号土坑	遺土	銅メッキ	板	3.30	3.60	1.25	8.10					
559	63号土坑	256号土坑	同上	銅メッキ	穴形	(13.30)	0.90	0.30	7.60					
561	64号土坑	256号土坑	同上	骨	銅メッキ	(11.50)	1.40	0.20	8.80					
562	62号土坑	256号土坑	同上	骨	銅メッキ	(10.00)	(6.00)	(6.00)	3.60					
568	64号土坑	256号土坑	同上	骨	銅メッキ	(9.40)	0.30	0.30	4.10					
568	65号土坑	256号土坑	同上	骨	銅メッキ	(17.80)	1.65	1.00	9.90					
590	66号土坑	257号土坑	遺土	小所	銅メッキ	(7.65)	(1.45)	(6.50)	13.70					
610	70号土坑	261号土坑	遺土	骨	銅メッキ	(11.80)	1.85	0.55	14.30					
648	68号土坑	267号土坑	同上	小所	鉄・銅	(1.80)	1.40	0.20	1.90					
649	69号土坑	267号土坑	同上	小所	鉄	(5.40)	1.40	0.20	1.90					

第18表 平成20年度出土遺物観察表(木製品)

調査 番号	石塚 番号	旧遺跡名	新遺跡名	層位	種類	形状	素材	長さ (cm)	幅幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴等	分類	時期	その他
462	46	25号土坑	243号土坑	Ⅱ上	櫛		木	2.60	4.60	0.50	1.80				
469	55	29号土坑	247号土坑	Ⅱ上	櫛		木	4.80	6.00	0.50	3.30				

第19表 平成20年度出土遺物観察表(石製品・その他)

調査 番号	石塚 番号	出土地点	新遺跡名	層位	種類	形状等	素材	長さ (cm)	幅幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴等	分類	時代	備考
652	47	24号土坑	242号土坑	Ⅱ上	瓦	筒瓦形		14.90	6.40	1.70	263.10		石質		
616	67	49号土坑	263号土坑	Ⅱ上	石器?	片形		2.30	2.80	1.10	12.40				
716	71	75号土坑	283号土坑	Ⅱ上	骨	片形	骨	15.00	1.10	0.20	9.10				
*		系統遺物			骨	片形		9.15	2.05	0.60	11.40	片質片岩		尾道川原	新石器時代後三紀

V 自然科学的分析

1 はじめに

東北地方岩手県域には、岩手、秋田駒ヶ岳、焼石、栗駒、鳴子、鬼首、肘折、十和田など岩手県域とその周辺の火山のほか、洞爺、阿蘇、始良など北海道や九州など遠方の火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が数多く認められる。テフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、層位や年代が不明な土層やテフラが認められた奥州市胆沢区坪瀬輪遺跡においても、発掘調査担当者により採取された試料を対象に、火山ガラスの屈折率測定を加えたテフラ組成分析を行って指標テフラの検出同定を実施し、遺跡の土層の層位や年代に関する資料を収集することになった。測定分析の対象となった試料は、試料1と試料2の2点（表1）である。

2 テフラ組成分析

(1) 分析方法

分析対象となった2試料について、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析を合わせたテフラ組成分析を実施して、試料に含まれる火山ガラスの形態色調別組成や、重鉱物の組み合わせについて調べた。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 試料1について7g、試料2について11gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で試料を観察。
- 5) 分析篩により1/4～1/8mmの粒子を篩別。
- 6) 偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラスの色調・形態別比率を求める（火山ガラス比分析）。
- 7) 偏光顕微鏡下で重鉱物250粒子を観察し、重鉱物組成を求める（重鉱物組成分析）。

(2) 分析結果

テフラ組成分析の結果をダイヤグラムにして図1に、火山ガラス比と重鉱物組成の内訳を表2と表3に示す。ここでは、いずれの試料からも火山ガラスを検出できた。試料1には、少量の火山ガラスが含まれている（3.2%）。火山ガラスは、比率が高い順に繊維束状に発泡した軽石型（1.6%）、スポンジ状に発泡した軽石型（1.2%）、分厚い中間型（0.4%）である。火山ガラス比分析の際に認められた火山ガラスは、無色透明あるいは白色であった。重鉱物としては、比率が高い順に斜方輝石（49.2%）、単斜輝石（20.0%）、磁鉄鉱（15.6%）が認められる。

試料2には比較的多くの火山ガラスが含まれている（33.2%）。火山ガラスは、量が多い順に繊維束状に発泡した軽石型（15.6%）、スポンジ状に発泡した軽石型（15.2%）、中間型（0.8%）、透明のバブル型（1.6%）である。火山ガラスの色調としては、白色や無色透明それにごくわずかに褐色の中間型ガラスも認められる。重鉱物としては、比率が高い順に斜方輝石（37.6%）、磁鉄鉱（31.2%）、単斜輝石（15.2%）が認められる。

3 火山ガラスの屈折率測定

(1) 測定方法

テフラ組成分析では、火山ガラスの色調形態別比率や重鉱物組成上の特徴を把握することはできるが、よほどそれらに特徴があるテフラでない限り、起源を明確にすることは困難である。実際、日本列島とその周辺における主要な指標テフラの年代や分布さらに岩石記載的な特徴を明らかにしたテフラ・カタログ(町田・新井, 1992, 2003)では、指標テフラとの同定精度の向上のために、火山ガラスや鉱物の屈折率や、データは多くないものの火山ガラスの主成分化学組成などが掲載されている。

そこで、今回は2試料に含まれる火山ガラスについて、温度変化型屈折率測定装置(古澤地質社製 MAIOT)により、屈折率(n)の測定を合わせて実施した。

(2) 測定結果

試料1に含まれる火山ガラス(32粒子)の屈折率(n)は、1.497(3粒子)、1.499-1.501(5粒子)、1.510-1.514(24粒子)で、trimodalであった。一方、試料2に含まれる火山ガラス(31粒子)の屈折率(n)はほぼ同一rangeに入り、その値は1.496-1.502であった。

4 考察

分析対象のうち、試料2については、送付された写真を見る限り、比較的純度が高い試料のようで、これはテフラ組成分析の結果からも指示されよう。実際には、現地における分析者による土層断面観察が必要ではあるが、軽石型ガラスに富む火山ガラスの形態別組成、兩輝石(斜方輝石および単斜輝石)に富む重鉱物組成、そして火山ガラスの屈折率などを合わせて考慮すると、試料2に含まれるテフラ粒子については、915年に噴出したと考えられている十和田aテフラ(To-a, 大池, 1972, 町田ほか, 1981, 町田・新井, 1992, 2003)に由来すると考えられる。したがって、試料2が採取された土層については、To-aの可能性が考えられよう。このことから、北側調査区106号土坑はTo-aより下位にある可能性が高いと推定される。

一方、屈折率特性がtrimodalな試料1に含まれるテフラ粒子については、火山ガラスの比率も高くないことを合わせると、複数のテフラに由来するものと思われる。火山ガラスの形態や屈折率などから、起源として考えられるテフラとしては、胆沢扇状地周辺におけるテフラの調査成果などから(早田, 1989, 未公表資料, 渡辺, 1996など)、後期更新世以降のテフラだけでも、起源の候補として、鳴子湯沼上原テフラ(Nr-KU, 約1~2万年前¹, 早田, 1989, 町田・新井, 1992, 2003, n : 1.492-1.500)、浅間板鼻黄色軽石(As-YP, n : 1.501-1.505, 約1.3~1.4万年前¹, 新井, 1962, 町田・新井, 1992, 2003)およびそれに関係するテフラ、肘折尾花沢テフラ(Hj-O, 約1.1~1.2万年前¹, n : 1.499-1.504, 米地・菊池, 1966, 早田, 1989, 町田・新井, 1992, 2003)、十和田中振テフラ(To-Cu, 約5,500年前¹, n : 1.508-1.512, 大池ほか, 1966, 早川, 1983, 町田・新井, 1992, 2003)、To-aなどがあげられる。

それらの中で、試料1にもっとも多く含まれる火山ガラス(n : 1.510-1.514)については、To-Cuに由来する可能性が高いようにも思える。そうすれば、試料1については、To-Cu降灰後に形成された土層から採取されたことになる。ただ、現段階での信頼度の高い同定は困難なことから、今後さらに信頼度の高いEPMAを利用した火山ガラスの主成分化学組成分析などにより、同定精度の向上が図られることが期待される。

5 ま と め

奥州市胆沢区坪瀧Ⅱ遺跡で採取された2試料を対象に、テフラ組成分析を行った。その結果、十和田a火山灰(To-a, 915年)のほか、さまざまなテフラに由来する可能性のある火山ガラスが検出された。

- ¹⁾ 放射性炭素(14C)年代。As-YPとTo-Cuの暦年較正年代については、約1.5～1.65万年前および約6,000年前と考えられている(町田・新井, 2003)。

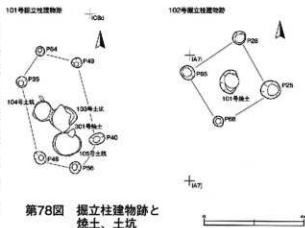
文献

- 新井房夫(1962)関東盆地北西部の第四紀層年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
- 福田友之(1986)考古学からみた「中標程石」の降下年代。弘前大学考古学研究, 3, p.4-15.
- 早川山紀夫(1983)十和田火山中標テフラ層の分布, 粒度組成, 年代。火山, 第2集, 28, p.263-273.
- 町田 洋・新井房夫(1976)広域に分布する火山灰—給良To火山灰の発見とその意義—。科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス。東京大学出版会, 336p.
- 大池昭二(1972)十和田火山東麓における完新世テフラの層年。第四紀研究, 11, p.232-233.
- 大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之(1966)馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰。第四紀研究, 5, p.29-35.
- 早田 勉(1989)テフロクロノロジーによる前期旧石器時代遺物包含層の検討。第四紀研究, 28, p.269-282.
- 渡辺廣久(1996)胆沢台地の広域テフラ。日本第四紀学会編「第四紀露頭集—日本のテフラ」, p.45.
- 米地文夫・菊池強一(1966)尾花沢軽石について。東北地理, 18, p.23-27.

VI ま と め

1 縄文時代の遺構について

平成19年度調査では、堅穴住居跡が2棟検出されている。1棟は縄文時代後期中葉、もう1棟は縄文時代晩期後葉である。今回確認された縄文時代の遺構の配置を見てみると、北側調査区の北側境に検出された後者の堅穴住居跡を境に、東側斜面では縄文時代晩期の遺構が、西側斜面では縄文時代後期の遺構が広がる様相が窺える。北側調査区中腹から現道を含む調査区中央部は、近・現代まで生活が営まれた場所で、その際の造成等のためか、縄文時代の遺構がほとんど確認されない。



第78図 掘立柱建物跡と焼土、土坑

次に縄文時代中・後期を中心として検出される掘立柱建物跡についてであるが、本遺跡でも第78図に示したように北側調査区と南側調査区からそれぞれ1棟ずつ、計2棟確認された。前者では4本柱(102号掘立柱建物跡)のものが、後者では亀甲型の6本柱(101号掘立柱建物跡)のものが検出され、それぞれ柱穴から出土した遺物から縄文時代後期に位置づけた。この2棟の建物跡には、いずれも中央付近に焼土が確認されているが、次に両者の関連について見てみる。

北上市の上川岸Ⅱ遺跡では、6本柱(長方形)で構成された掘立柱建物跡と同一の検出面で、ほぼ中央に土坑が検出されているが、どちらの遺構からも縄文時代後期の遺物が出土し、これらは別々の遺構として報告されている。この上川岸Ⅱ遺跡の例もそうであるが、縄文時代の掘立柱建物跡の中央部に何らかの付属施設をもつような報告はない。

今回、遺構の重複が少ない中で2棟の掘立柱建物跡に、いずれもそれに伴うような焼土が確認されたことは、もしそれが事実であれば縄文時代の掘立柱建物跡の性格を再検討すべき問題となろう。

2 「寺屋敷」と時期不明掘立柱建物跡について

「坪刈」という遺跡名ではあるが、この名称は元々坪刈Ⅰ遺跡付近の低湿地のことを呼んだ地名のようである。現在の字名にも見られるように、この付近は「追分」と呼ばれ、江戸時代に十数軒あった下嵐江屋敷の東半分を示す字名「東下嵐江」に対し、西半分を指した字名である。「旧仙北街道の野がしらにある追分石(道標—仙北街道と下嵐江金山との分岐点を指すもの)にちなむか(『胆沢町地名・屋号調査報告書』胆沢町教委)」、ともされている。下嵐江屋敷は、旧仙北街道の岩手側の山際最後の集落であり、「東下嵐江」から「追分」を過ぎ、ここから本格的な山道となる。現下嵐江Ⅰ・Ⅱ遺跡から坪刈Ⅱ遺跡まではそうした藩境の重要地点であった。藩政時代から下嵐江屋敷と引っ包めて呼ばれている中で、別の呼び名で「寺屋敷」ということばが文献等に出てくるが、このことば(地名)は、追分(坪刈)に住んだことのある方によると、追分全体ではなくもともと畑地だった周辺(今回の調査区付近)をあらわしたものらしい。屋敷といっても「寺があった所」の意味のようで、『安水風土記』(若柳村安永五年風土記御用書出)に見られる「龍澤寺跡」と考えられている。元々金山のあつ

た浪民沢付近にあったものが、「異教徒(キリシタン)に利用されることを逃れてこの地に移った(「水沢市史」)」「鉱山が衰えてから下嵐江部落にうつり政庁から潰された(「沢沢町史 中世編」)など語れがある。下記のように「安永風土記」が書かれた18世紀後半ごろには既に畑地になっていたようで、いつ移ったのかも不明である。

一 明蔵山龍潭寺之跡

當郡永徳寺村曹洞宗報恩山永徳寺之由ニ御座候處退轉仕當時ハ寺跡斗相殘申候
右退轉之年月相知不申候當時燭ニ罷成居候事 『安永風土記』より

今回の調査はこれらの伝承も踏まえて行ったが、掘立柱建物跡が検出されたものの、寺跡とみられるような建物跡にはならなかった。

3 近世以降の墓塚について

今回2カ年の調査によって、近世から近代にかけての墓塚が多数確認され、その数は90基を上回った。これらの詳細は次の第20表に示したとおりだが、ここではこれまでに県内で報告された近世墓塚の調査成果を2例挙げ、さらに本遺跡での墓塚群の内容について述べる。

当センターが平成6年度に調査した北上市岩脇遺跡では、近世墓塚の平面形状と年代について「長方形から方形へ」という傾向を示し、その変化は江戸時代中期の18世紀前半から始まるとした。方形のものは、座枱が埋められるために深さがあることや、他遺跡での長方形墓塚の年代観がその根拠として挙げられている。同じく、平成15年度以降数年にわたり調査が行われた一関市川崎町河崎の播磨定地では、220基を超える近世墓が確認され平面形を6種に分類している。それによると、およそ半数の90基が楕円形をなすもので、次に円形50基、方形34基となり、長方形のものは11基と最も少ない。ここでも改葬されたものは平面形が不整形をなしているという。これらの年代は、17世紀～19世紀末までと年代幅がある。

一方、坪刈Ⅱ遺跡の墓塚の埋葬時期は、出土した副葬銭の年代から17世紀中葉～昭和期という結果となった。平面形は、長方形・楕円形・方形・円形の概ね4種が確認できたが、改葬されて本来の形状をとどめていないと思われるものも多い。数少ない重複関係から判断して、「長方形→方形」という傾向は本遺跡でも認められ、また方形の墓塚が深いことも確かめられた。形状から見れば、大まかに近世墓は長方形主体、明治以降近代の墓は方形が主体と言えよう。本遺跡における遺構の内容は、北上市岩脇遺跡のその傾向に似ているが、遺物に目を向けると埋葬銭のひとつである鉄銭の埋葬量の違いや、岩脇遺跡で多く認められる「仙臺通寶」が全く出土していないなど、両者には地獄的あるいは年代的な差異が存在するものと思われる。

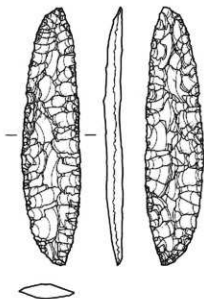
最後に、今回副葬銭に「至道元寶」「元豊通寶」などの北宋銭が含まれていた墓塚が5基(203号・211号・212号・228号・274号土坑)あったが、いずれも寛永通寶とともに出土しており、埋葬された年代がそこまで遡るものではない。また、この周辺に廃棄されていた墓石であるが全部で13基確認された。これらに記された年号をみると、年代は18世紀前半(1719年)～20世紀初頭(1901年)と判断でき、検出された墓塚群の中のいずれかに据えられていたものと考えられる。繰り返になるが、いずれも改葬時にまとめて放置されたものであろう。(木戸口・濱田)

4 表面採集遺物

右図の遺物は、平成20年度調査の際に調査区外から採集された珪質頁岩製の槍先形尖頭器である。最大長9.15cm、最大幅2.05cm、最大厚0.6cm、重さ11.4gを計り、柳葉形をなす。形態から、縄文時代草創期に属するものと思われるが他に当該期の遺物がなく、また採取した地点の周辺を踏査したが他に遺物は発見されなかった。

5 総括

今回の調査により、本遺跡は縄文時代後期（前～中葉）・晩期（中～後葉）を主体とし、近世以降は墓域として利用されていたことが判明した。現在、胆沢ダム建設に伴う発掘調査が進み、周辺の遺跡の様子も次第に明らかになってきた。下嵐江Ⅰ・Ⅱ遺跡では後期旧石器時代の遺物が7,000点あまり出土し、大平野Ⅱ遺跡では、縄文時代中・後期の集落跡の他、縄文時代早期や弥生時代後期の土器が出土するなど、各遺跡において断続的な生活の痕跡が認められている。このことにより、かつて仙北街道の拠点としてにぎわった頃の集落の様子だけでなく、ここに生活した人々の歴史は、縄文時代以前に遡ることができそうである。今後それぞれの調査報告がまとめられることにより、この地域における先史時代の人々の動静を知る手がかりが見えてくるものと思われる。



槍先形尖頭器 (S-3/4)

参考文献・引用文献

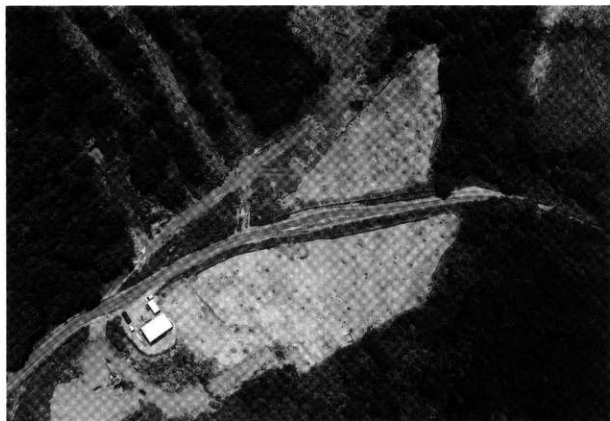
- 佐々木勝 1994 「岩手県における縄文時代の独立住建物跡について」『岩手県立博物館研究報告第12号』岩手県立博物館
齋藤邦雄・酒井宗孝 1994 「岩手県の縄文前期葬制遺構について」『北奥古代文化』第23号 北奥古代文化研究会
中村 大 2000 「土器の出土状態からみた土壌層の認定について—縄文時代の北日本を中心として—」
『国学院大学考古学資料館紀要』第16輯 国学院大学考古学資料館
金子昭彦 2001 「亀ヶ岡文化の住居類型」『亀ヶ岡文化—集落と其の実体—晩期遺構集Ⅰ』
日本考古学協会2001年度盛岡大会研究発表資料集
金子昭彦 2003 「竊と捨て場から見た東北北部縄文晩期の居住様式」『縄文時代』14号 縄文時代文化研究会
金子昭彦 2004 「東北北部縄文晩期における副葬品の意味（予察）—階層化社会を眺めとることができるか—」
『縄文時代』15号 縄文時代文化研究会
中村 大 2007 「亀ヶ岡文化の葬制」『縄文時代の考古学9 死と葬—葬制—』（株）同成社
秋田県教育委員会 1994 『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅵ 上谷地遺跡』秋田県文化財調査報告書第241集
秋田県教育委員会 1994 『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅶ 小田Ⅳ遺跡』秋田県文化財調査報告書第243集
秋田県教育委員会 1998 『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書ⅩⅢ 虫内Ⅰ遺跡』秋田県文化財調査報告書第274集
岩手県教育委員会 1966 『岩手の民俗資料 昭和38年民俗資料緊急調査報告』文化財調査報告第16集
胆沢町史刊行会 1982 『胆沢町史Ⅲ』『古代中世編』胆沢町史刊行会
宮城縣 1970 『宮城縣史32』（資料編9 「風土記御用書出 高木 康澤郎上巻澤若柳村」）（財）宮城縣史刊行会
胆沢町教育委員会 1997 『安永風土記 記載百姓屋敷調べ—220年前の居居の復元—』胆沢町文化財調査報告書第19集
胆沢町教育委員会 2005 『胆沢町地名・屋敷調査報告書』胆沢町文化財調査報告書第32集

- (財)岩手文 2008 『平成19年度発掘調査報告書 2008』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第524集
- (財)岩手文 1991 『上川岸Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第153集
- (財)岩手文 1996 『岩鷲遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第235集
- (財)岩手文 2006 『河崎の縄文時代発掘調査報告書(第2分冊)』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第474集

写 真 图 版



調査区遠景 (平成19年 西から)



調査区近景 (平成19年 直上から 上が南)



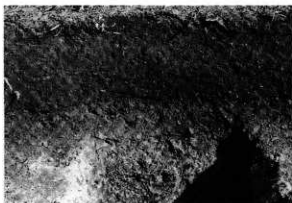
平成19年 調査前風景 (1)



平成19年 調査前風景 (2)



平成19年 調査前風景 (3)



平成19年 基本層序 (北側調査区)



平成20年 作業風景 (1)



平成20年 作業風景 (1)



平成20年 調査前風景 (1)



平成20年 調査区全景

写真図版2 調査前風景、基本層序、調査区全景



完掘（東南→）



東西ベルト



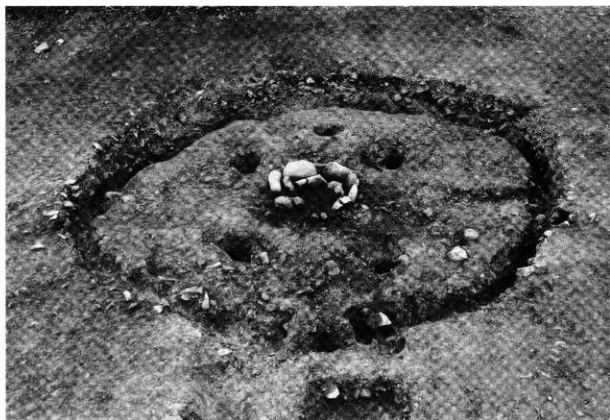
南北ベルト



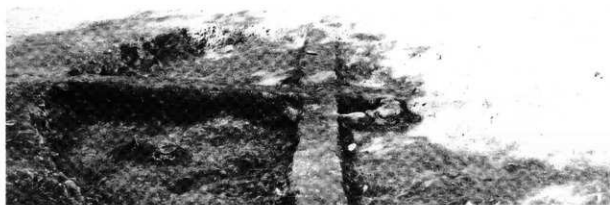
101号竪穴住居内出土遺物



101号竪穴住居跡精査状況



102号竪穴住居跡完掘（東南→）



102号竪穴住居跡 北西-南東ベルト

写真図版4 101・102号竪穴住居跡



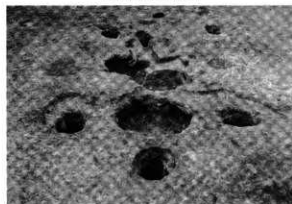
102号竪穴住居跡 南西—北東ベルト



102号竪穴住居内炉



102号竪穴住居内遺物出土状況



101号掘立柱建物跡 (南→)



102号掘立柱建物跡 (南東→)



301号掘立柱建物跡 (南東→)



301号掘立柱建物跡 (P1)

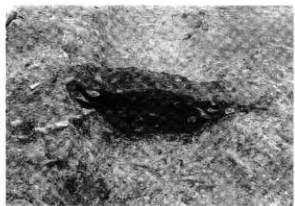
写真図版5 102号竪穴住居跡、101・102・301号掘立柱建物跡



301号独立柱建物跡 (P5)



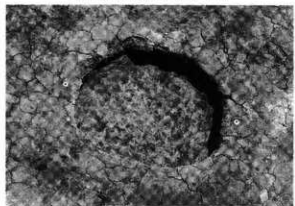
301号独立柱建物跡 (溝A-A')



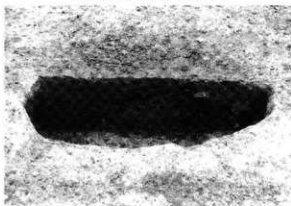
301号独立柱建物跡 (溝B-B')



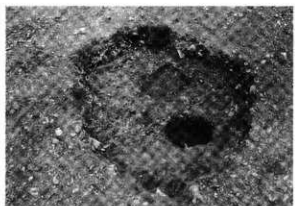
302号独立柱建物跡 (南東→)



101号土坑完掘



101号土坑断面



102号土坑完掘



102号土坑断面

写真図版 6 301・302号独立柱建物跡、101・102号土坑



103号土坑完掘



103号土坑断面



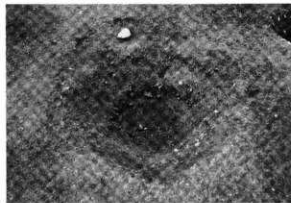
104号土坑完掘



104号土坑断面



103・104号土坑重複状況



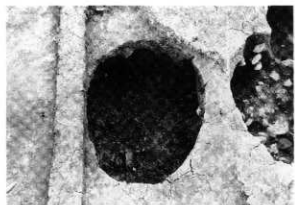
106号土坑完掘



106号土坑遺物出土状況



106号土坑断面



105号土坑完掘



105号土坑断面



107号土坑完掘



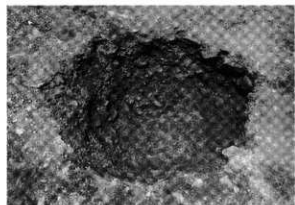
107号土坑断面



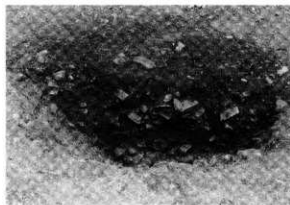
108号土坑完掘



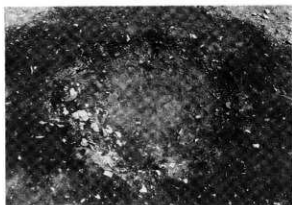
108号土坑断面



109号土坑完掘



109号土坑断面



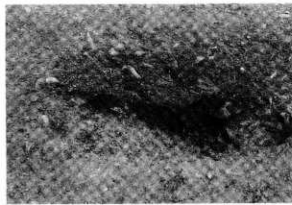
110号土坑完掘



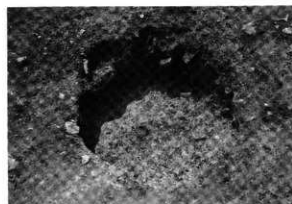
110号土坑断面



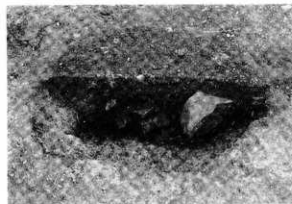
111号土坑完掘



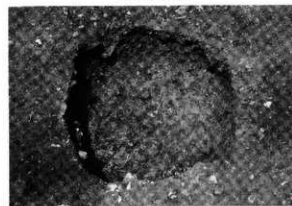
111号土坑断面



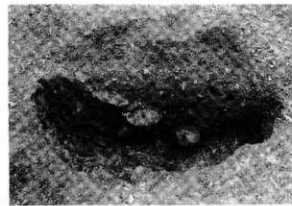
112号土坑完掘



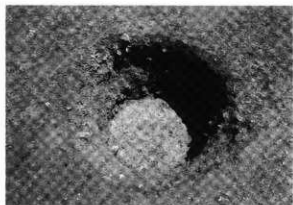
112号土坑断面



113号土坑完掘



113号土坑断面



114号土坑完掘



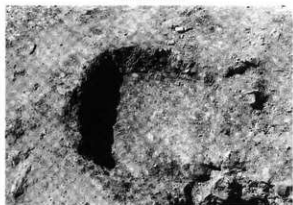
114号土坑断面



116号土坑完掘



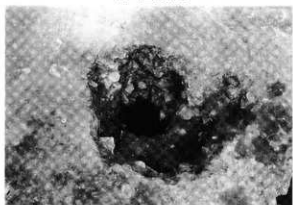
116号土坑断面



117号土坑完掘



117号土坑断面



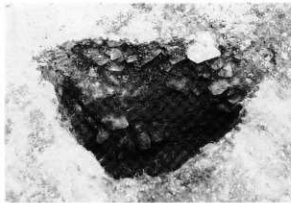
118号土坑完掘



118号土坑断面



115号土坑断面



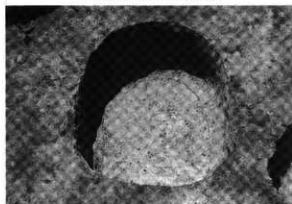
119号土坑断面



120号土坑·P61·P62完掘



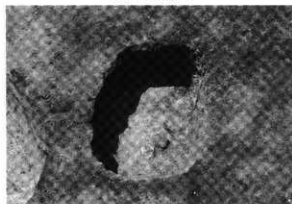
120号土坑断面



201号土坑完掘



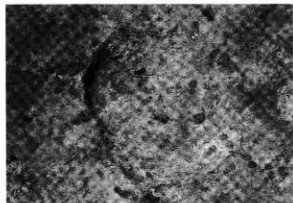
201号土坑断面



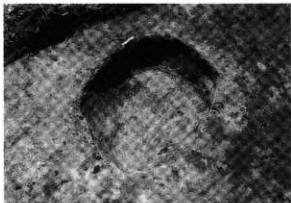
202号土坑完掘



202号土坑断面



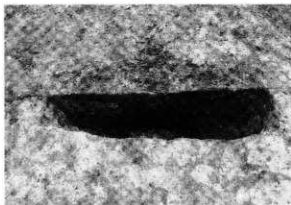
203号土坑完掘



204号土坑完掘



205号土坑完掘



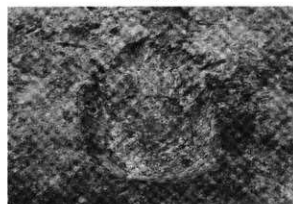
205号土坑断面



207号土坑完掘



207号土坑断面



206号土坑完掘



208号土坑完掘

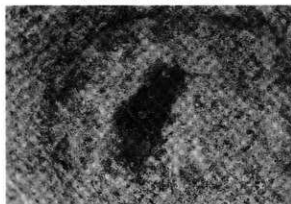
写真图版12 203～208号土坑



209号(手前)・301号土坑完掘



301号土坑断面



209号土坑遺物出土状況



210号土坑完掘



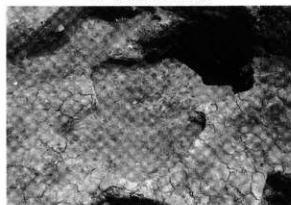
212号土坑完掘



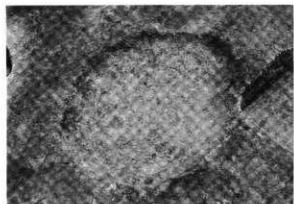
212号土坑遺物出土状況



213号土坑遺物出土状況



213号・214号土坑(手前)完掘



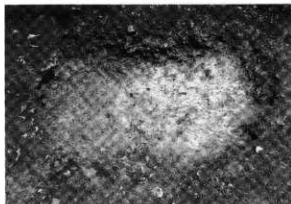
211号土坑完掘



215号土坑完掘



216号土坑完掘



217号土坑完掘



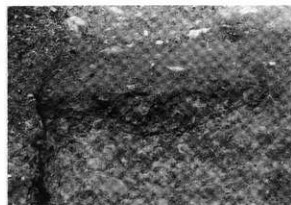
220号土坑断面



221号土坑断面



201号溝 219~222号坑



201号溝断面

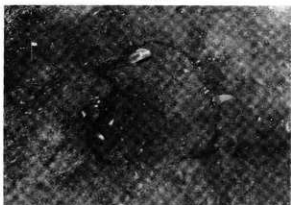
写真図版14 211・215～217・219～222号土坑、201号溝



101号烧土



101号烧土断面



102号烧土



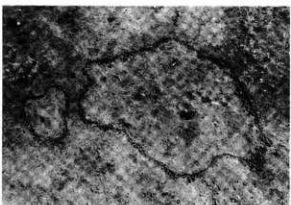
102号烧土断面



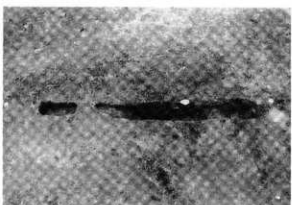
201号烧土①断面



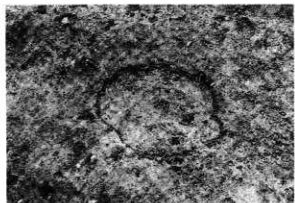
201号烧土②断面



301号烧土



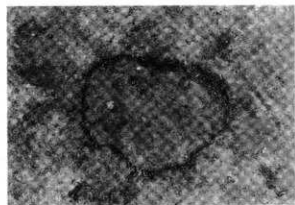
301号烧土断面



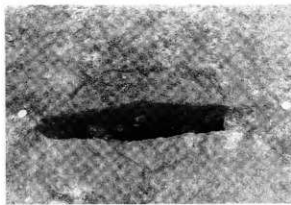
302号烧土



302号烧土断面



303号烧土



303号烧土断面



北側調査区調査風景 (北東→)



南侧調査区調査風景 (平成19年,南西→)



墓石①



墓石②

写真図版16 302・303号烧土、作業風景、墓石(1)



墓石③



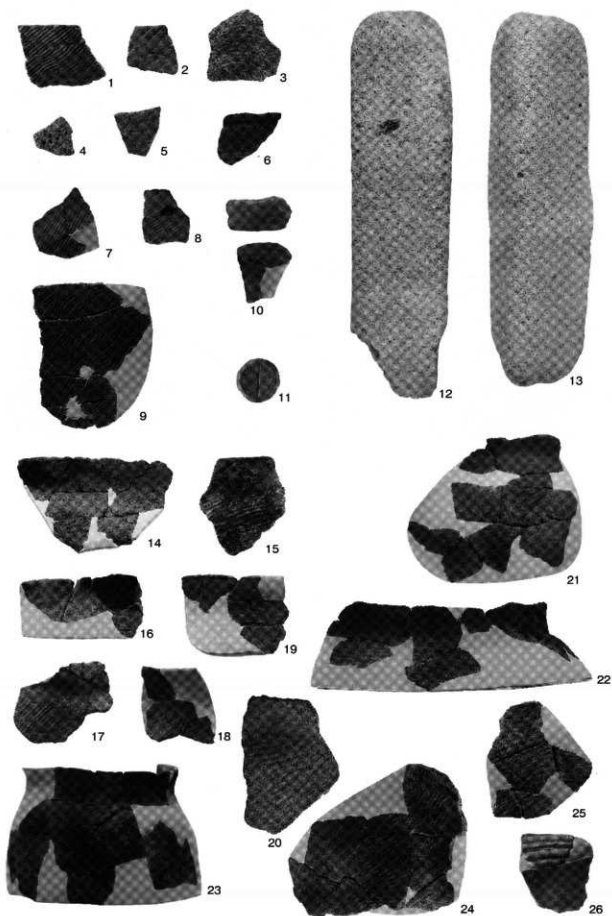
墓石④



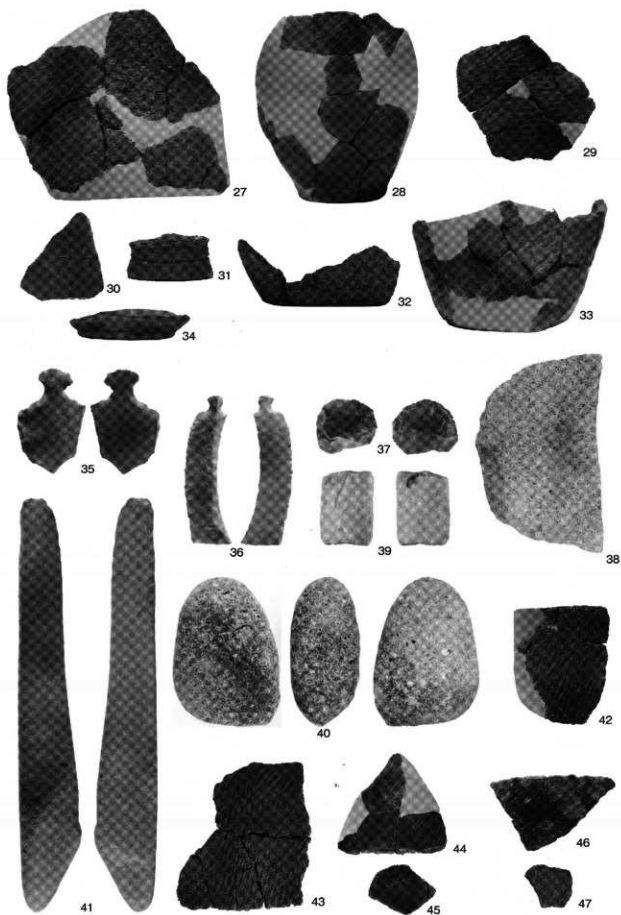
墓石⑤



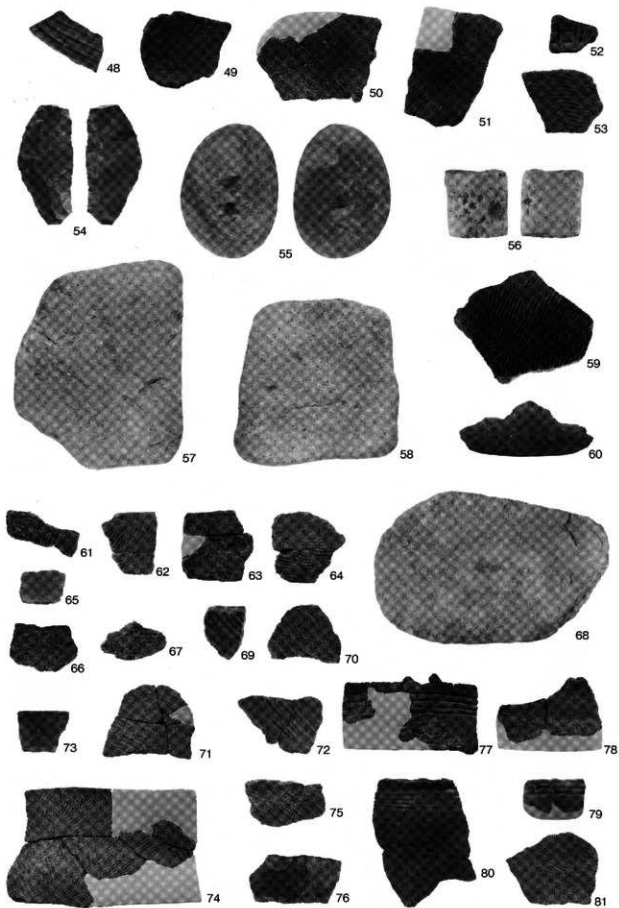
墓石⑥



写真図版18 遺構内出土遺物 (1)



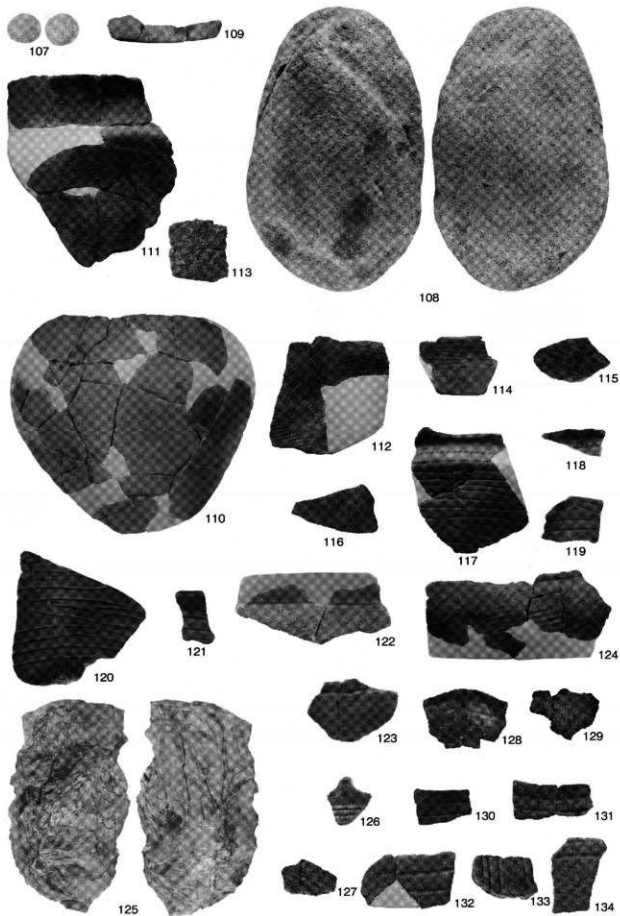
写真図版19 遺構内出土遺物(2)



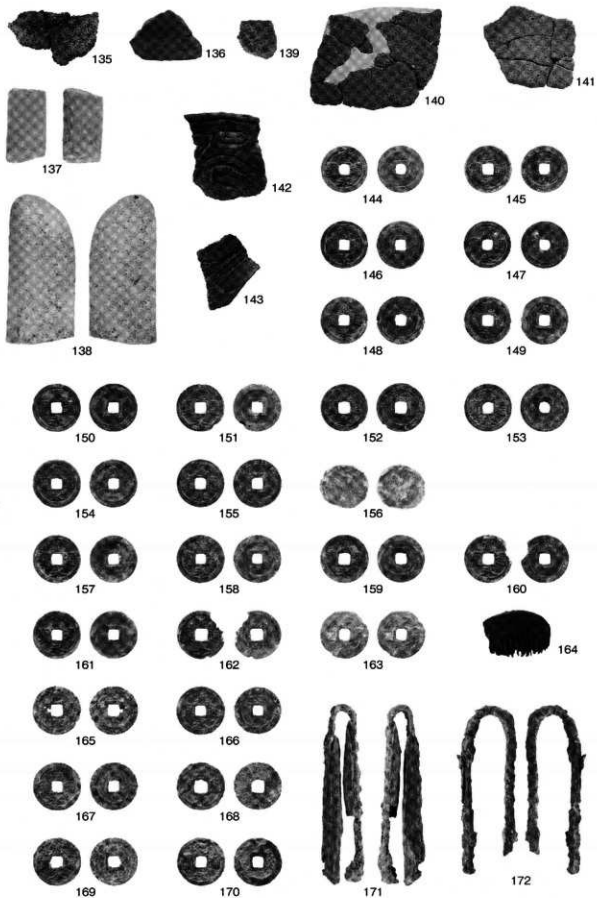
写真図版20 遺構内出土遺物(3)



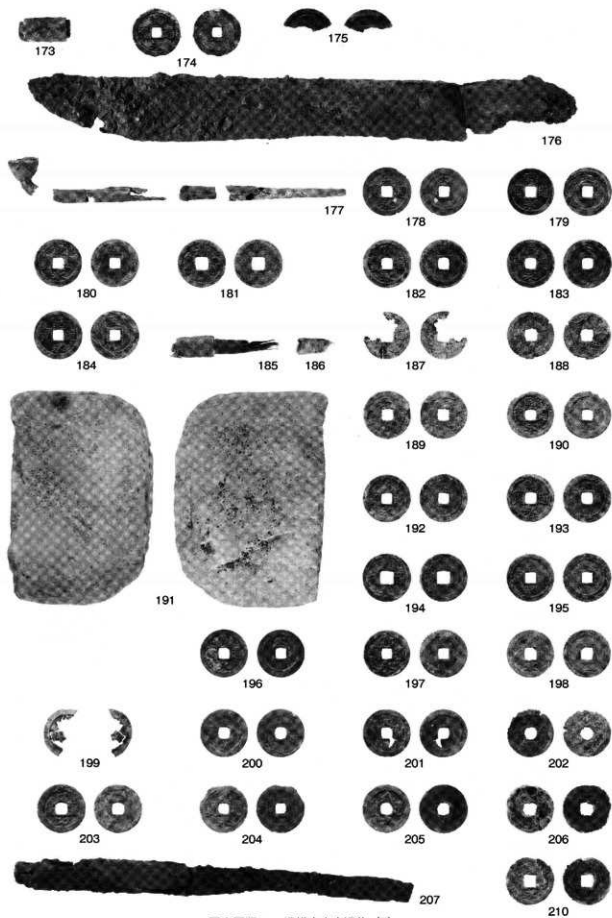
写真図版21 遺構内出土遺物 (4)



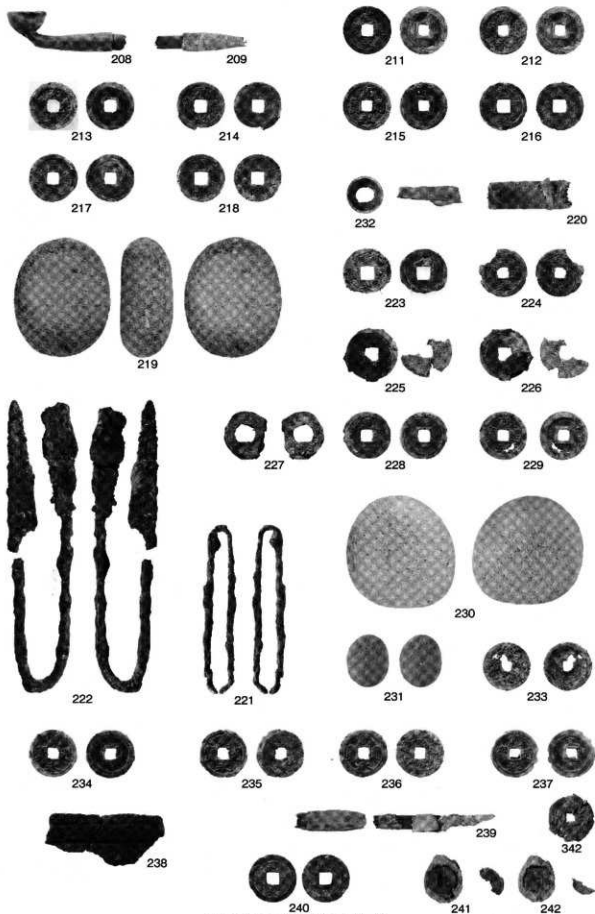
写真図版22 遺構内出土遺物 (5)



写真図版23 遺構内出土遺物 (6)



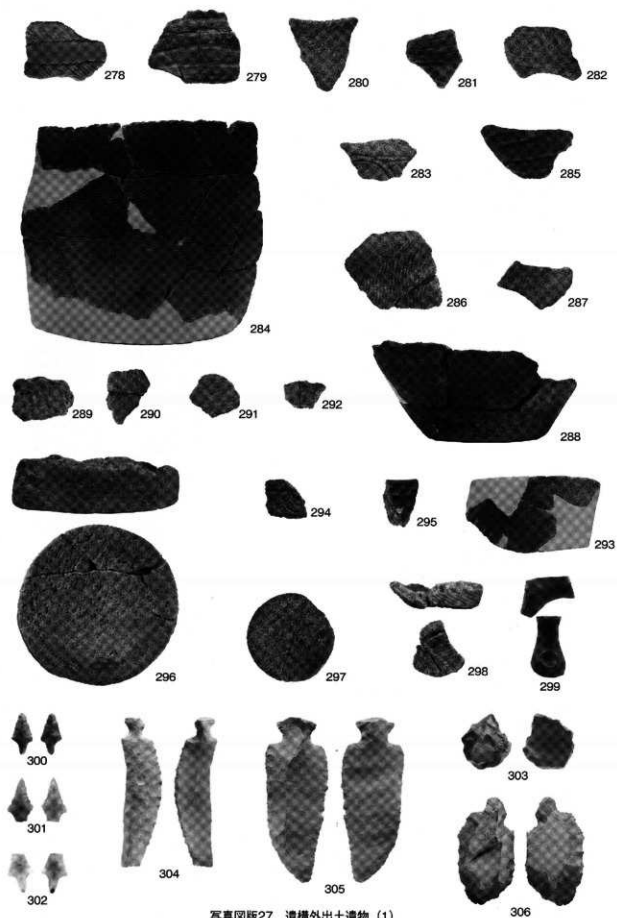
写真図版24 遺構内出土遺物 (7)



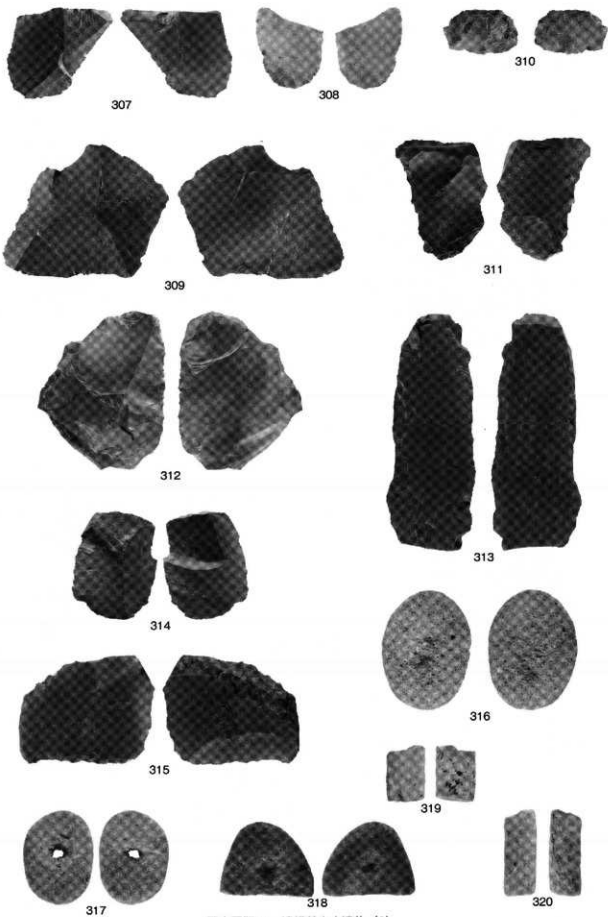
写真図版25 遺構内出土遺物 (8)



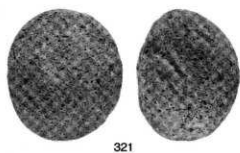
写真図版26 遺構内出土遺物 (9)



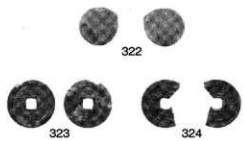
写真図版27 遺構外出土遺物 (1)



写真図版28 遺構外出土遺物 (2)



321



322

323

324



326



327



329



328



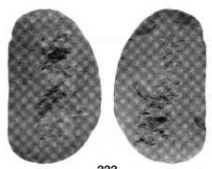
330



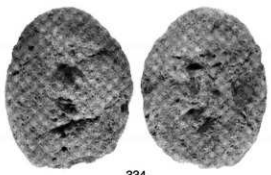
331



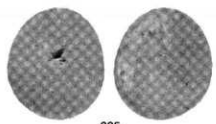
332



333



334

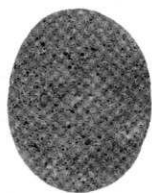


335



336

写真図版29 遺構外出土遺物 (3)



337



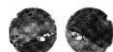
338



339



340



341



343



344



345



346



347



348



349



350



351



353



352

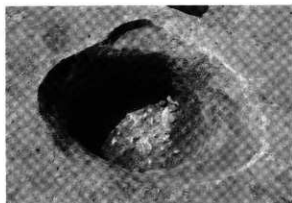
写真図版30 遺構外出土遺物(4)



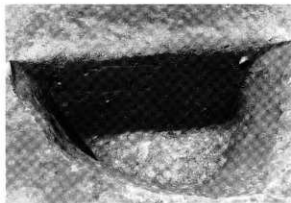
122号土坑完掘



122号土坑断面



123号土坑完掘



123号土坑断面



124号土坑完掘



124号土坑断面



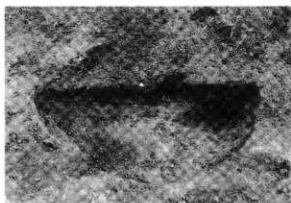
125号土坑完掘



125号土坑断面



223号土坑完掘



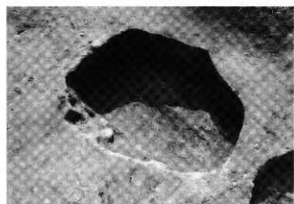
223号土坑断面



224号土坑完掘



224号土坑断面



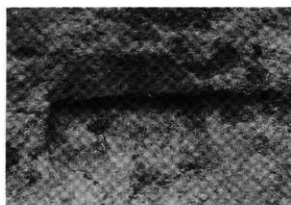
225号土坑完掘



225号土坑断面



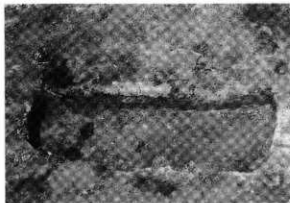
226号土坑完掘



226号土坑断面



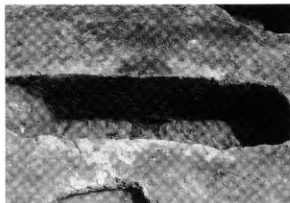
227号土坑完掘



227号土坑断面



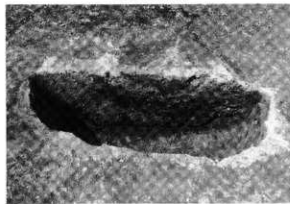
228号土坑完掘



228号土坑断面



229号土坑完掘



229号土坑断面



230·233·234号土坑完掘



230号土坑断面



233号土坑完掘



234号土坑断面



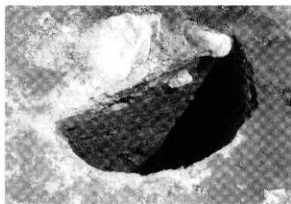
231号土坑完掘



231号土坑断面



232号土坑完掘



232号土坑断面

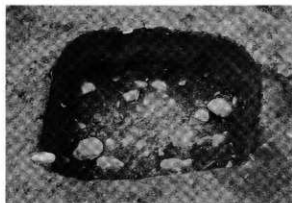


235号土坑完掘



235号土坑断面

写真图版34 231 ~ 235号土坑



236号土坑完掘



236号土坑断面



237号土坑完掘



237号土坑断面



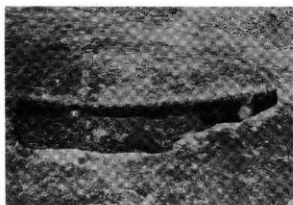
238号土坑完掘



238号土坑断面



239号土坑完掘



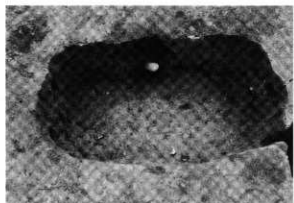
239号土坑断面



240号土坑完掘



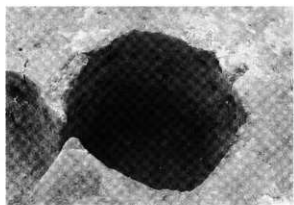
240号土坑断面



241号土坑完掘



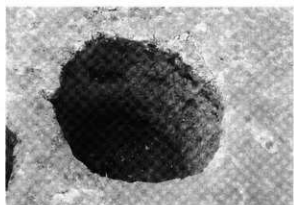
241号土坑断面



242号土坑完掘



242号土坑断面



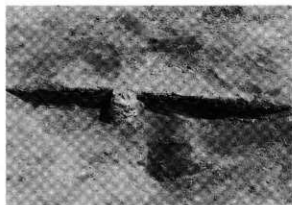
243号土坑完掘



243号土坑断面



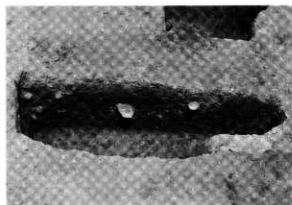
244号土坑完掘



244号土坑断面



245号土坑完掘



245号土坑断面



246号土坑完掘



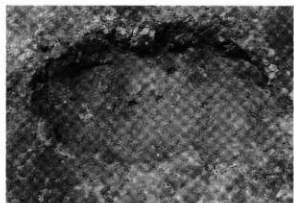
246号土坑断面



247号土坑完掘



247号土坑断面



248号土坑完掘



248号土坑断面



249号土坑完掘



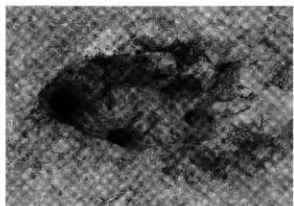
249号土坑断面



250号土坑完掘



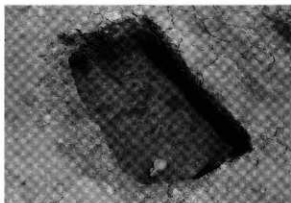
250号土坑断面



251号土坑完掘



251号土坑断面



252号土坑完掘



252号土坑断面



253号土坑完掘



253号土坑断面



254号土坑完掘



254号土坑断面



255・261・291・292号土坑完掘



255号土坑断面



261号土坑断面



291号土坑断面



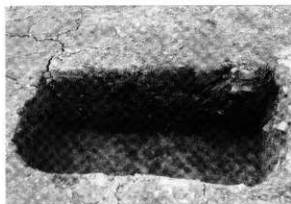
292号土坑断面



平成20年度調査区全景



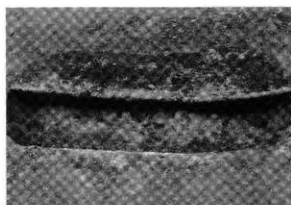
256号土坑完掘



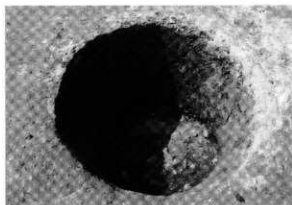
256号土坑断面



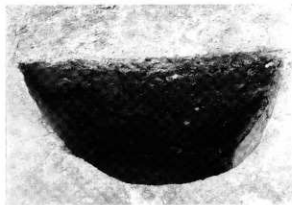
257号土坑完掘



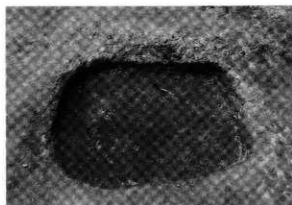
257号土坑断面



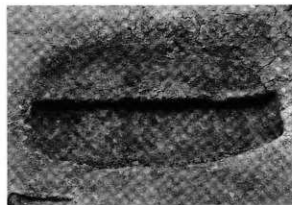
258号土坑完掘



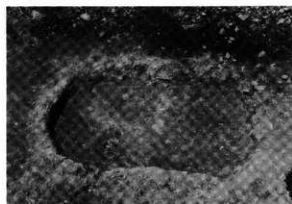
258号土坑断面



259号土坑完掘



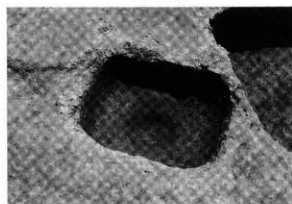
259号土坑断面



260号土坑完掘



260号土坑断面



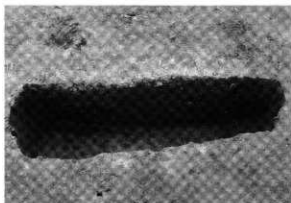
262号土坑完掘



262号土坑断面



263号土坑完掘



263号土坑断面



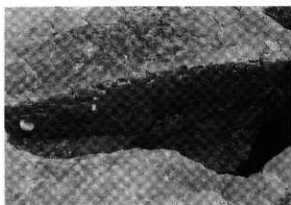
264号土坑完掘



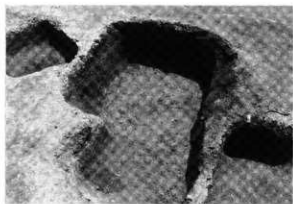
264号土坑断面



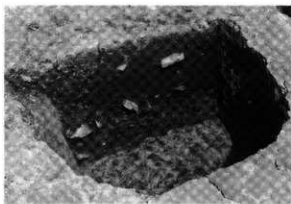
265号・290号土坑完掘



265号・290号土坑断面



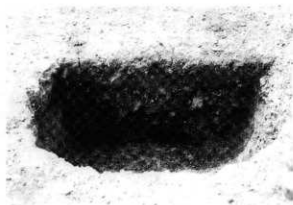
266号土坑完掘



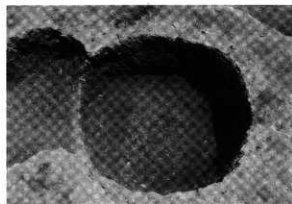
266号土坑断面



267号土坑完掘



267号土坑断面



268号土坑完掘



268号土坑断面



269号土坑完掘



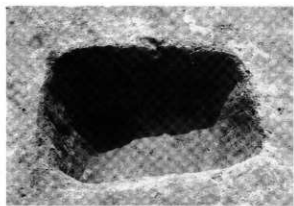
269号土坑断面



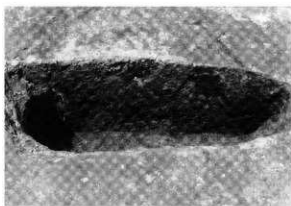
270号土坑完掘



270号土坑断面



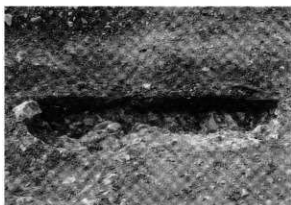
271号土坑完掘



271号土坑断面



272号土坑完掘



272号土坑断面



273号土坑完掘



273号土坑断面



274号土坑完掘



274号土坑断面



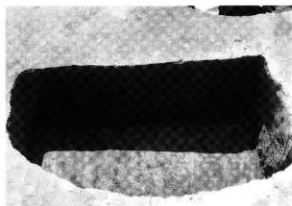
275号土坑完掘



275号土坑断面



276号土坑完掘



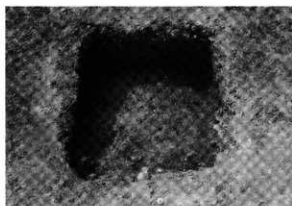
276号土坑断面



277号土坑完掘



277号土坑断面



278号土坑完掘



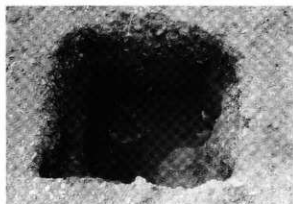
278号土坑断面



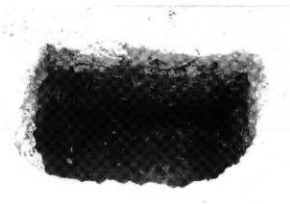
279号土坑完掘



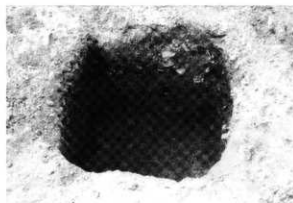
279号土坑断面



280号土坑完掘



280号土坑断面



281号土坑完掘



281号土坑断面



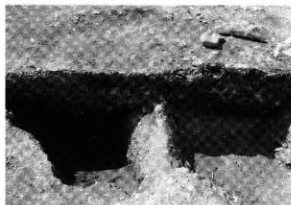
282号土坑完掘



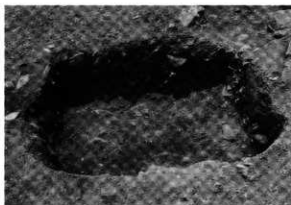
282号(右侧)·283号土坑断面



283号土坑完掘



283号(左側)・282号土坑断面



284号土坑完掘



284号土坑断面



285号土坑完掘



285号土坑断面



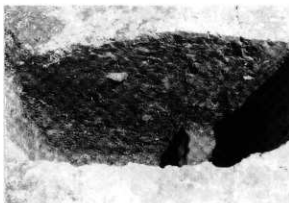
286号土坑完掘



286号土坑断面



287号土坑完掘



287号土坑断面



288号土坑完掘



作業風景



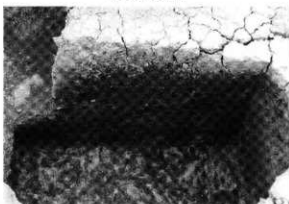
289号土坑完掘



289号土坑断面



290号土坑完掘



290号土坑断面



293号土坑完掘



293号土坑断面



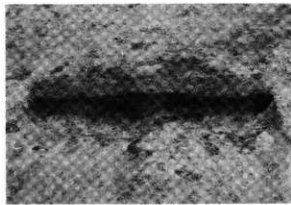
294号土坑完掘



294号土坑断面



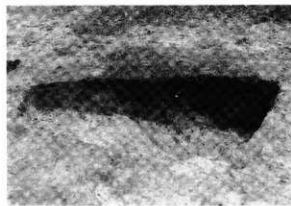
302号土坑完掘



302号土坑断面



303号土坑完掘



303号土坑断面



304号土坑完掘



304号土坑断面



305号土坑完掘



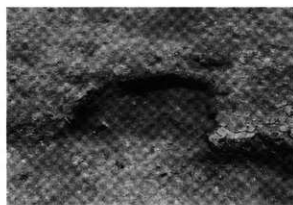
305号土坑断面



306号土坑完掘



306号土坑断面



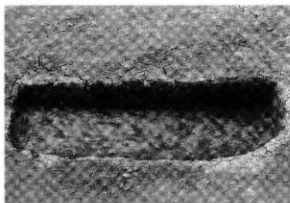
307号土坑完掘



307号土坑断面



308号土坑完掘



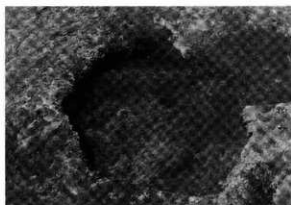
308号土坑断面



作業風景



309号土坑断面



310号土坑完掘



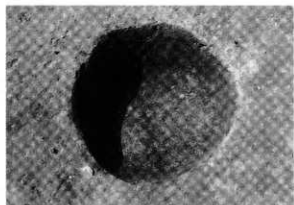
310号土坑断面



311号土坑完掘



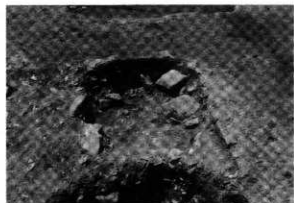
311号土坑断面



312号土坑完掘



312号土坑断面



313号土坑完掘



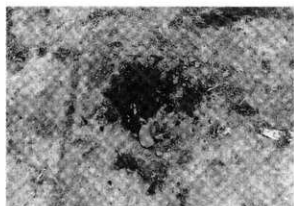
313号土坑断面



314号土坑完掘



314号土坑断面



101号土器埋設遺構検出状況



101号土器埋設遺構たち割り

写真図版52 312～314号土坑、101号土器埋設遺構



写真図版53 遺構内出土遺物 (10)



388



395



403



404



406



405



417



424



425



429



433



449



448



462



451



459



452



460



461

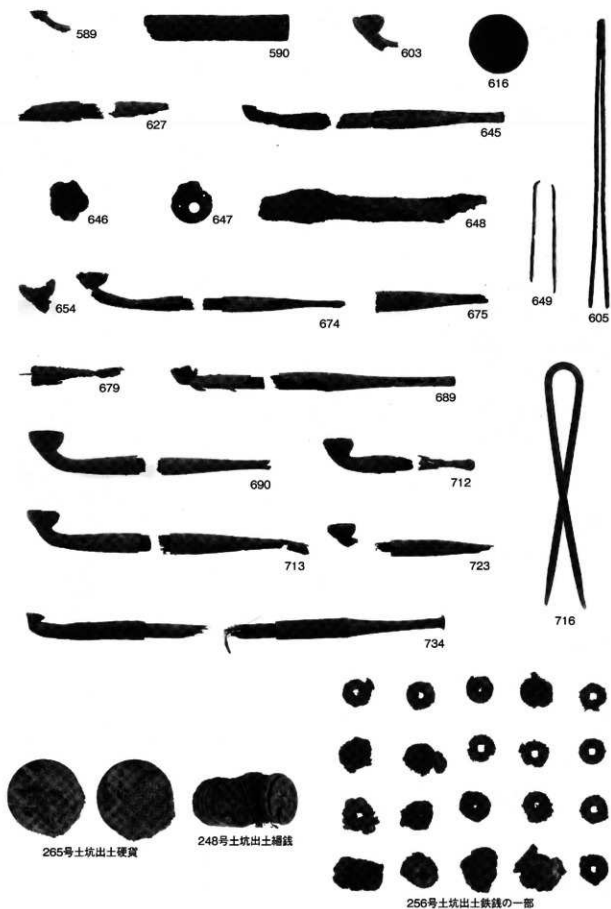


466

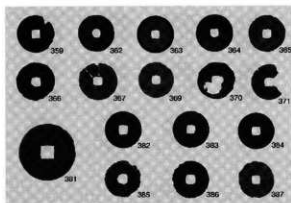
写真図版54 遺構内出土遺物 (11)



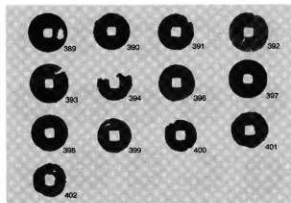
写真図版55 遺構内出土遺物 (12)



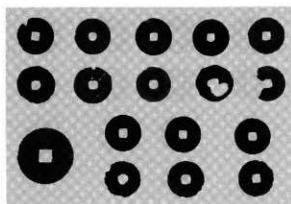
写真図版56 遺構内出土遺物 (13)



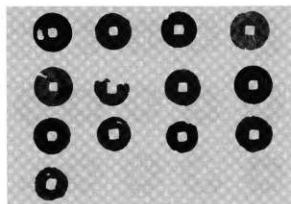
359 ~ 387 (表)



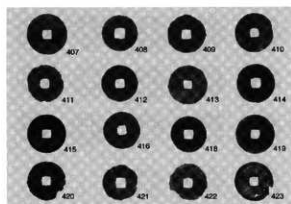
389 ~ 402 (表)



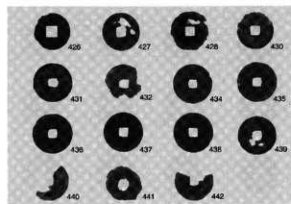
359 ~ 387 (裏)



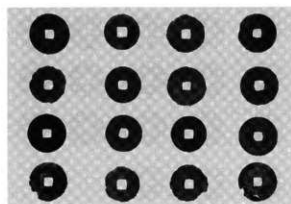
389 ~ 402 (裏)



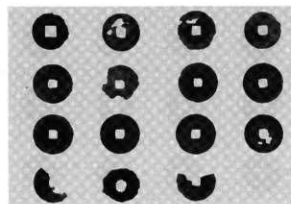
407 ~ 423 (表)



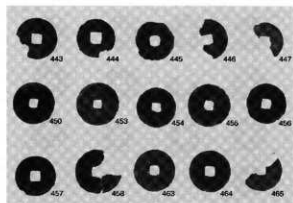
426 ~ 442 (表)



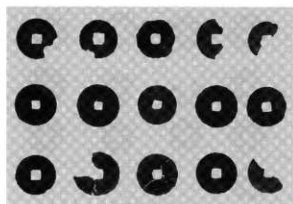
407 ~ 423 (裏)



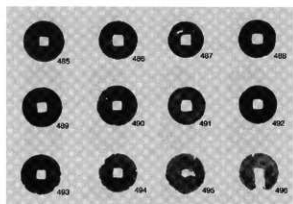
426 ~ 442 (裏)



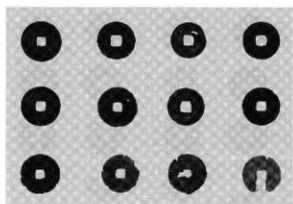
443 ~ 465 (表)



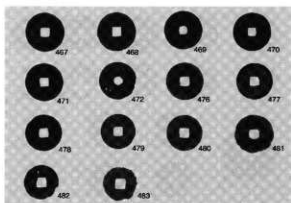
443 ~ 465 (裏)



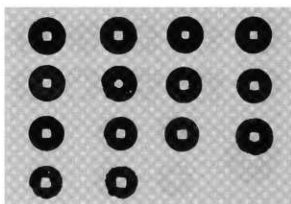
485 ~ 496 (表)



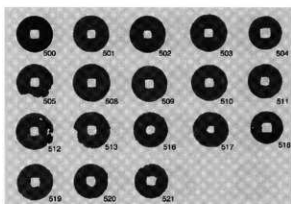
485 ~ 496 (裏)



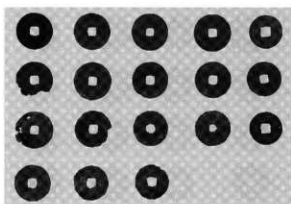
467 ~ 483 (表)



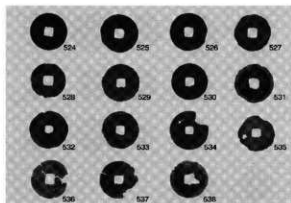
467 ~ 483 (裏)



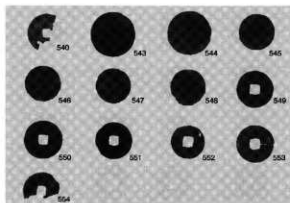
500 ~ 521 (表)



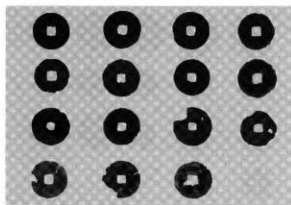
500 ~ 521 (裏)



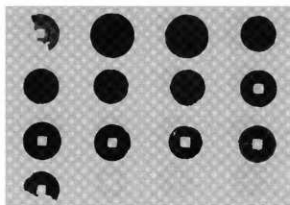
524 ~ 538 (表)



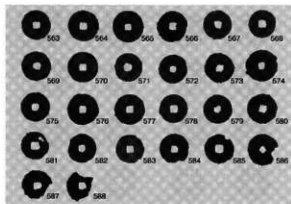
540 ~ 554 (表)



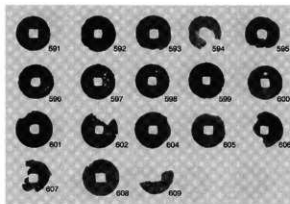
524 ~ 538 (裏)



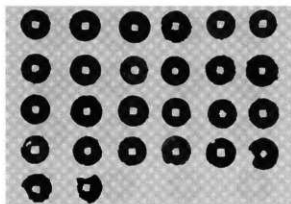
540 ~ 554 (裏)



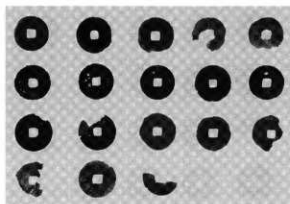
563 ~ 588 (表)



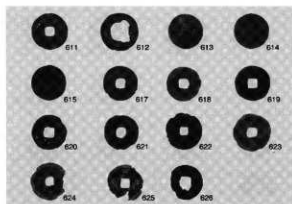
591 ~ 609 (表)



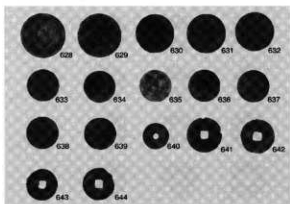
563 ~ 588 (裏)



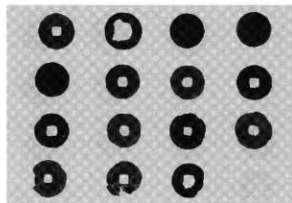
591 ~ 609 (裏)



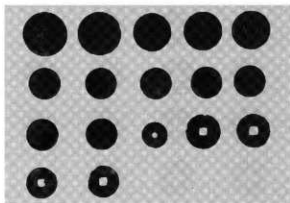
611 ~ 626 (表)



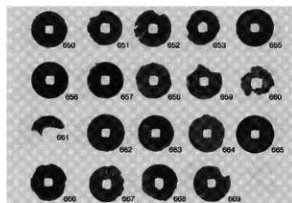
628 ~ 644 (表)



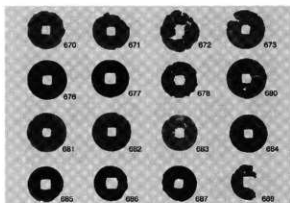
611 ~ 626 (裏)



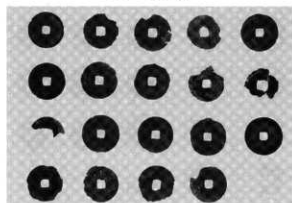
628 ~ 644 (裏)



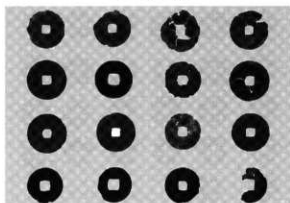
650 ~ 669 (表)



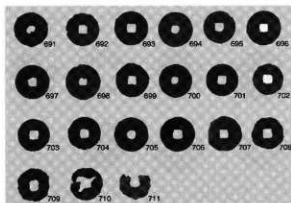
670 ~ 688 (表)



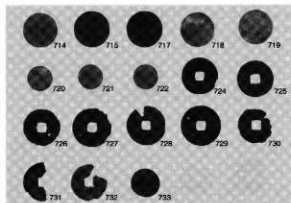
650 ~ 669 (裏)



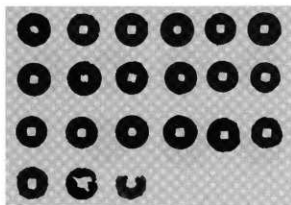
670 ~ 688 (裏)



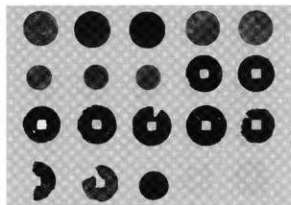
691 ~ 711 (表)



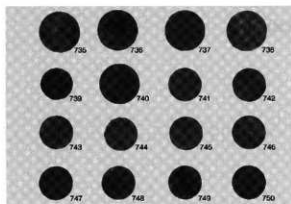
714 ~ 733 (表)



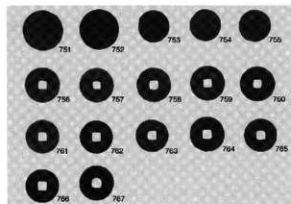
691 ~ 711 (裏)



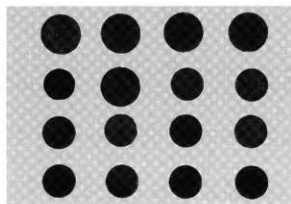
714 ~ 733 (裏)



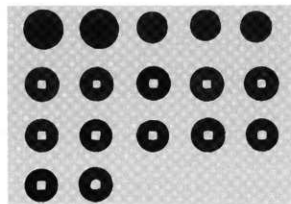
735 ~ 750 (表)



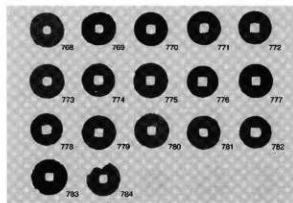
751 ~ 767 (表)



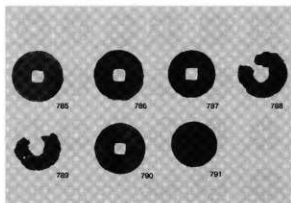
735 ~ 750 (裏)



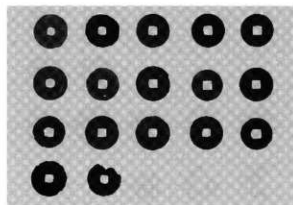
751 ~ 767 (裏)



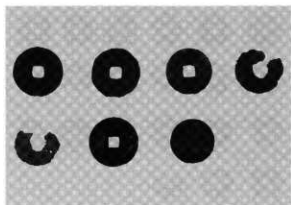
768 ~ 784 (表)



785 ~ 791 (表)



768 ~ 784 (裏)



785 ~ 791 (裏)

写真図版62 出土銭貨 (6)

報告書抄録

ふりがな	つばふち2いせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	坪岡Ⅱ遺跡発掘調査報告書							
副書名	胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第554集							
編著者名	木戸口俊子・濱田 宏							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001							
発行年月日	2010年1月29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ° °	° ° °			
坪岡Ⅱ遺跡	岩手県奥州市胆沢区若柳字透分341ほか	3215	NE31-1023	39度 5分 57秒	140度 52分 48秒	2007.05.01 ～ 2007.06.22 2008.04.11 ～ 2008.05.30	5,029㎡ 2,000㎡	胆沢ダム 建設事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
坪岡Ⅱ遺跡	集落跡	縄文時代後・晩期	竪穴住居跡	2棟	縄文土器			
			掘立柱建物跡	2棟	石器			
			土坑	25基	石製品			
			土器埋設遺構	1基				
			焼土	2基				
			柱穴状小土坑	5個				
		近・現代	掘立柱建物跡	1棟	銭貨			
			土坑	4基	キセル			
			墓壇	90基	鉄製品			
			溝	1基	木製品			
			焼土	1基	近世陶磁器			
			柱穴状小土坑	15個				
		時期不明	掘立柱建物跡	2棟				
			土坑	14基				
			焼土	3基				
			柱穴状小土坑	20個				
要約	本遺跡の調査によって、近世～現代まで続く旧仙北街道筋の集落跡のみならず、段丘縁の縦断面には縄文時代後・晩期の集落が形成されていたことが判明した。							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第554集

坪刈Ⅱ遺跡発掘調査報告書

胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成22年1月25日

発行 平成22年1月29日

- 編集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話 (019) 638-9001
- 発行 国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所
〒023-0403 岩手県奥州市胆沢区若柳字下松原77
電話 (0197) 46-4717
- (財)岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号
電話 (019) 654-2235
- 印刷 株式会社 光文社
〒020-0106 岩手県盛岡市東松園3-12-1
電話 (019) 661-3441(代)

